

和田萬吉校刊

馬琴日記

天保二年

大正十三年

丙午出版社發行

曲亭馬琴肖像



曲亭馬琴肖像



小引

世人は概ね馬琴が天才の人なるを知りて勉强の人なるを思はず、その不世出の文豪たるを認めて稀有の家庭經濟家たるを識らず。是れ偏に馬琴の文學的著作のみを通してその人と爲りを觀るの致す所なり。余曩日著者自筆の日記を讀みて始めて其人物性格の眞相を捉へ、併せて其風丰謦咳に親炙し得たる思あり。此日記や尋常人の誌す所のものと異なり、彼が八犬傳や美少年錄や俠客傳や弓張月などの著作に費せる大精力は爰にも亦十分に發揮せられ、整然として規律正しき起居、周匝綿密なる家政處理、拙速よりも巧遲を貴べる著作の功程、過訪督促虛日無き出版書肆に對する應接、病弱にして醫藥を絕たざる妻子幼孫の介護、敬神崇佛の行跡、さては家祖の奉祀を忽にせざる狀況等を主とし、其他日々の瑣事には薪炭米鹽の購入、家法賣藥の調製及び賣上、親緣故舊の音問、下婢の出入交替、庭園の果實の拂下、鼠の跋扈。犬の闖入に至るまで、凡そ自家に起りたる出來事は毫末も遺さず記し、之に

加ふるに見聞の世事及天變地異の類を錄すること極めて詳悉なり。殊に最も驚くべきは每日の天候寒暄を敍するに方りて夜中の變化をも精寫せる所、彼は終宵合睫せずして日記の確實ならんことを按ぜしかと思はるゝことなり。亦以て彼の日記の等閑に書流されしものに非ざるを察すべし。但暮夜勞餘の筆記而も固より他人の囑目を期せざるものなれば、匆々毫を馳せて些の修飾をも加へず、而も紙を節して細字滿面、往々蠅頭蚊脚を列ねて魯魚烏焉を別ち難く、又草躰文字の斷續明ならずして果して一字なるか又は二字なるかを判定するに苦しむ處少からず。略畫省點もとより多く、之に加ふるに當時知名作家中の最惡筆を以てしたれば、讀解の困難眞に名狀すべからざるものあり。但余は時を惜しまずして反復數四、辛うじて文意を解し得るに至れり。是に於て手自ら「辛卯日歷」(天保二年日記)一册を覆寫し、其際原本の文詞に悉さざるものありて到底讀解し能はざる處及蠹魚の害を被れる處は訂正補塡の事實を明示し、妄に私意を加へざることとせり。

抑ゝ翁の日記は夙くより數箇處に散在せる中に曾て東京帝國大學圖書館に收貯せ

られしものは最も多く、日記に附屬せる贈答歷を併せて十五册を算へたり。卽ち文政九、天保二、五、七至十四、弘化元至三の十四年分の日記十四册及天保二至六年の贈答歷一册是なり。此中、文政九年の一册は「雅俗日記」と題し、天保二年以後の分は各歲の干支を冠して「何々日歷」と題せり。又各卷末の表紙外側には天保七年の分まで神田瀧澤と記し、同八年以後の分は四谷瀧澤と署せり。此等の題署はすべて翁の自筆なり。每册半紙本、高さ八寸三四分、幅五寸七八分、用紙凡そ百餘張に上り、每頁の行數は十四行乃至十七行不定なり。天保七八年の交より筆者眼疾の爲に筆錄に艱みし痕あり、同十一年に至りて竟に兩眼の明を失ひたりと思しく、此年の初二三箇月間は尙强ひて筆を把りたるものの、落筆全く手探り同樣にて字形を成さず、殆ど讀解のたよりを絕てり。亦人生の悲慘事とす。此くて同年三月十八日以後は自ら筆を援らず、別人をして口授を受けしめたり。此別筆は亡男宗伯の妻みち等數人に分るれど、日記の主人は依然馬琴其人にて、記錄の躰制より語氣に至るまで一に舊の如し。口授する者、筆受する者の勞苦兩つながら想ふべし。

本冊は僅に天保二年の一歳に止まれども、翁の人と爲り及日常生活の如何を窺ふに有力の資料たるを失はず。抑ゝ馬琴日記全部の中より若干の箇處を抄出集録せるものは既に二三あれども、一歳を通じて首尾完備せるは本冊の刊行を以て初とす。蓋し抄録は何等かの興味ある部分を拔萃せるものにて、特に其興味に共鳴せる讀者の欣賞を買ふにに過ぎず。之に反して不用意なる尋常起居の連綿的記載によりて主人公の性格嗜好等の全豹を知り得るは多數者の喜ぶ所なるべし。譬へば抄録は錦繡の斷片を綴れるが如く、全本は一段の綾織物の如し。其用其效彼此もとより大に異なるを識らざるべからず。

此日記の年代卽ち天保の初頃は江戸文化の爛熟窮りて漸く廢頽期に入らんとし、人心の解弛其極に達して將に世運の更始を招かんとする時なり。此間の世粧時風を明にせんとするには、些の虛飾技巧を交へざる此日記の如きは最も興味あるものに屬す。馬琴が文筆の人として著稱せらるゝの故を以て其日乘の寫生的價値を疑はんとするは非にして、毎日の起筆が其日の晴雨寒暖に始まれるが如く、全冊は毫も僞

り文らざる記述なるは言ふまでも無きことなり。但此翁の日記の躰他人の容易に企及し能はざるものあり。そは着筆の老實精緻にして、往々凡庸人のなさざらんと欲する所をなして厭はざることとす。彼の日記の特長實に此に存す。

惜しいかな、昨秋の災厄は此日記の原本に及び、其大學圖書館に藏せられしもの殆ど全く烏有に歸し、僅に不測の事情によりて難を脫れし天保五年の分一冊を留めたるのみ。是より先余暇日を以て別に天保二年(「辛卯日歷」と題す)の一冊を手づから謄寫し置きたるは前に述べたるが如し。然るに其原樣を偲ぶべき寫影を撮るに及ばざりしを以て、今は已むを得ず殘存天保五年(「甲午日歷」と題す)の一冊に就きて一二の撮影を試み、之を本書に挿みて天保二年本の原樣を想像せしむるの料とす。

余當初本書を刊行するの念無く、單だ一時の筆遊として篋底に存するに過ぎざりしが、今や料らざるに原本を失ふに及びてひとり此書を私するに忍びず、曩の謄本を上印して本書の傳を弘うせんとするの心起りぬ。是れ本書梓刊の所由なり。蓋し稀書の副本を製するは何人も望む所なれども、若し其書にして讀解の難きものたらん

には、尋常寫生の手に委ぬる能はざるを奈何せん。馬琴日記の如き實に其一とす。本書の解字に誤あらば余は甘んじて其責に當るべし。大方の君子是正の勞を惜むなくんば幸太甚しからん。

卷末に附錄せる曲亭翁略年譜に就きては漆山天童君の助力を蒙ること多し。玆に特記して謝意を表す。

大正十三年六月

校刊者識す

挿圖目次

（十）　馬琴纂輯「禽鏡」卷一自筆題書

（十一）　馬琴纂輯「禽鏡」卷一首端自筆解說

右の中、（一）（二）は東京帝國大學圖書館所藏原本による。體裁すべて「辛卯日記」天保二年に同じきを以て參考の料として揭ぐ。兩卷共に冊子竪八寸三分、橫五寸七分。

（三）（四）は帝國圖書館所藏原本による。冊子竪五寸八分、橫四寸一分强。

（五）（六）（七）は岩崎文庫所藏原本による。冊子竪五寸六分强、橫四寸一分。

（八）は帝國圖書館所藏本による。「瀧澤」（黑字）又「瀧澤文庫」（朱字）の印あり、又書中稀に朱書校字あり。紙墨ともに佳なる初刷本なり。冊子竪七寸四分、橫五寸一分。

（九）右一葉は校刊者藏本、左一葉は帝國圖書館藏本による。各葉竪一尺一寸八分、橫一寸九分。

（十）（十一）は岩崎文庫所藏原本（卷子本六卷）による。卷子竪九寸六分。此圖卷は專門畫家の精緻なる寫生圖に一々纂輯者の自筆解說文を書入れたる無二の珍本たり。

校刊者は爰に前記諸館に對し撮影の便宜を與へられたる厚意を感謝す。

馬琴日記 天保二年

瀧澤解手記
和田萬吉校刊

天保二年辛卯春正月 家内安全新年祝義吉例の如し

○元日乙卯晴夕七時前ヨリ風夜中風止

一早膳雜煮餅晝節椀飯汁平膾燒肴塩鮭香の物屠蘇酒夕膳福茶三ケ日如此舊例也

一今朝五時過ゟ宗伯禮服にて供人足太兵衞召連出宅先妻戀稻荷へ參詣夫ゟ松前上屋敷へ罷出當主在府ニ付御禮目見相濟當年ゟ席順すゝみ小書院近習の上席之惣家中廻勤勤歸路馬場忠臧本山江山東條又左衞門中井準之介等江年始祝義申入九半時比歸宅晝節椀飯屠蘇酒等祝之尙又出宅松前下やしきへ罷出老公へ御禮相濟家中廻勤歸路谷文晁關忠藏屋代太郎殿等江年慶申入夕七半時頃歸宅

一中西彥六板橋政之介等年始爲慶賀入來口狀被申置是ゟ日々來客は別帳ニ記之依テ一ト通リ之年禮客は略之

一諸神並家廟拜禮此餘年々吉例のごとし

○二日丙辰晴

一今朝五時ゟ宗伯禮服にて昨日のごとく從僕太兵衞召連出宅先神田明神へ參詣夫ゟ本鄉笹屋ニ年頭祝申入舊冬のもちつきちん遣之尙又小石川白山近邊山田吉兵衞方へ罷越夫ゟ深光寺に參詣牛込龍門寺同斷築土明神へ參詣夫ゟもちの木坂並に淸藏方へ罷越畢て淸右衞門方へ罷越祝義酒飯如例被饗之歸路小川町邊處々山本啓春院並渥見次右衞門方へも罷越

巨細は別帳に記之但途中ゟ腹痛に付淸右衞門方にて保養いたしひま入候間啓春院殿渥見次右衞門右二軒は遣し薄暮歸宅

一予今朝新帳三冊上書いたし小口見出し小札數十識之畢て試筆短尺二枚染筆並に去年七月中板橋政之介ゟ被賴候短尺二枚も同時に染筆晝時迄に此用向畢ル晝飯後日記並に勘定帳等取まらへ記之未及惣勘定寫本帳之

一いせ內宮八幡大夫代御初穗乞申來ル如例貳百銅わたし遣ス

一淺草御藏前坂倉屋金兵衛爲年禮來ル予對面とし玉持參雜談後早々歸去
一俠客傳三の巻之内舊冬つゝりかけ置候分今日晝後ゟ又稿之半丁餘本文書つぎ今夕四時過就寐

○三日丁巳晴

一今朝宗伯年禮下町向廻勤のつもり之致支度候處又腹痛さしこみ有之候に付延引供人足太兵衛先刻ゟ參居候間右太兵衛を以下谷三せんほり東條文左衛門方へ新板袋入合巻上下二帙つゝ貳部遣し候右は去冬先哲年表人物志後編等被贈候返禮之並に關忠藏病氣見舞として煉羊肝箱入にて同人家内へふみさしそえ右もたせ遣スかねては宗伯下町廻勤後松前上やしき謠初へ出仕いたし候間供人をは先へかへし候つもり右太兵衛歸路に申付東條關氏江可遣處宗伯廻勤延引に付別に此使を遣ス東條氏ゟはうけ取書來ル關氏ゟは返事來ル且ほしのり一帖被贈之
一宗伯不快未瘥に付夕方太兵衛を以松前御年男島田興へ手紙遣し今夕謠初出仕斷申遣ス予代筆之則承知之旨申來ル
一晝後淸右衛門年始拜禮として來ルとし玉持參如例年勸盃祝義畢て歸去舊冬十二月之上家ちん今日持參請取之
一杉浦老母ゟ川越新や參候よし案内に付薪代金貳朱外に車力六十四文使へわたし遣ス並に尙又薪注文申遣ス

一俠客傳三の卷の内本文貳丁半稿之但書おろしのみ之今夕四時過就寐

○四日戊午晴夕方ヨリ雲立

一宗伯不快少々快方に付四時ゟ出宅禮服如例供人足太兵衞召連地主杉浦淸太郎其外南隣年禮中入夫ゟ御成道邊並に土岐元祐方へ罷越尙又小傳馬町油丁横山丁おくわ方へ引かへしてはま丁伊藤半平方へ罷越歸路山本啓春院樣並に渥見次右衞門方へも罷越此二軒は去ル三日の遣り之凡十七八軒廻勤夕七時前歸宅供人足太兵衞事元日ゟ今日迄四ヶ日分賃錢金三朱遣之

一板橋政之介ゟ去寅七月上旬たのまれ候短尺二枚今日宗伯年禮の序もたせ遣ス

一渥見覺重爲年禮來ル如例勸盃祝義終て歸去山田吉兵衞とし玉持參勸盃同斷祝義畢て歸去

一大工寅吉爲年禮來ル早春仕事休ミ之内六角火鉢とり放し組直し候樣申付おく

一丁子屋平兵衞方ゟ小ものを以大坂河内や茂兵衞狀屆來ル舊冬十二月二十一日出六日限早便り之右は俠客傳壹の寫本八丁丁子やゟ遣之此方ゟ遣候書翰の返事之水滸傳二帙並に金子舊冬差下候事抔申來ルミな舊冬着後用事濟候事之

一俠客傳三の卷の内十三丁め迄稿之八丁め迄つけかな稿之今日度々來客に付晝過は多く不稿今夕四時過就寐

○五日己未薄曇天明風烈無程風和ク無程晴夜に入曇

一晝前ゟ宗伯水天宮に參詣お百同道夕七半時比歸宅

一俠客傳三之卷の內十三丁め迄附かな稿之十四丁め本文壹丁稿畢就寐今夕四時過之

○六日庚申薄晴風立夕方風止

一晝後喜兵衞事久右衞門爲年頭慶賀來ルとし玉持參於客之間勸盃祝義畢て歸去

一今夕庚申祭如例獻供神燈四時迄祭之六日年越祝義も如例年靑節祝之

一俠客傳三の卷の內本文三丁稿之十八丁めに至ル四時過就寐昨今餘寒尤甚し

○七日辛酉晴四時前ヨリ風烈夜中風止

一今朝七種粥如例年祝之昨夕今朝宗伯囃之今日見了院殿御祥月に付御位牌に七くさ粥獻之其後菓子もちひを供し奉祭之

一今朝田畑安五郎來ル則門松令取除之取畢て歸去例年のとし

一丁子屋平兵衞爲年禮來ルとし玉持參予對面早々歸去

一晝前ゟ宗伯松前やしきへ罷出八半時比歸宅○晝前淸右衞門來ル今日地主勘定納のよしにて帳面持參視之七月已來勘定無滯雜談後歸去

一俠客傳三の卷の內廿一丁め迄三丁稿之畫後ゟ予少々滯食の氣味有之依之今夕休息宗伯製劑則服藥兩三度四時過就寐

○八日壬戌晴風

一予滯食今朝は過半癒快此節春寒甚敷故腰痛久しくおこたらすしかれとも著述には障りなし遠方步行不自由のミ

一晝時渥見次右衛門爲年禮入來如例於客之間勸盃祝義畢て歸去

一同刻芝いつミや市兵衛爲年禮來ル次右衛門ニ勸盃中に付予於玄關對面如例年玉持參且金瓶梅第一編潤筆前金五兩持參當年はよミ本に取かゝり居候間春の內は出來かね候趣斷おく右承知に付金子請取之來客中に付用談畢て早々歸去

一俠客傳三の卷の內廿四丁め迄終迄稿之夜入悞寫補綴四時過就寢

一晝前屋代二郎殿入來予對面同人所望に付傾城水滸傳十一編下帙金瓶梅上貳册遣之則別帳に記之

○山口や藤兵衛爲年禮來ル予對面殺生石後日第五編之事被賴之早々歸去

○九日癸亥晴

一今朝卯刻ゟ正月中氣に付陰陽貴人方並に的殺方家內各々選擇記之未刻星祭獻供等如例家內一同

拜禱是ゟ月々如例年晝八時星祭獻供如例家内一同拜禱畢

一西村や與八幼年の忰を以年禮如例年とし玉持參申置歸去

一夕方つるや喜右衞門來ルとし玉金百疋外に水滸傳流行に付爲謝禮肴代金壹兩貳分持參予於客之間勸盃暮六半時比歸去

一俠客傳三の卷の內十四丁めゟ廿三丁め迄つけかな稿之夕方來客に付廿四丁終一丁遣ル今夕四時過就寐

〇十日甲子晴

一今日　公方樣上野惣御靈屋ㇸ御參詣如例早朝ゟ火留還御如例年無滯相濟

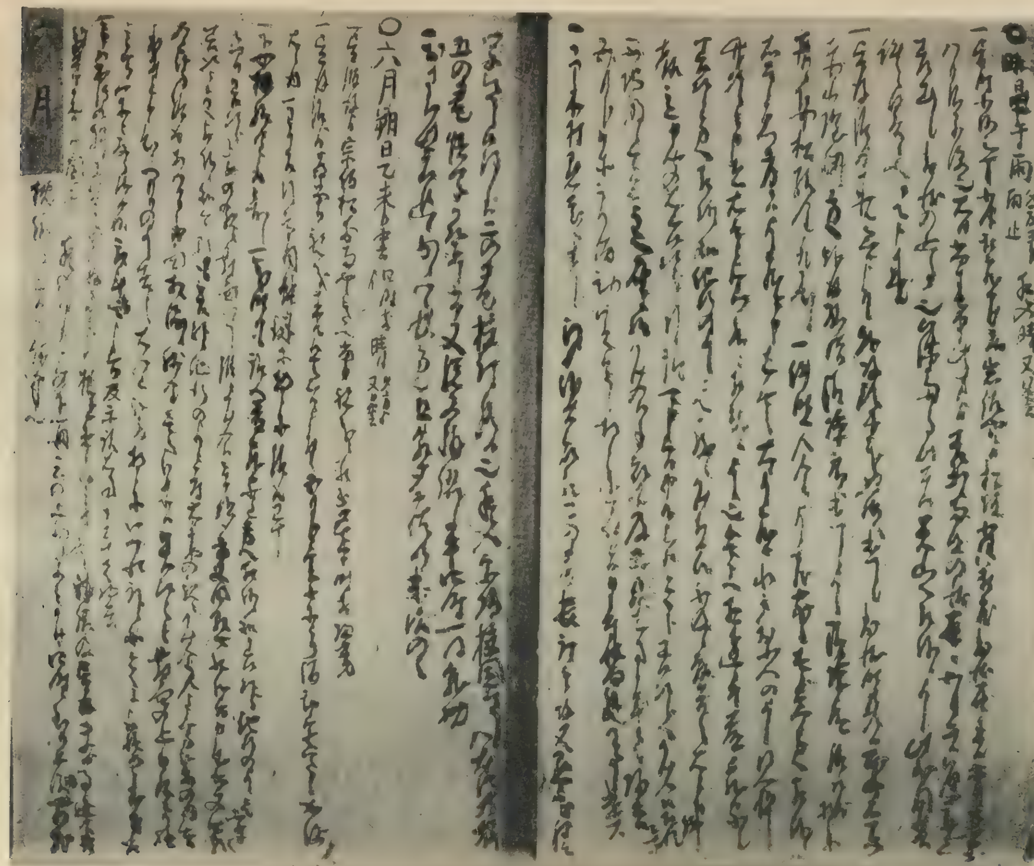
一土岐村元秋爲年禮來ル平服一刀之略義甚し共後土岐村元立來ル宗伯他行中にて予對面雜談歸去

右幸便におミち方ゟ芝田町あね方へとし玉一封たのミ遣ス

一高松家老木村亘ゟ使札爲年始慶賀京扇三本被贈越之且拍案驚奇致借覽〔度〕よし申來ル舊冬やくそくに付かし遣ス一帙全十冊別帳にしるしおく此方ゟもとし玉として大すり物一枚返翰差添遣之

一田口久兵衞爲年禮來ル予對面外廻勤のよしにて歸去

一つるや喜右衛門ゟ使札昨夕太郎江致約束いたし候由にて魴鮄三尾被贈之即返翰遣之
一夕七時比ゟ宗伯並にお百太郎同道にて上野池之端へつくり花かひ取にゆく舊冬仲町焼失に付例のつくり花師をらず依之廣小路つくり花や〔へ〕罷越候處出來合無之候間申付蓮花一對あつらへ手附錢わたし置候來ル十三日晝時迄に出來之よし之右弁才天供の爲之夕七半時比みな歸宅
一やとひ下女まさ正月中やとひちん殘り四百文かり申度よしおみち迄申出候へともいまた半月も不勤候最初金壹分かし置候間もし入用には候はゝ宗伯歸宅次第申聞百文にても貳百文にてもかし遣候様申付置其後宗伯歸宅候節夜入右之趣まさへ申聞候處不承知之様子にて左候はゝ半月勤候上にて借用可致と申依之任其意かしつかはさぬ之
一今夕甲子大黒祭獻供神燈如例夜入お百宗伯同道にて明神地内大黒へ參詣五時歸宅
一宗伯終日東三疊並に書齋向そうちいたし夕七時前そうぢ志畢
一予俠客傳三の卷廿四丁めつけかな稿之畢同卷さし畫三丁内二丁賛歌とも稿之今夕四時過就寐
○十一日乙丑薄曇夕七時過ゟ小雨夜ニ入本降深夜雨止曉晴
一予今朝ゟいせ松坂との村佐五平並に大坂河内や茂兵衛越後塩澤鈴木義惣治等江之年始狀並舊冬返事用狀長文已上六通書寫し夜に入五時前皆出來夫ゟ月代いたし四時過就寢



（一）天保五年「甲午日記」の本文一部（五月晦日至六月朔日）

一晝後おさき爲年禮來ル供人は直にかへし遣ス則於客間禮酒勸盃祝畢但銘々ゟとし玉持參舊冬淸右衞門へ申付け置ゆ短尺見せ本中やゟとりよせ今日おさき持參其内とりのこ雲形たんさく有切九枚とめおき其餘はかへし遣スおさき薄暮歸去

一夕方鈴木一郎爲年禮來ルとし玉持參宗伯並に予も對面關忠藏癰瘡追々順快並に孫舊冬おし詰ゟ疱瘡之所順痘にて酒湯もすミゆよし今日フト承聞之雜談畢て歸去

一夕方宗伯を以瀨戸物丁島やゟ遣之大坂河内や茂兵衞松坂との村へ之封書出之新通帳未出來に付舊帳へ記さしむ大坂は十日比松坂は並便脚ちん遣之請取印形取之途中ゟ雨天に成に付島やにて傘借用薄暮歸宅○越後すゝ木牧之ゟ之封狀は夜入成ル是は近日淸右衞門下町へ幸便次第新大坂町二見や忠兵衞方へ賴ミ遣しおくへし

一飯田町ミのや淸次郎爲年禮來ルとし玉持參口上申おき歸去晝前の事也

○十二日丙寅晴 温暖南氣也風なし

一如例年羅文居士御畫像奉掛之神酒菓子獻供祭之料供は今朝家廟に供之是又如例

一俠客傳三の卷稿本一册昨十一日宗伯終日校閱悞脫等今朝予補綴之畢

一晝八時前ゟお百深光寺ゟ年始墓參先傳通院澤藏主稻荷へ參詣如例そは獻供夫ゟ佛參歸路本鄕元

町奉公人入口●●源藏方へ立寄やとひ下女之事申付置夕七時過歸宅

一右留守中四谷久右衛門來ルお百入用相濟表つむき類三品持參いつれも用立かね可申存候へともお百他行に付そのまゝ預りおく且お祐願候よしに付八犬傳初輯ゟ第三輯迄かし遣ス

一晝後清右衛門來ル昨日おさきへ申付候雲形たんさく中やゟ尙又十一枚とりよせ持參請取おく且又明日油丁問やに罷越候よしに付舊冬ニ見屋へ申付置候ちんは足袋其外共七双金壹分わたしおく並に越後塩澤すゝ木牧之に遣し候小紙包一ツ是亦ニ見や迄差出し右狀ちんも壹分の內にて拂候樣申付遣之過日記し置候當年陰陽貴人吉方書宗伯ゟ淸右衛門へわたし遣ス

一橋本喜八郎殿ゟ宗伯へ使札此たび呼井戸掘候よしにて迎福南針錄借用いたし度旨申來ル右之書未出板に付其段宗伯ゟ返書進之並井戸の吉方等問れ候へとも方位を不記候に付これかね候趣申遣ス

一予俠客傳三の卷さし畫のミ壹丁稿之細畫之畫後ゟ同書四の卷の口本文貳丁稿之尤書おろしはかり之今夕四時過就寐

○十三日丁卯曇今曉七時前より風烈東北風之 終日大風烈明曉丑刻ゟ風止

一今日宗伯芝麻布四谷邊へ年始禮に可罷出存候人足申付置候へとも今曉ゟ風烈且曇候に付延引ス

一めてたや老母爲年禮來とし玉持參お百等對面早々歸去
一晝後久右衛門來ル昨日の古衣お百一覽之處意に不叶今日かへし遣ス久右衛門仕入置よしの白紬いつことも序之節持參いたし見せ候樣申付遣スしろ物携早々歸去
一やとひ下女まさ正月廿八日迄のやとひ給金前借願候に付殘り四百文今夕わたし遣ス一ケ月分皆濟之
一俠客傳四の卷の口本文三丁半稿之今夕四時過就寢
○十四日戊辰今曉風止曇夜中雪少許並に小雨
一十四日年越如例年節料理一汁三菜甞飯家內一同祝之且けつりかけ如例處々に掛之
一廣小路つくり花へ宗伯過日誂候つくり花お百罷越かひ取來ル朱天供の爲之今夕宗伯已まち祭如例獻供晝前同人そうぢし畢
一中川金兵衛俠客傳二の卷七丁ゟ十五丁迄寫本出來持參差置歸去其後校閲一遍未及熟正之
一俠客傳四の卷の內四丁半稿之十一丁目め迄之今夕四時過就寢
○十五日己巳小雨晝九時ヨリ雨止テ晴夕方又半曇曉方ヨリ風烈
一今朝內かさり撤之並如例年赤豆粥家內一同祝之畢

一中川金兵衞俠客傳二の卷七丁めゟ十五丁迄筆工出來持參さし置歸去其後校訂愜寫付札いたし又宗伯にも校閲せしむ夕方再校了
一晝後丁子屋平兵衞ゟ使ヲ以右同書壹の卷殘りさし畫壹丁二の卷貳丁英泉方ゟ出來のよしにて見せらる則あつかり置三の卷畫わり三丁右使へわたし遣ス
一夕方淸右衞門來ル過日代金わたし置候もんは足袋四双小兒足〔袋〕三双二見やゟ請取持參つりせん並に賣上は差急き候故失念今日持參せさるよし申之並に如例年小林勘平方昨日ふるまひに罷越引物のよしにてほうゝゝひらき一まんちう五ツ持參早々歸去足袋はおミちへわたし銘々へ遣し候樣申付おく
一俠客傳三の卷の內十四丁め迄三丁稿之今夕四時過就寐
〇十六日庚午曇風烈夕方ヨリ風止
一今朝中川金兵衞俠客傳二の卷十六丁ゟ廿三丁迄筆工持參後刻可參旨申置歸去其後右寫本校訂愜寫しるしつけおき畢て河內や茂兵衞へ遣候口上書一通認之先便おかけ參一枚すりおろし差下し候謝禮を申おとし候故之
一今日宗伯年始禮遣り廻勤のつもりにて用意候處天氣曇且風烈に付延引

一晝後中川金兵衛又來ル先刻の寫本直し有之並にさし晝三丁かき入にわたし遣ス但正月は飛脚十六日は休明十七日出日に候間ゆる〱直し明日丁子やへ遣し候様申聞置河茂への手紙も一處にゆたね遣ス早々歸去

一晝後お秀爲年禮來ルとし玉持參如例屠蘇並に蕎麥たべさせ祝義畢て歸去

一夕七時過やとひ下女政事母少々不快之よし昨日便り御坐候間爲見舞宿へ罷越度よし申之親の病氣と申立候故心得かたくは思ひなから任其意止宿は不相成候間早々罷歸り候様申候へは今夕四時迄には吃度罷歸候旨申し候に付遣之處今夕不歸此やとひ下女身なり甚よろしからす且人わろく使ひかたき候へとも無據差置候處右之始末之當月廿八日迄の給金願にて先日不殘わたし置候不存其義間をかゝせ候始末右の如し

一晝時迄俠客傳二の卷寫本校訂且大坂河茂の手紙認之晝後客來等にて多用に付俠客傳四の卷の內十五丁めわつかに壹丁稿之夕方ゟ春寒甚しきに付爐に依り安臥休息今夕四時過就寐

○十七日辛未薄晴風なし無程快晴晝八時ヨリ風烈夕方ヨリ風止

一今朝中川金兵衛昨日之俠客傳二の卷寫本悞寫直しさし繪三丁かき入いたし持參見せらる是ゟ丁子やへ持參のよしに付せわしく見之かねたねの札除候方宜キニ付はりけしその方書やう不宜處

補寫いたし卽時に右寫本並にさし晝三丁共わたし遣ス尤昨日賴置候河茂ゟ之手紙無相違丁子屋ゟ遣しくれ候樣たのミ遣ス依之早々歸去

一やとひ下女まさ今夕も不歸尤無人めいわくに及ふ不埒かきりなし

一晝前土岐村元立來ル宗伯年始廻勤出かけに付早々歸去

一晝九時前ゟ宗伯年始遣り廻勤の爲供人足太兵衞めしつれ出宅日本橋名張や淺五郎芝神明前いつミや市兵衞方へ罷越泉市方にては勸盃馳走に預り岡田や嘉七方に立寄拍案驚奇繪園秋燈叢話右三本かり請但し拍案驚奇は去春かひ入候所落丁有之に付同本出次第書足し候つもりやくそくに付今日携之歸ル夫ゟ麻布六本樹土岐村元立方へ罷越候處内義も芝ゟ罷越候よしにて戶鎖し有之に付隣家用人要藏方へ罷越とし玉たのミ置夫ゟ溜池上八天狗社ゟ今日緣日に付參詣歸路半藏御門外へ廻り渡邊登方ゟ罷越し同人妹不幸にて引籠居候よしに付年始御禮不申述暮六時歸宅〇大坂河内や茂兵衞年始狀大坂や半藏方ゟ屆來ル

一晝飯後お百を以本鄉元町奉公人入口源藏方へ遣しやとひ下女代り吟味いたし早々差越候樣申付並に政事昨夜之まゝ不罷歸候間給金返納之事取計候樣申請させ畢

一晝後淸右衞門來ル過日二見や足袋のうり上書付並につりせん持參明日如例年鏡開に付一同招キ

申度よし申無人に付お百宗伯太郎のミ可遣旨及示談

一田口久吾實家の叔父武太夫正月十四日朝頓死のよし久吾忌中に付明日お百同人方へ罷越候事いか丶可有之哉と申之左候は丶〔誘〕引申ましき旨淸右衛門へ申聞おく

一夜に入やとひ下女政隣家のもの丶よしにて政母病氣のよしにて暇願之給金殘り返納いたし度旨申十二月廿九日ゟ正月十六日迄十八日勤候間十二日分給金壹ケ月金壹分四百文此わり合一日に六十六文つ丶八百三十二文に候へは金貳朱納候樣申付候處七百七十八文小錢にて持參いたし候よし申候に付不足のま丶おミちに請取せ則暇可遣旨右之者へ申わたし畢

一俠客傳四の卷の內壹丁半稿之夜に入猗園秋燈叢話序目披閲四時過就寐

○十八日壬申晴夜四時前ヨリ夜中風烈

一今日飯田町舊宅鏡開に付お百宗伯太郎を携晝前ゟ罷越候に付お百は出かけに地主杉浦方並にめたてや次兵衛養母方へ年始として罷越夫ゟ一同飯田町へ罷越右幸便に淸右衛門へ申付明日讃州內木村亘に手紙持參いたしくれ候樣申付右手紙宗伯にわたし今日淸右衛門方へ遣しおく右は先日亘へかし候拍案驚奇落丁之處昨日おか田やゟ宗伯携歸候同本ヲ以書足し可申ためニ今日お百杉浦めてたや並おさき方へとし玉遣之暮六時ミなく歸宅

一晝後芝泉市ゟ宗伯方へ使札右は昨日宗伯罷越し物かたりの小兒藥所書此ものへ申聞くれ候樣申來ル宗伯他行中ゝわすれかね候へとも忘斗ひ代筆にて返書認蒼龍丸包かミ遣之宗伯歸宅後右之趣申聞候處蒼龍丸にあらす肝肧圓のよし之此まちかひ後便に可申遣之

一八時比清右衞門方ゟ使を以鏡ひらきの餠翰添吸物材とり肴二種予並におみち方へ被贈之おミち請取重箱皿等はかへし遣ス○湯の島岩本院ゟ如例祈禱札並にひしき二袋到來

一やとひ下女政きせる遺し置候よしにてとりに來ル給金返納不足の分用捨いたしくれ候樣おミちに申おき右きせる携早々歸去候よし跡にておミち告之

一俠客傳四の卷の內十八丁め迄壹丁半稿之今夕秋燈叢話一二合一冊披閱四時過就寐

一今日清右衞門方鏡開おひておきく相客のよし久吾事昨十七日主人ゟ忌ゆるされ出勤のよしなれ然ともかねて遠慮いたし今日はお百久吾方へ年始に不行久吾出勤の事淸右衞門方にておきくに對面之節知之といふ右は久吾叔父武太夫の忌則久吾妻の親之

○十九日癸酉曇風烈夕方ヨリ風止

一晝後お鍬祖太郎悌吉を携來ル年禮如例於客間勸盃尤とし玉持參明日上野御靈屋江御成に付今夕止宿ス彼長屋小兒は遠慮いたし候によりてゝ

一今日鏡餅三飾宗伯崩之但シ去ル十五日におろしおくと如例

一俠客傳四の卷の內廿二丁め終迄稿之但いまたつけかなに不及夜に入猗園壹之卷披閱四時就寐○

明廿日內府樣ニ上野　御靈屋へ御參詣火留如例

○廿日申戌薄曇無程晴風寒し夕方ゟ夜中又曇

一今日上野　御成還御共如例年晝前相濟

一晝後淸右衞門來ル一昨日宗伯を以申付置候木村亘返翰並に拍案奇鶩一帙同所ゟ請取持參淸右衞門所望に付塗板一枚遣之且明廿一日如例年鏡開に付爲手傳おさき可參旨示談畢て歸去

一晝八時過渥見僕大助おくわ迎として來ル則おくわ祖太郞悌吉共歸去

一本鄉元町奉公人口入源藏やとひ下女四十才のもの目見につれ來ルおみちを以可抱ニ付明日宿書持參いたし明日ゟ參り可勤旨申遣ス當人少々用事故明後日夕方ゟ可參上申といへとも成たけ明日參候樣示談則歸去

一昨日お鍬參候節河合孫太郞ゟ手紙を以崇正通書謄寫の紙橫紙に成候趣問合に付橫紙に成候ても不苦候間早々寫しくれ候樣尙又お鍬を以申遣ス

一杉浦弟來ル宗伯對面過日染筆之事賴被申候短尺六枚持參且房州ゟ到來のよしにて自然生一盆右

潤筆として持參近日可致染筆旨宗伯を以及返辭依之早々歸去

一俠客傳四の卷十四丁め迄つけかな稿之夜に入猗園披閱四時過就寐

○廿一日乙亥曇（晝時比ヨリ）はら〳〵雨（忽止）終日不晴夜に入快晴（夜半頃ヨリ）大風烈（南）七時前風止

一今日如例年鏡開に付見了院殿墓碑墨本并ニ考妣と羅文居士御畫幅奉掛之神酒備餅供之但汁粉餅は家廟諸靈牌備之例のごとし

一四時比ゟおさき來ル勝手元傳祝義畢て薄暮歸去清右衛門方へ餅あん添並に酒肴等遣之おさき手みやけ持參お秀おきくも參り候樣かねて申遣スといへとも兩人共不參之寒ゆ故歟

一鏡開如例年晝前汁粉一同祝之其後吸物酒肴三種すの物さしミ煮肴等之夕方めし平猪口香の物等之

一夕七時やとひ下女名はたい四十才本鄕ロ入差添來ル來月廿一日迄やとひちん金壹分百文の內貳朱と貳百文渡之並にけいあんちん貳百文遣之則今日ゟ勤ム宿書持參請人本鄕追分町家主反物やにて平吉店中村や惣吉請人之

一俠客傳四の卷廿二丁迄つけかな不殘稿之且處々補文夜に入全く稿了其後秋燈叢話三の卷披閱四時過就寐

一橋本喜八郎殿ゟ宗伯へ使札又呼井戸の方位吉凶被問之使指置歸去是は廿二日夕方の事之

〇廿二日丙子晴四時前ヨリ風烈夜中同斷

一今日宗伯松前殿兩やしきへ罷出可申ト支度いたしㇾ處風烈に付延引

一やとひ下女たい間に合かねㇾ處晝後ゟ惡寒いたしㇾよし申宗伯に藥を乞ㇾ間調合いたし遣しㇾへは煎用の上夜食後早々打臥ス一向役に立かたきもの之〇橋本殿ゟ宗伯へ使札此義前に記之

一俠客傳四の卷さし畫二丁稿之其後五之卷本文纔に半丁稿ス日くれて秋燈叢話四之卷並に五の卷半分閲之今夕四時過就寢

〇廿三日丁丑曇今曉風止四時頃ゟ小雪折々止不降七ツ時比夜中雪積ル

一やとひ下女今朝も不起玄關に打臥罷在ㇾ間早々下宿致させㇾ樣おみちへ申付おく處起出何分可勤ㇾ間用捨いたしくれㇾ樣申に付そのまゝ差おく晝後櫛きせる等宿へとりに參度旨申に付八時過ゟ差遣ス夕七半時比歸り來ル

一晝前淸右衞門來ル過日おさきへ申付ㇾ白砂糖小松やにてかひ取持參且外ゟ到來のよしにて京茶漬持參今日ゆや與惣兵衞呼出に付町奉行所へ罷出ㇾよし申に付歸路通りㇾはゝとしまやにみりん酒注文書差出旨申付右書付もたせ遣ス早々歸去

一伊藤半平爲年禮來ル舊冬家老役被申付候風聽口上取次に申置歸去
一八時前ゟ宗伯松前南やしきへ罷出夕七半時比歸宅途中雪ふり候へ共雪踏にて歩行之
一八半時比土岐村元立來る雪天に付辻駕のよしさせる用事なく宗伯他行中に付早々歸去
一予宗伯被頼候橋本氏呼井戸方位考書付等いたし宗伯にわたしおく其後雪天に成寒氣に不堪依之
終日爐に倚秋燈叢話三四合卷卷九迄披閲夜に入五冊め十一の卷過半閲して四時就寐
○廿四日戊寅昨夜ヨリ雪無間断 九半時ゟ雪止テ不晴
一今曉雪深サ三四寸に及ひ猶降ル舊冬十二月廿七日雪はしめてふり候後二度めの雪之
一橋本喜八郎殿ゟ宗伯へ使札過日被頼候呼井戸の事御家内望に付別にほらせ申置候間方位考くれ
候樣被申越昨日の繪圖面差添別にはへん三ツ芹被贈候方位わかりかね候間中之所に磁石を立繪
圖面へ東西南北をしるし被遣候樣返翰に及ぶ
一太郎一兩日風邪にて咳嗽出且氣分も不勝に付宗伯調劑今日ゟ服藥但當分之症之
一俠客傳五の卷の口三丁稿之但四時迄に稿畢て就寐
○廿五日己卯曇晝時ヨリ小雨過ツ七時 雨止暮六時前ヨリ 夜四時過迄又雨其後夜中晴
一橋本喜八郎殿ゟ宗伯へ使札昨日返事に及ひ候彼家繪圖に東西南北をしるし被指越一兩日中に返

事頼ㇳ旨申來ル使差置歸去
一やとひ下女たい用立かねㇳに付畫後お百本鄉元町口入源藏方へ罷越其段申聞早々代りやとひ下女差越ㇳ樣申付八時過歸宅尤快晴次第たい義は下宿いたさせㇳつもり之
一俠客傳五之卷の內三丁半餘稿之今夕四時過就寐
一太郎風邪今日は順快之但いまた平生體にはあらす
〇廿六日庚辰晴晝前ヨリ曇並に風烈
一やとひ下女たいうち身起りㇳよしにて今朝不起とても用立かねㇳ間今日下宿致させㇳ樣おみちへ申付おく右に付晝前暇申渡し置遣ス給金一日五十九文つゝのわりを以金壹朱ト三百七文返納致ㇳ樣申付つゝみ物差置せ遣ス夕方右たい金壹朱持參殘りは近日納可申ㇳ間包物の內ふとん下ケ被下ㇳ樣おみちへ申に付同其意任せ壹朱受取ふとん遣之
一晝後淸右衞門來ル同役嘉平二事岡崎塩町家主庄兵衞と入替に成ㇳ旨地主ゟ內意有之のよし申之中やにて半紙十帖かひ取ㇳ樣申付遣ス雜談畢て歸去
一拍案驚奇の內落丁貳丁過日岡田やゟ取よせㇳ本ヲ以寫取ㇳ樣宗伯へ申付今日ゟ寫之晝後ゟ取かかりわつかに半丁出來〇考妣御畫像神酒備餠獻供如例年明夕奉納之

一俠客傳五之卷十二丁迄今日四丁半稿之今夕四時過就寐
一今日考妣御畫像奉掛之神酒備餅獻備之今明日當年初度の御忌日によつて之
○廿七日辛巳薄曇風無程晴晝ゟ風止夕方薄曇
一拍案驚奇落丁二丁昨日ゟ今日終日にて宗伯寫之畢○考妣御畫像夕方納奉る
一としまやゟ人足みりん酒一升持參代錢遣之一昨日三升之注文不足二升持參によつて之
一俠客傳五之卷の內十五丁め迄今日三丁半稿之今夕四時過就寐○お百感冒輕症之
○廿八日壬午晴美日
一今朝中川金兵衞俠客傳三の卷廿六丁め迄筆工出來持參差置歸去その後校訂悞寫の分ゐるしつけおく夕方又殘り八丁筆工板下同人持參今朝と十六丁校訂いたしㇸ分悞寫直しに遣ス明夕方板元丁子やへ持參可致旨申に付右八丁請取おく
一今朝八時前ゟ宗伯三田不動婆之加持請ㇸ爲出宅先飯田町へ罷越おさき同道ニ三田へ罷越加持請ㇸ而建立の不動ニ參詣並に長運寺へも墓參いたし夕七時過おさき同道にて歸宅
一晝後おきく爲年禮來ル如例勸盃畢てそはふる舞夕方かけ合之夕飯たへさせ至薄暮おさき同道にて歸去但しとし玉持參如例別帳に記之

一晝後喜兵衛事久右衛門來ル過日かし遣ひ八犬傳初編ゟ三編迄持參被返之尙又四編ゟ六へん迄かし遣ス且早春談し置ひ白紬一反持參則かひ取染させひて持參ひ樣申付もん本遣之そめ代とも金貳分貳朱のよしこん万すちあいめ引もん付注文畢て歸去

一今朝俠客傳三の巻十六丁迄校訂其後同書五之巻の内二丁半稿之今日少々風邪に付夜分は休息四時過就寐

○廿九日癸未晴朝五時ヨリ過風烈曉方風止

一今日上野　台德院樣御靈屋ゟ御參詣二百御年忌五ケ日の御法事相濟御祝義御能等皆相濟大赦並に江戸中うら店のものへ人別に御施行等あり

一晝前讃州藩木村亘ゟ使札過日賴遣ひ讃州三田燒磁枕之事一兩日中に在所ゟ幸便有之ひ間注文申越ひ樣並に拍案驚奇寫し相濟ひはゝ遣しくれひ樣申付磁枕注文並に拍案驚奇とも明日是ゟもたせ可遣旨返書に及ふ

一晝後淸右衛門來ル過日申付ひ半紙中やかひ取十帖持參尙又此日十帖かひ取ひ樣申付遣ス並に正月分藥うり溜勘定いたし持參仕ひ樣申付帳面鍵等遣之

一晝後中川金兵衛過刻の俠客傳三の巻十六丁め迄悞寫直し持參殘り八丁悞寫此方玄剛にて直させ

一處にとち廿四丁の內畫つき六丁は此方へ殘し置右寫本並に四の卷さし畫稿二丁且丁平への手紙等さし添今日丁子や平兵衞方へ持參いたしゅ樣申談しわたし遣ス
一宗伯拍案驚奇とひら寫し落丁かきたしの分とち入其外とち直し等夕方出來今日四谷久右衞門方へ罷越可申旨申ゅへ共大風烈に付さし留延引
一予礎枕かけ花いけ注文等書之且俠客傳五之卷の內二丁稿之今夕四時過就寐
一夕方やとひ下女たい罷越給金返納殘り才覺出來かねゅよしにて貳百八文持參殘り百文は近々納可申ゅ間包物下ケくれゅ樣申に付不便に存任其意包物おミちへ申付わたし遣ス
〆

○二月朔甲申晴四時過ヨリ風烈八半時比より風止

一今朝雨かへ町越後や儀介方ゟ使を以塩澤鈴木牧之狀居來ル正月十二日狀之則請取披見年始狀略筆之如例とし玉金貳朱被贈之舊冬越後新潟豪家十三軒俠者うちこわしゅ爲體あらまし申來ル
一晝飯後宗伯松前雨やしきへ罷出並に關忠藏ゟ病氣見廻へ罷越夕七半時比歸宅
一晝後淸右衞門來ル過日申付ゅ半紙十帖中やにてかひ取持參並に正月分藥うり溜勘定いたし鳥目帳鏈等持參請取之鳥目は夕方宗伯へ渡し尙又木村亘ゟ遣ゅ手紙並に拍案驚奇一部今日同人宅ゟ持參いたしゅ樣淸右衞門に申付もたせ遣ス

一晝後本鄕元町口入川越や源藏方ゟ罷越候よしにて外けいあんばいやとひ下女目見つれ來ルとし五十才の由老女に付不極之則おミちを以斷かへし遣ス

一同刻てつほう洲炭問屋松本三右衛門伴頭忠八用向聞に來ル近比の炭入あしく壹俵の炭四日程につかひ畢り近所にて壹俵つゝかひ入候ゟわり合不宜間已來用向申付ましく思候へ共罷越候に付徳用にて勝手宜キ炭吟味いたし兩三日中に差越候樣申付遣ス

一今日多用に付俠客傳五之卷の内纔に壹丁餘稿之夜に入諸家人物志續編披見四時過就寐

○二日乙酉曇四半時比ヨリ大風烈南晴夜半ニ風止

一晝前ゟ宗伯四谷久右衛門方へ爲年始可罷越出宅之處無程大風烈に成候間小日向中之橋邊ゟ引かへし九時過歸宅

一晝後關根江山來ル二月六日發會のよしにて扇子二本持參差置歸去

一いせ松坂との村佐五平年始狀並に舊冬兩度之返翰等一封着とし玉として仁齋書墨本一枚朱墨一挺被贈之おミち請取書遣ス

一橋本喜八郎殿ゟ使ヲ以過日被賴候井戸方位考返書乞に來ル風邪に付未出來旨申遣ス

一俠客傳廿七丁め迄四丁稿之今夕四時過就寐

○三日丙戌薄曇其後薄晴終日風なし夜に入曇

一四時過ゟ宗伯出宅かうし町十三丁め久右衞門方へ年始祝義として罷越歸路飯田町宅に立寄夜に入

一八時過ゟお百太郎同道にて飯田町宅へ罷越暮六時頃宗伯同道にて歸宅

一晝時本庄近江守殿内大島七兵衞來ル宗伯他行中に付予對面右一議五六年前宗伯同人に賴置候松平伊豆守殿に出入之事是迄とかく障り有之及延引候處此節都合も宜候間彌役人に申談候樣可仕候此方別に存寄も無之哉之旨被申之宿願之義に付何分宜賴趣予及返事右用談畢て歸去○芝泉市ゟ神女湯つき蟲藥受に來ル宗伯他行中に付包無之近日又可參旨申遣ス

一板木師内職原田吉次郎爲年始狀來ル美少年錄三輯二の卷彫刻出來見せらるいまだ不揃のよし之板元丁平へ持參のよしに付返し遣ス雜談數刻歸去

一同刻淸右衞門來ル木村亘へ遣し候手紙拍案驚奇の請取書持參其後歸去

一本鄕けいあんばゝやとひ下女目見つれ來ル右やとひ女樣子不宜に付不及相談かへし遣ス客來中に付お百おミち取斗之よし之

一今日晝後月代いたし並に兩度の來客等にてひま入候客傳廿七丁め終半丁名坪壹丁本文つけかな

二丁稿之今夕四時過就寐
○四日丁亥薄曇（四時比小地震）晝ヨリ晴
一晝前清右衞門來ルおさき感冒に付宗伯に藥乞の爲ニ則宗伯調劑いたし遣ス右序に關へかし候よ
ミ哥並に小松やへ五靈脂注文いたし兩樣共近日持參いたし候樣申付遣ス
一宗伯奇應丸能書すり其外賣藥用にて終日ニ
一予俠客傳五之卷三丁めゟ十六丁迄つけかな稿之今夕四時過就寐
○五日戊子曇（四時比ヨリ）晴（四時迄）地震（夜中）風
一朝飯後ゟ宗伯水天宮へ參詣八時過歸宅○お百太郎を携金介町へ蒼龍丸かひに罷越ましはらくして
歸宅
一俠客傳五之卷廿七丁め迄つけかな稿之わつかに半丁遺ル明日全稿也今夕四時過就寐
○六日己丑晴風烈（夕方風和）夜中風止曇
一晝前山口や藤兵衞來ル殺生石五編著述賴ニ到來のよしにて仙女香落雁一折持參雜談後歸去
一晝時關忠藏內義ゟ使札舊冬貸進の合卷水滸傳十一編下帙金魚傳下編（五ゟ八迄）二冊被返之爲謝禮かす
てらまんちう一折被贈之且殺生石初編買求申度よし申來ル使外へ罷越候よしにて急キ候に付返

事口狀にて申遣しふろしき斗返之
一晝後淸右衞門來ルおさき少々快方のよし尙又宗伯藥調合いたし遣之今日淸右衞門先日申付候よミ本石言遺響稚枝鳩四天王三部持參依之關氏江之先刻の返書認之右三部の本淸右衞門へ申付關忠藏方へ遣之過刻の返事に付さし置ふろしきのミもちかへる○淸右衞門今日持參候ろうそくおミちうけ取代料遣之右用向畢て淸右衞門歸去
一お次蟲熱有之夕方ゟ尤不快夜中三度さしこみ引つけ不寐之依之蒼龍丸並に奇應丸用之
一俠客傳五之卷廿八丁半今日悉稿了處々補綴等にて終日之夜に入猶園貳册め五之卷披閱之四時過就寐
一今日淸右衞門へ申付近日下町へ罷越候序丁子や平兵衞方へ立寄小兒疱瘡見廻の口狀可申入並に山口や藤兵衞方へ罷越殺生石初編出來合有之候はゝ一部申受持參いたし候樣及示談畢
○七日庚寅曇薄暮ヨリ夜四時前迄小雨夜中晴
一お次不快同斷今朝一度引つけ其後はさせる事なし奇應丸蒼龍丸熊膽並に煎藥用之宗伯療治之
一夕方橋本喜八郎殿ゟ宗伯へ使札當月十五日過井戸ほらせ候に付先日頼候方位考明夕方迄に頼候趣申來ル使さし置歸去

一俠客傳五之卷さし畫三丁二丁畫替へ共稿之無人の上お次不快に付太郎終日机邊に罷在ゝ間多く
不稿夜分は休息四時過就寐
○八日辛卯薄晴無程快晴夜五時過ヨリ明朝迄雨
一お次熱氣今朝は大かた退く然ル處疱瘡之樣子にて面部並に頭中に少々見えゝ間ひやし不申樣お
ミちへ申付おく
一先月廿八日三田不動婆之差圖に任せ今日宗伯靑山祐天寺並善光寺同新寺へ罷越卽空夢幻大姉月
海慈眼信士眞室宗如信士祐雲淸信士等爲菩提回向賴可申ため朝飯後出宅先つ四谷久右衞門方へ
罷越久右衞門同道にて右三ヶ寺へ罷越ゝつもり先日久右衞門へ案內を賴ミやくそくいたし置ゝ
によつて之右三ヶ寺へ參詣夜に入五時頃歸宅但久右衞門ゟ馳走にて駕申付駕にて歸宅右駕ちん
此方拂に可致處駕のもの辭して不承知ニ付まつその意に任せかへし遣ス追て久右衞門方へ遣し
ゝ樣宗伯に申付おく
一晝後淸右衞門來ル彼岸中日ニ付手製のよしにて牡丹餅一重持參且先日申付ゝ丁字や平兵衞殿小
兒痘瘡見舞申入ゝ處不宜よし之並に山口や藤兵衞方へ殺生石初へんの事申入ゝ處出來無之近日
製本出來のよし之○お次疱瘡守小石川馬場近所根岸伊三郞殿へ罷越右守札受ゝ樣淸右衞門へ申

付且あかねもめん一丈かひ取お次つき上きぬつきん等おさきにぬはせ持參いたし候様申付右もめん切代金壹朱遣之右用談畢て歸去

一晝後お百太郎を携金介町へ罷越蒼龍丸代金貳朱分かひ取且本鄕元町奉公人口入源藏方へ罷越やとひ下女之事申付夕方歸宅

一橋本氏賴新井戸方位考今朝ゟ八時迄に圖說書之畢其後俠客傳五のさし繪殘り壹丁ロ繪貳丁稿之

今夕四時過就寐

○九日壬辰 昨夜ヨリ小雨 五時頃雨止テ 曇折々小雨 八時過より 本降終夜猶雨

一橋本氏ゟ賴の新井方位考乞來ル則書案右使へわたし遣ス

一晝前淸右衛門來ル昨日申付候小石川馬場根岸氏に罷越候もはや疱瘡に取かゝり候ては守札不出よしニお次方に張子たる磨壹並に昨日申付候あかねもめんひとつ身ひとへ物同つきん出來此品淸右衛門方ゟ差遣し申置よしにて昨日わたし置候金壹朱返納則任其意請取おく役用にて番所に罷出候よしにて早々歸去

一晝前痘神棚飾之丁の方空利方に付獻供等備之

一晝後ゟお百新鳥越さるや町白山權現へ參詣お次疱瘡の守札並に御符等申請暮六時前歸宅歸路

爲朝の紅繪かひ取持參白山神主さしつに任せ右守札疱神棚に貼し供物等神主さしつの如く奉祭之八丈島爲朝神影舊來所持の分も二幅同斷

一夕七時頃本郷元町奉公人口入やとひ下女目見つれ來ル請人は本郷五丁目傳兵衞店文吉と申すものゝよし宿書持參當人名はせき四十餘才おミちにかけ合せ則とり極メさせやとひちん一ヶ月金壹分貳百文の内貳朱ト貳百文渡之外に口入ちん貳百文遣之明日四時頃迄に參りゝ樣申付遣ス

一俠客傳口繪三丁不殘稿之像賛二丁稿之今夕四時過就寐

○十日癸巳曇風烈（晝前風止）終日不晴

一四時過おさき來ルお次疱瘡見廻として手みやけ持參薄暮歸去

一晝前やとひ下女せき來ル則今日ゟつとむ

一今日初午稲荷祭霄宮にゝへ共お次痘瘡にて人手無之且天氣もくもりゝ間いなり祭りは二ノ午來ル廿三日にいたし可然旨宗伯並に家内のものへ申聞おく

一夕方渥見次右衞門ゟ使札慶長日記五の卷寫し出來原本共被返之使之者返事ひま入ゝて明日又可參旨申に付任其意明日參りゝ樣申付請取おく

一俠客傳口繪三丁像賛共不殘出來其後惣もくろく一丁書畫共稿之夜分は休息四時過就寐

○十一日甲午晴夕七時前ゟ薄曇

一今日依家例茶たち終日麥湯用之稲荷まつりは二の午來ル廿三日迄延引ス

一昨夜九時過本所相生町三丁目失火頗及延引ゆよし今日聞之舊冬二丁め迄燒ゆ處此處その先之

一地主杉浦氏ゟ初午赤飯少々被贈之其後お次疱瘡見舞として煉羊肝被贈之

一晝後清右衛門來ル此方稲荷へ如例年繪馬奉納お百風邪にて頭痛いたしゆに付清右衛門に申付太郎を戀妻稲荷へ參詣せしめ鎮火の札受之明神石坂下いなりへも參詣畢て歸宅清右衛門歸路之節同人に賴ミ渥見次右衛門へ昨日の筆耕貳百四十八文並にふろしき返翰等遣之且小松屋にて白砂糖二斤かひ取ゆ樣申付かよひ通(帳)もたせ遣ス

一めてたや庄兵衛養母爲年禮來ルとし玉持參早々歸去

一夕方渥見僕大助昨日之返書取に來ル先刻是ゟもたせ遣しゆ趣申聞かへし遣ス

一俠客傳口繪並に一の卷六丁め列傳姓名もくろく半丁稿之夜に入秋燈叢話並に猗園少許つゝ抄錄今夕四時過就枕

○十二日乙未薬晴風無程止四時頃ゟ快晴美日春暖

一四谷久右衛門來ル、お次疱瘡見廻として赤落雁一袋被贈之、且過日申付ゆ白紬一反そめ出來、但注文に少々ちかひゆ得共染上ゆに付、其儘請取、そめちん共代金貳分貳朱遣之
一晝後ゟ宗伯出宅、本庄遠江守殿內大島七兵衛方へ罷越、右は松平伊豆守殿へ出入之義被致世話ゆニ付、過日入來之節、宗伯他行不及對面、依之爲謝禮罷越、夕七時前歸宅○おさき方ゟ久右衛門へ賴到來のもちくわし少々差越之
一美少年錄序文、舊冬出來ゆへとも不如意之處有之、今日再案、終日之夜に入、秋燈叢話披見、四時過就枕
○久右衛門八犬傳四へん五へん返却、尙又七へん不殘かし遣ス
○十三日丙申 薄曇終日同斷 四時過小地震、八時半又地震、春暖
一山口や藤兵衛ゟ殺生石初へん一部使ヲ以被差越之、過日申遣しゆによつて之、請取おく、是は昨十二日夕七時比の事之、前條記し遣しゆニ付記之
一晝前、清右衛門來ル、過日申付ゆ白砂糖貳斤小松やゟかひ取持參、則同人江申付、歸路關忠藏家內へ殺生石後日初へん全二冊遣之、返事取ニ不及、清右衛門直ニ歸去
一晝後、松本三郎治手代忠八炭代乞ニ來ル、右之炭二俵は半分程ヌケ有之、其段申聞、代金貳分貳朱ト貳百文の處、貳分貳朱ト百文遣之、請取印形判取帳ニとりおく

一美少年錄序再考等にて終日之夜に入猶園少々披閲四時過就寐
一今夕五時過太郎せはり殊之外啼ゆに付杉浦ゟ下女被差越之辭して歸去らしむ其後太郎熟睡
一是ゟ先晝時杉浦老母ゟ下女を以お次疱瘡安否被問之
一昨今春暖時候相應之

○十四日丁酉晴風立晝後ゟ風烈薄曇夜中大風烈南暖氣甚

一晝飯後ゟお百宗伯同道太郎を携上野へ彼岸さくら見せに罷越終日遊山夕七半時頃歸宅此節ひかんさくら四分通り開ゆよし之○中川金兵衛俠客傳四の板下十二丁め迄出來持參則校訂了
一晝後丁字や平兵衛來ルさくら餅一折持參是ゟ畫工英泉方へ罷越ゆよしニ付俠客傳五の卷さし畫稿三丁一の卷口繪三丁もくろくわく一丁右稿本わたし遣ス美少年錄口繪俠客傳看板稿被催促早々可稿旨及示談要事畢て歸去
一美少年錄自序綴り直し今夕大てい稿了今日迄三ヶ日右稿案にて消日了
一晝後芝泉〔市〕ゟ過日申越ゆ賣藥取ニ來ル則神女湯十包つき蟲藥半包十遣之近來かよひ帳不被差越よく扣置ゆ樣返書に申遣ス今夕四時過就枕○今日甚溫暖之

○十五日戊戌曇昨夜ヨリ大風烈南夕七時ゟ風和暮六時過大雨止去はらくにして夜に入風止

一昨夕大風南に付溫暖三四月のとし〇昨十四日久右衛門お次見舞ニ來ル予不逢早々歸去

一晝時松前殿役所ゟ宗伯へ使札御出立來月八日と御觸出し今日於　殿中御暇被仰出ル御祝義として御酒被下ル間可罷出旨被達之宗伯則請ふミ認遣之

一晝後淸右衛門爲當日祝義來ル御前ろうそく取次のふくろ町名入木いたし置よしニ付右板下書之遣置雜談後歸去世繼稻荷ニ今日十二坐神樂興行ニ付太郎を可遣旨かねて及約束ルへとも殊之外大風ニ付不及其義

一夕七時前風よほとやわらきルニ付宗伯松前殿に罷出ル處御酒被下ルて夜に入可申樣子ニ付目付衆へ斷り早々歸去及七半時〇日雇太兵衛本所山名殿に使に可參よしにて來ル今日は延引ス

一晝前ゟ太郎杉浦氏に罷越終日遊ひ杉浦ゟ橋本殿に被致同道夕七時過歸宅

一美少年錄三輯口繪二丁稿之其間俠客傳序文少々補綴今夕四時過就枕

〇十六日己亥曇朝五時過ヨリ晴五半時頃ヨリ風無程風止

一晝飯後早々お百太郎を携飯田町舊宅に罷越おさき則太郎の髮月代いたし遣し終日遊せ薄暮歸宅淸右衛門は天滿や庄兵衛に誘引れ堀の內妙法寺へ參詣中にて不逢よし之

一今朝丁字や平兵衛ゟ使ヲ以俠客傳さし畫の內貳丁四の卷さし畫壹丁〆三丁板下出來見せらる則見本はあつかり置美少年錄三輯口繪稿三丁右使にわたし遣ス

一今朝中川金兵衛俠客傳四の卷筆工十丁持參後刻可參よしニ差置歸去依之右寫本校訂此方にて㑨寫直しおく

一晝後お秀來ルお次疱瘡見舞として手遊ひたるま馬かるやき等被贈之晝飯ふるまひ雜談後歸去

一晝後中川金兵衛又來ル則俠客傳四の卷廿二丁校合濟分渡之但さし畫三丁かき足しい樣申談し遣之外ニ同書五の卷並一の姓名目錄稿本一丁けわく紙共渡之猶又美少年錄二輯序文書直しに付板下書い樣申談し右一の卷もわたし遣ス今日丁字やに右寫本持參のよしニ付八犬傳二輯外ゟ被賴い間さし越くれい樣丁字やへ傳言たのミおく

一晝後下女せきを以中川金兵衛方に俠客傳姓氏もくろくの內奴婢之介一人書遣しい間かき入い樣申遣し序に寫本包紙三枚先日取落しい間かへし遣す

一夕七時頃金兵衛又來ル右俠客傳三四のさし畫三丁書入出來被爲見之則一覽之上返し遣ス直ニ丁字やに持參のよしにて早々歸去

一夕方森や次兵衛爲年始禮來ルとし玉えうかん持參予對面當年の著述被賴之雜談後歸去

一夕方ゟ宗伯持病の口痛差發ル甚大おこりニあらす

一美少年錄三輯口繪三丁並ニ戶ひら半丁稿之俠客傳四の寫本校訂かれ是にて甚多用但右口繪の替

り未及稿案板元急キ候間畫斗遣之今夕九時就寐但し夜に入慶長日記異本一卷披閲之

一今日以太兵衛本所猿江山名殿へ舊冬借用之慶長日記五册返上尙又慶長日記異本五册被借之入物ちひさく候ニ付あて板共來ル則使ちん百五十文太兵衛へ遣之

一夕七時頃關忠藏家內ゟ使札過日かし遣候よミ本三部被返之且過日過(遣)し候殺生石初編代とりくれ候樣申來り鳥目使ニもたせ被差越外ニ鯛切身九片右借書の禮として被贈之本代しれかね候へ共取斗百四十八文請取之尙又旬殿實々記かり申度よし申來ル使急キ候間返事是ゟ可遣旨申遣し請取書遣之借書の返りは別帳ニ記之

〇十七日庚子薄曇終日不晴暮六時頃ゟ雨終夜無間斷明方雨止テ不晴

一早朝中川金兵衛來ル昨日賴ミ遣し候ニ付丁字や平兵衛方ゟ八犬傳二輯壹部金兵衛請取之早朝被届之取次おミちへわたし早々歸去右之書はいせ松坂との村佐五平友人ゟ被賴候よしにて先便此方へ被賴候ニ付丁字やゟとりよせ候之來ル廿一日に登せ可遣

一臺前おさき來ル今日本鄕觀音施食緣日右世話人講中ニ付參詣のよし依之太郎を携お百も同道九時出宅夕七時過歸宅おさきも又此方へ立寄夕飯後薄暮歸去

一八時前ゟ宗伯池上八天狗神へ參詣夕七時頃歸宅

一晝後田口久吾お次疱瘡見舞として來ル予對面お百宗伯他行中之雜談後歸去

一八半時頃せきを以中川金兵衛方へ俠客傳看板稿もたせ候ニ付(處)當番中にて明日ならては歸宅せさるよし依之寫本箱共さし置歸宅

一俠客傳看板稿同とひらふくろ稿等終日之稿了夜ニ入慶長日記異本二冊め披閲四時過就寐

〇十八辛丑曇折々小雨なり終日深夜中晴

一宗伯夕方持病の口痛發り害痛甚し依之余觀音ぼんいたし下の方へ打つけ且灸治等いたし合藥等手當いたし候へ共おこたらす通宵煩悶の聲不絕

一お次順痘追々に痂作り順快今日にて十三日めく

一今夜太郎熱氣少々有之しかれとも氣分平生にかはるとなし食事常の如し

一美少年錄三輯ふくろとひら稿昨日稿し候を書直し夕七時頃稿し畢夫ゟ四の卷本文に取かゝり候處無程薄暮に及ふ今夕慶長日記異本三冊め披閲四半時頃就寐

一宗伯口痛ニ付おミちお百は不寐之せきをは四半時頃休しむ

〇十九日壬寅薄晴無程快晴風

一宗伯口痛今朝も同斷猶煩悶の聲をたゝす療治せんかたなき持病之晝頃ゟ順快

一太郎熱氣今朝は大抵さむ氣分食膳常の如し大かた疱瘡なるへし尤輕症之
一今朝中川金兵衞來ル過日の寫本箱被返之予對面俠客傳看板稿の內左右すかし書に直し度處有之
右の直しの處別に書記しわたし遣ス當番出かけのよしにて早々歸去
一晝後淸右衞門來ル過日おさきへ申付ゟ寶々記不持參ニ付持參いたしゟ樣申付おく此外明後廿一
日新鳥越白山權現行等之事談しおく右畢て歸去
一八時過根岸鈴木一郞來ル予對面日光宮樣公寬法親王御書乾坤一草亭のかけ軸宮樣御家來所藏に
てめつしらく存予か印記に相叶ゟ間可贈ためむりに懇望いたしゟよしにて携來り被贈之その志
に任せうけ取おく並に坂本ゆや亭主善兵衞と申者富士の信者にて書あらはしゟ物筆削の〔事〕被
賴ゟ急には出來かねゟ趣斷り及ゟへとも右稿本預おかるゝ間無據あつかりおく右要談畢て歸去
一美少年錄三輯四の卷の口わつかに貳丁稿之夜分は慶長日記異本四冊め披閱四時過就枕〇宗伯今
夕は熟睡
〇廿日癸卯晴風
一太郎昨日も夜中も熱氣有之出もの面部ニ三ツ四ツ左の臂に三ツ肩に一ツ見えゟ疱瘡に相違有之
ましきよし宗伯申之尤輕症之今日序熱三日め之

一晝後淸右衞門來る申付ゆ實々記合本二冊持參則手書認同人を以關忠藏家內へ右之本かし遣ス返事來ル並ニ太郎痘中あかねもめん上衣つきん手甲等おさきニぬはせゆ樣申付右もめん代金貳朱わたし遣ス奇應丸宗伯包遣之下町へ罷越ゆよしにて早々歸去

一晝後丁子や平兵衞ゟ使札壬生菜つけ一重被贈之且俠客傳四の卷の末さしゑ一丁出來見せらる右さし畫は筆工さし添中川金兵衞方へ持參いたしゆ樣使之者ニ申付外ニ俠客傳とひらふくろ稿並美少年錄惣もくろくわくとひらふくろ稿返翰差添丁子やに遣之

一お百風邪頭痛甚しきよしにて終日病臥宗伯療治煎藥用之

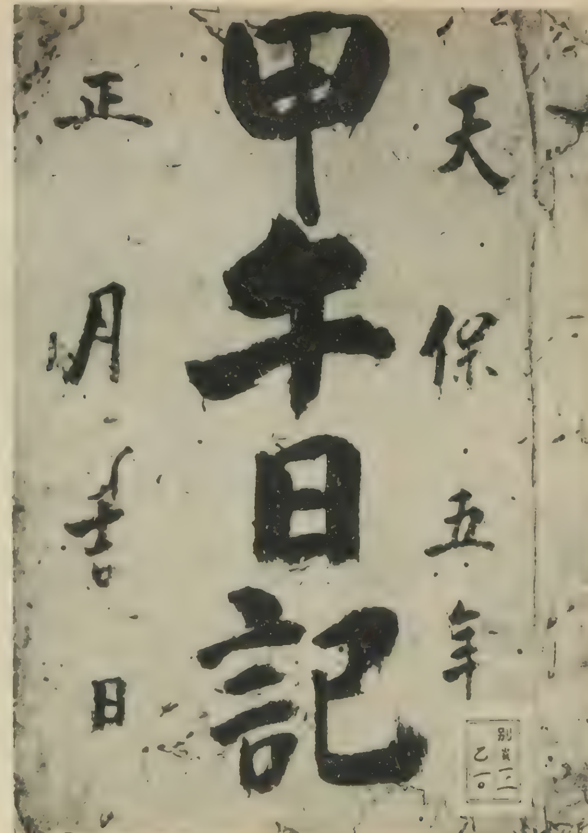
一美少年錄三輯四の卷の內二丁稿之夜に入月代いたし四時就寢

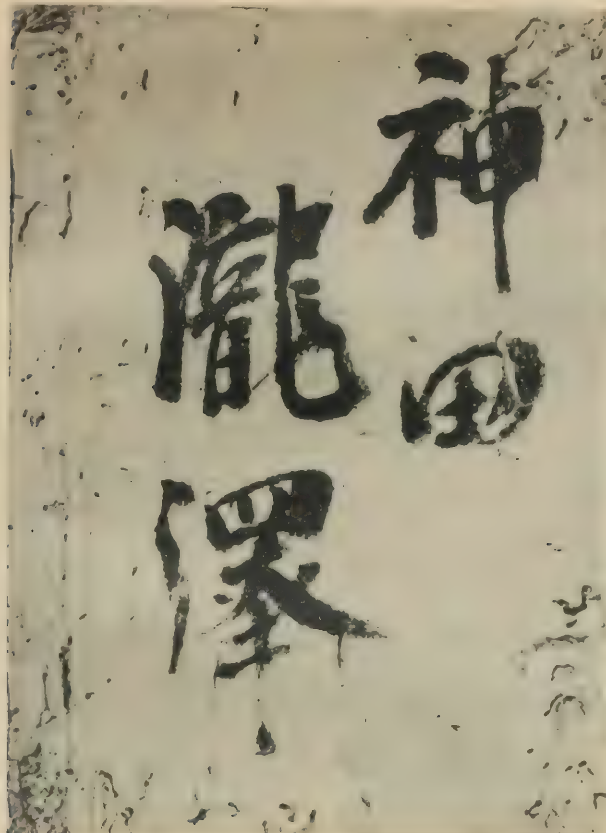
一宗伯奇應丸能書摺之〇中やにしの內注文淸右衞門へ申付かよひ帳もたせ遣ス

〇廿一日甲辰曇晝前ョリ雨夜中暫時斷晝夜無間斷

一今曉七時頃谷中邊ニ火事有之人多く門前奔走尤近く見ゆ間宗伯上野廣小路近所迄罷越聞合ゆ處谷中のよしニ付歸宅又就枕

一晝時淸右衞門來ル過日申付ゆ太郎痘中上着あかねもめんひとへ物おさきニぬはせ持參もめん代銀つりせんも持參外ニ大たるま並ニ車付鯛各一ッ太郎へ送之お百風邪未痊了ゆニ付淸右衞門を





(二) 天保五年「甲午日記」前後表紙題署

以白山權現へ參詣せしめお次疱神備物白山守札等一式令納之米一袋はつほ百銅遣之尙又太郎疱瘡守札幣等申受候樣申付遣ス夕七時前淸右衞門歸來ル太郎守札幣等持參

一太郎疱瘡棚白山權現守札並ニ根岸氏守札兩樣飾之根岸氏の札は柳の枝十二本ヲ以棚を掛ク白山のはさんたはらえそなへ物くさ／＼お次のときのとし外に爲朝神像二幅奉掛之兩樣共小机一ツ用之て並へおくえ

一松坂殿村佐五平賴ミ八犬傳二編の五册今日島やに差出し可申爲今朝ゟ書狀長文認之晝後書終ル右本つゝミ淸右衞門歸路島やに立よらせ右紙包書狀共ちん先拂にて遣之丁子やゟもらひ候壬生なつけ半分今日淸右衞門へ遣す

一お百風邪少々順快今日は起出いまた痊可にはあらす尙又藥湯用之

一夕方兎園集十八卷め末へ石搨みかき後記書入夜ニ入慶長日記五卷め披閲今日卒業え四時就寢今日著述は休筆え

○廿二日乙巳雨（昨晝ヨリ無間斷）風アリ（夕七時前ヨリ）雨止テ不晴夜中風止（冷）

一やとひ下女せき宿ゟ無據用事申來候よしにて半日の暇を乞依之九半時ゟ駒込へ遣し暮六時歸宅

一夕七時前宗伯金介町に蒼龍丸かひ取に罷越七時過歸宅

一太郎痘疱今日は出揃ひ予検點の中にて面部に四五十出同五ツ程なほ皮肉中に有之手足等は稀之晝夜せはり一統こまる煎藥はたへす候間蒼龍丸一日兩度つゝ用之お次はいよ／＼肥立たり

一美少年錄四の卷の內七丁め迄三丁稿之今夕四時過就寐此節太郎疱瘡ニ付著述多く稿せす無人に付彼是心配多かり

○廿三日丙午天明ヨリ晴冷少し風立

一晝時やとひせきやとゟ人參り宿の子供病氣ニ付暇願候趣宗伯へ申候へ共此節太郎痘中お百も不快ニ候處右樣の義不相成旨申聞差留候へとも自分包物等右やとゟ〔の〕女にわたし晝飯後出奔ス言語同斷之癖者ニ依之彌無人ニ此節家內一統及迷惑

一晝後清右衞門來ル過日申付候飛脚や島やの請取かよひ帳持參嘉平二事當月十六日ニ岡崎塩町へ轉宅のよし右町內家主被申付候によつて之

一清右衞門ヲ以本鄕元町奉公人口入源藏方へ遣し右やとひ下女せき〔暇〕願候ニ付奉公人●●奉公人吟味いたし早々差越候樣申付おく然ル處右せき出奔いたし候ニ付清右衞門をおしかへし又右源藏方へ遣し出奔之趣申聞最初三十日無相違勤候はゝ差置申旨及對談候處代之人出來候迄待かね致出奔候事重々不埒之趣申聞おく清右衞門は今日小林氏江月並勘定ニ罷越候よしニ付本鄕ゟ直ニ

京橋へ赴く依之返事ヲ聞ニ不及
一晝前杉浦清太郎繼母太郎疱瘡見廻として入來手遊ひ物三種被贈之雜談後歸去
一姫路侯家臣淺見魯一郎來ル予對面去年中賴置候右同藩瀧澤氏事瀧澤五郎兵衛と申者姫路ニ有之又瀧澤氏のもの料理人體臺所目付ニ有之これはかろきものにて家の事一向しれ不申よしいつれも紋はさかり藤のよし之右雜談後歸去右魯一郎と予應對中やとひ下女せき出奔したる之
一宗伯療治場内山七兵衛妻長者町某の宅ニ同居候て病氣のよしにて期待せらる依之宗伯見廻藥遣ス内傷の症藥ちかひにて療治手おくれのよし之
一今日美少年錄三輯の内八丁め迄わつかに一丁稿之今夕四時就寢此節太郎疱瘡の處今晝後ゟ彌無人ニ成候間著述出來かねかくのとし
一晝後屋代二郎殿ゟ使札舊冬遣し候合卷さらし代金壹分被差越之勘定いたし候處〆高金壹分ト百十五文不足也うはは不足のよし返書ニ申遣し右金子請取おく
○廿四日丁未曇四半時頃ヨリ雨無間斷夜中大風雨
一今朝丁子や平兵衛ゟ使ヲ以美少年錄三輯三の卷さし畫の貳壹丁北溪方ゟ出來のよしにて差越ス右筆工さし添丁平使に申付中川金兵衛方へもたせ遣ス且北溪畫いよ／＼出來かね候はゝ今日人

遣し稿本とり返し可申旨丁平ゟ申來候畢右之趣北溪方爲可申遣則手書認丁子やに遣之さし畫稿とり返し可申ための文言之丁平右手書見候上北溪方へ遣し候様この義も使へ申ふくめもたせ遣ス

一四時過おさき來ル太郎疱瘡見廻之此節無人ニ付爲手傳今夕止ム

一畫前本鄉元町奉公人口入川越屋源藏やとひ下女出奔之いひわけ且給金何程納候て可然哉と問ふ無據義候はゝ早々代り之者おきつけ暇可遣處宿となれ合之樣子にて出奔いたし候上は日勘定ニは不相成金貳朱ト貳百文とり立納候申付おく承知之趣申歸去

一太郎今日は起張の初日にて食氣無之終日乳のミ之せわりも薄く終日睡眠折々目覺候蒼龍丸二粒つゝ日々用之宗伯療治の煎藥今夕は一服分たべ候とかく煎藥を嫌ひ候ニ付一統心配別段かはるとなし

一美少年錄三輯の内二丁十一丁め迄廿七回の終り之夜に入輪園披閲四時就寐

○廿五日戊申風雨昨夜ゟ無間斷夕七時頃ゟ雨止テ不晴猶風烈深夜中風止

一畫前中川金兵衞俠客傳四のさし畫の貳書入同看板美少年錄三輯序文半丁同三の卷さし畫の貳かき入出來持參差置早々歸去其後校閲畢

一夕七時過おさき飯田町宅へ歸去やとひ下女の事川越や源藏方へ罷越申越ゆ樣淸右衞門へ可申通旨申付遣す

一太郎今日起張の二日めこよく起張いたし昨今せわりもうすらき食膳半椀つゝ兩度ゆつけたへゆ昨日は乳のミこ先順痘にて一統安心但出ものはよほと有之お次同樣こ

一美少年錄三輯四の卷十一丁め迄並筆工十丁つけかな稿之畢夜ニ入校訂四時就寐

一お百風邪とかく同樣にて頭痛つよくゆよし今夕はやく打臥服藥無由斷用ゆ樣申付おく

〇廿六日己酉薄曇晝前ヨリ快晴夜中又曇

一成正樣御忌日ニ付宗伯おミちはやく起出如例料供獻之此節無人且お百不快旁以困じゆ事限りなし

一太郎今日は起張の終りこ過半腫をもち順痘こ面部とかくかきこわしゆ間そば粉を〔以〕補之

一晝前中川金兵衞來ル當番引かけのよし昨日の俠客傳かんはん同四之卷さし〔畫〕の貳番美少年錄三の卷さし畫の貳右かき入校合相濟ゆ間わたし遣ス今日は用事ゆ間明朝板元へ持參可致旨申之俠客傳さし畫の贊の印不宜ゆ間直しゆて遣しゆ樣申示し寫本渡し遣す

一晝後丁子や平兵衞ゟ使を以俠客傳口繪三丁同もくろく直し壹丁とひらふくろわく各一丁並ニ美

少年錄三の巻さし畫の三寫本出來見せらる書方口狀書いたし右使ヲ以筆工中川氏ニ遣之但明日
美少年錄口繪二丁出來のよしニ付人遣し可申よし告之美少年錄さし畫かき入は明日迄ニ書くれ
候樣金兵衛方へ申遣ス

一夕七時頃淸右衛門來ルおさき腰の上の腫物昨夕歸宅後痛候間參りかたき趣告之並ニ本郷川越や
源藏方へ罷越やとひ下女代りのものゝ事申付候よし申之明日としまやニ□□□注文いたし候樣
申付書付もたせ遣ス依之夕方淸右衛門歸去

一美少年錄三輯口繪の贊詩三編同四の巻のさし畫の壹番一丁稿之夜ニ入猶國披閲四時過就寢○お
百不快とかく同樣ニ付服藥半起半臥之

○廿七日庚戌薄曇終日不晴

一早朝渥見覺重來ル無據用事有之宇津宮へ罷越候ニ付只今出立暇乞の爲罷越候よし申し草鞋かけ
のまゝに付宗伯立出對面此方も打つゝき痘瘡人有之且お百病氣の上無人旁及不沙汰候趣申示ス
覺重十五日の暇を主人ゟ申請候間來月中旬歸府のよし之早々別去

一今朝中川金兵衛美少年錄三輯さし畫の三昨日遣し候內右一丁かき入出來持參見せらる只今當番
出かけ丁子やへ持參のよしニ付昨日稿し候同書四の巻さし畫の壹稿本一枚丁子やへ遣しくれ候

樣たのミ右寫本と共にわたし遣スまつ昨日の俠客傳口繪かき入〆先へ書かゝり並に過日わたし
おきゆ稿本の內姓氏もくろくは右口繪へつきゆ間一處に書ゆ樣宗伯を以及示談金兵衞承知のよ
しにて早々歸去
一家主久右衞門來ル太郞疱瘡見廻として落雁手遊ひ馬等持參雜談後歸去八犬傳六へんめ被返
一本鄕奉公人口入源藏やとひ下女目見つれ來ル廿一才名かね請人本鄕追分町松五郞店與吉請書持
參則とり極メ給金壹分二百文の內貳朱二百文渡し外ニけいあんちん貳百文源藏へ遣之且出奔之
やとひ下女せき事不調法の申わけいたし給金日勘定ニいたしくれゆ樣願ゆといへとも重々不埒
ニ付理解申聞不相濟趣示し遣ス
一夕七時過右かね引移ル今日破日にゆへとも此節之事日をえらむにいとまあらす依之吉時を用ふ
今日申時上吉辰之
一晝前宗伯長者町先日の病架〆見廻乞ニ來る則罷越歸路日雇太兵衞へ芝行使之事申付おく
一木村亘〆使札過日遣し置ゆ柏案驚奇被返之則請取書遣スかひ取申度よし被申ゆニ付遣しゆ處直
段ニおそれゆ哉此節ニ至り被返ゆ間明日岡田やにもたせ可遣ため右之使ヲ太兵衞へ申付おきし
之

一美少年錄三輯四の卷の內三丁稿之十四丁め迄之夜分猗園抄錄四時過就寐
一太郞かはるとなし昨今大便通スいよ〳〵順痘之お百も少々快方
〇廿八日辛亥今曉ヨリ小雨五時過雨止不晴晝ヨリ半晴夕方又曇夕七半時頃ゟ小雨夜ニ入本降深夜雨止テ不晴
一晝夜後淸右衞門來ルおさき腫物との外いたミ難義のよし之雜談後歸去
一日雇太兵衞を以芝神明前岡田や嘉七方へ拍案驚奇猗園秋燈叢話右三部返し遣スうけ取書來ル外ニ茶餘客話小刻薄本四冊一帙おか田やゟ差越し太兵衞へ日雇ちん遣之
一八時頃ゟ宗伯松前兩やしきへ罷出夕七時半頃歸宅
一太郞彌順痘面部は痂ニ赴くお百も快方頭痛は未全快
一予今日氣分懶く㕝間著述は休筆晝後ゟ茶餘客話一冊半繙閱今夕四時過就枕
〇廿九日壬子曇四時過ヨリ小雨晝後雨止夕方ゟ夜ニ入又小雨晝ヨリ風深夜風雨止テ不晴
一お久和方ゟおミちへ使札太郞疱瘡見舞として張子達磨魚等到來返事口狀にて申遣ス來月一日ひな長持とりよせ申度よしも申遣ス此節疱瘡人有之上お百不快病臥ニ付お次初ひなは來春迄延引ひなもかけ物斗にいたしおき可然旨昨日宗伯おミちへ申聞置㕝へ共太郞追々肥立㕝ニ付ひな長

持とりよせ可申哉と存右之趣申遣しゅへ共お百とかく同様にて打臥罷在ゅニ付同様にゅ間ひなはかけ物斗ニいたし可然旨宗伯も申予左様に思ひゅかへし此義明日文ヲ以お久和方へ申遣しゅ様おミちへ申付おく

一美少年錄三輯四の卷の內三丁半稿之今夕四時就寐

一晝後本鄕奉公人口入源藏來ル出奔之やとひ下女せきゟ給金日勘定のつもりにて百文差越ゅ趣申之日勘定にても丸十三日勤ゅ間差引貳百十二文之日勘定には不相成ゅへ共爲心得見せゅ趣申聞勘定封付遣しゅ一體損德には不拘ゅへ共いたし方尤不埒ニ付きひしくとり立ゅ樣おミちを以示談畢て源藏歸去

○晦日癸丑曇終日不晴冷不降

一晝後おきく爲太郎疱瘡來ル手みやけ三種持參ちやくわし並ニ夕飯ふるまひ七半時頃歸去

一おくには四目垣際小さくら込合ゅニ付宗伯ゟ申付客の間手水前へ植かへ畢此處の小さくらかれゅ故之

一太郎今日結痂の初日いよ〳〵順痘之○お百不快同様の內今日は少し快方食二椀ツヽ三度之

一晝後おミちゟお鍬ゟ使札ひな長持之事昨日申遣ゅへ共疱瘡人有之上お百不快ニ付かけ物のひな

はかりニいたし候間長持とりニ遣スましき旨申遣ス昨日序有之とり出し候へ共尚又仕舞可申旨おきく方ゟ返事申來ル此使ニかねを遣ス

一美少年錄三輯四の卷の內四丁稿之廿二丁め迄之今夕四時筆をとゞめて就寐

○三月朔日甲寅曇 終日不晴

一晝前丁子や平兵衞ゟ使を以俠客傳三の卷さしゑ一丁同五之卷さしゑ三丁美少年錄三輯口繪壹丁出來見せらる俠客傳さしゑは不殘筆工金兵衞方へ右使ヲ以もたせ遣し候美少年錄口繪はとめおく金兵衞方ゟ俠客傳口繪書入同惣もくろく姓氏もくろく出來右使持參卽刻校訂いたし右使にわたし遣ス然處もくろくの內四ノウに悞寫ありあとにて心つく但もくろく序付の半丁はとめおく

一大傳馬町との村店ゟ松坂主人佐五平書狀屆來ル請取書遣之正月十一日此方ゟ出し候書狀之返翰にて例のごとく長文之

一晝前淸右衞門來ル爲上巳祝義白酒豆煎等持參今日油丁へ罷越候よしニ付つるやへ合卷代丁子やに八犬傳二編め壹部の代拂村田宗淸にて例の黏付筆墨等かひ取候樣申付金貳分もたせ遣ス

一天奏方屬隷京角鹿淸藏書狀屆來ル去年七月彼地地震見舞申遣し候書狀の返翰之地震並ニおかけ

まゐりのちらしすり物等おくらる

一夕方お秀爲太郎疱瘡見舞來ルたる磨落雁等持參夕方ニ付早々歸去

一やとひ下女入湯後本鄕追分宿へ櫛道具とりに參度よし申ニ付八時過ゟ遣ス序ニ本鄕萬やにて白梅茶かひとらしむ薄暮歸宅〇お百今日は少々快方之おさき腫物水うみ出少々いたミ退ゟへとも右かくらち明不申よし今日淸右衞門申之

一今日いろ〳〵多用にて著述休筆夜に入美少年錄三輯四の巻の末わつかに半丁稿之今夕四時過就寐

一夕七時前丁子や平兵衞ゟ使を以俠客傳口繪又持參右筆工の內悞●寫有之旨過刻淸右衞門を以丁子やに申遣しゟ故則使またせ置右悞●寫五ケ〔處〕寫直し又使にわたし遣ス是ゟ直に板木師伊八方へ持參のよし依之伊八方へ口狀申付遣ス

〇二日乙卯今曉ヨリ小雨天明テ雨止五半時頃ヨリ又小雨或はふり或止四時ゟ大雨終日無間斷夕方風夜ニ入小雨ニ成曉方風止丑中刻頃地震

一晝前大鄕金藏ゟ使札西行歌誤寫よめかねゟもの一首の解並ニ蝶の和名かはひらことといふ出處並ニ解被問之返答件之注文しるしつけ遣之

一晝後宗伯飯田町淸右衛門方へ罷越二月分藥うり溜勘定いたし中やへ紙代拂遣し且おさき腰上の腫物三稜針を以膿血を取療治いたし打藥遣之夜ニ入五時歸宅鳥目三〆貳百文淸右衛門方へあつけおきㇳよし告之雨天にて持參難義の故ㇾろうそく百文分かひとり代錢おさきへ渡ㇳよしㇾ

一美少年錄三輯四の卷廿五丁めの終迄本文稿之十二丁めゟつけかな過半稿之

一薄暮中川金兵衛俠客傳三の卷さし畫の三書入出來同ふくろとひらわく筆工出來持參明日當番出かけ丁子やに可致持參よし申し歸去

一太郞今日結痂終りㇾ十五ヶ日滿尾ㇾ追々かせに赴く氣力平生のとしお百少々つゝ快方ニはㇳへともいまた平臥○予今夕四時過就寐

○三日丙辰小雨折々止風アリ五時過ヨリ雨本降八時頃ゟ晴

一朝飯後ゟ宗伯松前兩やしきへ當日祝義として罷出八時前歸宅淺草中反畝出水往來の難義のよし土足にて歸來ル

一晝飯祝義赤豆飯一汁三菜如例家內一統祝之

一夕七時前淸右衛門爲當日祝義來ルかねて申付ㇳニ付宗伯同道にて十軒店へお次ひな買に罷越暮六時前歸宅八寸こん地內裡ひな一對かひ取來ル卽刻飾之淸右衛門ニ夜食たへさせ暮六半時頃歸

去つるや拂請取書丁子や同斷申付ゆ墨筆等かひ取持參金貳分の內貳朱返ル別帳ニ記之

一美少年錄三輯四の卷廿五丁の終迄不殘つけかな共稿了四時就寐

○四日丁巳晴風アリ無程風止春暖美日

一四時過淸右衛門來ル申付ゆ通り今日太郎さゝ湯いたしゆニ付疱瘡棚撤之白山權現守札並ニ幣其外供物一式たる磨を淺草山谷白山神主方迄持參爲納畢白米一袋鳥目百銅外ニ奉納織代銀壹匁年々借用の小石等も進納之畢て淸右衛門晝九半時頃歸來ル則晝飯給させ畢て歸去小兒共兩人疱瘡の式祭畢ル

一宗伯昨日雨中遠方步行ニ付足痛且夕方ゟ腹痛水瀉夜三度厠にかよふ流飲の腐水ニよりて水瀉かくのごとし○お百とかく氣分不引立平臥是病老歟藥功速ならす食餌はさのミ平生ニ替る事なし○此節上野山櫻ひとへさかりのよし之

一美少年錄三輯四の卷さしゑの貳三右二丁稿之夜ニ入茶餘客話三冊め披閱今夕四時過就枕

○五日戊午薄曇晝前ヨリ薄晴夕方又曇

一畫工北溪來ル手みやけ持參予對面美少年錄三輯口繪の內一丁出來持參あつかりおく殘り一丁は明後出來のよし申之同書四の卷さし畫稿貳丁わたし遣ス

一晝後清右衛門來ル今日町々へ御救米元飯田町へ渡り候ニ付うら店のもの召連罷出請取せ只今歸路のよしおさき服薬宗伯に乞受歸去此節米高直にて一統難義のよし達　御聞もミくら御救江戸中うら店ものへ男は白米五升三升六十已上の男十五才以下の男も三升三才迄の小兒は除之家主も月に金壹兩位の給金のものは書上候様被申渡候よし之元飯〔田〕町うら店かまと數三百五十餘軒白米四斗俵にして百俵餘わたし候よし之

一晝後中川金兵衛俠客傳ふくろとひら稿過日とり落し候ニ付持參差出罷歸去

一土岐村元立内來義ル年始之としま〔としたま〕はな紙並ニお次へ交肴一折並南鐐一片被贈之今夕は此方へ止宿之

一宗伯今日も腹痛水瀉終日平臥お百は少々つゝ順快之

一美少年錄三輯五の卷の口二丁稿之今夕四時過就寐

〇六日己未（今曉ヨリ）風雨（折々雨止）五半時ゟ雨止テ不晴（四時頃ゟ）大風雨（無間斷）八時頃初雷（數聲）其後雨止（風猶）夜ニ入晴（風猶）

一今朝四時前土岐村元秋來ル太郎お次疱瘡のよし昨日及聞候よしにて來ルもはや兩人とも肥立候ニ付雜談後歸去同人内義は今夕も此方へ止宿之

一晝後鶴や喜右衛門使札小兒共順痘のよし及聞右祝義としてさより七尾被贈之返翰遣ス此序ニ先日以淸右衞門とりよせ𛁈田舍源氏二へんめ二通り有之四編不來此旨申遣ス

一美少年錄四輯五之卷の口二丁半稿之今夕四時過就寐

一宗伯水瀉腹痛今日は少々快方松前役所ゟ使札來ル殿樣御出立八日は御延引來ル十三日に相成𛁈趣のしらせ之宗伯うけふミ認め遣之〇お百不快少々つゝ順快

〇七日庚申晴風晝後ヨリ曇且風止

一舊婢むら親次郎八來ル當春疱瘡流行ニ付小兒安否伺度よしむら申ニ付罷越𛁈よし之刻午蒡一盆持參此方小兒兩人共順痘既肥立𛁈趣おミち申聞早々歸去

一晝後久右衞門來ル花色ちゝふ壹反先月申付𛁈ニ付持參則おミちに請取せおく代金壹分壹朱序にて宜キよし申ニ付今日は不遣𛁈飯田町へ立寄𛁈ニ付おさき藥乞くれ𛁈樣淸右衞門申𛁈よし申𛁈ニ付宗伯調劑遣𛁈歸路も又淸右衞門方へ立寄𛁈間淸右衞門方へ傳言申付過日つるやゟ取よせ𛁈田舍源氏二へんめ二通參り四編め不參𛁈間油町幸便にとりかへ𛁈樣申遣𛁈右二へんめ一本今日久右衞門ニ賴ミ淸右衞門方へ遣之

一土岐村內義比丘尼早飯後貨財さいそくに立出夕方又歸り來り今夕も止宿之

一美少年錄五の卷の內二丁半稿之今夕四時過就寐宗伯不快今日は過半順快

一今夕庚申祭之處家內とり紛れ失念明朝予心つくといへとも時過候ニ付此次のまつりニ備物等例ゟ早々可申旨申付おく

○八日辛酉曇雨暮六時頃ヨリ雨終夜大雨無間斷

一晝後清右衛門來ル申付候合卷田舍源氏二編めつるやにて四編めと取替持參且二月中八百長上家ちん持參兩樣とも請取之天滿やに罷越候よしにて早々歸去

一同刻宗伯飯田町清右衛門宅おさき腫物候診且小松やにて二さとう二斤中やて半紙するか半切等買取之夕方歸宅

一丁子や平兵衛來ル美少年錄三輯口繪殘り北溪方ゟわつかに半丁出來のよしにて持參明日尚又人遣し候處北溪へさいそくの手書認くれ候樣申ニ付則催促狀染筆遣之此餘用談畢て歸去但し小兒疱瘡無恙肥立候見舞として上品つほ入金米糖被贈之

一中川金兵衛俠客傳五之卷十七丁め迄筆工出來持參あとは明後日出來のよし之予對面丁子や用向後示談右寫本うけ取おく

一美少年錄三輯五の卷本文十二丁半迄四丁半稿之今夕四時過就枕土岐村老尼今日も止宿之

○九日壬戌昨夜ヨリ雨晝ヨリ雨止晝後〻〻。半晴
一俠客傳五の卷十七丁め寫本晝前校合之了
一暮六時頃大工寅吉來ル三河丁邊賣土藏有之よし申之しかれ共さのみ望にも無之ニ付不及相談雜
談數刻歸去○土岐村老尼今日も止宿之
一宗伯今日奇應丸能書摺之夕方ゟ下痢又及數度
一美少年錄三輯四卷め十五丁迄今日分貳丁半稿今夕四時過就枕
○十日癸亥曇ゟ晝前晴日暮テ又曇
一今朝金川（中川）金兵衛俠客傳五之卷十八丁めゟ末迄筆工出來後刻當番歸路又可參よしにてさし
置歸去其後校訂了
一夕方中川金兵衛又來ル俠客傳五ノ卷校合直し並ニ美少年錄三輯ロ繪惣もくろくかき入稿本差添
遣之
一夕七時半過清右衛門來ル明十一日小兒疱瘡さゝゆ祝義配りものいたし候ニ付中村や赤飯申付候
樣示談則書付もたせ遣スもち米一斗壹升赤小豆三升むし明朝五半時迄ニ差越候樣申付之右要談
畢て歸去

一土岐村老尼今朝歸去去ル五日ゟ逗留六ヶ日之尙又土屋七三郎殿おくへ罷越逗留のよし之

一日雇太兵衛に明日配りもの使かねを以申付おく

一俠客傳五之卷校合二度改めヶ處とりしらへ等にて夕七時頃ゟ美少年錄三輯五之卷の內貳丁稿

今夕四時過就寐

○十一日甲子薄曇四時頃ヨリ晴美日

一太郎並ニお次疱瘡酒湯祝義としてむし物申付五半時頃飯田町中村やゟ剛飯二をけ持參日雇太兵衛を以油丁小傳馬町邊並ニ小石川白山邊二軒昌平內飯田町かうし町十三丁め麻布六本木等處々壹重つゝ遣之巨細は別帳ニ記之地主杉浦氏へ下女かねを以遣之諸神並ニ家廟に最初ニ供之家內一統祝畢太兵衛くれ六時過歸來日ようちん五百文遣之淸右衛門方へ曇さし市五郎宿所書付遣之土岐村元立は家內他行中ニ付隣家用人要藏方へ賴ミ差置候よし之小石川馬場根岸□三郎殿龍八郎と改名守札返上並ニ謝禮として赤飯遣之○瀧見覺重昨十日うつの宮ゟ歸府のよし之

一晝後いせや八右衛門來ル花色ちゝふ絹よろしき品出來のよしにて持參先日のと取かへ今日のをとめ度先日の一反は返し代金壹分貳朱之今日わたし遣ス先月中お秋へかし候八犬傳七編二帙返ル尙又美少年錄初編石魂錄三編〆四帙かし遣ス

一今日中川金兵衞俠客傳五の卷書そん直し出來卽刻改右寫本並ニ繪つき六丁ともわたし遣ス直に丁子やへ持參のよし之

一畫後關〔忠〕藏家內ゟ使札實々記合本二冊返ル右謝禮としてさより五ツ被贈之返書遣ス

一畫前大鄕金藏ゟ同人子息久米藏ヲ以來書並ニ角田川せんへい一折越前雲丹被贈之過日下問二ケ條卽答の謝禮之予對面早々歸去

一宗伯とかく腹痛下利全く留飮のわざなるべし留飮療治いたし飮もの減しゝ樣示しおく

一美少年錄三輯五の卷の內廿一丁め迄今夕分三丁半稿之四時就枕

○十二日乙丑曇終日不晴

一今日中川金兵衞泊番歸路來る十一日丁子やゟ差越ゝあとにて美少年錄殘り口繪半丁持參見せる稿本へ賛歌かき入右寫本共同人へわたし是にて口畫揃ひゝ間早々かき入致ゝ樣申談スおみちとり次之承知のよしにて歸去

一畫前宗伯松前上屋敷へ罷出明朝御出立明六時のよし九時過歸宅

一疊さし市五郞來る今朝淸右衞門右同人宅へ催促に罷越ゝよし外仕事仕廻ゝ間罷越ゝ趣申之明日ゟ參ゝ樣申付遣ス但市五郞手みやけ持參之

一晝後淸右衛門來ル疊さし市五郎來候旨申聞おくもらひ候よしにて大森梅ひしほ持參お百へ遣し候樣申付此方ゟも到來の越前雲丹遣之尙又關忠藏家內へかし候合卷書付わたし遣し近日持參致候樣申付おくお百（おさき？）面部頭上へふき出物いたし候よし宗伯藥調劑遣之用向畢て歸去

一八時過日宗伯小石川傳通院寺內澤藏主稻荷へ參詣子供兩人疱瘡願賽そは五ツはつほ十二銅獻備夫ゟ深光寺へ墓參いたし夕七時過歸宅

一晝後余月代いたし八半時頃ゟ日本橋通壹丁め疊表問や近江やへ罷越極上品島表廿枚松本上へり廿疊分かひ取代金わたし夕七時歸宅

一日くれ方近江やゟ小もの兩人右疊表持參おみち改請取おく

一明朝宗伯友（供）人足太兵衛へ申付おく

一今日多用ニ付美少年錄三輯の內わつかに壹丁稿之今夕四時就枕

一下そうち伊右衛門隣家百姓平五郎と申者已來代りに罷出候よし伊右衛門平五郎同道にて屆來る

一昨十一日夕大工寅吉來ル三河町邊賣土藏有之よし申トいへ共望無之ニ付斷遣スこれは九日夜之事之既ニ前ニ記し重出之　（校者曰ク此一項抹消シアリ）

○十三日丙寅今曉六時前ヨリ雨終日無間斷夜中同斷

一今曉正六時前ヨリ宗伯出宅千住宿本陣へ罷越供人足太兵衞召連志摩守御出立見送りの爲ゝ右畢て上やしき下やしきへ祝義ニ罷出八時過歸宅歸路下やしきへ罷出上屋敷は略ゆよしゝ依之家内明七時ゟ起出支度いたしゆ内雨ふり出しゆニ付宗伯雨具にて罷出ル雨終日無間斷

一夕方橋本喜八郎殿ゟ使札先月中被賴ゆ井戸方位考謝禮として桐の箱入煎茶一式ちやわんほいろ茶並ニくわしくわん盆等入のもの被贈之夕方ニ付返事是ゟと申遣し請取おく

一美少年錄三輯五之卷廿六丁め末迄本文稿之今日の分三丁半ゝ但書おろしのミ

一今日雨天ニ付疊さし市五郎不來今夕五時過就枕今曉一同はやく起出ゆ故ゝ

○十四日丁卯雨天明ヨリ雨止テ不晴猶雨氣アリ朝五時過ゟ雨昨日のとし終日無間斷夜五時過ゟ雨止

一今朝四時頃疊さし市五郎來ル則中の客之間ゟ取かゝらしむ今日四疊出來夕方雨いよ〳〵つよくふりゆニ付早仕舞七半時前歸去

一晝後淸右衞門方ゟ宗伯へ使札おさき藥謝義として大平目壹つ到來宗伯返翰遣ス

一夕七時頃渥見覺重來ルお百病氣見廻ゝ手みやけ持參夕飯ふるまひ七半時過歸去

一宗伯ゟ申付橋本殿ゟ昨日の返翰並ニ箱入□合卷上本二帙上團扇二本昨日之答禮として進之使かねゝ昨日の返事に付さし置歸來ル夕七時過之事ゝ

一美少年錄三輯五の卷十一丁めとつけかな稿之今夕四時過就枕但宗伯母を慰ト爲俠客傳稿本壹之
卷讀之四時前よミ終ル

○十五日戊辰曇晝後ヨリ半晴

一疊さし市五郎來ル客の間殘り壹疊書齋六疊の內四疊刺之いつれも七分へり之夕七半時歸去

一晝後淸右衞門爲當日祝義として來ル過日申付ト古合卷三つ並ニ京橋小林氏ゟ到來のよしにて白
餅壹重持參雜談歸去中村やの拂之事可談處予取紛失念

一宗伯外邪並ニ足痛等にて昨今半起半臥爲體之過日雨中千住へ罷越ト故之

一晝前中川金兵衞美少年錄三輯口繪かき入惣もくろく筆工出來持參さし置歸去依之右寫本校訂悞●
寫此方にて補ひ取しらへおく

一今夕巳まち並天王祭宗伯獻供等如例但宗伯不快ニ付不及長拜

一俠客傳三輯五の卷つけかな共二丁め迄今日之分十一丁餘稿之四時過就寐

○十六日己巳曇晝之內一兩度小雨忽止

一疊さし市五郎來ル書齋殘り二疊次の三疊納戸の內壹疊刺之書齋已上は並へり之薄暮歸去傘一本
かし遣ス外ニ手間の內金一朱かし遣ス糸かひトよし之

一芝泉市小もの吉五郎傘かりニ來ルかし遣ス夕方又來り右傘返ス王子ヘ罷越候處雨ふらさる故歸路ニかへせし之

一晝後御家人板木師吉十郎來ル今日丁子やヘ板下取に罷越候處美少年錄口繪書入此方ニ出來いたし有之候はゝわたしくれ候樣申候ニ付罷越候趣申之予對面則口繪序目五丁わたし遣ス雜談後歸去

一宗伯不快之上例之癇症差發り終日平臥之依之書齋本箱並次之間たんす等おミちに手傳せ予みないたし納いたし元のとく片付畢

一美少年錄三輯五之卷廿七丁並ニ板元名つほ共ニ今日不殘稿了今夕四時就枕

〇十七日庚午曇風今朝天明小雨忽止終日不晴寒冷

一晝前河合孫太郎來ル崇正通書三四合本十四之卷貳冊寫し出來持參ニ付料貳朱ト百五十文遣之尙又八ノ上下二冊料紙差添遣之且舊冬勇七郎へかし候骨董集四冊被返之尙又所望ニ付東遊記西遊記十冊かし遣ス

一晝後淸右衞門來ル爲お百病氣見舞いんけん煮豆一曲物持參且一昨日番丁邊家中の女房來り白須甲斐守殿公用人妻余に對面之事を被賴候よし及長談候へ共斷候趣告之且又中村や剛飯代之事

小松やにて金米糖之事等談之歸路本郷元飯町（元町）川越や源藏方へ立寄下女奉公人之事さいそくいたしゆ様申付遣ス右用談畢て歸去

一山口や藤兵衛來ル予對面みやけ持參殺生石四編稿本さいそくゝ雜談畢て歸去

一今朝疊さし市五郎來ル納戸かえ疊とも五疊半ほそへりゝ刺之夕方歸去

一宗伯今日は快方お百とかく同斷にて平臥

一美少年錄五之卷さし畫三丁稿之今夕四時就寐

〇十八日辛未薄曇冷終日不晴

一今日お次誕辰祝之赤小豆飯一汁二菜家内一統祝之畢疊さし市五郎にもふるまひ畢先月廿二日太郎誕辰祝義は疱瘡中にて延引ゝ

一疊さし市五郎今日中之間壹疊半表かへいたし夫ゟ書齋納戸並ニ客之間壹疊半上しき出來暮六時前歸去辰巳三疊の表不殘とり替ゆニ付不足貳疊明朝ゆしま丸一にてかひ取持參いたしゆ様申付代金貳朱もたせ遣ス又へり紙代四十八文かし遣ス

一お次風邪太郎も今日ゟ風邪にて熱氣有之但當分の輕症ゝ

一美少年錄三輯外題の畫六本替へ共稿之外題わくもやう同様畫七時頃ニ畫キをはり夫ゟ茶談客話

一二冊抄錄今夕四時過就寐

○十九日壬申晴冷晝ヨリ薄曇

一晝前淸右衞門來ル過日申付ゟ廣東人參小松やゟ見せゟ三種受取持參此內二匁五分のもの壹兩め

とめ置外々かへし遣ス且おさき又脊へ少々腫物出來甚心障りのよし申ニ付今日宗伯見廻樣子見

くれゟ樣申之右用談畢て歸去

一辰巳三疊たゝみ表かへニ付今朝本箱類不殘取出し夕方予又不殘とり納め畢宗伯他行ニ付おミち

手傳之

一疊さし市五郞今日不殘さしをはる但ほそへり十九疊半並へり四疊半うすへり十二枚半之右さし

手間〆三拾匁壹分の內前かし差引夕方金子わたし遣ス但し過日かし遣しゟ傘返ル右手間ちん勘

定等は別帳ニ記之

一晝飯後ゟ宗伯長者町病家へ見廻ゟ夫ゟ渥見覺重方へ立寄且飯田町淸右衞門方へ罷越おさき腫物

樣子見ゟ上手當等示談七半時過歸宅但しおさき腫物は故腫物のかぶれにゟよし申之

一薄暮お久和悌吉を携來ルお百病氣廻之五時前歸去

一予茶話(餘)客話三冊め披見二冊め迄抄錄之今夕四時就寐

○廿日癸酉薄曇九半時頃ヨリ雨夕方小雨風ゟ夜中風烈深夜雨止不晴
一太郎風邪之面部浮腫蝦蟇瘟の輕症歟然共今日は氣分快然之
一今日來客使札なし草堂閑暇茶餘客話三冊め抄錄四冊め過半披閲今夕四時就寐
○廿一日甲戌曇風烈北晝後ヨリ半晴
一晝前淸右衛門來ルさせる所要なしおさき腫物藥宗伯遣之雜談後歸去
一今朝四時頃丁子や平兵衛ゟ使ヲ以美少年錄三輯四の卷さし畫の內壹丁出來見せらる右使を以筆工金兵衛方へ遣スこの幸便にまかせ丁子やへ美少年錄三輯五之卷稿本並に同卷さし畫稿三丁畫外題稿等ロ狀書差添右使にわたし遣す
一晝後田口久吾來ルお百病氣見舞之同人妻いね風濕舊病さし登りひさロはれいたミ當月十六日ゟ床に候よし今朝淸右衛門噂にて聞之依て久吾に樣子尋候處昨今膿水出いたミ少し減し候よし右いね來月は臨月ニ付產の手當等示談畢て歸去○今日淸右衛門へ申付近所奉公人ロ入方へ尙又下女奉公人之事申付おかしむ
一暮時三宅內渡邊登入來則秉燭對面雜談數刻五時前歸去但正月中同人妹不幸ニ付年始禮延引今日とし玉持參去秋中同人ゟ借用の四庫全書一帙今夕同人へ返之畢

一宗伯留飲今日もとかくさし込有之半起半臥之お百不快今以同樣かはる事なし太郎並ニお次風邪は追〻順快之

一茶餘客話十二卷め迄今夕卒業抄錄共八九十に及ふ今夕抄錄畢四時就寐

○廿二日乙亥曇九半時頃ヨリ小雨或ハ降或ハ止夕方ゟ大雨終夜無間斷

一晝時淸右衞門來小鮎一折カス四十持參且中村や赤飯代請取賣上書付持參則金壹分ト貳百七拾文わたし遣ス雜談畢て歸去

○お百爲保養飯田町宅へ可申越哉之旨申之來ル廿五日成正樣御逮夜獻供等畢て罷越可然旨申聞おく今日此旨淸右衞門へも及示談

一水滸傳二の卷六十二丁之內以原本四十丁餘校訂點裁今夕四時就寐

一晝後丁子や平兵衞ゟ使ヲ以美少年錄三輯五の卷稿本〻指越之請取おく

○廿三日丙子雨昨夕ヨリ無間斷夕方ヨリ小雨夜四時前ヨリ雨止其後折〻きり雨歟

一今日來客使札等なし連日雨天によつて之

一水滸後傳貳の卷校訂畢爾後引つゝき三の卷訂シ第九回十六丁め迄校之今夜四時就寐

○廿四日丁丑朝五時前迄霧雨其後雨止テ不晴夕七半時後ヨリ夜中小雨

一中川金兵衞美少年錄三輯四の卷筆工十四丁め迄出來持參差置歸去其後校訂悞字並ニ再考之文字等此方にて直しおく

一水滸後傳三卷め十一回中四十許丁迄以原本校訂夜ニ入月代いたし四時過就寐

一今日も來客使札等なし連日雨天草堂閑寂然共小兒とも徒然ニ付家內並ニ予もこれか爲に平日ゟ多用之お百病氣同樣の內少々順快

○廿五日戊寅早朝迄霧雨五時過ゟ雨止テ猶曇晝之間欲晴して不晴

一今日淸右衞門來ルおさき肩下之腫物はれいたミつよく候間昨日駕にて三田不動婆之方へ同道いたし加持受候へとも早速しるしも無之ニ付宗伯罷越樣子見候て療治いたしもらひ度旨申宗伯承知ニ付早々歸去

一予今朝杉浦淸太郎たのミのたんさく六枚染筆畢當正月下旬たのまれ候ものゝ

一四時頃ゟ宗伯出宅先杉浦淸太郎方江罷越同人歸府並ニ先月中小兒疱瘡之節音物の謝禮等申述右たんさく六枚淸太郎弟へわたし夫ゟ飯田町淸右衞門方へ罷越おさき腫物三稜針を以膿血をとり藥遣し夫ゟ久吾方へ罷越同人妻風濕病臥見廻申入賴ニ付樣子見候て夫ゟ深光寺江墓參住持ニ對面姑く雜談歸路金介町にて蒼龍丸六包餘かひ取夕七時過歸宅

一今夕成正様祥月忌辰逮夜ニ付如例晝後ゟ御畫像奉掛之神酒備餠等供之尙又料供茶飯荷蕘汁猪口香の物考妣御位牌供之お百並ニおさきも不快にて不來尤無人にておミち一人にてかねを相手にいたし夕七時頃出來右殘杉浦氏並ニめてたや養母方へおくり膳遣之

一晝九時過お久和祖太郎悌吉同道にて來ル夕飯たべさせ暮六半時頃歸宅

一右七時前お秀來ル七時頃淸右衛門來ル右兩人えも同斷夕飯たへさせおさき方へは淸右衛門ニもたせ遣す茶飯平猪口等之お秀淸右衛門七半時過歸去

一金魚傳下編五ゟ八迄稿本四冊今日お久和にかし遣ス

一予晝前ゟ水滸後傳四の卷十五回め校訂前半分は去年校訂いたし置候間此度は十五回ゟ校訂四時過就寐

〇廿六日己卯薄曇終日同斷

一今日中川金兵衛美少年錄三輯の內殘り筆工十五丁ゟ廿五丁終迄出來持參尙又夕方可參よし申取次おミちへわたし歸去

一昨日夜申付置候駕の者兩人五半時頃來ル時刻はやく候へ共支度いたしお百と太郎合駕にて予は步行深光寺へ參詣予は今春はしめての物詣ニ付先神田明神へ參詣夫ゟ寺へ參候歸路お百は太郎

同道にて傳通院寺內澤藏主稻荷へ疱瘡願賽として參詣せしめ余は□□坂茶店にて休息尙又歸路太郎望ニ付お百同道にて神田明神へ參詣四半時頃一同歸宅

一晝前予出直し太郎同道にて妻戀稻荷へ參詣當春予は參詣はしめて之晝時歸宅

一八半時頃淸右衞門爲昨日之謝禮來ルおさき腫物今日膿血多おし出し疼痛やわらき氣分も宜候よしニ小松やゟ白黑砂糖注文申付かよひ帳もたせ遣ス

一晝後ゟ美少年錄三輯十五丁ゟ末迄校訂兩度よみかへし一ゟ十四丁迄も尙又再校いたし再校の處は此方にて書直し十五丁ゟ末は書損しるしつけおく終日之薄暮金兵衞來ル右寫本並ニ五の卷稿本料紙差添遣之なほしの分明日見せ候樣及示談早々歸去

一やとひ下女かね給金殘り金貳朱今夕わたし遣ス明晝時迄にて定め通りニ付下宿いたし度よし申之代り奉公人今におきつけず候間今少し勤候樣申聞候へ共不決着いつれ明日下宿は勝手次第と申わたしおく

一今日墓參並ニ校合等にて水滸後傳校訂は休筆今夕四時就寢

○廿七日庚辰天明ヨリ風雨但し雨は多くふらず今朝六半時過地震小之五半時頃ゟ小雨晝時より大雨終日夕方雨止

一晝後中川金兵衞昨日の美少年錄三輯四の卷板下惧寫直し出來持參一覽之上わたし遣ス廿五丁の
內繪つき四丁は此方へ殘し置今日金兵衞右寫本を丁子やに持參のよし之
一夕七時頃雨止ゆニ付やとひ下女かね宿へ參度よし申ニ付傘かし遣ス夜ニ入六半時宿之繼父同道
にて又來ル極通りニ付永のいとま申請度よし申ニ付則引わたし遣ス但し過刻の傘持參返却かね
くし道具わたし遣す外ニ所持のものなし
一水滸後傳四の卷末迄校訂同五の卷十五丁め迄校訂今夕四時就寐
○廿八日辛巳曇風止無程晝後兩度はら／＼雨無程止
一今朝關忠藏來ル舊冬以來病中見舞謝禮之予對面過日同人孫女賴之合卷三部かし遣ス借書帳に記
之雜談數刻歸去宗伯は不及對面佛書まき物一ッあつかりおく
一同刻河合孫太郞來ル崇正通書八ノ上下寫し出來持參並ニ過日貸進之東西遊記十冊被返之右筆料
金貳朱ト十四文遣之且五六合本其十一冊共に貳冊うつしニ遣ス料紙無之ゆ間うすみの二帖代貳
百文渡之飯田町越後やすゝ平にてかひ取ゆ樣及示談尙又今日烹雜記二冊實々記合本貳冊かし遣
ス兩樣とも別帳に記之
一崇正通書寫し出來分少々校訂其後水滸後傳五之卷五十八丁め末迄校訂今夕四時就寐○今日淸右

衛門不來〇太郎むしけ快方蒼龍丸功あり

一晝後久右衛門來ル竹のこ三本持參明日晴天ニ候はゝお祐參候つもりのよし右みやけこゝろ之所望ニ付木地ろ重箱一重かし遣ス

〇廿九日壬午曇終日不晴

一晝時清右衛門來ル昨日晝後ゟ客來有之酒出しひま入候間不參候よし之雜談後歸去

一今日清右衛門歸路本郷元町奉公人口入川越やに下女奉公人尚又さいそくいたし候様申付遣ス

一晝後ゟ宗伯を飯田町舊宅に遣し藥うり溜勘定いたし候様申付候ニ付太郎同道宗伯は薄暮太郎は止宿いたし度よしにて不歸候間無是非のこし置候よし申之當月ほうさら後ゟ表に出す候へとも一人外へ止宿ははしめてニ付祖母心配四時頃迄待候へとも不歸間就枕畢

一宗伯歸宅後風邪のよしニて平臥當分の輕症之

一予水滸後傳六の巻五十八丁朝ゟ今夕四時迄に校訂畢て就枕

一隱元豆たねあさかほたね今日晝後少々蒔之

〆

〇四月朔癸未薄曇夕七時頃ゟ小雨夜中止

一晝後おゆう來ルおますお鐵携之手みやけ持參年始之今夕母女共止宿



（三）稿本「照子池浮名寫繪」前編一卷の本文首端

一九半時頃淸右衞門太郞同道ニて來ル太郞昨夜おとなしく致止宿候よし晝時頃ゟ急に歸り度よし申ニ付同道いたし候趣申之淸右衞門是ゟ下町へ罷越候よしニ付丁子や平兵衞へ口狀申付並ニとしまやみりん酒注文其外の事共申付遣ス

一夕七時頃丁子や平兵衞來ル予對面美少年錄三輯潤筆金三兩持參請取之並ニ同書四の巻さしゑ寫本一丁出來のよしにて見せらる小忠二面體わかく候て不宜候間直させ候樣示談北溪へ口狀書さし添かへし遣ス且八犬傳八輯之畿平林庄五郞に人を以かけ合相濟丁子や一人にてほり立度候間來春うり出しニ相成樣被賴候いつれ七月頃ならてはとりかゝりかたきよし申聞おく右種々要談畢て歸去俠客傳かけ看板美少年錄看板之事も被賴候

一四月分小遣不足手當金二分夕方宗伯へわたしおく宗伯例のごとく病ひよはく候間終日平臥自療煎藥用之

一水滸後傳七の巻廿七囘め迄校訂今夕四時過就寐

○二日甲申薄曇晝前日出て半晴忽曇　晴曇不定折々小雨忽止

一晝後お祐並お升お鐵歸去饗應代として金壹朱遣之飯田町淸右衞門方へ立寄候よしにて其後久右衞門來ル昨日かし遣候重箱返却おミち請取昨日之あゆかこ返之小雨ふり出候間傘持參候樣申聞

おく尙又淸右衞門方へ罷越候よしにて早々歸去

一其後淸右衞門來ル昨日金魚傳之事つるやへ申談し候處取込中にて不覺候へとも先日請取候事も可有之よし申候よしにて一部差越候間持參のよしにて右本到來則請取おく歸路本鄕奉公人口入へ下女之事さいそくいたし候樣申付遣ス是日お久和へおゆう參候趣通達いたし候よしニ候へ共不來出かたき故なるへし淸右衞門雜談數刻歸去

一宗伯風邪にて今日も平臥予水滸後傳七の卷校訂畢八の卷廿一二丁め迄校訂今夕四時就寐

○三日乙酉薄曇晝前ヨリ晴夕方又薄曇

一晝前大鄕金藏來ル今年初面會雜談歸去頼朝伏木かくれに鳩の出所穿鑿たのまる近日考置可申旨及約束

一晝飯後おさき來ル腫物追々順快ニ付かねて申談候通りお百保養の爲可罷越哉ニ付迎ニ參候由にて手みやけ三種持參然處此節無人にて太郎徒然ニ可有之候間下女おきつけ候上可參旨お百並ニ宗伯申ニ付今日は不及其義おさき夕飯後薄暮歸去○宗伯風邪少々快方今日も平臥之

一水滸後傳八の卷校訂畢九の卷十一丁め迄校訂今夕四時就寐

○四日丙戌曇五半時頃雨忽止四時過ゟ雨終日無間斷夜中猶雨無間斷

一過日清右衛門ニ申付としまやに注文申遣候みりん酒二升かるこ持參代銀わたし遣ス

一四時前關忠藏より越札過日約束の通り今日不斗暇日候間夕七時より出席いたしくれ候様申來る承知之趣返翰遣之

一水滸後傳九の卷半分餘校訂晝後月代いたし夕七時過より關忠藏方へ罷越雨中歩行難義ニは候へともたま〳〵の事故出宅相客は鈴木一郎之今夕九時迄清談饗應あり深夜雨天に付駕にておくらる九時歸宅無程就寢○宗伯風邪今日は少々順快不及平臥○お百は連日持病の頭痛つよく候よしにて半起半臥之○東陽遺墨石摺一枚關氏よりおくらる

○五日丁亥 天明雨止 曇 四時前ヨリ 半晴 晝後又曇 はら〳〵雨忽止

一晝後清右衛門來ル奇應丸無之候間とりニ參候よし申之宗伯包遣し候内清右衛門に申付みさこずし並に龜屋二色かしわもち等かひ取せ昨夕關忠藏より差置候小重之内二重ニ入右小重四ツふろしきとも手書差添關氏へ遣ス過日忠藏より被賴候稿橋杭垣木圖說卷物題字殘稿歷壽の四言考書付右卷物とも忠藏方へ遣之則清右衛門持參差置歸來ル八犬士の畫此節出板に付油丁へ罷越候節つるやにてかひ取候様清右衛門へ申付おく其後清右衛門歸去

一おさき又肩へ少し腫物出來のよしかぶれニ可有之候云々と手當清右衛門へ示談ニ及ふ○宗伯風

邪今に同樣今日おして水天宮ゟ參詣可致哉の旨申といへともさしとめ不及其義

一水滸後傳九の卷殘り校訂畢十の卷十丁め迄校訂今夕四時前就寢

○六日戊子半晴冷四時前ゟ終日晴

一晝後八半時大傳馬町との村店ゟ松坂表主人佐五平の狀並ニ金貳朱ト五十三文差添屆來ル金子は二月中登せ候八犬傳二編代料書狀は其節の返翰之おミち請取書遣之佐五平腕痛とかく不宜よし之代筆にて申來ル二月中申越候本居畫像之事も申來ル異日再答申遣すへし

一水滸後傳十の卷末迄校訂點裁今日卒業壹の卷は舊冬校訂し畢二の卷ゟ十の卷迄三月廿二日ゟ取かゝり此間一日半休筆十三ケ日にて校畢今夕四時就寢

一地主杉浦清太郎地面ニ居付候大松橋本氏ゟもらひ候よしにて今日又かえ西の方へ二三尺引出しふりかえ候とて此方垣際の李大枝右松へ引かけ折とり猶又垣外へ少し出候李枝邪魔ニ成候間切りくれ候樣下女ヲ以申來ルかれ是申爭之もいかゝニ付其かた勝手宜樣伐拂可被申旨及返答依之杉浦にてうへ木や共へ申付東の枝不殘切捨候間李見くるしくなり候へ共近來花も不咲木故不及貪着其儘ニさしおく彼人々のいたし方萬事かくのとし嘆息々々

○七日己丑曇四時前ヨリ雨大降晝前ゟ雨止夕方より又雨終夜無間斷

一晝飯後清右衞門來ル先日申付ゥ新累物語五冊持參並ニ外ゟ到來のよしにて牡丹餠一食籠持參雜談後歸去

一關忠藏ゟ使札一昨日之返翰之前夕やくそくの漂流人口書並ニ其外一件書被惠借之近來奧州の船頭淸吉龜松等十二人內五人病死七人淸國ゟおくり來せし之させる異談なし右幸便ニ同人孫娘やくそくニ付新累物語五冊かし遣ス家內ゟも書札來ル兩樣とも再答書遣之

一ほとゝきす初音今日晝前聞之小滿節前六日之

一水滸後傳の評今日稿を起ス借書のむくひとして殿村佐五平へ可遣爲之わつかに三丁餘創之今夕四時就寐

〇八日庚寅昨夕ヨリ雨無間斷晝前ゟ風雨大嵐雷數聲夜ニ入彌大風北小雨

一晝後再餠こしらへ家廟へ供獻太郎おミち毒斷に付其餘のもの斗賞翫

一八半時頃丁子や平兵衞來ル予對面過日及相談ゥ八犬傳八編潤筆內金拾兩之持參請取畢六七月ゟ取かゝり可申旨萬事かけ合に及ふ扇面染筆の被賴之美少年錄さし畫も直し共ニ二丁出來のよし之要談畢て歸去

一水滸後傳の評終日稿之三四丁出來今夕四時就寐

一今日晝頃ゟ大風雨と成八時前後雷數聲夜ニ入四時前ゟ彌大風小雨ましり曉迄風雨同斷以之外の大あれ之庭の正面唐梅吹倒し南の方へいたくかたふく其外は恙なし

〇九日辛卯天明雨止大風北曇ゟ晝晴猶風夕方風止

一晝後林玄廣來ル時候見舞之お百並ニ宗伯病症を告胗。脉を請雜談數刻歸去

一蹈忠藏家内ゟ使札孫娘おちよ風邪平臥徒然のよしにて八犬傳初へんかりに來ル則かし遣ス

一同刻清右衛門來ル過日申付ル八犬傳にしき繪三枚ツヽ貳通りつるやにてかひ取持參但し代錢は未遣之近所にて少々かひ物いたさせ且雜談數刻歸去

一丁子や平兵衛ゟ使ヲ以過日被賴ル畫扇三本並ニ美少年錄四のさし畫壹丁直し過ル分五の卷こしゑ壹丁ふくろとびら外題畫寫本北溪方ゟ出來分差越しルとひらもやうまちかひふくろの稿本不用ニ成ル分畫キ參ルへともそのまヽ筆工金兵衛方へ右使ヲ以不殘遣之尤四の卷筆工二丁差添ルてさし置歸ル哉其後沙汰なし美少年錄一二すり本校合持參うけ取おく扇三本同斷

一水滸後傳評三丁許稿之今日客來かれ是にて多く不稿之今夕四時就寐

〇十日壬辰晴終日快晴今日めつらしく終日快晴之

一晝前山口や藤兵衛來ル手みやけ持參殺生石後稿さいそく之雜談後歸去

一晝後いせや久右衛門來ル先月中かし遣い美少年録初編石魂録不殘返却請取之且過日たのみいなた豆へちま外に大ふくへたね持參代銭遣し可申處少しの物に付不取之美少年録二編め三宅内渡邊登にかし置い間幸便にうけとり見い様示談登への手書認わたしおく右用談畢て歸去尚又下女奉公人之事たのミおく

一昨日清右衛門持參のなた豆へちまたね少々蒔之宗伯今日庭の小くさ二三坪掃除之

一水滸後傳評五丁餘稿之今夕四時過就寝予少し風邪夕方より寒氣あり今夕宗伯調劑煎藥二貼服用當分の輕症之

○十一日癸巳曇晝前ヨリ晴ヽ時前小地震

一晝時舊婢むら妹同道にて來ル妹癲疽加持受に同朋町桶や金次郎へ參いよし之手みやけ持參兩人に晝飯たへさせ八時頃歸去

一鐵炮洲炭問や松本三郎治手代用聞ニ來ル十六俵替の炭吟味いたし近日差越い様申付遣ス

一お百持病の頭痛つよく且欝症にて晝後より平臥予風邪昨日より順快

一水滸後傳評四丁餘稿之今夕四時就寐

○十二日甲午薄曇四時頃ヨリ雨晝時ヨリ夕方より又雨夜中風雨

一晝後淸右衞門來ル三月分八百長上家ちん持參請取今夕宗伯ニ渡之小松やにて白さとう注文淸右衞門ニ申付通帳もたせ遣スおさき昨日深光寺へ墓詣いたし候よし之

一同刻おひて來ル芝崎氏ゟ罷越候序のよしお百病氣見廻之雜談後早々歸去

一水滸後傳評六丁餘稿之今夕四時就寝

〇十三日乙未 昨夜ヨリ 大風雨 溫暖南 晝前風雨止 晴んとして未晴 晝後折々雨 毎度忽止 夕方至雨止

一關忠藏家內ゟ使札過日かし遣候古合卷三部新累物語被返之謝禮として鷄卵八釗來返書並ニ八犬傳二へん三へん貳部かし遣す

一晝後お成道奉公人口入越後やゟ下女奉公人目見つれ來ル卯廿歲名はもと越谷在出生のよし一ヶ年給金二兩貳分と相定取極畢其後宿書持參神田紺星町代地二丁め平兵衞店德兵衞請人之人主竹二郎宗旨日蓮宗谷中妙法寺のよし之明日晝後請狀ニ可替旨申遣ス

一傳馬町との村店ゟ松坂表佐五平狀届來ル請狀書遣之右はかねて賴置候三才發秘此節同町書肆ゟ差越候代金三兩貳分のよし高直に候へ共かひ入候哉否早々返書傳馬町店迄可差出旨申來ル

一今日おみち太郎お次携新地ゆやゟ入湯ニ罷越ス疱瘡後二月已來の入湯之

一水滸後傳評の內五丁稿之今夕四時前星祭如例四時過就寝

〇十四日丙申晴

一今朝ゟ松坂殿村佐五平への返翰長文並下女もと請狀晝飯後迄ニ書之畢

一清右衞門ニ用事有之處不參ゆニ付八時過ゟ宗伯を飯田町へ遣ス太郎同道然處淸右衞門他出のよしニて薄暮ニ來ル則今般めしかゝえゆ下女もと請狀の爲御成道神田須田町二丁め代地平兵衞店請人德兵衞方へ遣し取替壹兩壹分渡し請人人主印形取ゆて身（？）屆暮六時頃歸來ル歸路傳馬町との村店江先刻認置ゆ書狀持參のつもりにて早々歸去尤晝後もとやとゟ今日請狀いたしくれゆ哉と問ニ來ル後刻可遣旨申遣しゆ處淸右衞門遲參ニ付及薄暮明十五日夕方迄ニ引移ゆ樣申遣しおく

一日くれて太郎出迎の爲おミちお次を携罷出ゆニ付お百も同斷飯田町迄罷越お百は淸右衞門方ニ止宿之おミち太郎をせおひ宗伯お次をせおひ五半時歸宅太郎歸路步行不致ゆニ付宗伯及難義薄暮出かけゆへ共又飯田町迄立もとりゆよし之

一水滸後傳評の內五丁稿之且晝後月代し畢

一いせ山田內宮御師八幡太夫去年類燒ニ付普請の勸化帳御師代使持參勸化之義願ゆニ付右帳面へしるし貳百文遣之今夕四半時頃就寐

○十五日丁酉晴
一晝前宗伯太郎同道にて新地ゟ入湯ニ罷越當年宗伯は初湯予は二度め之太郎は不入ゆ間かゝりゆ斗にて先へつれかへり予又入直ㇲ宗伯ゆあたりの氣味にて晝後ゟ口痛
一晝後宗伯兩やしきへ爲當日祝義罷出右便路ニ任せ關忠藏へ過日惠借之漂流人筆牘數通別紙一袋宗伯ニもたせ返し遣ㇲ忠藏在宿にて對面のよし夕方歸宅
一晝後川村壽庵娘神田明神へ參詣歸路のよしにて隣家小娘同道にて來ル手みやけ持參無人ニ付愛想なく茶くわしのもてなしのミ之休息之上早々歸去
一晝後淸右衛門來ル昨夕遣しゆとの村店狀受取書持參お百持きせるたはこ入めかね等遣之雜談後歸去
一夕方下女もと引移り畢みやけとして上あん餠落雁壹重持參重箱はおくり荷持ゟかへし遣ㇲ○丁子やゟ美少年錄四の卷の貳さし畫出來直ニ金兵衛方へ遣之
一予今日入湯且太郎机邊を不去ゆニ付水滸後傳評才に四丁稿之四時就寢
○十六日戊戌薄曇無程晴
一晝飯後早々太郎同道にて予飯田町淸右衛門方へ罷越當年始之勸盃夕膳等出ツとし玉遣之なは又

世繼稲荷へ參詣田口久吾方へ罷越是又年始之とし玉遣スお茶くわし被出之夕七時過ゟ歸宅清右衛門送り來ル七半前かへり着則清右衛門歸去

一晝飯後右出宅前覺重來ル宗伯應對予は一應の挨拶後出宅

一つるや喜右衛門見せのものゟ口上書さし添神女湯四包代四百文差添乞ニ來ルうり物のよしニ付二わり引ニいたし三百廿文請取四包わたし遣ス

一予他出中家主久右衛門來ル今日店のもの御救米請取ニ□藏へ罷出歸路のよし過日申付候手紙渡邊登方へ持參美少年錄二編め商人畫詞共請取之美少年錄はおゆうへかし候ニ付とめ置商人畫詞文政元年五月十三日相州うら賀へイキリス大ふね着の略記登返翰右一封はおミちへわたし置候よし久右衛門歸路清右衛門方へ罷越予に右之趣申述早々歸去今日於本宅清右衛門覺重はしめて對面のよし之

一宗伯の口痛並に氣分引立不申候ニ付半起半臥今夕三里へ灸治し畢

一予他行中中川金兵衛美少年錄二輯四の卷さし畫二枚かき入筆工はり入持參但しさし畫前後ニ成りはりちかへ持參ニ付翌日予はり入直しおく

一元飯田町中道具や京や三九郎昨十五日死去のよし今日清右衛門告之享年六十七八かとぞいふ

一水滸後傳評の内三丁餘稿之今日他行ニ付多く不稿之今夕四時過就寐

〇十七日己亥薄曇ゟ四時晴

一西村や與八ゟ使を以色紙たんさく數枚染筆乞ニ來ル請取おくこれは翌(昨)十六日の事之

一美少年錄四の卷さしゑ金兵衞はりちかへはり入直しとりちらへおく宗伯少々順快神女湯小包紙
板行摺之

一水滸後傳評の内八丁稿之こゝに至て五十五丁全稿之但書おろしのミにていまた點裁句讀校訂に
：不及

〇十八日庚子曇朝五時ヨリ雨終日同斷夜中猶大雨無間斷

一今日終日雨天ニ付使札來客等なし宗伯不快猶同樣にて平臥

一水滸後傳評自校點裁四十一丁め迄校之今夕四時過就寐

〇十九日辛丑天明雨止不晴曇風晝時ヨリ晴風不止

一中川金兵衞美少年錄四輯筆工半分程出來持參原本差添取次ニわたし歸去

一晝後宗伯飯田町へ罷越お百樣子見ル爲之夕方歸宅

一同刻淸右衞門來ル過日余わすれ去ル手拭持參お百追々順快のよし雜談後歸去

一一昨日麻布土岐村氏ゟ先月十一日他行中ニ遣し置候重箱彌介幸便ニ被返候よし今日不斗宗伯申出知之依之志るしおくへ○土岐村元秋來ル宗伯他行中ニ付早々歸去

一水滸後傳評今夕滿尾點裁等みな悉稿し畢四時過就寐

○廿日壬寅薄晴風晝ゟ薄暮（曇）

一今日上野　御靈屋へ御參詣　御成ニ付火留如例　正御例刻相濟

一畫前丁子や平兵衞來ル予對面俠客傳さし畫一丁□畫一丁英泉いろさし致候を見せらる右板看板稿本美少年錄五の卷寫本校合いたし居候間後刻中川金兵衞可致持參致可旨示談畢て歸去志かれとも金兵衞不來故不及其義

一畫前宗伯水滸後傳評製本いたし一式晝時迄ニ出來晝飯後ゟ駒込堂坂うへ木や治右衞門方へ罷越如例年幟杭立ニ來ル廿六日迄ニ可參旨家内のものへ申示し夕七時過歸宅

一美少年錄三輯五の卷十四丁め迄の寫本再遍校合し畢て悞寫此方にて不殘張直し書入夫ゟ過日丁子や賴畫扇三本賛歌染筆猶又西村與八賴之たんさく色紙共ニ三枚染筆し畢其後水滸後傳評自校少々つゝ再考直しいたし今夕四時就寐

一薄暮覺重來ル先月中同人ニかし候金魚傳下編五卷迄之稿本返ル尙又同書上すり二冊お久和に遣

之○深川箱島藤右衞門此節手透にてこまり候間うつし物御坐候はゝうつし申度よし覺重方へ頼ミ參り候よし覺重申之近日料紙かひ取次第可參旨談しおく覺重六半時過歸去○薫烟墨一挺今年分今日ゟつかひはしむ

○廿一日癸卯曇晝前欲雨として不雨晝後より晴

一神田明神講中太々神樂有之よしニ付晝後おミち太郎お次を携明神へ參詣夕方歸宅人込合候ニ付もとを迎ニ遣し候處不知よしにて歸來ル又おしかへし遣ス其内おミち等歸宅おミちしるへぬし町某女於明神境内遇候よし太郎お次に手遊ひ各一ツ贈之と云

一予今日惡氣有之ニ付晝後迄休息晝後ゟ水滸後傳壹の卷本文點裁之此卷舊冬校訂のミいたし點裁遺り候故之今夕一卷の内八丁ほと遺ル

一水滸後傳評今日宗伯に披閲せしめ悞脱を訂さしむ未果

一今日來客使札等なし草堂閑暇之今夕四時過就寐

○廿二日甲辰薄曇風烈晝前ゟ薄晴溫暖

一昨夜四時頃ゟ丙の方ニあたり失火有之よほと延燒火元いつれニ候哉未詳追て聞正してしるすへし後に聞く此火事深川木場のよし之

一晝飯後下女もと宿へ參り〔たき〕よし申に付早速可歸旨申付遣し候處其後御成道宿ゟ同長家の女を以もと儀氣分あしく難義候よし申ニ付種々教訓仕候ヘ共不聞入候間無據長之暇願候よし申之いつれにも當人罷歸リ其上取替金不殘返納致候樣申付遣ス

一右同刻清右衞門來ル今日下町へ罷越候よしニ付丁子やへ遣し候美少年錄四五貳綴並ニ俠客傳板看板下畫贊扇贊三本右丁子やへ遣し候樣示談且口狀申ふくめ並御成道宿元へ立寄可申付趣示談奉公人口入越後やへは代り下女早々差越候樣可申付旨示談畢て清右衞門早々歸去うすみのゝ事可申付候處取紛れ失念

一無程もと宿ゟ人を以取替金一兩一分返納いたし候間引取一札ニ印形取之當人並ニ所持之品々わたし遣ス右もと小兒きらひニて孫共ニつれなくいたし候へ共一統了簡を以てこゝろよく使ひ候へとも却て當人之方ゟ不足ノ後暇願ニ付とても辛抱出來かね可申者候間則暇遣し畢

一夕方丁子や平兵衞方ゟ手代わかいもの來ル則過日金兵衞持參そのまゝ指置候美少年錄五輯五之卷稿本右之ものニもたせ金兵衞方へ遣ス早々書くれ候樣口狀申付遣ス

一夕方お百歸宅のよし先刻清右衞門申候ニ付夜食後早々宗伯兩度迄昌平先迄迎ニ出候へ共不歸風烈候間延引いたし候事ト推察いたして不待

一予今朝半切紙五十枚接之其後水滸後傳評書入再考分增入終日之夜ニ入水滸後傳一の卷遺り點裁し畢て四時過就寐

○廿三日乙巳薄曇昨日ヨリの風今朝五時過に止四時前ゟ晴

一晝前御成道口入越後や下女奉公人目見つれ來ル三十五歲名はさきと申よし年倍ニは候へ共今年奉公人一向拂底ニ付則召抱候つもり來三月五日年給金貳兩一分ニ相定宿書持參致候樣おミちを以かけ合せ及熟談晝後同人宿書付持參請人は湯島三組町榮介店肴うり長四郎人ぬし請狀禪宗下谷茅町慶安寺旦那のよし

一右ニ付晝後淸右衞門方へ宗伯を遣し今夕請狀ニ參りくれ候樣申遣し淸右衞門他行夕方迄不歸候ニ付おさきへ申付置夕方宗伯歸宅今日小松やにて奇應丸材廣東人參壹兩め越後やにてらすみの金壹朱分かひとらせ兩樣とも持參

一夜ニ入五半時前淸右衞門來ルお百同道にて歸宅右奉公人うけ狀ニ遣し印形取揃家主へ屆ヶ五半時頃歸來ル名前さし合ニ付引移りの上改させ可申候明廿四日夕引移り候樣申付おく淸右衞門明日三田へ罷越候よしニ付神明前岡田やにて茶餘客話返しくれ候樣申付右之書一帖今はんわたしおく淸右衞門四時頃歸去

一予今日水滸後傳評再考其後奉公人請狀一通書之且浦賀や六右衞門話記一綴兎園集十七の卷へ寫
之夜ニ入休息四時過就寐

〇廿四日丙午薄晴

一宗伯昨夕ゟ奇應丸材沈香これをおろす終日之
一暮六時頃下女さき事まき引移り來ル則今夕ゟ勤ム手みやけもちくわし持參
一今日休筆種彥合卷田舍源氏初編二編四册披閱月代等いたし夜ニ入休息
一丁子や平兵衞方ゟ小ものを以大阪書林河内や茂兵衞狀屆來ル當月十一日出六日限延着之河茂事
正月十七日出立にて長崎へ罷越四月一日歸府にて當春の返事延引のよし之當春注文申遣しゝ類
句の事尙又問合ニ來ル追て再答可申遣事
一今朝宗伯ニ申付覺重方へ異本慶長記壹の册料紙うすみの二帖差添遣之深川箱島藤右衞門に寫さ
せゝ故之外にイキリス船の圖是は覺重寫しくれゝ樣たのミ遣ス宗伯覺重にわたし無程歸宅
一田口久吾ゟ宗伯江使札同人妻今廿四日午刻安產男子出生のよししらせ之宗伯製藥中ニ付代筆に
て返翰遣之
一今夕四時過就寐

○廿五日丁未薄曇夕七時頃ヨリ雨雷雨三聲薄暮雨止

一晝後泉市ゟ使札神女湯十つぎ蟲藥十とりニ來ル賣藥勘定内金貳分被差越之且金瓶梅二編稿本催促利久まんぢう惣の月一折被贈之右藥並ニ返翰遣之

一薄暮ちへ木や治左衛門來ル明日可參處無據外さし合候間明後日にいたし候はゝ治左衛門も可參もし明日に候はゝ金治並ニ悴斗可遣よし申之明後日にても宜候間治左衛門も可參旨申付遣ス

一今朝ゟいせ松坂との村佐五平へ遣し候長文書狀書之畢て水滸後傳返却分十冊この外同書國字評一冊八犬傳にしきゑ三枚右一包にいたし外にかし遣し候拍案驚奇一封にいたし右二包ニ荷つくりの内及薄暮京角鹿清藏大坂河内や茂兵衛への返翰も明日一處に島や出し候ニ付可認處夜に入候間明朝へ延し四時前就寢

お百今夕方又飯田町宅江可罷越よし申候處夕方雷雨ニ付是迄明朝へ延し行水つかれニ付暮二時過就寢

○廿六日戊申晴

一晝前ゟお百深光寺へ墓參病後ニ付宗伯附添罷越夫ゟ飯田町宅江罷越お百は廿九日迄止宿之宗伯は夫ゟ常盤橋外長崎や平右衛門方へ罷越奇應丸入用麝香吟味いたし夕七時前歸宅但深光寺和尚

〆過日被申聞候見了院殿以下の戒名書付お百にもたせ遣ス舊菩提處搜索の爲之

一來ル廿九日了海信女三十七回忌ニ付法事清右衛門方にて執行依之今日お百ニもたせ金壹分清右衛門方へ遣之内貳朱龍門寺へ回向料貳朱は逮夜料供入用之

一田口久吾妻安產男子出生ニ付右祝義として今日お百罷越候樣申付年始とし玉並肴代等是又お百にわたし遣ス

一今朝中川金兵衛美少年錄三輯五の卷遣り筆工十三丁出來持參外題其外書可申趣申ニ付外題手本の爲同書初輯壹の卷一冊かし遣ス晝後金兵衛又來ル北溪方〆畫參候ふくろにそらつくしの方下書無之いかゝ可仕哉と申之とひらは龍のもやうに候處右下書かへし不申候ニ付ふくろは後にいたし外題斗書くへし今日丁子やへ罷越候節北溪へさいそくいたさせ下書參候節書候樣及示談依之早々歸去

一右美少年錄三輯五之卷殘り十三丁一へんよミ直悞寫札付おく未及再校之

一今朝〆京角鹿清藏への返翰大坂河内や茂兵衛へ返翰角鹿氏への年玉等二封にいたしこしらへおく○夕七時前清右衛門來ルかねて申付置候通り瀨戸物丁島やへ二包並ニ書狀差出し候樣申付脚ちん並にかよひ帳わたし遣ス是〆歸宅いたし出直し京橋地主へ月並勘定に罷越候出かけ島やへ

立寄りよしにて品々請取早々歸去お百給衣並に煮肴等是又清右衞門ニわたし大巾ふろしき一ツ
かし遣ス

一いせ松坂殿村佐五平へかへしゝ古本水滸後傳十册並に同書國字評此度新著の稿本一册八犬傳人
物の錦畫等右一包いたし惣かけめ六百七拾匁依之外ニ同人へかし遣しゝ柏棠驚奇十卷一帙一封
此惣かけめ百七十四匁有之外ニ長文書狀一通差添並便にて右同人方へ遣ス賃銀此方拂之並に大
坂河內や茂兵衞京角鹿淸藏へ遣しゝ十日限早便狀この分二通右淸右衞門ニもたせ遣し今夕島や
佐右衞門方へ遣し畢

一右用向畢て休息三國志演〔義〕一の卷二の卷半迄披閱今夕は例より はやく五半時頃就寐

〇廿七日己酉薄晴或は薄曇

一今朝四時前うへ木や治右衞門舍弟金次倅鐵某三人來ルまつ如例玄關前へ軸杭立させ畢て垣東さ
かひ損しゝ分つくろひ等の庭仕事終日之

一晝前淸右衞門來ル昨日之島や紙包二書狀一通うけ取帳面持參繪皿五人前致借用度よし申ニ付お
ミちに出させ遣之早々歸去

一美少年錄三輯五の卷遺り校合再校閱見おとし分しるしつけ畫後まきを以筆工金五衞方へ直しに

遣之差置歸去
一晝後長崎や平左衞門手代某昨日宗伯注文いたしゆ麝香持參然ル處手はなしおくへ持參いたしゆ事不相成よし申ニ付宗伯立腹いたし不求して返し遣しゆよし跡にて聞之〇宗伯三日月へ歯のいたみ平愈宿願茄子苗供之花壇へも四五本植之
一渡邊登ゟ使札當春中松前アツケシ一件記錄有之候はゝ借覽いたし度旨申來ル右記錄等は無之勿論さしたる事に無之世上いろ〳〵風聞いたしゆへ共手前には及承ゆ事無之旨返翰ニ申遣ス
一今日うへ木や共參りゆニ付彼是多用三國志演義少許披閱今夕五半時就寐
〇廿八日庚戌晴無程薄曇晝前ヨリ快晴風南但今早朝霧甚厚シ五時過ゟ霽
一今朝うへ木や治右衞門金次兩人來ル治右衞門は東の方並ニ納戸とひ竹うけつゝとり替朝かほつ〔る〕つ壹ツ拵兩所とりつけ尙又東の方草とり除キ金次は庭正面草とり除キ終日ニ夕方歸去
一晝前山口や藤兵衞來ル余對面殺生石五編稿本さいそくニ時候見舞として肴代並干くわし一袋持參雜談後歸去
一晝後にし村や與八來ルかせ久くわし小折壹持參過日潤筆被賴ゆ色紙たんさくわたし遣ス雜談後歸去

一今朝宗伯爲當日祝義松前兩やしきへ罷越九時過歸宅〇今日ゟ太郎幟如例建之
一八半時前ゟおみち太郎お次同道にてまきめしつれ飯田町清右衛門方へ罷越今日了海信女三十七回忌逮夜ニ付清右衛門方にて茶飯いたし長や中ニ遣しㇹ樣かねて及相談ㇹによつてㇸおミち當年はしめて罷越ㇹニ付とし玉三種遣之同刻宗伯も同道宗伯は牛込龍門寺へ墓參候又清右衛門方にて一統茶飯たへまきは夕七半時頃先へ歸宅宗伯おミち太郎お次は暮六時前歸宅清右衛門方ゟ太郎送り人差添來ル先刻まき歸宅之節持參之茶飯重箱其外菜汁等入れㇹ器物右人足にわたしかへし遣ス
一夕七時頃長崎〔や〕半右衛門手代半兵衛麝香見せに二通り持參昨日心得違之義申候旨わびㇹニ付予及かけ合ニ直段吟味之上六十五双替之方六十双　引せかけめ七分五りかひ取代金三兩現金にわたし遣ス家内一統他行中ㇸ〇杉浦引付川越新來ル代金遣之
一今日うへ木や罷越ㇹ上宗伯終日他行ニ付予別して多用夜に付〔入り〕休息五半時就寐
〇廿九日辛亥曇四時過ゟ雨晝前止又晝後ゟ雨終日夜中小雨深夜雨止
一今朝飯田町小松やゟ昨日宗伯申付ㇹ蚊やり木二代以人足差越之請取おく
一奇應丸一劑之内小半劑今朝丸之宗伯並ニ予手傳夕七時丸し畢

一昨日之川越新今日割人やとひわらせ候内雨天ニ成志かれどもわり終ぬ
一今日お百飯田町宅ゟおさき同道にて龍門寺へ墓參雨天ニ付尚又飯田町へ止宿
一短夜ニ付夜分は休息今夕五時過就寝

○五月朔壬子曇入梅晝前ゟ晴晝後雨忽止テ又晴夕方又曇

一今日奇應丸ねり立五匁五分予丸之宗伯丸しかけ候得共南風にて頭痛いたし候よしにて四分一丸し休息予夕七時頃丸し畢ル
一晝時ゟ織出し候處雨ふり出し候ニ付とり入候へ共又晴候志かれとも多用ニ付不出
一日くれ前お百飯田町ゟ清右衛門同道にて歸宅清右衛門過日申付置候黒さとう二斤白砂とう壹斤小松やゟかひ取持參通帳もたせ遣ス雜談後清右衛門歸去
一先月廿七日かねて清右衛門ゟ及聞候白須甲斐守殿家臣某内義今日堀の内妙法寺へ參詣歸路のよしにて清右衛門方へ罷越かねて番町邊やしき何某内義を以申込候予に對面願候一義申述肴代持參のよし先達て清右衛門に申付置候趣を以清右衛門きひしく斷之右肴代も辭し候て不受よし今日清右衛門告之則聞おく
一此節短夜ニ付三國志演義少々披閲今夕五時過就寝

○二日癸丑曇晝ヨリ晴風烈南深夜風止
一奇應丸ねり立五匁五分予並宗伯四分一丸之八半時頃丸し畢今日皆出來之
一晝時ゟ幟出之風烈ニ付鈴ふきおとされしもあり夕方辛してとり入れ畢
一如例年明日柏餅製ニ付今日まきに粉を挽しむ白米二升餘之
一七時前ゟ三國志演義五十七回迄手宗伯評はかり看之今日五時過就寐
一昨今來客使札等なし長日ニ付一劑例ゟはやく丸し畢ぬ○杉浦ゟ手製柏餅到來
○三日甲寅薄曇ヨリ四時過晴風なし
一四半時頃おさき來ル今日柏餅製造ニ付手傳の爲之薄暮歸去
一晝後土岐村元立來ルおみち當年は未遣ㇾ間節句に可遣旨及約束雜談後歸去
一同刻いせや久右衛門來ル過日お秋わかし遣しㇾ美少年錄二輯被返之請取おく宗伯袷にいたしㇾ
青梅島類近日見せㇾ樣申付おく雜談後歸去
一晝時渥見覺重方ゟ深川箱島藤右衛門ニ寫させㇾ慶長記異本初冊寫し出來並ニ過日覺重へたのミ
ㇾイキリス舟の圖寫し出來並に被指越ㇾ右寫し物筆料壹朱並同書第二冊め料紙差添遣之
一如例近處々々柏餅壹重つゝまき等もたせ遣之別帳ニ記之清右衛門方並ニおさき清右衛門へ遣し

候分はおさき歸路ニ委ね遣之久右衛門子供へは久右衛門ニもたせ遣ス元立内義分は元立ニ委ね
遣之○河合孫太郎へも一重遣之寫し物さいそくの爲ニ返翰來ル崇正通書うつし近日出來のよし
之

一今日終日織出之風なし出入ニ便よし

一俠客傳自序二丁半今日稿之大抵出來未及淨書のミ今夕四時過就寐

○四日乙卯曇四時頃ヨリ薄晴夜ニ入曇

一今日如例菖蒲葺之表門玄關其外共如例今朝宗伯執行

一晝前淸右衛門來ル如例爲端午祝義かさこひもの自然生持參雜談後歸去

一今日織晝前ゟ出し終日立之

一俠客傳自序二丁半淨書尙又再考五之終りまて稿し畢

一夕七時頃織とり入予飯田町宅に罷越ス太郎お百同道暮六時頃宗伯も來ル藥うり溜勘定いたし中
や紙代等拂濟淸右衛門ニろうそく代拂之且先月中お百十四五日逗留いたし候ニ付せつく錢之內
金貳朱分淸右衛門へ遣之暮六半時頃下女まき太郎の迎ニ來ル右いつれも同道にて今夕四時歸宅
太郎はまきにおはれ中途ゟ睡眠小石川ゟ小雨ふり出し候ニ付宗伯土井の前ゟ先へかけぬけ候へ

共無程雨止ム今夕四半時頃就寝夜食清右衞門方にて出之

○五日丙辰曇無程薄晴風夕方又曇暮六半時頃ゟ風雨終日無間斷

一今朝幟出之五半時頃ゟ宗伯出宅松前両やしきへ爲當日祝義罷出晝時歸宅

一晝時過迄俠客傳自序稿本校訂晝後まきを以筆工金兵衞方江遣之

一九半時頃ゟ予お百宗伯同道にて赤羽有馬やしき水天宮に參詣夕七半時歸宅

一右他行中清右衞門爲當日祝義來ル口状おみちへ申置歸去と云

一今日端午の晝節赤小豆飯一汁二菜諸神並ニ家廟獻供奉祭之如例七時頃雨催しゆニ付肴らり音五郎參り合せ幟とり入ゆよし之疲勞ニ付今夕五時就寝

○六日丁巳今朝五時過ヨリ雨止テ不晴猶風烈晝ゟ風止夕方半晴又曇

一朝飯後まきを以金兵衞方へ昨日の稿本かりニ遣ス序文ニ直し度處有之故之まき早速かり請持參俠客傳自序不宜處補綴畢て右稿本又同人を以金兵衞方へ遣之則さしおき歸宅即刻再考之處書直し尚又同人ヲ以金兵衞方へもたせ遣ゆへともいまたおもはしからぬ所あり二三字改淨書出來の上又直すへし

一予晝前入湯昨日の遠足疲勞ニ付終日休息宗伯同斷平臥但不入湯いとや半兵衞樂隱宗伯方へ到來

近年病身ニ付蔟用稀之

一予昨五日夕ゟ蚊帳乖之お百宗伯は二日の夜ゟ小兒は四月下旬ゟ蚊屋用之今夕五時就寐

〇七日戊午薄曇四時過ヨリ晴晝時より風夕方風止

一晝前丁子や平兵衞來ル手みやけ持參美少年錄三輯五の卷さし畫の三壹丁出來則筆工の處二丁差

添筆工金兵衞へ差し遣しゆ樣示談渡之雜談後歸去

一晝後ゟ宗伯慶長日記校訂本五冊つき揃へ下とちいたしおく製本の爲之

一今日お百太郎を携本所正木いなりへ參詣のつもりにゆ處日から不宜に付さし留明日ニ延引ス

一崇正通書寫本三四五合本一冊以原本校訂五十丁餘校之但十三丁遺ル今夕四時就寐

一明日　公方樣上野御靈屋に御參詣ニ付幟竿とりおろしおく火留如例まきへ申付おく

〇八日己未晴晝ヨリ風夕方風止

一今朝五時過上野　御靈屋に御成退御如例無滯被爲濟その間門引たて火留如例

一今朝　御成御通しの節うへ木屋治右衞門同弟金次悴鐵共ニ三人來ル則幟杭とり納させ竿三本之

内一本むし入ゆ分火ニあて如例とり納め畢ル玄關西角丸瓦くたけゆ分直させ其餘おく庭樹木か

り刈●(込)ふたうたな少しつくろひ庭そうち等にて終日之先日分共手間ちん金壹分壹朱ト百三

十六文拂遣ス今日早仕舞にて歸去と云予他行ニ付宗伯申付萬致指圖させ候事
一四時頃　還御後早々余お百太郎同道にて大傳馬町大丸へかひ物ニ罷越歸路油丁炭やすみよし町にて尙又かひ物いたし候處八時頃ニ及ふ夫ゟさかひ丁しはゐへ立寄太郎等ニ終日見物致させ夜ニ入六半時歸宅晝飯は大丸にてふるまはれ夜食は人形丁浙氏茶つけたへ歸路ろうやうら門通りゟ余太郎を脊負ひ歸宅
一右他行中淸右衛門來ル八百や長兵衛かはややね修復惣入用書付持參おミちうけとりおく
一根岸すゝ木一郎ゟ黑丸子貳包乞ニ人を以差越スおミち右代錢請取二包遣之と云
一丁子や平兵衛方ゟ小ものを以大坂河內や茂兵衛狀届來ルおミちうけ取おく右は看板彫刻出來校合すり二枚丁子や遣し候案內並に彫刻手當として尙又金子十兩丁子や平兵衛ゝ差下し候よしの案內等之四月廿五日出八日限の早狀之
一今夕歸宅後休息四時過就寐
〇九日庚申薄曇
一晝前久右衛門來ル過日申付候靑梅島松坂島持參內松坂しま一反求之代金十四匁之金一分わたし遣スつり壹匁かし之卽刻歸去

一右已前大丸ゟ昨日之反物等十しな持參代濟ニ付改請取之
一晝後又大丸ゟ昨日申付置候絹紬並ニ靑梅しま等持參內綿絹紬反〔物〕等之代金一分貳朱之遣之つり廿文取之〇中川金兵衞俠客傳序文美少年錄五ノさし繪かき入等持參右校訂晝後迄校之
一晝後河合孫太郞來ル予對面崇正通書二冊寫し出來筆料金三朱わたし遣ス內百九十二文過之又十一ゟ三迄合一冊料紙不足之分遣之筆料過候分追て差引候つもり之小兒江手みやけ持參先々月中かし遣し候烹雜記並句殿實々記被返之尙又羈旅漫錄奇跡考かし遣ス右用事畢て歸去
一晝後ゟ過日遣し置候粉を以柏餅少々製之ねりかけん不宜依之少々食之
一夕七時頃ゟお百並ニ太郞まきめしつれ本鄕金介町江罷越蒼龍丸かひ取天澤寺前にて肝胚圓同斷ゆしま天神下丸一にて花臥坐四枚かひ取まきにもたせ夕方歸宅
一今夕庚申祭獻供等如例〇宗伯晝後ゟ慶長日記たち合せ下とちのとつゝミ等出來
一予崇正通書寫本三ゟ五迄一冊校之畢尙又八ノ上之內廿丁餘校之今夕四時就寐

〇十日辛酉晴

一晝前中川金兵衞來ル則俠容傳序文寫本並ニ美少年錄五ノ末畵つき寫本二丁渡し遣ス今日夕方丁子や江持參のよしニ付俠客傳稿本五冊袋かけ同人江わたし丁子や江屆くれ候樣申談し右稿本改

讀(?)候節又此方へ遣し候樣且過日大阪ゟ參候俠客傳看板すり本一枚爲校合差越候樣傳言たのミ遣ス

一書後闘忠藏家內ゟ使札先頃かし遣ス八犬傳初編ゟ三編迄被返之猶所望ニ付四編六編七編上下〆四袋かし遣ス干くわし小折入被贈之則返翰遣之

一慶長日記校訂本五冊製本宗伯仕立之今夕方出來全五冊

一家內一統風邪ニ付服藥此內お百宗伯頭痛つよくいたし候よしにて今夕はやく就寐太郎お次は鼻涕出予はかるしおミち並ニまきは恙なし

一崇正通書寫本八之卷上下十四の卷以原本校訂且點裁畢夜ニ入六の卷の內十丁餘校之今夕四時就寐

〇十一日壬戌薄曇四時頃ヨリ晴

一早朝中川金兵衞來ル昨日の稿本並ニ寫本二綴丁子や平兵衞にわたし候よし丁子やゟ右幸便に差越候俠客傳看板校合すり本一枚被届之口狀取次まきへ申置歸去

一書後淸右衞門來ル過日持參の八百や長兵衞上家やねつくろひ惣入用此方へ扣置候ニ付右書付返し遣し積金帳面へ寅年分預り金高かき入並ニ修復入用記之させ候差引百貳匁七分あつけ置之右

帳面は如前宗伯へわたし小つゝミ内帳面中へ藏めおかしむ（四月分上家ちん持參請取置宗伯ニ渡ス）

一お百宗伯風邪今日は少々快方太郎お次も同斷させるとなし

一崇正通書寫本六七合卷一冊以唐本校訂之終日之夜ニ入九十合卷一冊內十四五丁め迄校訂今夕四時就寐

一晝後田口久吾來ル先月同人妻安產之節爲祝義お百を遣しゝ謝禮之余對面雜談後歸去

〇十二日癸亥薄曇（晝時より）小雨（終日）夜中猶雨

一崇正通〔書〕寫し出來分六冊今日晝後迄ニ不殘校訂し畢其後去寅年分金銀出入惣勘定ニ取かゝる宗伯相算にて寫本料（？）の部迄勘定未果例年正月松之內勘定致候へ共早春著述差急キ寸暇無之ニ付打捨置及今日之夜ニ入余獨算四時前就寐

一今日來客使札等なしお百風邪未及痊了今夕宵ゟ就寐

〇十三日甲子雨（八時過ヨリ）半晴（夕方ヨリ）快晴冷氣

一去寅年金銀出入勘定昨今本帖ニ寫之夕七半時頃寫し畢ル此內おミち安產入用お次宮參入用等不及寫來春序ニうつし入へし

一昨夕甲子大黑祭獻供如例夜ニ入宗伯明神地內大黑ニ參詣五時頃歸宅お百風邪とかく同樣ニ付墓

六時過ゟ打臥汗とり候處汗多く出候よし之

一夜ニ入予休息悪寒いたし候ニ付五時過ゟ就寐

○十四日乙丑天明ヨリ曇昨今冷氣四時前ゟ曇晝時ゟ風烈深夜中風止

一夕七時過お秀來ル柴崎氏に罷越候歸路のよしお百病氣見舞之山田吉兵衛端午前ゟ不快にて今に打臥居候よし老病なるへし依之早々歸去

一今日星祭如例獻供家内一同奉拜禱畢

一藏書もくろく改正書直しの分今日ゟ取かゝり十四五丁謄寫今夕四時就寐

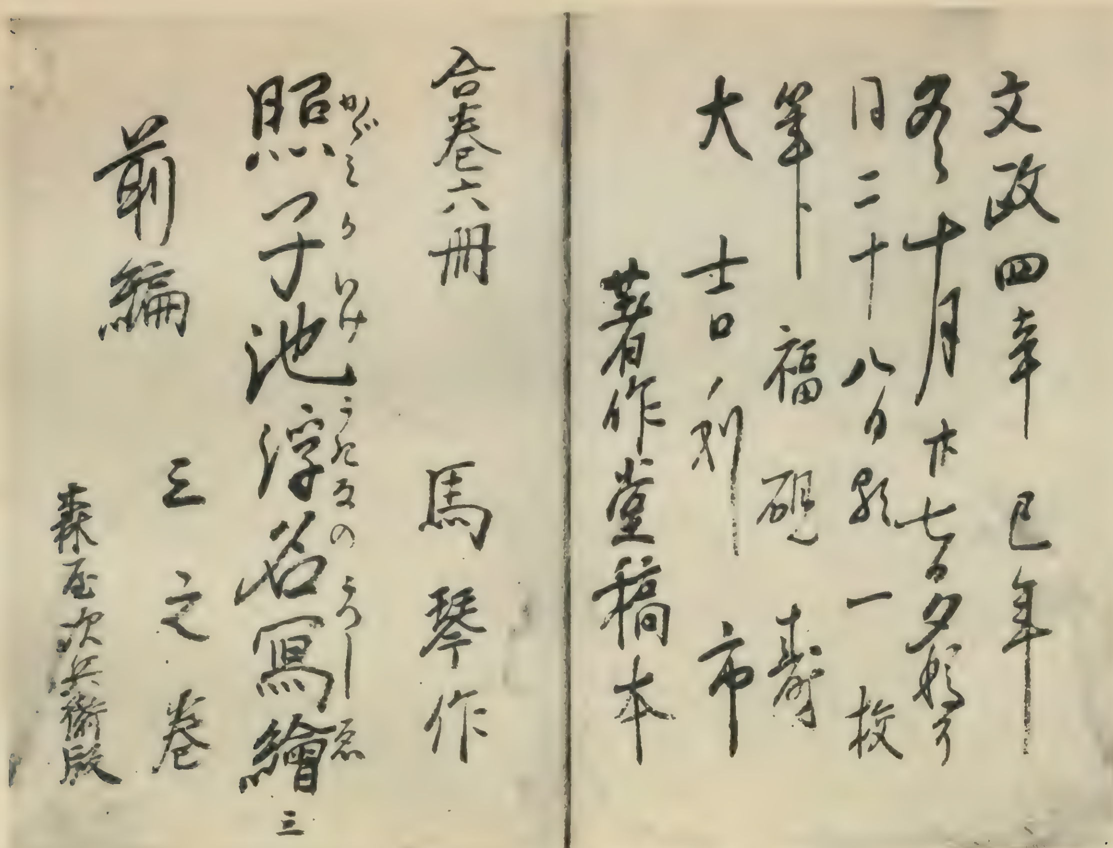
○十五日丙寅曇五時過ヨリ雨晝時ゟ雨止八半時頃ヨリ又雨終日夜中小雨或は降或は止

一須田町池田やゟ例ニ任せ漬梅の用向問に來ル上梅百文ニ壹升五合中梅貳升之よし直段去年ゟ倘又高直ニ付さし直いたし遣し候處右手代梅貳通り持參梅は此くの如く直段引ヶ不申旨申ニ付二升替の方三斗しそ五わ明日持參いたし候様申付つかはす

一藏書もくろく書直し之分上の巻大てい出來なほ三丁許遣ル今夕四時過就寐

○十六日丁卯曇朝五時過ヨリ晴

一晝前須田町池田やゟ昨日申付候梅三斗紫蘇五わ持參則代金わたし遣ス其後宗伯おミち庭の梅と



（四）稿本「照子池浮名寫繪」前編二巻の後表紙及三巻の前表紙題署

り候處三升許有之赤穂塩壹斗かひ取せ晝後おミちお百手傳つけ畢塩少し遣ス壹升ニ付塩三合のわりㇾ○臺所へ小蛇出夕方の事ㇾ余とり捨畢

一晝前大郷金藏子息金藏書狀持參坂本迄罷越たる歸路ニ返事可給旨とり次下女まきへ申置歸去右狀披見之處本邦にて猫の故事西行の銀の猫の外可有之承り度よし申來ル並ニ女三の宮の猫の出處等の事ㇾ依之源氏物語枕草紙つれ〲草盛衰記骨董漫錄等に有之猫の事あらまししるしつけ應辯書しるしおく夕方右子息某來ル則對面右返翰わたし遣ス宗伯も今日始めて對面雜談後歸去

一お百宗伯風邪とかく退かね兩人とも痰咳服藥ス

一藏書もくろく序文其外四五丁書直し猶又下の卷の內家書の部三丁書之今日は來客等多用にて多く出來ず今夕四時就寢

一今朝清右衞門來ル昨十五日役用にて不罷出候旨申之山田吉兵衞病氣の趣噂申聞おく並ニ小松やゟ白さとう注文之事申聞かよひ帳もたせ遣ス雜談後歸去

○十七日戊辰曇四時頃ヨリ半晴終日風烈風晴曇不定

一晝前山口や藤兵衞來ル小兒へ手みやけ持參余對面殺生石後編着手催促ㇾ雜談後歸去

一今日巳まち辨天祭り宗伯執行獻供等如例

一八時頃ゟ宗伯溜池上八天狗神へ參詣夕七時過歸宅

一余藏書日錄補綴今日夕方錄了此度は二卷にいたし製本宗伯へ申付おく十四日ゟ取かゝり今日迄四日之藏書もくろく文化九年ゟ其後文政元年の春書直し此度とも三度に及ふ夜ニ入休息四時過就寐

一晝後ゟ太郎吐逆あり時候あたり滯食なるへし蒼龍丸奇應丸度々用之夕方ゟ元氣出て平日のとし

但吐氣有之ニ付夜食は延引ス

一今日ゟ家內蚊やり火を用ふ此節追々蚊多きによつて之

○十八日己巳薄曇四時過ヨリ晝前迄雨ゟ晝後半晴夕七時過より雨夕方遠雷日暮ヨリ雨止ム

一今朝清右衞門來ル過日申付候白砂糖小松やゟとりよせ候分並ニ中やゟとりよせ候のり入にしの內等持參尙又中やにみの紙注文申付かよひ帳又もたせ遣ス店內孫市事つけ物やの水溜釜をくたき候一件有之よしにて早々歸去折から雨ふり出し候ニ付傘かし遣ス

一晝後土岐村元立來ル余對面明後廿日おミちを年始ニ遣し候間駕のものゝ事如例元祐にたのミくれ候樣及約束元立是ゟ谷中へ罷越候よし折から雲たち候ニ付傘かし遣ス

一宗伯黑丸子神女湯包紙等摺之終日お百宗伯の爲に晝後さへ本町萬やにて淺黃半切かひ取に罷越ス

太郎同道夕七時前歸宅休息平臥

一余此度補綴の藏書目錄改訂尙又かき入ㇹ事等有之其上太郎終日机邊を不去ㇹニ付餘事出來かね消日了今夕五半時頃就寐

〇十九日庚午晴折々雲立

一晝前土岐村元祐來ル昨日元立へかし遣しㇹ傘持參被返之其節被殘置ㇹ竹子笠手ふくろ返し遣ス元立昨夕外孫三六郎繼父方ニ止宿のよし明日おミち麻布之ものゝ事尙又及示談時刻等やくそくいたしたのミおく雜談後歸去

一此節遠州路一同疫病流行每夜鉦太鼓等にて疫神をおくりㇹよし京ゟ歸府のもの遠州路にて疫に傳染いたし兩人病中着のよし元祐噂之

一暮六時前お久和祖太郎悌吉を携來ル明日上野　御成ニ付小兒遠慮いたしㇹ間此方へ止宿如例混雜迷惑限りなし河合勇七郎ゟ葵一本此幸便ニ被贈之夜中ニ付そのまゝさし置ㇹ處引拔ㇹまでにて差越ㇹ間志ほれ用立かねㇹ

一宗伯今日賣藥包紙等こしらへ終日之

一余美少年錄三輯一二の卷初校則校畢て傾城水滸傳初へん再板一の卷六丁めゟ五丁校之今夕太郎

ねむりかねヽニ付一同四半時就寢

一明日上野　御靈屋へ　公方樣御參詣ニ付火留等如例申付おく

○廿日辛未曇四半時頃ヨリ小雨八半時頃ヨリ雨止

一上野　御成今朝五時過被爲濟四時頃　還御

一還御後昨日申付置候かごのもの兩人來ル則おミち並ニ太郎お次同轎にて出宅四半時頃之まつおミち兄土岐村元祐方ゟ罷越夫ゟ麻布六本木土岐〔村〕元立方へ罷越今夕止宿ス駕かき等は和泉橋邊ゟ元祐をたのミ傭せ候ニ付送屆之事通達ニ不及之尤おミちみやけ物等もたせ遣ス委曲別帳ニアリ

一右おミち出宅已前おミちあね山田宗之介妻おまつゟおミちへ使札時候見舞なるへし煮豆等被贈之出かけ候ニ付不及返翰おミちゟ謝禮口狀にて申遣ス

一夕方七時頃渥見僕お久和等迎ニ來ル覺重方ゟ深川藤左衛門ゟ寫し參候慶長日記異本七八九合本

一冊出來被指越之受取筆料金壹朱渡し差引百四十七文かしニ成ル外ニ十十一合卷一冊料紙二帖遣之料紙も十四枚過之

一夕七時過淸右衛門來ル一昨日申付候みの紙一帖中屋にてかひ取通帳と共に持參雜談後歸去

一余晝後食滯の氣味にて中腹(?)疼痛ニ付黒丸子奇應丸等用候へ共効なし夜中過いよ〳〵痛ミ候ニ付曉方起出水天宮守札呑之依之其後いたみ退キ安寐彼守札の靈應かくのごとし

一美少年錄三輯壹貳の卷すり本校合校し畢その後けいせい水滸傳再板初編上帙の校合遺りニ取かゝり候へ共腹痛ニ付不果今夕五時過就寐

一昨夕河合勇七郎ゟお鍬幸便ニ差越候根へ土をつけす引抜候まゝに候間今朝うゑつけ候へ共既に枯候て用立かね候素人の心なき手當行屆かすとかくかくの如し

○廿一日壬申薄曇今朝程なく晴

一昨日廿日江島岩本院ゟ板行の口狀を以先達て勸化帳を以得御意候本社修復來ル六月朔日釿初之式いたし候間參詣いたし候樣申來ル使さしおき歸去

一宗伯賣藥包ミ紙等昨日迄ニ出來今日藏書目錄二ノ卷表紙かけ畢ル

一夕七時頃おミち太郎お次麻布ゟ歸ル里ゟ餽にておくらるみやけ物兩三種被贈之歸路かごちんも手當いたし遣し候へ共麻布ゟ被出候よしにて金壹分の內貳朱ト三百廿文返ル今日　御臺樣濱御殿御　成ニ付芝口前後人留ニ付おミち事同町へ不參候よし宗之介娘お定元立方に罷越候ニ付對面のよし之

一予滯食今日は順快ニ候へ共いまた食氣無之終日保養廢筆ゝ今日四時就寐

〇廿二日癸酉薄曇四時前ヨリ晴大風南深夜風止終日溫暑

一傾城水滸〔傳〕初編上帙再板すり本廿丁今日校訂し畢美少年錄三輯一二兩卷すり本初校宗伯をして再校せしむいまた果さす

一晝後鶴や喜右衞門ゟ使札喜右衞門內義りよ病氣之處養生不叶一昨廿日死去之よししらせらる使のものに明日未刻送葬のよしゝ返事口狀にて申遣ス

一夜に入去年中寫〔さ〕せ候廢絕錄校閱今夕四時過就書

〇廿三日甲戌晴大暑當夏はしめての暑之

一晝後淸右衞門來ルおさきかねて母に申談し候堀之內妙法寺詣明日頃可參哉之よし申來り候旨お百告之その意に任せ候樣申付おく宗伯も同道のつもりゝ用談畢て淸右衞門歸去

一今日鶴や喜右衞門妻送葬ニ付爲弔送余八時過ゟ出宅淺草寺町右菩提所本法寺へ罷越送葬畢て歸路油町鶴やへ立寄り尙又歸路新地ゆやにて入湯いたし薄暮歸宅

一今日他行ニ付晝迄讀書歸宅後休息今夕五半時就寐

一鶴や喜右衞門妻懷姙兩三月に及ゖ處外邪にて打臥四十五六日に及ひ俄に大病に成り二日はかり

にして死去のよし子とも五六人あり惣領男子廿許歳末子は六才女兒四才の男子之右妻名はりよ
年三十六

○廿四日乙亥晴大暑但風あり

一お百宗伯同道にて今朝六半時過出宅飯田町へ罷越おさき同道にて堀の内妙法寺へ參詣薄暮歸宅
但今日歸路四谷久右衛門方へおさき立寄候ニ付同道にて罷越候處此節家內造作普請に取かゝり
居候よし尤久右衛門も在所のよし之

一晝後鶴屋喜右衛門ゟ使札明廿五日亡妻初七逮夜ニ付麁酒進上仕度候處九時ゟ出席を請候趣申來
ル則承知之返翰遣ス

一去年中河合孫太郎に寫させ置候水滸後傳序評一冊校訂且點裁に取かゝり候處なかはにして未果
今夕五半時頃就寐

○廿五日丙子未明ヨリ雨晝時雨止て不霽折々小雨忽止

一宗伯昨日の遠足疲勞にて半臥服藥ス

一余晝時迄明板水滸後傳序評寫本點裁訓點いたし九半時頃ゟ油丁鶴やに罷越外相客夕七時ニ揃ひ
候而饗應夜に入暮六半時過歸宅つるやゟ小ものを以送らる返却の器をつゝみ候爲にふろしき壹

ッ右小ものにかし遣ス

一今夕鶴やにて相客西村與八蔦や十(重)三郎角久森や次兵衛岩戸や喜三郎外不知もの一人ゝ蔦や重三郎事廿年來疎遠今日及挨拶明年ゟ年始往來いたし度よし申之別去

一深川藪邊住人素人醫師又兵衛兪穴押療治之事今日鶴や嘉兵衛物かたりにてはしめて聞之本宅の療治は又兵衛伜ニゆつり其身は馬喰丁江崎やに出張療治いたしゐよしゝ宗伯病氣に可相應哉療治いたさせ可然旨今夕歸宅後申聞おく

○廿六日丁丑曇折々小雨忽止白晝後不降 昨今冷

一晝前ゟお百深光寺へ墓參今日說法會日ニ付聽聞八半時頃歸宅

一晝前河合孫太郎來ル予對面崇正通書十一十二の合册寫し出來則筆料金壹朱遣之内百廿四文かしゝに成ル又水滸後傳序許抜寫被賴ゐニ付原本一帙並ニミの紙三帖渡之松坂との村佐五平へ遣しゐ爲之且過日貸進の書二部被返之今日よミ本二部かし遣ス委曲藏書貸進帳ニ記し有之ニテ不具錄

一夜ニ入芝神明前いつミや市兵衛ゟ使札市兵衛養母久しく病氣之處今日午の中刻死去いたしゐ間明廿七日未時送葬のよし訃告せらる則返翰遣之

一清右衛門來ル申付候ミの紙四帖艾等持參其代錢遣之ミの紙四帖は請取おくとしまやに醬油注文たのミ遣ス
一明板水滸後傳序評抄本予今日も訓點を施ス未果今夕四時就寐
○廿七日戊寅曇朝四時前ヨリ晴晝前又曇折々小雨終日暮後風々蒸暑不霽風些もなし
一九半時過ゟ以宗伯芝神明前いつミや市兵衛方へ遣し同人養母不幸悔令申述増上寺塔中某院へ出棺送り終り又歸路泉市へ立寄せ香奠南鐐一片遣之薄暮歸宅右養母年四十四時候あたりにて病臥七日許にて死亡といふ
一余は水滸後傳原本序評抄本今日迄にて訓點畢夕方ゟ禹鬐堂漫錄五册之内三册披閲今夕四時就寐
○廿八日己卯曇天明ヨリ小雨多くふらす止冷
一八時頃ゟ太郎お次大橋向椎木稲荷へ參詣致させ候ニ付お百宗伯おミち差添下女まき召供し出宅夕七半時頃歸宅今日如例兩國河開キニ候へとも終日曇り且冷氣ニ付差急キ歸宅のよし夜に入花火少許立候様子にてはやく止ム
一夕七時頃清右衛門來ル大工寅吉に用事有之ニ付差くり早々に參候様寅吉方へ申通しくれ候様申付おく臺所下流し板朽損候ニ付修復の爲之家內歸宅後清右衛門歸去○山田吉兵衛病氣同様之內

とかく不出來のよし一昨日久吾見舞に罷越候趣今日淸右衞門告之近々是ゟも様子たつね候様お百ゐ申聞おく

一崇止通書十一十二合巻寫本原本ヲ以校訂十一の巻校し畢十二の巻は未果今夕五半時頃就寐

○廿九日庚辰曇今朝五時前ヨリ小雨今曉寅刻六月節ニ入終日不止夜ニ入大雨終夜無間斷

一今日雨天ニ付使札來客等なし

一崇止通書十一ゟ十三迄合寫本一冊校訂晝後校し畢爾後金瓶梅第四回迄披閲半之一冊今夕四時就寐三月下旬ゟ此節迄著述休筆之ゑかれとも日々多用かくのとし

○六月朔日辛巳昨夜ヨリ雨今朝五時頃ゟ雨歇テ不霽晝後ゟ大雨折々暫止夕方又雨夜ニ入止

一晝後淸右衞門爲當日祝義來ル明日快晴ニ候はゝおさき事山田吉兵衞病氣見舞に罷越可申旨此方へ向ケ罷越母同道にて可罷越哉之よし申之且江の島辨天本社建直し勸化帳先達而宗伯たのミ置候處淸右衞門罷越金一朱つゝ寄進帳面に記し持參則宗伯右帳面請取候よし告之右用向畢て淸右衞門歸去

一予金瓶梅十二回め迄披閲字目ゟ五冊め之今夕四時就寐宗伯美少年錄三輯壹貳の卷本文再校今日も終日

にして未果

○二日壬午天明ヨリ晴

一八半時頃ゟお百宗伯を以山田吉兵衛方へ病氣見廻ニ遣ス肴代惠並煮豆葛まんちう等遣之但おさき同道衆約ニ付見合せ𛁈へ共不參依之聊遲刻スお百宗伯歸路ゟ飯田町舊宅ゟ立寄五月分藥うり溜勘定いたしおさきゟ定式並わり引分淸右衛門へろうそく代等勘定爲相濟右金錢持參今夕五半時歸宅委曲別帳ニ記有之吉兵衛病氣さしたる事も無之よし宗伯告之

一晝後傳馬町との村店ゟ松坂表佐五平來狀屆來ル則請取書遣之右は五月十八日出之狀四月廿六日此方ゟ登せ𛁈狀の返事にて代筆ㇾ先頃返却之水滸傳並ニ貸進之拍案驚奇五月十三日に無滯着のよし案内申來ル並ニ三才發祕直段不引ニ付返し𛁈よし此外水滸後傳國字評八犬傳にしき畫共落手之事同書藏板催しの事本居宣長肖像之事件之返事申來ル再答尙又追て可申遣事

一予金瓶梅十五回迄披閱並ニ壹之卷序惣評一册再閱其間月代等いたし今夕四時就寐

一夕方ゟ太郎腹痛ニ付奇應丸黑丸子等度々用之夜中水瀉兩度大ニ下るその後熟睡滯食並時候あたりなるへし

○三日癸未薄曇今朝五時過ヨリ晴ゟ晝後又薄曇

一晝飯後早々宗伯松前兩やしきへ罷出ル一昨朔日雨天ニ付不罷出ゆ間今日伺として伺候薄暮時歸宅

一今朝四時前清右衛門來ル神女湯賣きらしゆよし宗伯こゝろ得出來合の分五六包差出ゆ間おみちゟ請取ゆよし過日之中やかよひ帳持參且明日馬喰丁又兵衛おし療治受ニ宗伯罷越ゆはゝおさきも可遣旨及約束右用談畢て早々歸去

一夕七時前大阪大藏十兵衛狀着當二月中大阪へ罷越ゆよし此節大坂川々御さらひニ付以の外繁昌町々ゟ爲冥加スケと號し人足揃ひ衣裳にて多く出ゆよし右二枚つゝきのすり物二枚被贈之十兵衛又程なく出府のよし之

一夕方予屋代太郎殿へ罷越春中借用之崇正闢謬永吉通書八冊之内借用分七帙とも返却右謝禮として劍ひし酒一升玉川酒切手進之且去冬及約束ゆ椿說弓張月書名椿說の出處水滸傳拍案驚奇金瓶梅所引具に注之今日持參進上太郎殿在宿ニ付對面暫く晤譚崇正通書一二の合本一冊はいまた役所ゟ返り不申よし返り次第可借旨被申之六樹園著述雅言集說之事並五月十六日夜五半時頃御成道川上筑後守長や下にて切害せられゆ男坊主の始末等ものかたりせらる予七半時頃歸宅

一晝前山口や藤兵衛來ル殺生石五編稿本催促之予對面手みやけ被贈之暫時雜談畢て早々歸去

一宗伯歸宅神女湯包紙外題はり其外下拵等終日之

一予金瓶梅魔法其餘十五回迄抄錄其後椿説出處解半紙二枚ニ書直屋代太郎殿ヘ罷越夕方歸宅後休息今夕四時就寐

一太郎腹痛今朝は順快終日かはることなし

○四日甲申薄曇ヨリ夕七時頃雨折々止多くふらす夕方雨止テ不霽

一宗伯時候あたり以之外不快にて終日平臥

一晝前おさき來ル深川俗醫又兵衛按腹療治馬喰丁ニ出張療治いたし候よしニ付今日宗伯同道にて馬喰丁へ罷越療治受候樣過日清右衛門ニ示談いたし候ニ付今日おさき參候へ共宗伯病臥にて同道なりがたく候間お百差添參候樣申付晝飯過お百おさき太郎を携出宅馬喰丁三丁め江崎や吉兵衛方へ罷越候處又兵衛未來候間兩國邊ヘ罷越太郎を遊はせ又兵衛罷越候後おさき並ニお百も同樣療治を受夕七半時頃歸宅歸路雨ふり出候間江崎にて番傘壹本借用持參但歸宅之節は雨止ムおさきは夕飯たべ薄暮歸去小まつやヘ砂糖注文申付おさきにかよひ帳もたせ遣ス

一予唐本水滸傳五十一回ゟ五十二回迄披閲近々傾城水滸傳十二編稿本創し候によりて也今夕四時就寐

○五日乙酉薄曇晝前ヨリ晴風冷風冷氣夕方又薄曇

一今朝神田明神并内天王如例中橋假殿へ御出ニ付お百則太郎お次を携明神へ参詣神輿出候を見物いたさせ畢て歸宅

一宗伯持病今朝ゟ少々順快にて起出〇今日水天宮神酒備餅獻供奉祭之

一晝後丁子や平兵衛小ものを以大坂河内や茂兵衛書狀屆來ル請取之先便之返翰之長崎やゟ仕入之唐本着右入札五月中旬にいたし荷渡し等にて取込居候よし先便申遣し候古今類句代金三分貳朱にて近々丁子やにつミ合せにて差下し候案内並に俠客傳筆工彫刻追々出來一番校合相濟候て二番校合ゟ幸ひ琴魚在京ニ付改させ候てはいかゝ可有之哉之よし等申來ル

一予終日水滸傳披閱五十四回ゟ五十八回（十八冊めの口）迄今夕四時就寢

〇六日丙戌曇（五時頃ヨリ）小雨（折々止）晝ゟ不降夕方雨（忽止）夜四時又雨（多くふらずして止）冷氣（晝夜共同斷）

一今朝淸右衛門來ル申付候白黑さとう小松やゟかひ取持參宗伯包置候神女湯遣之後刻おさき可參旨申之歸去〇昨今冷氣時候不順之袷にて猶冷之

一晝後おさき來ルお百同道にて太郎を携馬喰丁江崎やに又兵衛療治受に罷越候處今日又兵衛江崎や不來よしにて夕方いたづらに歸宅ス一昨日江崎やゟ借用之番傘返之おさき夕飯後飯田町へ歸去明日は淸右衛門他行ニ付出かたきよし之

一八半時頃芝神明前泉市ゟ以書付神女湯十つきむし薬廿包とりに來ル神女湯は包紙無之ニ付有合ゆ分五包つきむし薬は俄に袋すり立半包貳十注文之通り遣之その間使ゐはらく待せ置神女湯不足之趣書付にて申遣ス委細は別帳にゐるしおく○其後宗伯お成道紙やにのり入いはきかひ取に罷越神女湯包紙四十八枚つき蟲薬半包の袋等摺之畢

一余水滸傳上帙之方惣評斗並に序目等彼是披閲今夕四時過就寐

○七日丁亥薄曇冷氣終日同斷

一夕七時頃淸右衛門來ル中屋にのり入半紙等注文申付且晝飯殘挽わり飯泥鰌汁並ニなまふし入茄子松もときにて夜食たへさせかへし遣ス

一水滸後傳國字評正悞並ニ追考二丁稿之其後傾城十二編人物姓名等稿案いまた筆硯に不親故に不果

一今朝小船丁天王神田に如例御出お百則太郎を駝し神田へ参詣見物いたさせ帰宅

一今夕宗伯に晤譚萬事心得の事教示畢て四時就寐

一飯田町盲目針醫とし市妻亂心昨六日の夕自殺今日檢使〔の〕よし淸右衛門噂にて聞之

○八日戊子晴

一水滸後傳國字評遺漏一條今朝稿之爾後傾城水滸傳十二編稿案畫わりを掛む然とも不果晝後ゟ水滸解二冊披閲並ニ水滸傳國字評追考二丁書入後にて消日了

一晝九時過おさき來ル八時頃ゟお百同道にてよこ山丁三丁め江崎や江罷越又兵衛療治を受夕七半時前歸宅おさきには夕飯たべさせ七半時頃歸去今日柳原常床にてお次腰札かひ取候様お百に申付代料もたせ遣しゅ處一兩日休ミにて床江出不申よしニ付得買すして歸宅〇五日出之天王今方神田町へ還り給ひぬ

一晝後覺重來ル深川箱崎藤左衛門ニ寫させゅ異本慶長日記異本三冊め出來筆料かしこし差引百四十五文遣之並ニ四冊め料紙差添遣之但し先月料紙十四枚過に遣し置ゅ間其分指引ミのかミ一帖と廿七枚遣之

一宗伯今日奇應丸上包五角折外題はり等にて終日之

一予今日月代いたし夜ニ入倘讀書今夕四時就寐

〇九日己丑曇朝夕雨度粗雨忽止

一今日お百實母妙貞尼祥月命日ニ付如例今朝料供備之且淸右衛門方にて今夕茶飯いたしゅニ付母に太郎を携御出ゅ様昨日おさきやくそくいたしゅよしにて四時頃ゟお百太郎ヲ携飯田町宅江

罷越夕七半時過歸宅おさき方ゟ茶めし平なます等お百幸便ニたのみ遣之
一宗伯今日神女湯十數貼包之終日之
一予傾城水滸傳十二編壹貳の畫稿に取かゝり候へ共未親筆硯依之わつかに壹丁許稿之その間讀書
今夕四時就寐
○十日庚卯 寅 曇五半時頃ゟ 薄晴其後快晴 風南 向暑夜半大南風
一今日小船丁天王如例神田ゟ出輿早朝ニ付小兒とも不及參詣
一夕七時頃お秀來ル芝崎氏ゟ罷越候歸路のよし吉兵衞病氣少々つゝ快「方」のよし手みやけ持參か
け合の夕飯ふるまひ其後歸去
一今日おさき又兵衞療治受に可參處清右衞門他行いたし候歟不來依是お百も不行
一傾城水滸傳貳の卷畫稿に取かゝり候へ共大南風暑氣ニ付わつかに貳丁にして休筆今夕四時就寐
○十一日辛辰 卯 曇今朝五時頃ゟ 風止五半時過ゟ 雨四時過ヨリ 快晴大暑當夏はしめての暑之
一朝飯後大工寅吉來ルかねて申付候通り臺所下流しはり替等申付材木代金わたしかひ取せ晝時前
ゟ取かゝり候つもり依之夕方迄ニ下流しはりかえ出來尚又明日は南緣頬下り候處雨戸敷居溝突
直し下り候處一體に上ケ候樣申付おく

一予今朝ゟ伊勢松坂との村佐五平へ之返翰長文認之水滸後傳再考四丁封し入れ書前迄ニ出來其後ゟ少々中暑にて頭痛いたし候ニ付休息けいせい水滸傳十二編書わりわつかに半丁稿之

一九時過ゟおさき來ル昨日家主安之介ゟもらひ候よしにて玉川鮎煮ひたしにいたし十三持參八時過ゟお百宗伯同道にて馬喰丁江崎や方へ罷越深川又兵衛療治受之夕七半時頃歸宅おさきに早早夕飯たべさせ歸し遣ス此便りに昨日買置候泥鰍三合許遣之

一今朝認置候封狀大傳馬町との村店へ遣し今夕出狀之序有之候はゝたのミ可申旨宗伯ニ申付もたせ遣し候處支配人萬藏ニかけ合候處今夕出狀有之候間屆可申旨申候間則萬藏にわたし候旨歸宅後告之其外お次こし提札並ニ本表紙かひ取候樣申付代料もたせ遣ス腰提札は今日代りに小賦出居候間明日迄ニ注文の通り文字きり入置候樣申付表紙は歸路との村店へ立寄候間順路ならで明日かひとり可申旨申之

一予夕方ゟ惡寒頭痛いたし候ニ付今夕五時過ゟ就寢

○十二日壬辰薄曇ゟ四時頃薄晴

一早朝六半時前ゟお百深光寺へ墓參いたし歸路本郷にて蒼龍丸肝胚円等かひ取四時過歸宅

一今朝大工寅吉來ル則南緣頬敷居みぞつき直し下り候處を揚ケ直し且戸釘ゆるミしめ直し等いた

し戸ふしあなふさき臺所あけ板直し等にて終日之明日つくゐ火はち直し可申旨申付材木代金壹朱わたし遣ス

一九時過おさき來ル八時頃ゟお百宗伯同道にて馬喰丁へ罷越又兵衛療治を受七時過歸宅夕飯後七半時頃おさき飯田町へ歸去今夕宗伯表紙や安兵衛方にてひやうし十枚いつミはし向にて不迷札お次分かひとり來ル

一予今日服藥中暑の氣味順快なれ共尚又保養の爲休筆今夕五時過就寐

一清右衛門今日少々風邪にて在宿のよし依之おさき引つゝき療治うけニ罷越ゆよし申之

○十三日□□二字抹消）癸巳）曇今朝五時前より大雨四時過ゟ小ふりニ成ル無程又大降終日夕七時頃ゟ小雨ニナル夜ニ入同斷深夜雨止冷

一今日大雨妙ゑめり之先月晦日以後はしめて雨アリ終日無間斷

一今朝四時大工寅吉來ル大角火鉢修復申付とりはなしゆ處女房妹出入昨日尚又及破談右ニ付用事有之今日は休ミ明朝は無相違可參旨宗伯ゟ申聞九時前歸去但もミ板一枚かひ取持參つり錢二百七十五文請取之

一宗伯昨日の針治勤しゆ氣味にて終日平臥

一けいせい水滸傳十二編上帙之内畫稿三丁半稿之今夕四時就寐

○十四日癸巳（甲午）曇冷晝之間薄晴又薄曇

一今朝大工寅吉來ル机引出し引わり直晝後ゟ六角火鉢とりはなし惣修復夕七半時過仕舉ル夜食後今日迄手間金三朱わたし遣ス但手間七分五りつゝ上り壹人三匁七分五りのよしニ手透之節材木かひ取上流し臺所拵ひ樣申付おく今日にて落成之

一晝後おさき來ル八時過ゟお百宗伯同道にて太郎携馬喰丁江崎やに又兵衛療治うけに罷越夕七半時頃歸宅おさきには早々夜食たへさせ薄暮飯田町宅へかへし遣ス泥鰍並ニ味噌添遣之

一けいせい水滸傳十二編上帙畫稿六丁半稿之本文十八丁畫稿出來ロ繪貳丁遣ル夕方稿し畢夜ニ入休息四時就寐

○十五日甲未（乙未）薄曇晝前ゟ晴且風烈終日

一晝後早々おさき來ル八時前ゟお百宗伯同道馬喰丁へ罷越又兵衛療治受一同夕方歸宅おさきに夜食たべさせ薄暮飯田町へかへし遣ス淸右衛門風邪少々つゝ快方のよし今日も宗伯藥調合いたしおさきへわたし遣ス

一晝前山口や藤兵衛來ル暑中見舞且殺生石稿本さいそく之音信物兩種持參令對面雜談後歸去○此

節呂平橋御修復ニ付往來留のよし
一晝後太郎並お次明神へ參詣まき指添罷越一時許遊はせ七時前歸宅
一今日けいせい水滸傳十二編上帙本文稿しかゝりゆ處多用且風烈等にて心すゝます依之わつかに半丁餘稿之放下休息今夕五時過就寐
〇十六日乙申(丙申)晴風著
一九時過おさき來ル八時前ゟお百宗同伯道にて馬喰丁へ又兵衞療治受に罷越夕七時過歸宅おさきお百は今日にて一廻り七日療治受ゆ處させる效いまたあらず依之暑中休ミ來月盆後ゟ尙又療治受に可罷越旨又兵衞へ申斷お百は灸點うけゆよし
一晝前地主杉浦淸太郎來ル宗伯並ニ予對談雜談後歸去
一此節暑中ニ付休筆將亦平臥之間少々讀書今夕四時就寐
〇十七日戊酉(丁酉)晴風烈夜中尙風曉方風止
一朝飯後ゟお百太郎を携飯田町舊宅ゐ罷越暮六時前歸宅
一八時過ゟ宗伯馬喰丁へ又兵衞療治受に罷越夕七時過歸宅
一今日大暑且風烈ニ付余休筆讀書今夕五時過就寐

○十八日丙酉（戊戌）晴晝前ゟ風烈明曉風止

一朝飯後ゟ宗伯松前上やしきへ暑中伺に罷出家中廻勤此外關土岐村屋代杉浦等近處相勤晝前歸宅

一晝時田口久吾爲暑中見廻來ル予宗伯對面雜談後歸去

一八時過ゟ宗伯馬喰丁へ又兵衞療治受ニ罷越夕七半時頃歸宅明十九日は又兵衞芝之邊へ療治ニ罷越候間出張休ミ可申哉のよしにて依之倘又明後日可罷越旨及約束と云

一夕方淸右衞門來ル申付候のり入一帖中やゟかひ取持參としまやみりん注文幸便ニ申付候樣たのミおく宗伯奇應丸並ニ淸右衞門腹藥調合遣之ひきわり飯みそしるたべさせ畢て淸右衞門薄暮歸宅

一今日梅ほし戸二枚ニ乾之終日にて大てい乾たり並ニ衣類も晝時ゟほしはしむ

一大暑風烈等にて予休筆今夕五時過就寐

○十九日丁戌（己亥）薄曇風なし四時頃ゟ晴大暑酷烈暮六時過曇遠雷三兩霹靂アリ不雨彌著シ

一今朝早飯後宗伯爲暑中伺松前下やしきへ罷越且家中廻勤四半時頃歸宅

一今日梅ほし又乾之夕方お百おミちよりわけせうゆ樽並ニ大つほ中つほ各一つゝ詰之倘遣り少々有之三斗貮三升の梅壹斗二三升ニ成ル

一衣類昨日之分今日又乾之今日大暑ニ不拘予終日讀書消日畢

一暮六時頃お久和祖太郎愫吉を携來ル明朝

公方様上野御靈屋江御參詣ニ付野下御通行ニ付小兒は遠慮依之此方へ止宿例のことし手みやけ獻

殘道明寺煎餅等持參則止宿ス

一今夕夕立かゝらんとして雨なし遠雷並電のミ四時前就寐

○廿日庚子薄曇ヨリ四ツ頃晴大暑風なし夕七時前ゟ大雨大雷七半時頃ヨリ雷雨止テ不晴

一今朝五時頃　公方様上野御成火留等例のとし五半時頃中通し有之四時前　還御濟

一今日風なし大暑昨日ゟ尙堪かたし八半時過ゟ宗伯馬喰丁へ又兵衛療治受ニ罷越傘持參いつミ橋

向ゟ雨にあひ候へ共未及大降馬喰丁へ罷越候て大雨ニ成候よし

一夕七半時過宗伯歸宅過刻の雷一ツ兩國廣小路へ落候よし此外一二ツ落候樣ニ覺候へともその所

詳ならず

一夕七時前淸見僕お久和迎ニ來ル大雷雨ニ付及七半時前雨止候てお久和兩人之子供携歸去

一今日余衣類むしほし夜衣類同斷八時過取入畢

一今日大暑ニ付休筆終日讀書消日今夕五時就寐

○廿一日辛丑曇折々小雨或は降或は止終日不晴

一今朝四時前ゟ宗伯出宅小川町邊飯田町並ニ本庄やしき大島長兵衛啓春院様湿見次右衛門方へ暑中見舞ニ罷越九半時頃歸宅

一晝後清右衛門暑中見舞として來ル白糖砂一斤持參雜談後歸去

一八時過宗又馬喰町ゟ又兵衛療治受ニ罷越ゆ處今日雨天ニ付又兵衛不來よしにて夕七時前歸宅

一夕方丁子や平兵衛爲暑中見舞來ル大白砂糖二斤持參且美少年錄三輯の巻の内三四不揃にてすり本持參請取おき壹貳の巻校訂いたし置ゆ分遣之雜談後歸去

一昨日の雷淺草見付前へ壹ヶ處八丁堀町家へ一ヶ處小石川猿樂町阿部やしき内へ壹ヶ處麹町九丁めへ壹ケ處外山の土手へ壹ヶ處已上五ヶ處へ落ゆよし風聞八丁堀にては二階にて女房かみゆはせゆ處雷落女三人即死麹町九丁めにては笊うり町家の軒下ニ雨宿りいたし居ゆ處へ雷落右笊うり即死阿部やしきにても即死壹人怪我人兩人有之ゆよし内壹人は飯田町のものにて仕事ニ參居ゆ而うたれゆよしこれは正説之四谷戸田因幡守殿下やしきの庭ゟ落大木さけゆへとも怪我人は無之よし戸田内湿見にて宗伯聞之然は六七ヶ處へ雷落たるなるへし

一今日冷氣に付けいせい水滸傳十二編上帙本文稿案取出しゆへとも出來かねわつかに半丁稿之今

夕四時就寐

○廿二日壬寅薄曇五半時頃ゟ欲晴無程快晴

一今朝五半時頃ゟ宗伯出宅麴町十三丁め久右衛門方へ暑中見舞ニ罷越手みやけ遣之鰻鱺にて晝食ふるまはれ候よし八時前歸宅

一八半時頃ゟ宗伯馬喰丁へ又兵衛療治受に罷越候處又兵衛下總はなれ山諏訪に參詣いたし候間明日迄休療始に付倅代療治ニ罷越候よし江崎やにて申ニ付待合せ倅罷越候而療治いたさせ七半時過歸宅

一今日も衣類むしほし一昨日の如し

一余朝之美少年錄三輯三四のすり本披閲晝後ゟ鏡花緣小說三四の卷披閲今夕四時就寐

○廿三日癸卯風なし大暑

一今日も衣類むしほし但しおミチ分之○宗伯少し中暑の氣味にて終日平臥

一薄暮としまやゟ注文のみりん燒酎人足持參代金遣之

一大暑ニ付休筆鏡花緣五六七のなかば迄披閲今夕五半時就寐今夕築地沖にてのろし□あけ□□如例四時頃まて之○渥見ゟお鍬草履取ニ來ルおミチ遣之

○廿四日乙寅甲辰　薄曇程なく晴大暑

一今朝ゟ晝前迄に傾城水滸傳拾二編上帙一の卷の内本文一丁餘稿之晝ゟ大暑ニ付休筆鏡花緣七の卷八の卷半分披閲夕方太郎を携お百同道にて筋違御門外へ逍遥無程歸宅四時就寐

一八時過ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衛療治を受夕七半時頃歸宅明廿五日公方様角田川にて釣　御成ニ付往來留ニ候へ共如例中通し有之候はゝ又兵衛可參左なく候ては參かたきよし同人申之云々

○昨廿三日朝清右衛門來ル申付置候のり入二帖中やにてかひ取持參廿四日早朝三田長遠寺へ參詣のよしニ付半藏御門外三宅内渡邊登へ返却のイキリス船圖說手紙差添一封にいたし右參詣方へ持參請取書取候樣申付わたしおく昨日之條下へ記しもらし候間追て此處へしるしおくもの也

一去ル廿日の雷にて震死のもの都合十八人のよし麴町九丁めミちにて男女童二人小もの壹人雨やとりの笊うり壹人已上四人八丁堀にて女三人兩國勾當宅にて三人橋にて驚死壹人あるやしきにて即死壹人怪我人二人この餘ハ忘却四谷邊並千駄木戶田下やしきへ落候には怪我なしと云

○廿五日甲辰乙巳　薄曇其後漸々晴但快晴にあらず大暑

一予無斷着綿入表ふとり妻乞紺屋へ遣しあいにひたさせ此方にてはり候樣おみちへ申付置候處心

得にていろあけに遣しそめちん貳匁五分のよし今朝おミち告之いろあけニいたし候ニ不及處不行届取斗ひに付取かへし候様申付おく昨日お百紺屋へ遣し候よし之

一衣類土用ほし昨日迄に大かた曝畢候ニ付今日ゟ曝書をはしむ一日に三箱つゝ出し候様昨日宗伯に申付おく

一四時頃清右衛門ゟかるこを以かねて申付置候土爐（ヒチリン）出來持參家内のものに請とらせ敗土爐ぬり直しのつもり並ニ享保中ゟ相傳の壹斗樽箕田やに申付飯桶に作せ候つもりかねて清右衛門へ申付置候間今日かるこニ遣之但かるこちん志れかね候間土爐代料遣し候節可遣旨申遣ス且又中屋ゟ小川半紙見せ本十帖差越し候よしにて今日右かるこにもたせ差越候バンせまく候へ共先預り置候趣是又返事に清右衛門方へ申遣ス

一晝前四谷久右衛門爲暑中見舞來ル鮎一折持參明日お祐子供携可參旨申之雜談後歸去○昨廿四日疊さし市五郎溝口やしきへ參候序のよしにて立寄候よし四月中ゟその身並ニ妻子一同時疫相煩ひ十二歲の男子は死去のよし暑中口上おミちへ申置歸去と云

一八時過ゟ宗伯馬喰丁へ又兵衛療治受ニ罷越七時過歸宅但角田川御釣　御成廿七日に相成候間廿七日は又兵衛休療のよし之

一夕方渥見覺重來ル深川下やしき筆者ゟ慶長記異本合冊三冊め筆工出來持參代料壹朱遣之但八十

四文過之十六〆廿迄合冊一卷料紙差添尙又寫しい樣覺重に談し同人ニわたし遣ス暮六時前覺重歸去

一林玄曠聟養子玄仲爲暑中見舞及年札來ル口上申置歸去

一今日も大暑ニ付休筆鏡花緣八の卷披閱畢今夕五時過就寐

〇廿六日丙午曇四時過ゟ晴風なし大暑

一四時前おゆうおますおてつを携久右衞門差添おさき同道にて來ル久右衞門は外用事有之よしにて早々歸去今夕惠正樣祥月逮夜ニ付如例茶飯料供獻備ニ付手傳の爲之夕七時過おきくも來ル各手みやけ持參一同茶飯一汁三菜の膳ふるまひ夕方おきくおさきは歸去ル淸右衞門方へ茶飯半猪口等遣之外地主江二膳めてたや養母江一膳遣之料供共十七人前之おますは淸右衞門方へ止宿いたし度よしにておさき同道スおゆうおてつは此方へ止宿

一兩尊御畫像如例奉祭之神酒そなへ餠甜瓜等獻備之

一當夏土用中酷暑去ル亥年巳來の烈熱にて實凌かねい程之事之依之休筆履務折々讀書消日了

一八半時頃ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衞療治受夕七半時前歸宅其間余曝書とり入れ畢今夕四時就寐夜中尤暑氣甚し

〇廿七日丁未大暑

一今朝五時前ゟお百同道にて余深光寺へ墓参同刻淸右衞門も參詣於墓處對面淸右衞門は先へ歸去於御位牌堂燒香の上和尙に對面いたし歸路小石川白山阿部あけ地山田吉兵衞方へ立寄吉兵衞病氣見舞且年始かね且く雜談四半時頃歸宅お百はおたんす町ゟわかれ本鄕金介町へ立寄蒼龍丸かひ取せ且白川やへ薪の注文申付四時過歸宅

一右他行中神明前いつミヤ市兵衞來ル宗伯對面右は泉市繼母死去の節の謝禮且暑中見舞並に金瓶梅二編稿本さいそく等の爲ニ手みやけ持參宗伯請取おく

一余歸宅おゆう先飯田町淸右衞門方迄退キお升を携歸宅可致といへ共日晝日さかりにㇵ間八半時頃ゟ歸ㇵ樣申付おく

一本鄕さゝや伊兵衞京智恩院かしかね役所惣元〆ニ付伊兵衞役引にて久右衞門右手代に罷成ル近々役所つとめㇵニ付おゆう義も今日中歸宅いたし度よしニ八半時過お祐おてつを携歸去飯田町淸右衞門方へ立寄おます同道可仕旨申之〇屋代太郞殿爲暑中見舞入來口狀取次のものへ被申置

一八半時頃西村や與八爲暑中見舞來ル余對面並ひくわし小折片木壹持參千代諸良著聞集畫外題年

號入來年いだし度よしにて持參卽刻持參之まゝ年號支干等來年分に直し遣ス並ニ八犬傳人物大錦畫ニ彫刻のよしにて右筆工書入稿案被賴之國芳畫にて倘下畫のまゝ之先つ預り置申ゆ用談畢て歸去

一今日も曝書昨日の如し三箱つゝ出之酷暑堪かたし今夕四時就寐

〇廿八日戊申晴大暑晝後ヨリ風あり依之凌易かり

一晝前本鄕二丁めさゝ屋伊兵衛來ル搦中見舞之余並ニ宗伯對面手みやけ持參雜談數刻歸去

一書齋ニ有之書凡十五箱今日曝し畢外四箱大本類遺ル

一鏡花緣上帙十卷め迄披閲畢夜に入五鳳吟四冊の内一ト(冊)披閲五時過就寐

一八時過ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衛療治を受夕七半時過歸宅

〇廿九日己薄曇晝の間晴夜ニ入又曇

一晝前お秀爲暑中見舞來ル手みやけ持參神田神主柴崎氏ゟ縫刺ニ罷越ゆ序のよしにて早々歸去

一晝前淸右衛門來ル過日申付ゆ石灰かひ取持參請取代錢遣之並世繼稻荷夏越ひなかた一つ持參是又はつほ拾文わたし遣ス〇過日中やゟ差越ゆ小川半紙見せ紙いろわろく板ンもせまくゆ間十帖そのまゝ返しゆ樣淸右衛門ニ示談則今日わたし遣スその餘榎田やゟ注文之飯桶等の事申之[illegible]聞

置右用事畢ニ早々歸去
一飯田町清右衛門店孫市祖母 名は志げ孫兵衛後家之 昨廿八日死ス七十六才當春病犬に足を傷られ京屋三九郎方にてうりゆ吉川元瑞傳法犬毒の藥を用ひ平愈之處右毒再發いたしゆ哉廿日頃ゟ足たるく且いたミ腹へさし込ゆよし醫師中暑のよしにて投劑依之終に沒スと清右衛門話之右志げが良人孫兵衛きじ橋外明地へ出茶屋渡世いたし少し文字ありその子金太郎は惡黨にて久離せられはやく死ス今の孫市も無頼のものゝよし金太郎か一子之繼父を助八といふ是又三四年前に病死せしといふ元祖孫兵衛は生學問ありし故文寶か假名世説にも載たりされとも世説に志るせしとくにはあらさる之
一晝後芝神明前いつミや市兵衛ゟ使を以ヤキ大まんちう一重山本山一斤半分入被贈之繼母三十五日の法事のよし之
一宗伯晝後ゟ六角火鉢の内を志つくいを以塗之八半時前ゟ馬喰丁へ罷越又兵衛療治を請夕四時過歸宅其後庭へ打水等馳走
一余五鳳吟小說四冊　内一冊披閲夕方入湯いたし今夕五時過就寐
一今日ゟ巽三疊ニ指置ゆ書箱の曝書之百巻入一箱半出之夕方余取入畢

○晦日庚戌立秋薄曇程なく晴風なし大暑夕方曇遠雷電光甚暮六時ゟ小雨程なく止五時過ゟ晴

一宗伯今朝ゟ取かゝり燈籠はり替畢如例年夕方ゟ燈籠をかけ候故之

一晝前久右衛門来ル本郷さゝやへ罷越候序のよし過日お祐等止宿之謝禮之晝前ニ付暫く留置かけ合の晝食ふるまひ歸去らしむ宗伯財布かし遣スト云

一夕方めてたや庄兵衛ゟ茶飯一汁三菜一膳おくらる

一八時過宗伯馬喰丁へ罷越又兵衛療治を受夕七時過歸宅明朔日は療治休日のよし之

一予五鳳吟小説二冊め一巻披閲今夕四時過就寐

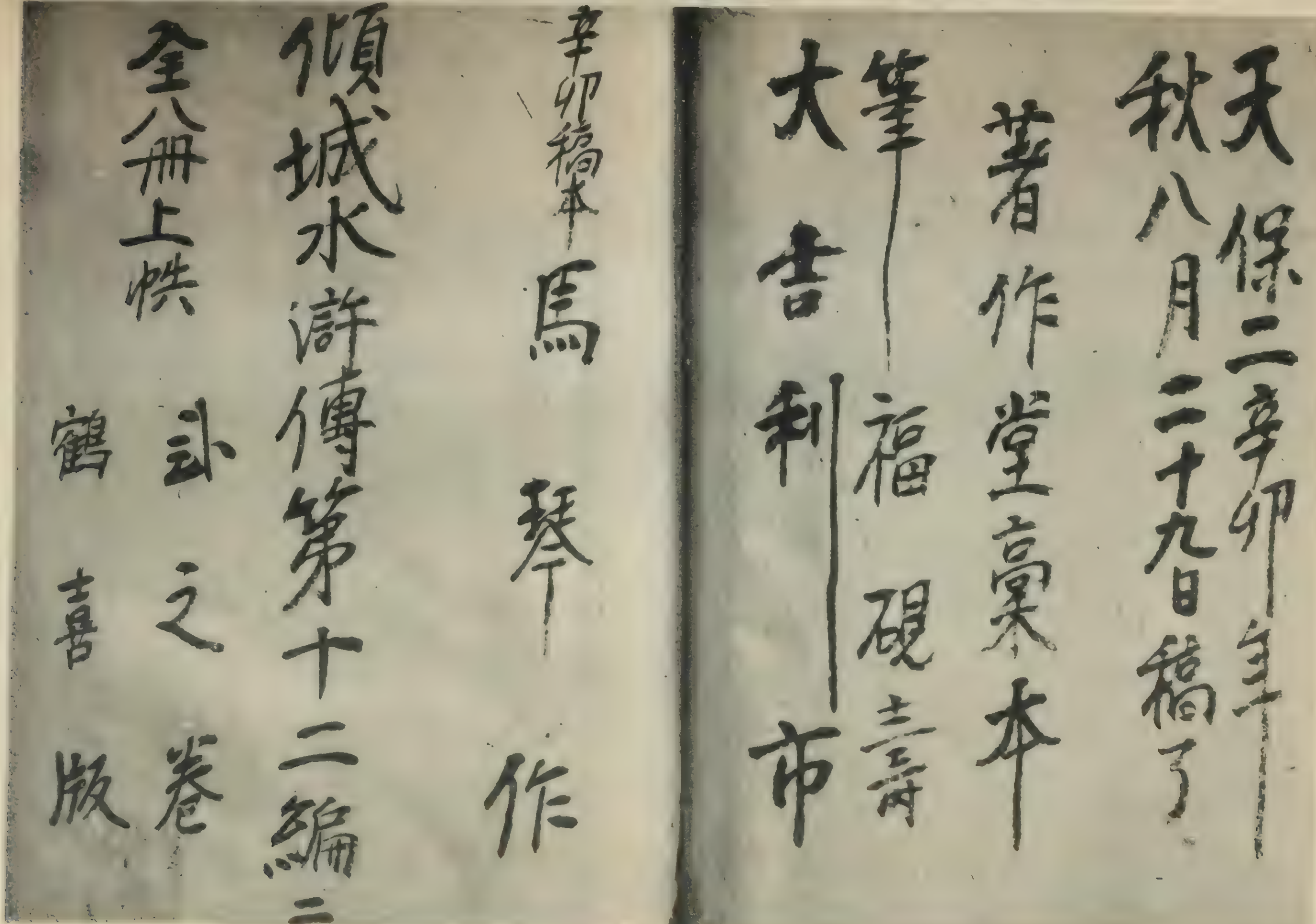
一今日も曝書連日のとし三疊書箱二つの内醫書類曝之

〆

○七月朔日辛亥薄曇八時過より晴大暑

一今朝清右衛門當日祝義來ルかねて申付候樟脳半斤小松やにてかひ取持參請取之雅言集覽前集近日幸便之節須原屋伊八板元ニ付件の店にてかひ取候樣申付書名かき付わたしおく須伊八清右衛門舊縁有之候よしに付下直に可買取スため之雑談後清右衛門早々歸去畢

一今朝宗伯曝書過半出し候處不霽且雨天にも可成樣子ニ付程なく取入畢然處八時過ゟ晴候へとも



（五）稿本「傾城水滸傳」第十二編一卷の後表紙及二卷の前表紙題署

時刻遅く成候間不出今日曝書休日之
一八半時頃宗伯飯田町宅ゟ罷越六月分賣藥うり溜勘定致し且入湯等いたし夜に入金錢携五時過歸宅〇今日又兵衞療治休日之
一予學睫並問答抄等三四冊披閲月代入湯等いたし且今夕四時過就寐

〇二日壬子薄曇四時前ゟ晴

一晝後丁子やゟ小ものを以大坂河内や茂兵衞狀屆來ル六月廿六日出六日限早狀遲着之右は俠客傳看板すり本一枚差越し校訂之事たのミ來ル
一金花山辨天旅所如例祈禱札差越之初穗百文右使へわたし遣ス
一八半時頃ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衞療治を受薄暮歸宅連日大暑凌かね候ニ付又兵衞出張隔日にいたし度よし申ニ付明日は休日と云云
一三疊本箱書今日も曝之夕方予とり入且庭へ打水等予執行
一今日五鳳吟三巻め並ニ四巻十八回迄披閲夜に入納涼如例今夕四時就寐
一下谷長者町新やしき萬や名物黄金水過日引札有之今日うり出しニ付買取ニ遣ス
一此節兩國西廣小路にて見世物大坂下り小童三人十二才九才七才右足力曲持かるわざ繁昌のよし

右はん付森や板一枚宗伯今日江崎やゟ持參近日　公方樣淺草邊御成の節　上覽可有之旨御沙汰のよし風聞橋場へ小屋かけ候よし之

○三日癸丑晴大暑

一晝後宗伯中暑にて腹痛甚し依之黑丸子服用效なし余おミちをしてニンニク街乾土等分煎用せしむ卽腹痛止ム尙又黃連香需散煎用夕方痊愈氣力平生のとし依之曝書とり入惣庭へ打水等いたし候程之

一薄暮根岸鈴木一郞ゟ小ものを以黑丸子二包求ニ來ルおミち代錢請取遣之

一五鳳吟四冊め十九廿回今日晝後ゟ披閱卒業晝前は新本類ふくろとりえらへはり入レおく今夕四時過就寐

○四日甲寅曇終日不霽

一晝前丁子屋平兵衞ゟ小ものを以校合出來候はゝ御渡し被下候樣申來ル但平兵衞義は富士登山旅行の留守のよし今夕頃歸府可致哉之よし申來ル何ゝ校合候哉わかりかね候へとも俠客傳看板之事と猜し候間右板元大坂河茂への返狀認右看板は直し居候間勝手次第すり込候樣申遣ス並ニ丁平へも其段ロ狀書を以申遣ス兩樣とも右使にわたし遣ス

一八時過ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衛療治を受夕七半時前歸宅但雨天ニ無之候へは明日明後日打つ
つき又兵衛りやう治いたし七夕ニ休候よし之
一宗伯他行中元祐來ル余對面同人事神田通り新石町馬のくらよこ丁へ轉宅先月晦日ニ移徙いたし
候よし之丑の春類燒後下谷土屋長三郎殿長屋借用罷在候處此節町宅もとのとし殘暑見舞右披露
の爲被參候之元祐早々歸去
一今朝書籍よミ本類取出し候へ共終日曇候ニ付はやく取入畢此分快晴の日又曝すへし
一●節壞抄越の道志るへ等披閲其後鏡花緣小說下帙十一卷め披閲畢
一鶴屋喜右衛門ゟ重入燒大饅頭廿九被贈事同人〔妻〕七七忌志のよし之
一今日は殘暑ゆるミ凌易かり今夕四時前就寐
○五日乙卯曇冷今夜四時前ヨリ小雨忽降忽止但多くふらず
一晝時清右衛門來ル爲七夕祝義索麪車鰕二種持參且小松やゟ被頼候よしにて葛粉小袋入壹持參且
藥種通帳も小松やゟ被頼差遣し度よし申之則わたし遣スおさき中暑にて少々不快のよし宗伯ニ
藥を乞則五貼　合いたし遣ス用向畢て歸去
一八時過ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衛療治を受夕七時過歸宅然ル處飯中の小石をかみあて候よしに

て例の口痛甚しく平臥灸治その外手當いたすといへとも卽效なし夜中に至りいたミ退キ就睡と云

一鏡花緣小說下帙十二卷め披閱七夕祭たんさく色紙おミち書之如例今夕五半時頃就寐〇終日曇り昨今冷氣之依之曝書に不及

〇六日丙辰曇終日不晴

一晝前まきを以地主杉浦淸太郎へ正月ゟ六月迄六ケ月分地代金貳兩壹分遣之則かよひ帳面に請取印形取之且如例索麪廿把一臺爲七夕祝義遣之

一宗伯口痛順快ニ付八半時頃ゟ馬喰丁へ罷越又兵衞療治受夕七半時前歸宅口痛針治等も爲致候よし之夜ニ入おミちに髮月代いたさせ四時前結畢明朝爲七夕祝義兩やしきへ罷出候故之

一晝前七夕たんさく竹南庭手水前軒端へ出之如例未脫俗之

一今日鏡花緣小說下册(帙カ)十三の卷十四の卷半分披閱

一夕方淸右衞門方ゟかるこを以百卷入本箱貳ツカナアリヤカコ五つ彼方に差置候よミ本類差越之過日淸右衞門へ申付置候によつて之此方ゟ大本箱壹つ遣之今度改尙飯田町宅ニ差置候書籍俳書

一式合卷一箱草そうし拾こり入壹外ニ惜字紙入柳こり壹等之

一今夕四時就寐

○七日丁巳晴折々雲起快晴ニあらす晝前ゟ風四時過より快晴

一朝飯後宗伯禮服にて出宅松前兩やしきへ罷出候ニ付歸路關忠藏方へ立寄同人病疾痊愈被致候哉尋候樣申付おく右廻勤畢て四半時頃歸宅阿氏病氣痊了先日出勤いたし候よし之

一快晴ニ付今日も曝書三疊本箱分大抵出し畢ル但唐本類柳こりニ有之分文庫ニ有之分かけ物等遺ル

一晝後伊勢丁いせや八右衛門と申仁ゟ越後塩澤鈴木義惣治來狀二通並ニ箱入寒さらしの粉等屆來ル但五月中の狀之新大坂町こんや忠兵衛二月十五日夜四時病死のよし此狀にてはしめて知る右忠兵衛は故鄕越後塩澤表町のもの丶よし義惣治年來の友老實の人之年六十餘なるへし年來越後の狀をよく取つきしもの之

一今朝四時過淸右衛門爲當日祝義來ル雜談後早々歸去

一晝前お百太郎を携妻乞稻荷へ參詣程なく歸宅

一晝後赤飯一汁二菜祝之如例家内一統祝畢今日も讀書ニ不及四時就寐

一晝後芝神明前いつミや市兵衛使札合卷金瓶梅三編稿本催促狀之大暑ニ付出來かね及延引之趣返

事ニ申遣ス

○八日戊午薄曇風(夕六半時頃より)雨(夜中止テ又降)風アリ天明晴

一今朝屋代太郎殿ゟ使札狂歌の名目はいつ頃ゟニ候哉と問る天正の頃狂歌流布この已前所見なきよし並に古今集俳諧歌續詞花集の戯咲歌後世の狂歌同一の趣なとあらまし回翰に注し進ス

一巽三疊そうちいたし本箱類元のとく直し漢籍つめかえ候ニ付宗伯執行おミち手傳そうちし畢其後予書籍見わけ宗伯すへて書箱へ藏之八半時頃藏畢今日も不及讀書今夕五半時頃就寐今夕の雨尤よし大ニ冷を覺此度改(書斎へは和書三疊へは漢籍置之)

○九日己未薄晴(風アリ)晝後ゟ全晴(終日風不止)

一昨八日雨氣催し八時過ゟはら〳〵雨暫時依之宗伯馬喰丁へ不赴療治延引今日八時過ゟ罷越夕七半時頃歸宅昨日又兵衛馬喰丁へ如例罷越待居候よし之然處明日は無據在宿いたし候ニ付休日と云云

一晝前關源吉後家おふく來ル予對面手みやけおくらる右用向は關源吉事法名至徳院墓所北向にて候處北向にては子孫絶候よし申もの有之甚心にかゝり候間吉凶承り度被申之北向にて凶と申事凡無稽の談にて取るに足らす候趣其外の事迄委細及示談右用談畢て歸去賴豪怪異傳前後九冊並に

古板合巻さらし四通り所望ニ付かし遣ス

一晝飯頃おさき來ル右はかねておゆう夫婦とやくそくにて今日龜戸妙見並に淺草觀音へ參詣久右衞門お祐等牛込揚場ゟやね船にて罷越筋違外に待居在候よし依之母を同道いたし度罷越候旨申之右ニ付お百食餌中に候へ共早々支度いたしおさき同道にて出宅終日舟行夜に入五時前おさきおゆうおますおてつを携母を送り來ル手みやけ持參夜中ニ付早々歸去

一晝後伊藤半平ゟ使札右は來ル十三日祐清信女十三回忌相當ニ付大まんぢう一重被贈之カス十三之則返翰遣之

一ほしのこり書籍今日出之唐本類軍書類自作よミ本合巻類之明日にて書籍の分は曝し畢るへしかけ物等猶あり今日も休筆讀書にも不及消日畢今夕五半時頃就寐

○十日庚申晴風夕七時前より薄曇夜ニ入又晴夜中猶風

一晝前淸右衞門來ル六月分八百長上家ちん持參今朝はやく罷出淺草へ罷越歸路のよし是ゟ又油丁問屋へ罷越候よし申ニ付右序にはま町伊藤半平方へ罷越候樣申付野菜代金壹朱並ニ手紙一通淸右衞門へわたし半平へ遣之但差置候樣申付遣ス

一松前御隱居附大野幸次郎蠣崎伊三郎連名奉禮ニ宗伯方へ來ル右は如例金百疋つゝ宗伯並ニ予ニ

被下之予代筆にてうけふミ認め遣之

一池の端書肆すはらや伊八事同所宅地引拂須原や源介方へ同居のよし札出し有之ゆよし今日清右衞門申之右は雅言集覽須伊にてかひ取ゆ樣過日申付置ゆによりて不急事に付向後心かけ幸便之節かひ取ゆ樣申付おく

一書籍類家記著錄迄今日不殘曝書畢ル明日ゟかけ物類出しゆつもり宗伯ニ申付おく○今夕庚申祭獻供如例四時過就寐

○十一日辛酉薄晴風烈晝前ゟ快晴明曉風晴

一昨十日深夜駒込通りのよし失過(火)有之金澤町出牛鐘聞ゆ然共火元不詳遠火なるへし風烈ニゆへとも消滅畢

一今日ゟかけ物類曝之篚物は軒下へ出しよろしきものは壁へ掛之

一昨十日橋本喜八郎殿おく方ゟ家來與右衞門を以合卷さうしかりニ來ル代夜待蝶々かんさし校本並ニかんそ傾城水滸傳新板一部つゝ已上四通り貸進

一今朝予お百太郎を携出宅先淺草寺町西照寺外祖母妙康信士(女)墓參りいたし淺草觀音へ參詣夫ゟ今戶慶養寺外祖父潔龍信士墓參りいたし寺へ如例盆供施入且又新町白山權現へ參詣太郎お

次等當春順痘の賽願を祈念し畢土手通り大音寺前上野山内通りぬけ夕七時半時前歸宅後早々入湯し畢太郎今日始終步行但歸路坂本七丁めゟ上野下寺通り中程迄凡十町餘り余脊(背)負ひ候のミ之夫ゟ又歸宅迄步行畢

一西照寺外祖母の墓本堂わき向ふ大和屋といふ大石塔の傍ニアリ康□居士ト戒名二本たかの羽のもんたきめうかのもん石塔ニほりかけ有之水鉢ニ武田氏ト彫り有之候處二たんめ臺石紛失右苗字は水鉢右過半土中ニ埋れ候故わかりかたし下壇石土中へおちいり候哉或は寺にて取捨候哉難斗施主疏遠ニ相成候石塔は下たん石取すてちひさくいたしゝ事いつれの寺にも有之疑ふへし西照寺は普請前ゟ伊藤半平ゟ施入いたし來候之慶養寺は先大人の時ゟ當家にて施入之

一八半時前ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衞療治を受夕七時過歸宅のよし

一余他行中築土明神下豊さし市五郎來ル右は當四月中時疫にて今以仕事にも出てス且子供も同樣相煩ひ十二才ニ成候男子病死いたし彼是にて困窮至極に付出入方へ合力相願追て用向有之候節賃銀にてさし引候つもり金貳朱借用仕度よし願候ヘかれとも留守中ニ付おみち聞置候處後刻又來るといへとも其節は宗伯も他行ニ付尙又明日可參よしおミちへ申置歸去といふうきふもち一包カス廿小兒へ手みやけ持參

一今日遠足疲勞ニ付五半時過就寐鶴屋せり□吉は伴頭嘉兵衞の父之先月ゟ卒風にて昨十日死去スといふ今日江崎にて右之噂あり宗伯聞之云

〇十二日壬戌晴四時頃ゟ風あらす但し大風ニ秋暑甚

一今朝五時過ゟお百深光寺へ墓參夫ゟ牛込龍門寺圓福寺へも墓參可致よしにて早朝ゟ罷出歸路飯田町宅へ立寄休息致し夕七半時過歸宅

一晝前疊さし市五郎來ル昨日願之趣聞屆則金貳朱かし遣ス尤當三月中疊かえいたし候間當年用向無之候へ共追て疊替への節賃銀の內にて差引可申夫迄遣ひ候樣おミちを以申渡しとらせ遣ス

一今日かけ物上の口並ニ卷物等とり出し曝し畢

一八時過ゟ宗伯馬喰町へ罷越又兵衞療治を受夕七時過歸宅明日ゟ十五日迄盆中療治休ミ候よし之

一夕七時過余池の端七軒町福常寺へ詣祐靜信女墓參いたし寺へ香てん十疋進上法談中にて聽衆參會本堂取込ニ付不及燒香夕七半時頃歸宅

一暮六時頃渥見覺重ゟ使札慶長日記異本第五卷め深川ゟ寫し出來し差越之則前のかし八十四文筆料差引貳百廿六文差添返書遣之過日おミちゟお久和へ取次賴候もめんいともお久和方ゟ出來有とりちん百文遣之

一八半時頃淸右衞門來ル是ゟ深光寺へ盆供持參可致旨申ニ付此方分米錢一包ニ致しわたし遣ス並

ニかまくらかし「とし」まやに醤油酒注文書通行之節届くれ候様申付もたせ遣ス

一今夕昌平橋外草市ニ付如例宗伯並ニお百太郎を携まき召つれ両度罷越如例諸かひ物かひ取四時前歸宅

一大暑ニ付不親筆硯少々抄録物いたし且月代外出等にて消日畢今夕四時過就寢

〇十三日癸亥薄曇風なし昨ヨリ秋暑蒸熱堪かたし巳時前より快晴

一今朝諸靈祭盆中祀棚宗伯造之四時頃かざり畢

一四時頃ゟ宗伯松前役所に罷出如例六月分迄之扶持代金請取四半時頃歸宅昨日右役所ゟ使札ヲ以案内有之候によりて也

一今日もかけ物類曝之大ていに今日にてほしをはる

一靈棚迎團子截後すゝ木牧之ゟ到來の寒さらし白玉の粉有之則用之並ニ寒さらしもろこしの粉當月七日ニかひ取置候而此兩様團子にいたし今夕供之

一夕七時前ゟ余如例年深光寺へ墓參夕七半時過歸宅宗伯は留守致させ庭に打水等いたし一同行水後暮六半時頃於玄關前迎火燎之則今日ゟ奉祭諸靈也

一夜ニ入六半時過清右衛門來ルそうち金貳兩如例持參則受取畢並ニ孫兵衛後家ゟ到來候よしにて

大西瓜持参おさき方へ右之園子一包遣之淸右衛門五時前歸去

一今日秋暑尤甚し今夕四時過迄南縁頬にて納凉四時過就寐

○十四日甲子曇今朝五時過より朝立雨但多くふらず止其後薄晴

一今日ゟ諸靈江朝晝夕三度つゝ料供獻之右献立は別ニ志るせしものあり舊例のとし家内これにまりて執行

一今夕甲子大黑祭七色くわし並ニ燈明獻之如例

一岡崎屋源兵衛小もの釘代長崎や平左衛門手代半兵衛藥種代各乞ニ來ル則代銀宗伯おミちを以わたし遣し請取印形取之

一庖丁小刀類一切余磨之夕七時前ゟ蒸熱堪かたし

一夜食後薄曇暮ゟ余宗伯同道にて飯田町淸右衛門方へ罷越土爐代淸右衛門へ渡之並ニ中屋紙代小松や藥種代宗伯罷越金子渡之請取印形取之置

一淸右衛門婦姉よねゟ先月中菓子一袋被贈之右返禮として明十五日水くわしかひ取遣し候樣おさきへ申付代錢百文わたしおく並ニ盆後多吉方にて松蟲鈴蟲かひ取候樣おさきへ申付[illegible]文代錢わたしおく盆中料供手傳の爲久右衛門娘おますを淸右衛門方へよびよせ此節止宿のよしこ

一清右衛門方ニ差置候俳書類今夕卷數改候處はせを句解一册不足ニ付尚又とりしらへ候樣おさきへ申付且西行家集徹書記物語鷹百首各一册岳録槍棒圖曲馬閑記二册詩類抄錄今夕携四時歸宅其餘羅文居士詠草等別にからけ歌書類も見わけおき此分大切ニいたし候樣おさきへ申付おく

一昌平橋先月中ゟ御かけかえ御普請相濟一兩日前ゟ諸人通行余父子今夕通行ス

一今夕歸宅後納涼九時就寐

○十五日乙丑曇天明ヨリ雨程なく止五時過四時過兩度雨止忽晝前ゟ晴風其後又曇風薄暮ゟ雨止折々風烈

一今朝四時頃田口や藤兵衛來ル手みやけ持參予對面殺生石五編稿本催促之少々冷氣ニ赴候はゝとりかゝり可申もし間に合かね候はゝ來年へまはし候樣半次に斷おく本夏秋大暑にて一向に机にかゝりかたき故之雜談後歸去

一四時過如例深光寺所化棚經ニ來ル布施半紙遣之來ル廿三日施餓鬼執行のよしにて佛餉大袋壹被贈之お百請取おく回向畢て早々歸去

一今朝雨天且宗伯少々不快ニ付松前家へ當日祝義ニ罷出候事延引ス

一宗伯おミち太郎等生身魂祝義今日晝膳魚肉たへ候樣申付おく余お百は十三日夕ゟ十六日夕迄精

進之

一おミちあね聟芝田町宗之助長女お定卯十九才去ル七夕夜中逐電いたし今以往方不知よし昨十四日おミち老母ゟ片便りにて右之趣書中ニしらせ衣類櫛笄等もち出候よしニ付淫奔なるべし

一今日も諸靈江料供並ニもり物等種々如例年獻之

一八時過ゟ宗伯松前兩やしきへ罷出今日　內府樣大川筋御成ニ付中たんぼ往來留ル依之坂本へまはり下やしきへ罷出候よしにて夕七半時過歸宅

一晝後淸右衞門爲當日祝義來ル如例蓮の飯中村やにてかひ取持參則代錢遣ス同人爲中元祝義母へ菓子料金貳朱進上いたし候由之蟲かご二つ遣之盆後むしかひ取候樣申付候故之右用向畢て歸去

一余徹書記物語並西行家集披閱下女まきへ金壹朱遣之中元祝義之

一今日は秋暑ゆるミ大ニしのき易し薄暮としまやゟ注文之醬油酒等かるこ持參則代銀運ちん遣之

今夕四時就寐

〇十六日丙寅今曉ヨリ雨風アリ晝前ゟ終日大風雨夜中同斷明朝迄無間斷東北風之

一靈棚如例朝料供獻之畢て如例挽茶獻之四時ニ至り持佛壇へ奉納宗伯御棚を撤し畢今夕於玄關前如例送火燎之於是盆祭畢但北風の處晝前ゟ東風まじりいろ〳〵ニ吹候故玄關敷臺迄雨吹入候間

之關ひ板を敷にゝろくの上にて燒之

一終日風雨ニ付北並南の方も雨戸過半たて置ゆ間書齋坐敷向うすくらくゆて讀書もなりかねいたつらに消日了今日使札來客等なし商人も不來晝夜大あれ之依之今夕五時過就寐但未時星祭獻供等如例

○十七日丁卯大風雨昨曉ヨリ無間斷朝五時過ゟ終日小雨風は猶烈シ夜中彌風烈折々小雨北風之

一昨夜鼠北之三疊ニ入西瓜を喰ひゆよし今朝おミち見出し告之昨日小くらくゆ故晝ゟ内へ入りしなるへし西瓜はとり捨ゆ様申付おく

一今日も風雨昨日の如し終日一二冊つゝ讀書消日了今夕四時過就寐

一使札客來等なし宗伯奇應丸袋の板摺之少々袋つぎおく昨今雨天ニ付又兵衞療治今日も休ミ之十三日ゟ五个日休療

○十八日戊辰曇風今朝ゟ雨止ム風も少々やはらく未至全風書後八時過ゟ風止未晴

一葡萄棚兩日の大風にて破損此方臺所庇へ落かゝり向ふはね揚危く見えゆよし今朝宗伯見出し告之然共ぬれ庇にて容易ニ登かたしまつ〳〵其儘さし置ゆ様及示談

一今日巳まちニ付宗伯辨天祭獻供等如例今夕祭之

一晝時前下そうちのもの納茄子貳百五拾持參尤納物之節は晝食被下候樣地主ゟ被申越候由申之然ル處茄子三百納め可申處五十不足いたし候義いかゝトおミちを以尋させ候へは壹人ニ付五十つゝのつもりニ付貳百五十納候よし申之此方人數小兒共に七人に候間是迄六人前之つもりニ干大根納來り候大根は三百本納候事承知に候哉と尋させ候處大根も二百五十本納候つもり心得罷在候十五才以下は入數ニ入レ不申よし申之左候へば是迄ゟ大根五十本不足ニ成候茄子は是迄納候事も無之此度新規之義ニ付迷惑ニ致候はゝ納ルニ不及持かへり候樣申付させ處大根之義三百本納可申茄子も折角持參仕候間百五十受取くれ候樣申之外々と同樣の數ニ納め候はゝ格別百五十ニ不足いたし候てはいよ／＼受取かたく候間持かへり候樣申付不殘かへし遣し畢

右下そうちのもの是迄之もの懈怠にて且納大根も不足候間去寅十二月中地主杉浦清太郎繼母取斗下そうち取かへ候つもり此度申付候そうちのものは干大根の外夏に至り茄子一人前五十つゝ納可申よし申之此外人數六人ト申談し候て別に存寄も無之候はゝ隣家常貞ト三軒組合ねりま伊左衛門と申ものに申付度よし被申候間任其意當春ゟそうち引かへ右伊左衛門ニとらせ候然ル處右伊左衛門義一ツ橋外明地前武家そうち取候ニ付此方三軒之下そうちは代りのもの差出し候よし當三月中參り其段屆候之一體最初此方にてかけ合ニ不及杉浦繼母萬事一存を以取極候故かや

ら間違出來候此度納茄子五十不足いたし二百五十受取候へは冬に至り大根も五十本不足に納候
事故此度之茄子は不請取冬に至り干大根三百本納候樣今日おミちを以かけ合せとり極メ候畢ぬ
五節供毎に少々つゝの野菜持參いたし來り候處當七月は其義も無之當月茄子納め候故減し候事
と被察候これらの義は聊之品故一向申も不出いさゝかも貪り候樣成鄙劣之所存無之故かくの如
し杉浦繼母女義の事にて自分勝手宜キ樣にのミ被致候哉かくのごとき間違出來候之茄子不請取ニ
付晝食たへさせ候にも不及已來とも此心得あるへし迚忘に備ん爲巨細ニしるしおくのミ
一ふたう棚くつれ落候處余見分いたし候へは南の方面の前角ホゾヌケ庇へ落かゝり北の方はねあ
かり候右うけ柱よほと朽候樣に見え候處元のごとくおしあげ候而已後又風烈之節再落候はゝ彌庇
損し可申候間落候處庇へ敷板いたしそのまゝ差置ふたう熟候後うへ木やニ申付棚取拂せ可申旨
宗伯ニ申付候間宗伯右之通取斗つなきには竹を入れ當分凌キニ取繕ひ畢ぬ一體右之棚追々朽候
而危く候間取拂せ申度存候へ共當年は子の方大將軍並に大煞に當り候故憚り候而そのまゝにい
たしおき候へ共追々朽候間九月頃破日なとをえらミ酉の方方●ゟ拂せ候つもりふたうの株は亥の
方ニ有之戌亥ゟ子の方ニ棚ある故之吉方ゟ取崩させ候はゝさのミ障りにも成ましき旨宗伯に談
し置く所右のごとし

一八半時頃ゟ宗伯馬喰町又兵衛出張江崎やに罷越療治受くお百義も昨日ゟ持病の頭痛つよく候處いたし候よしニ付すゝめ候而宗伯と同道又兵衛療治を受しむ母子共夕七時半頃歸宅療治後お百頭痛大にかろく成候よし之

一十六十七兩日之大風雨にて野菜を吹たふし候よし稻も早稻は穗出候而おもく候間よほとあたり候よし之午去始終北風に候故本所深川邊の川々は平生に不替只水のにこり候のミのよし今日深川又兵衛に聞候よし宗伯告之

一余著述に取かゝるへき處氣分すゝます候故今日も慶長年中記等舊錄披閱消日今夕四時就寐

〇十九日己巳薄曇風し晝前ゟ薄晴風アリ晝後七時前ゟ風止夕方蒸暑薄暮前地震

一面友の儒者琴臺事東條又左衛門近邊通行のよしにて爲殘暑見舞來ル口狀取次のものへ申置歸去

一十六十七兩日の風雨にて千住邊出水いたし往來一兩日不自由野菜買出しに行あき人梅わか堤ゟ千住へ到るといふ風聞今朝死馬一疋兩國川に流れ來りしといふ噂あり出水故歟

一八時過ゟ宗伯並ニお百同道にて馬喰丁へ罷越又兵衛療治を受七半時頃歸宅

一新武家冊閑談合十冊無〔外〕題ニ付今日右外題書之毎卷に貼し三冊披閱夕方蒸暑に付納凉今夕四時就寐〇杉浦織母ゟ太郎方へ切餅三つ到來

一八半時頃清右衛門來ル十五日に參候まゝ之申付候九段坂近藤家中渡邊良太夫ゟ越後塩澤鈴木義物治書狀屆之候よしにて請取書持參並ニ過日申付置候松蟲多吉方にてかひ取持參鈴蟲はよく不鳴候故猶吟味可仕旨申之雜談後歸去但過日おさきへ申付候進物は三匁の煎茶をかひ取遣し候よし清右衛門を告之

一隣家橋本喜八〔郎〕殿南屛風ニ有之候大もちの木一株同朋町元桶や今は金ひらの修驗某外兩三人にてぬきとりその身宅前へ持參のよしもらひ受候歟その故をしらす此方ニ不ㇾ干事なれ共垣隣之事ニ付記置のミ

一ぬたう棚の事子の方大將軍歳殺金神等にて犯しかたく候へ共七月は子壬ニ候へ共天道天德ニて合の吉星めくり候故廿八日破日ニ上の危キ桁のミ取おろさせ柱は來年迄差置可申哉之旨今夕宗伯ニ〔示談ニ〕及未決着七月は金風王する時節故もあり且當七月坎の方辛金酒客ニ當ル依之決着しかたし但廿八日は破日にて辰時吉辰之

○廿日庚午薄晴晝間全晴殘暑甚し

一うへ木や治右衛門來ルかねて申付置候ニ付明日ゟ可參哉之旨申之則ぶたう棚損シ見せ候處繕ひ候へは當分たもち候よし申之當年は子の方凶煞にも候へはつくろはせ候つもり申之隣家橋本殿

ゟ小石川小笠原家迄頼申來り當月廿六日子息の緣女內々にて引取被申候間その已前參りくれ候樣被申候間此方仕事仕舞次第罷越候つもり依之明日ゟ此方へ可參旨申之則その意に任せ明日ゟ可參旨申付候へは心得候て歸去

一八時過ゟ宗伯お百同道にて馬喰丁へ罷越又兵衞療治を受七半時前歸宅

一暮六時頃渥見覺重來ル先月上旬たのミ置候おミちひな長持取出しの事失念此節遣し可申哉之旨被申之則おミちの意に任せ候處もはやおそく成候間當年はむしほし致ましきよし申之猶又深川筆者寫し物之事被頼候ニ付近日原本かり出したのミ可申旨及挨拶雜談後五時前歸去

一今日殘暑甚し過日の風雨ニ玉川六鄕の間切レこミ池上へ水おしあけすゝか森兩三町御用船にて旅人往來のよし風聞馬喰丁ゟ宗伯聞來ルさしたる事にもあらさるよし之

一武家閑談十冊披閱畢慶長日記一冊半分校閱今夕四時就寐

○廿一日辛未薄晴

一今朝四時前うへ木や治右衞門並に同人弟金次郎倅鐵某三人來ル松ニむしつきかれ小枝多く出來間まつ松共こしらへ且庭の小草拔とり其上にてふたうたな損し繕ひ等いたし候樣申付おく○隣家常貞ゟ使を以うへ木や參候樣子ニ御坐候間柳の枝伐せくれ候樣申來ル常貞自分勝手萬事言語

同斷ニ候へ共いひ爭ひも無益ニ付平生此方ゟは何事も不言今日も承知候旨宗伯返答致すと云依之柳の枝伐透させ畢ぬ

一一昨日雇太兵衞江申付置候而今日本庄猿江山名頼母殿納戸役三人宛にて借用之慶長記異本五冊並ニあて板返上且事迹合考瀨田問答兩書之内借書仕度旨以手簡申遣ス晝後太兵衞歸來ル右返翰等持參然ル處事迹合考瀨た問答は所藏無之由にて慶長年錄二冊來ル慶長年錄慶長年中記等は此方にも有之よしかねて斷申置候處失念なるへし此方の本ゟ前之處不足同本ニ付早速返却之上外の書かり受可申ため尙又太兵衞江明日の使申付おく

一晝時淸右衞門來ルかねて申付候鈴蟲多吉方にてかひ取持參一昨日於途中お秀ニ致對面候處山田吉兵衞事盆前快氣の處十五日頃ゟ又不出來のよし之右雜談畢て是ゟ下町へ罷越候よしにて淸右衞門歸去

一八半時頃ゟ宗伯お百同斷にて馬喰丁へ罷越又兵衞療治を受夕七半時過歸宅〇過日之風雨にて玉川切込ミ水溢れすゝか森邊船わたしの風聞は全く虛說のよし昨日川崎ゟ參候ものニ聞候へは鈴か森大もり邊は雪踏にて通行のよし之右風雨上州邊にてはあらす一向障りなし近鄕北の方斗歟秩〔父〕邊の山水おし出候而なるへし此節米兩に四升値段上り候よしニ候へともさせる損毛ニは

あらすといふ今日馬喰丁にて宗伯右之趣を聞候よし之〇昨夜北三疊に鼠入候故余不及熟睡曉方追拂畢

一夕七時過お秀來ル吉兵衛病氣前書之趣にて少し快方には候へ共白牛酪用候はゝ可然と「云ふ」もの有之用ひ候ての可否宗伯へ尋ね可申ため罷越候よし之且く待せ候へ共お秀歸宅おそくなり候間いつれ兩三日中ニ朝の內宗伯を遣し可遣間樣子を見せ候て可及相談旨余示談且白牛酪は用ひ候とも効あるましく候へはまつ〳〵見合せ可然旨申聞おく依之お秀歸去宗伯歸宅後右之趣申聞明後日頃朝之內山田氏へ可罷越旨申之

一去年中製本の慶長日記考校本一ノ卷校閱畢今夕四時就寐

〇廿二日壬申曇四時前ゟ薄晴蒸暑風なし俗云油照之

一今朝五半時頃雇人足太兵衛を以本所猿江山名殿に遣し右之慶長年錄二冊返却外之書と引かへかし給り候樣近習書籍かゝり吉田三郎治大坪仁助池田欽兵衛迄申遣ス晝後使歸來ル談海後記全五冊到來日雇ちん錢遣ス

一四時前ゟへ木や治右衛門並ニ同人弟金次來ル伜鐵は用事有之外へ廻り候故可及遲參よし之先ぶたら椽の損し丈夫ニ繕せ且北の方樹木伐込ミ小草拔とり掃除にて終日之林檎大ナル方六ノ中ゟ

竈生し幹に穴アケ處々啖貫ゐ間今日治右衛門ニ申付小管を以て鹽水吹入させゐへ共とまらすなほ木粉出ルうへ木や今日にて畢ニ付兩日分拾四匁但仵鐵は手傳見習ニ付一日壹匁之今日四時頃ゟ來ル則金壹分わたし遣ス過壹匁は近日持參のよし之

一八時頃ゟ宗伯並ニお百馬喰丁へ罷越又兵衛りやうちを受夕七半時過歸宅此節近所ニ鳥のきも無之ニ付兩國にてかはせゐ處兩國にも無之よしいつミはし邊にてかひ來ル

一橋本喜八郎殿今朝門前にてお百に被申番丁細井ミのゝ守殿ゟ緣談とゝのひ廿六日ニ内々右媳引取ゐ間うへ木や早々參りかり込いたさせ度ゐ間其段治右衛門ニ申くれゐ樣被賴ゐよし則治右衛門ニ申聞ゐ處明日可參よし申之

一談海後記慶長十四年ゟ起ル壹の卷十六年迄慶長日記と校讐しけるに大かた違はす異なる條一二ケ則ニ過さるのミ寫させゐに不及抄錄にて事濟むへしとゑかれとも覺重賴ゐ其深川筆工寫したかりゐへは可遣歟猶全本校閲の上にてと思ふのミ今夕四時就寐

○廿三日癸酉曇（晝前より）晴殘暑風なし

一今朝五半時頃お百宗伯同道にて出宅宗伯はお秀に約束ニ付小石川白山下山田吉兵衛方に罷越病體診案腰痛長疝のよし藥乞ゐニ付遣しゐつもり歸路本鄕二丁め笹屋何兵衛方に立寄暑中見舞口

狀女房ハ申置候よし晝前歸宅お百は深光寺へ參詣今日彼寺にて施餓鬼興行によりて也お百は晝後歸宅八時ニ及ぶ

一四時過戸田因幡守殿內河合孫太郎來ル余對面五月下旬ゟ賴置候水滸後傳重訂本の評抄錄寫し百五十丁之內五十丁出來持參且五月中かし置候皿々鄕談新累物語被返之尙又同人所望ニ付弓張月前後二編かし遣ス雜談後歸去

一昨日むしとめいたし候林檎の木尙又むしくひ木の粉多く出候ニ付宗伯歸宅後尙又鹽水を筒を以ふき入畢ぬ度々吹入可然旨及示談

一うへ木や治右衞門印形並ニつり錢百十文持參則判取帳ハ手間ちん請取之印形致させ且昨日ふたら棚よこ桁結ひおとし候ニ付結せ畢晝後金次隣家かしの木刈おとしの小枝拾ひ取ニ來ル治右衞門等三人今日橋本喜八殿ハ仕事に參候によりて也○過日淸右衞門かひ取持參の松蟲鈴蟲いつれも不鳴

一お百深光寺ゟ歸宅後尙又宗伯同道にて馬喰丁へ罷越又兵衞療治を受夕七半時過歸宅明日は又兵衞療治休ミのよし也

一余孫太郎寫來候水滸後傳序文のミ校閱其後過日山名殿ゟ被貸候談海後記二の卷終り三の卷慶長

十八年の條迄以慶長日記校閲今夕四時就寐

○廿四日甲戌薄曇四時前ゟ晴殘暑甚シ

一昨廿三日晝後麻布おミち母土岐村氏ゟ使札おミちあね婿宗之介長女お定事七夕夜出奔密夫と神奈川宿ニ隱居候よし當月十四日に聞出し當日早速引戻廿二日迄土岐村元立方に預り居候處堀留町宗之介妹の方へ遣し候よし告來ル夕方ニ及ひおミち告之

一今朝四時過お秀來ル昨日宗伯ゟ賴療治候ニ付吉兵衛藥取の爲之則宗伯十帖調合いたし置候間遣之一日に三帖つゝのつもり四日めに藥取に參候樣示談受取歸去小兒へ手みやけとしてかるやき一袋持參之

一晝前大鄕金藏子息大鄕久米藏來ル手みやけ餅くわし被贈之近所通行之序殘暑見舞のよし之余對面雜言不及多談して歸去

一晝後家内並ニ余入湯その已前余談海後記慶長十八年迄慶長日記考訂本迄讐校慶長日記中へ異說書入畢

一夕七時前宗伯神田新石町馬のくらよこ丁土岐村元祐方へ新宅歡ひとして罷越皆朱菓子入壹箱入豬口一ッ遣之元祐他行のよしニ付同人内義ゟ祝義申置歸路屋代太郎殿ゟ爲立寄候處主人在宿に

て對面遺老物語全十七卷の内六卷借受携之七半時前歸宅

一今日隣家橋本喜八〔郎〕殿南の方板屛かけ直しゆ後此方の建仁寺垣の竹二三枚とり放しゆ樣子にゆへ共一向に斷も無之損しゆはゝ跡にて此方にて直しゆつもり宗伯ニ及示談〇今夕遺老物語壹の卷半冊披露(閲)悞寫の處ゟるしつけおき四時就寐

〇廿五日乙亥天明ヨリ雨五半時過ヨリ雨止四時過ゟ晴殘暑甚シ風なし

一門前脇菓子店橋屋普請出來今日見せひらきのよし昨日引札今朝小兒とも遣し落雁かひ取せゆへは麁末之團扇壹被出之

一八半時頃ゟ宗伯お百同道にて馬喰丁へ罷越又兵衞療治を受薄暮歸宅お百今日にて七ヶ日俗に云

一まはりゝ頭痛過半平愈ニ付療治休ミ可申旨申之

一余屋代氏ゟ賴ニ付彼人藏書今般借覽の序校考今日二之卷終迄雌黃施之而避暑の料とす

一八時頃淸右衞門來ル當月十九日のまゝ六ヶ日めにて來ル多吉ゟとりよせゆ松蟲鈴蟲不鳴ゆニ付返しゆ樣申付蟲もたせ遣ス然ル處鈴蟲は先刻おちゆよしニ付松蟲のミ返之但多吉方にて代料不取ゆよしニ付先日わたし置ゆ六十四文返却今日請取〇寫本料ミの紙淸右衞門久しく不參ゆニ付かひ取及延引則注文申付中やかよひ帳遣之然ニ明日は或人に誘引れ瀧の川不動の瀧に浴しニ罷

越候よし申ニ付明後日右ミの紙数持參候様申付おく雜談數刻歸去

一本所伊東主膳殿寄合五千石下屋敷にて鶴を射候事當時及露顯ニ付久しく御詮議當月十八日落着主膳殿は本多●（家）伊東修理太夫ゟ御預嫡子釆女殿は改易二男造酒允は追放その外家來數人或は追放或はおし込ニ成ル今日右書付清右衛門寫しを持參卽刻雜記中へ寫し置●おく　三千石以上改易は天明中藤枝伊織以來此度又有之

一韮山御代官江川太郎左衛門殿本所屋敷にて用人某元〆某に遺恨有之凡十人殺害いたしその身は自殺候よし風聞未知詳事

一昨●（今）日秋暑堪かたし日暮而端居して納涼四時前ゟ少し風出四時就寐

○廿六日丙子　今朝五時頃微雨但し多くふらす止薄曇風なし蒸暑晝前ゟ晴

一此節瓜茄子拂底にて且高直あき人不賣來候ニ付二番からつけ澤庵大根の樽口あけ今朝ゟ用之今朝成正様御命日ニ付則料供ニ用之供獻

一今朝四時頃ゟお百則太郎を携飯田町宅ゟ赴く今夕廿六夜待にて彼邊頗賑ひによつて也昨日清右衛門に申付候五帖の内二帖持參致候様申付遣ス夕七半時過下女まきを迎に遣し太郎負れて暮六半時頃お百歸宅申付候ミの紙携來ル

一闕□源吉姉のふゟ使札當月上旬かし置候怪鼠傳前後二編並ニ合卷さうし四通被返之使さし急候ニ付不及廻翰ふくさふろしきのミ返之

一八時過ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衛療治を受夕七時過歸宅

一余遺老物語第四東祖御遺誡六十二丁校訂處々施雌黄畢夜ニ入慶長日記考訂本四の卷十丁許校閲四時就寐

一今日うへ木や治右衛門等隣家山本氏に仕事に參候様子に候へ共かねて申付候いものつるとらすして歸去ル

一林檎の蠹とかく退治しかたく候ニ付今日宗伯ヤニ水を吹入候處又外へ穴ヲアケ夕方ゟ木粉出つ

〇今夕橋本氏子息の媳迎の様子にて內祝言有之

〇廿七日丁丑薄曇（今朝は涼し）其後薄晴（今日二百十日の處尤おだやかなり）夕方又曇

一遺老物語壹の卷料紙ミのかミ六十一丁差添且手紙認めまきを以覺重方へもたせ遣ス戸田殿深川下屋敷住箱島藤左衛門といふ人に寫させ可申爲之まき差置歸宅但覺重當番のよし之

一今朝五半時頃お秀吉兵衛藥取に來ル宗伯藥調合いたし尙又十貼遣之藥請取早々歸去〇するか茶屋さの儀ゟ注文聞に來ル則晩茶七斤申付遣ス

一八時過ゟ宗伯馬喰丁へ又兵衛療治受に罷越夕七時過歸宅
一夕七時過丁子や平兵衛來ル予對面美少年錄三輯三四の卷彫刻不足分五丁並同五之卷不殘彫刻揃
右校合之〔爲〕持參且俠客傳繪付一ゟ三冊分伊八彫刻の分出來是又校合の爲持參いつれも受取
おく將又美少年錄繪外題寫本見せらるとひら寫本寶つくしの分持參龍の方いつ方へ參候哉知レ
かね候よし且とひら稿北溪方へ度々申遣し候へとも無之よし申來候趣被申之繪外題は筆耕金兵
衛方へ遣し書入させ候樣示談とひらは寶つくしの方出來不宜候間近日別に稿本再案いたし可遣
旨申談し右寶づくしとひらの寫本預りおく平兵衛つほ入銘茶一斤すきや茶椀五被贈之右用談數
刻にして歸去夕方又來ル金兵衛淋疾平臥三四日中に快氣次第畫外題筆工かき入可申よし被申置
平兵衛早々歸去
一余は遺老物語五之卷屋代殿賴ニ付校訂施雌黃畢御遺戒餘稿石谷士入書に入之其後又六の卷本佐
錄の內七八丁校訂今夕四時就寐
○廿八日戊寅薄曇少し風あり
一昨夜小ねすみ南緣頰ゟ紛れ入候や深夜ニ入北三疊の方に居候間曉七時過より余不睡天明て追出
させその後小睡依之今朝は五時過起出例ゟ尤おそし

一晝後淸右衛門來ル過日申付候ミのかミ五帖之内三帖中やゟかひ取持參内二帖は一昨日お百持參によりて之倚又するか半切百枚かひ取中屋かよひ帳も其節一處に持參いたし候樣申付且小松やにて白黑砂糖かひ取候樣申付則かよひ帳遣之雜談數刻かよひ帳請取歸去

一屋代氏ゟ借用之遺老物語六の巻本佐錄悞寫校訂畢今般借用之六冊今日までにて卒業

一下女まき事かねて寺參の暇いとま願置候處今日參度し申ニ付晝飯後早々遣之本郷へ罷越倅同道にて參候樣申之夜ニ入六半時頃まき歸來ル

一夕方ゟ隣家伊東常貞飼猫此方巽三疊の通りの天井へ入候樣子にて内ゟ羽目をあばき候へ共不出余並に宗伯立出見候へとも闇夜にて詳ならす入候處も不知せんかたなく打捨置候處五時頃内ゟ羽子をはなし出去夕方臺處ゟ天井へ登り出ところを失ひ物置邊の羽目を崩し出候なるへし

一遺老物語校訂後美少年錄三輯初校に取かゝり候へとも淸右衛門罷越雜談にてひま入候ニ付やうやく三丁校之日くれては休筆今夕四時就寢

○廿九日己卯曇風アリ 折々吹かけ雨忽止多くふらす 今夜八時頃ゟ雨風少しアリ 今朝九時頃地震

一早朝宗伯昨日之猫出候處を見候半爲はしごをかけ處々見分いたし候處物置上の羽目をはなし有之臺處ゟ天井へ登り出處を失ひ内ゟ右之羽目はかし出候なるへし即刻宗伯修復いたし右之羽子

打つけおく

一朝飯後宗伯小石川白山邊山田吉兵衞方へ診脉ニ罷越藥はなほ遣りて有之ゆへ共お秀度々藥取に罷越ゆも不便に可有之故尙又藥七貼調合いたし持參遣之藥相當之様子にて少々快方のよし宗伯四半時頃歸宅

一晝前高松家老木村亘ゟ使札當三月中賴置ゆ讃州三田燒磁枕二之內一つ並ニ活花筒壹出來被指越之且水滸後傳借覽いたし度よし申來ルモ後傳は友人之たのミニ付評斗寫しに出しゆひて手元に無之趣且磁枕等の謝禮回翰に申遣ス

一晝後鐵砲洲炭問屋松本三郎治手代用向聞に來ル此已前の通りの直段之炭吟味いたし四五日中に差越ゆ様申付右兩に十六俵の口十五俵に成り直段上りゆへ共此度は同直に仕可差上旨申ゆ而歸去

一宗伯東境の大梅へからみ付ゆいものつる辛くしてとりおろしあとそうちいたし八半時ゟ馬喰丁へ罷越又兵衞療治を受ケ七半時頃歸宅疲勞ニ付今夕不睡ゆよし之

一余美少年錄三輯三四兩卷初度校訂悉雌黃を施し且晝前は月代いたし夜に入り休息四時就寐〇盆燈籠如例年今夜限りにて撤之

一芝神明前いつミや市兵衛手(み)せのものゟ書付を以注文申來ル神女湯十包則おミちニ申付十包使にわたし遣之別帳に記しおく晝後の事之

○八月朔日庚辰昨夜中より雨南風今朝四時前より雨止風は不止曇程なく又雨風止又程なく風雨ゟ晝後小晴　風は不止夜中風烈始終南風之曉風止但風雨之節遠雷一聲

一晝前ゟ晝後迄風雨南表へ雨吹入候ニ付坐敷書齋共雨戸閉置暗室ニ付予北の三疊に退キ俠客傳綸つき壹三五之卷とり合せ十八丁校訂是朝倉伊八彫刻の分之又美少年錄三輯序目口繪〆五丁校訂いつれも初校之すくらく候ニ付多く校するに不及今夕四時就寐

一晝後清右衛門爲當日祝義來ル過日申付候白黑さとう持參小松やかよひ帳も持參白砂糖壹斤ニ付八文直上ケいたし貳百文に成候よし之且外ゟ到來のよしにて赤飯小重に入持參雜談後歸去

一今日叔父米岳翁法名住要院日實十七回ニ付牛込圓福寺へ墓參可致存候處雨風ニ付不及其義晝後ゟ雨止候ニ付清右衛門にてもおさきにても名代として參詣いたし候樣清右衛門へ申付香てん百文花代等之事及示談多分おさき可參よし清右衛門申之○田原貞之進事五个年來不通之此方位牌へ煎茶かきもち等供之

一昨日大雨風ニ付宗伯持病之頭痛さし發り難義のよしなれ共神女湯能書百四十枚許の内百枚計摺



馬琴作
家傳神女湯 一包代百銅
精製奇應丸 大包代弐朱 中包代一分弐朱 小包代五十
熊胆黒丸子 一包代五十
製茶本家 神田明神下 瀧澤氏
弘所 元飯田町中坂下南側 たき沢氏
作
東

之

○二日辛巳晴風アり終日風南温熱

一清右衛門來ル七月分藥うり溜勘定いたし右錢並鍵帳面持參過日申付ㇾするか半切百枚中やかひ取持參錢は宗伯ゟ渡ス清右衛門雜談歸去

一八時頃ゟ宗伯馬喰丁へ罷起又兵衛療治を受七半時過歸宅

一火ともし前森や治兵衛來ル余對面金魚傳下編の下廿丁ほり立校合すり持參校合被頼之則請取おく尙又當分合巻の作被頼之大暑に付久々休筆當年は手まはしわろくㇾ間まにあひかね可申旨斷おく雜談後歸去

一余美少年三輯五の巻廿七丁半の內九丁不足のまゝ校訂畢其後との村佐五平ゟ被頼ㇾ水滸後傳評の內出來分寫本五丁校訂夜に入するか半切百枚つき立五時前ゟ休息四時就寝新製の磁枕今夕ゟ用之

○三日壬午曇風なし無程風出ル晝後風止終日不晴冷

一森屋板合巻金魚傳下編の下廿丁初校如例ほりよろしからず今朝ゟとりかゝり夕七時頃校し畢則まきを以右校合すり本中川金兵衛方へ遣しくろ木其外入木の處かき入之事口狀書を以申遣ス並

に美少年錄三輯とひら寫本先月中金兵衞方へ預ケおき候間穿鑿いたし候樣申遣ス右同人痢病にて引籠り罷在今以不致順快候間すり本はそのまゝあつかり置可申旨返事口上にて申來ル

一八半時頃ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衞療治を受歸路須田町池田やへ立より如例拂ぶたうの事致し可申旨申し談し森やへ立寄金魚傳下編の下稿本遣し候樣爲申入候處六月中右稿本改に差出し候處今に不相濟依之稿本手前に無之旨亭主申候よし尚又丁子やへも口狀申付美少年錄三輯とひらの事金兵衞方に可有之旨申遣ス平兵衞御番所へ罷出候よしニ付手代に申談置候よし之夫ゟ須田町池田やへ罷越葡萄之事談し候處もはや甲州も出候へとも今日は甲州ふたう不來依て明朝は荷すけなく可有之候間明朝はやく少々にてもとりおろし候樣亭主申之明朝人上ケ可申旨やくそくいたし候よし宗伯薄暮歸宅

一夕方ゟ余談海後記慶長十九年の卷披閲今夕四時就寐

○四日癸未曇無程薄晴夕七時前ゟ風なし蒸暑

一早朝ゟ宗伯葡萄とりおろし候內五時過須田町池田やゟ手代のものふたうとりに來ル則とりおろし候分遣之殘りは尚又夕方とりに可參旨申之せわしく候間今朝之分不數候へとも片荷餘有之旨十數房なるへし朝飯後宗伯尚又ふたうを採おろし畢先頃ゟ烏つき候てあらし候故よしとすけな

く成り且あらしゆ房も有之
一今日慈正信士祥月忌ニ付如例料供し家內終日精進之朝飯後お百深光寺へ墓參いたし晝前歸宅
一四時前お秀藥取に來ル吉兵衛少しつゝ快方のよし之宗伯如例藥調合いたし遣ス今日取おろしゆ葡萄紙ふくろに內れ遣之早々歸去
一晝頃丁子屋平兵衛ゟ手代使を以美少年錄三輯とひら稿本畫工北溪方ゟ差越ゆよし申之依之倘又畫せ可申哉と問しむ予右使に對面右寫本は六月中北溪ゟ到來稿本をかへさすゆ間筆工金兵衛方へ右寫本預置ゆ昨日此方ゟ使ヲ以金兵衛方へ申遣しゆへ共此節病臥のよしにて返事不分明ゆ今一應金兵衛方を吟味いたし彌金兵衛方にて寫本失ひゆはゝ北溪方へ申遣し畫せゆ樣示談に及ひ右とひら稿本使にわたし且又俠客傳繪つき十八丁伊八彫刻分初校すり本一綴よく直させゆ樣申ふくめ右使にわたし遣ス美少年錄三輯看板下書之事催促いたしゆニ付過日平兵衛へ談しゆ通り二輯看板すらせ早々差越ゆ樣是又申遣ス
一晝後須田町池田屋ゟ今朝の葡萄代金貳朱ト百四十八文遣之倘又とりおろしゆふたう遣之一體今朝のゟ多く有之ゆへ共あしき處不殘切とり捨ゆ故今朝ゟすけなく成りゆ尤屑多く出たり則大長籠一はい有之數不分則遣之宗伯他行中ニ付歸宅後右金錢宗伯へあつけおく

昨夜深更に及ひぶたうに賊つき候様子宗伯夜中小用に起候處その様子あり果して西の方の未だ
う四五十房紛失のよし今朝見候へは食ちらひし葡萄の皮並ニ屑はきために有之候よし之近隣の
もの昨日外へ參り夜ニ入八時頃歸宅のよしその節賊せしなるへしといふかゝる事折々あり
一晝飯後早々宗伯馬喰丁へ罷越又兵衞療治を受今日は川筋　御成ニ付又兵衞はやく參りはやく歸
り候よし之依之例ゟはやく罷越八半時頃歸宅
一夕七時前鶴や喜右衞門來ル余對面けいせい水滸傳十二編稿本出來候哉右催促の爲且彼人亡妻不
幸之節之謝禮等之予對面大暑にて久々休筆のよし及物語五月中綴りかけ稿本繪わり見せ近々取
かゝり可申旨申聞せ且當四月中校訂いたし置候けいせい水滸傳初編再板校合すり本わたし遣ス
雜談數刻夕七半時過歸去
一右同刻少し前に四谷久衞門來ル小兒へ田舍おこし手みやけ持參樹木ぶたう五房紙ふくろへ入遣
之早々歸去
一余談海後記四五日の巻披閱卒業其後慶長日記校合四の巻半冊弱校閱今夕四時就寐
○五日甲申晴風なし
一今朝五時前ゟお百宗伯出宅赤羽有馬やしき内水天宮に參詣右序に麻布古川大郷金枝宅江罷越時

候見舞口状申述夏中ゟ金藏息子久米藏折々被尋候謝禮も申述候樣申付且同人方へ手紙を以三才發秘借用いたし度候間林家ゟかり出しくれ候樣たのミ遣し樹木ぶたう籠ニ入十六房もたせ遣ス但し宗伯大郷宅に罷越候内お百は赤羽小橋茶店ニ待合せ候樣申遣ス右參詣其外大郷方用事相違し母子九半時前歸宅金藏當番ニ付子息久米藏に口状申述候よし之

一四時前淸右衞門來ルかねて申付候葛籠連雀油町澤田にてかひ取持參代料百六十四文遣之雜談數刻晝前歸去

一晝前丁子や平兵衞ゟ手代使を以俠客傳繪つき吉十郎方にて彫刻分十八丁校合すり本被差越之且美少年錄二輯看板の板見え不申候間三輯看板別に稿しもらひ度よし申之昨日の美少年錄三輯とひら金兵衞方を尙又穿鑿いたし候哉と尋候處昨日又たつねさせ候へ共彼方に無之よし申之然上は稿本早々北溪方へとひら寫本畫せ候樣示談申ふくめ遣し今日之校合すり本は請取おく右使早々歸去〇昨日麻布おミち母びくにおミちへ使札のよし之

一晝時頃ゟ俠客傳繪つき十八丁吉十郎方彫刻分校合訂之夕七時過校畢其後美少年錄三輯看板わり外題稿案夜ニ入校し畢

一夕七時頃渥見覺重來ル御主人在所出立來ル十一日のよし右立かへりの供如例被申付候よし告之

雜談少刻早々歸去

一今夕隣家橋本喜八郎殿に軍書よミ來り前坐曾我物語股野河津相撲の段後坐川中島五戰記二度の戰の段講之四時講畢北三疊總類にてはよく聞ゆるよし右もれ聞て四時就寢

一晝前關忠藏家内ゟ使札右は過日賴申越候傾城水滸傳並ニ金ひら船五へん之事とりよせくれ候哉と被問之今に幸便無之ニ付右板元に不申遣依之此方に有之候金ひら船五へん稿本合一冊遣之倚又右板元に幸便有之次第申遣しとりよせ可申旨及返翰

○六日乙酉晴 昨今朝夕は冷

一八半時頃宗伯馬喰丁へ罷越又兵衞療治を受夕七半時過歸宅

一八時過ゟお百太郎を携大傳馬町大丸に罷越宗伯夜着修復入花色もめんほられいわた等かひ取宗伯同時歸宅但歸路柳原にておち合同道のよし之

一余今朝美少年錄三輯看板稿本長一枚稿之且俠客傳給つき十五丁吉十郎彫刻分今朝ゟ宗伯に再校いたさせ右同樣今日宗伯馬喰丁行序に丁子や平兵衞方へ遣之然所平兵衞は淺草邊へ罷越留守宅ニ付手代のわかものへ兩樣ともわたし口狀くはしく申置候よし之美少年錄三輯とひら先達而畫キ參候もの畫工北溪方に有之候よし丁子や手代今日宗伯へ申候よし然は間違丁字やゟ又北溪方

へ遣し北溪方にて仕舞置候歟こゝろ得かたし

一看板稿染筆後慶長日記考訂本四の巻末迄校訂畢夫ゟ五之巻の内十丁餘校閲今夕四時就寝

一夕方お百他行中めてたや庄兵衛養母來ル過日遣し候ふたうの謝禮として鮑屑一皿持参早々歸去

○七日丙戌晴秋暑、□□の方曇暮六時前ヨリ雨多くふらす夜中雨止テ不晴明日二百十日

一今朝お百太郎を携飯田町清右衛門方へ罷越暮六時過歸宅然ル處日暮ゟ雨ふり出し候ニ付まきに傘もたせ迎に出し候へ共心もとなく候間引つゝき宗伯も罷出筋違内戸田表門前にて行あひ皆々同道にて歸宅太郎ひとへ衣少しぬれ候間早速足をあらはせ衣類をかへさせ畢小石川表寝藥町太けきやしき邊ゟ雨にあひ候よし之

一今朝お百に申付候小きく紙五帖中やゟかひ取持参覺重へ餞別に可遣ため之清右衛門事一昨日井戸端にて辷り撲傷腰痛にて今日も平臥のよし之

一八時前ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衛療治を受夕七半時頃歸宅

右已前須田町池田やゟ拂ぶたう殘り一口分金貳朱ト百文差越候宗伯則請取畢

一宗伯他行中小石川お秀方ゟ人を以吉兵衛藥取ニ來ル且手作の芋葉五本被贈之然とも宗伯未歸候藥不及遣右使も親類方ゟ使に遣し候人をたのミ差越候よしニ付宗伯歸りを不待して歸去

一余慶長日記考訂本五ノ卷校訂畢て異本慶長日記五冊めゟはしめて右一冊校閲畢今夕四時過就寐
一晝前丁子や平兵衞ゟ手代使ヲ以美少年錄三輯一二の卷初校直し出來差越之右請取置同書三四兩卷初校いたしゅ分直させゅ樣示談右使にわたし遣ス
一今日秋暑甚し夜に入雨後暑退く明日二百十日なれとも障りなし
〇八日丁亥曇冷氣終日不晴
一今朝四時前お秀藥取ニ來ル宗伯尙又十貼調合粉藥添遣之吉兵衞少〻不出來のよし之早〻歸去
一晝前山口や藤兵衞來ル余對面殺生石稿本さいそく之手みやげ兩種被贈之同人娘三才携來ゅニ付有合之弄物三種遣之用談畢て歸去
一晝後ゟ宗伯腹痛甚しく且水瀉のよしにて病臥ねひえの上中暑なるへし自療
一關忠藏寡媳おふくゟ使札過日被賴ゅ合卷注文水滸傳にあらす漢楚まかひ三編めのよし申來ル使さし置歸去
一予かねていせ松坂との村佐五平ゟ恵借の小說鐵花緣所載の藥方並ニ序文二編目錄等終日抄錄今夕四時前抄し畢尙可抄錄事少しあり今夕四時就寐
〇九日戊子曇冷終日不晴

一宗伯腹痛今朝迄未痊且折々水瀉のよし早飯に粥を用ふ服薬いたし候様申聞おく

一晝時前覺重ゟ使札遣老物語壹の卷寫し一昨日深川ゟ出來無人ニ付及今日候よしにて被届之則右筆料二百四十八文の處金壹朱遣之よつて百七十六文かし之尚又貳三の卷二冊料紙差添遣之

一晝後早々清右衞門來ルうち身腰痛順快のよし之七月分八百長上家ちん如例持參請取そのまゝおみちを以宗伯へわたしおく且先達而清右衞門方ゟ遣し候小芝居入替り役者附當時不用にて入物無之ニ付尚又飯田町へ遣し右本はこひ入置候様今日清右衞門ニ申付かよひ帳遣之右用向畢て清右衞門歸去

一飯田町清右衞門店辰右衞門入道昨八日死ス七十五才今日送葬のよし清右衞門申之

一予鏡花緣抄錄今日之分雜記中へ抄し畢八丁半に及ふ夜ニ入遣老物語壹の卷今日寫し來候を校閲悞寫し十丁許校之內亥時に成候ニ付就寐

○十日己丑曇晝後ゟ半晴夕方秋暑

一晝飯後早々宗伯馬喰丁へ罷越又兵衞療治を受夕七時頃歸宅戸隱奉納の梨子一包今日兩國橋ゟ大川へ流し候よし之

一夕七半時頃ゟ宗伯渥見覺重方へ罷越同人主人供にて立かへりに宇津宮へ罷越明朝六時出立によ

りて之餞別小きく五帖並ニ鰺ひもの十五枚遣之同人子供へ樹木ぶたう一包遣之かけ合の夜食ふるまはれ候よし薄暮歸宅

一深川桑島金藏過日寫し來り候遣老物語一の卷寫しさま甚不宜且一枚下つまり不用に成候も有之そのわけくはしくかき付宗伯を以覺重方へ申遣し宜く寫し不申候はゝとりかへし候つもり宗伯及かけ合桑島倅當番にて參居候間可申談旨覺重申候よし之

一余は過日深川ゟ寫し參候遣老物語壹の卷校訂うつしさま麁末にて筆さきかすれ悞寫も多く其上九丁め下つまり用立かね候も有之依之九丁め此方にて寫し直し幸して夕七時前校之訂（畢）其後寫させ置候慶長日記異本五冊崇正通書七冊水滸後傳評抄の內一冊ひやうし付白紙加入かりとぢいたし畢て慶長日記異本一の卷校閱の節深川筆者二枚押かさね寫し候處有之依之一丁落節に成候てその文つゝかす遊囊賸記寫させ候節もケ樣の事有之原本は先月中山名殿へかへし候間寫し足し候事もたやすく相成かね迷惑此事之いつれ近日山名殿へ使遣し壹の卷又かりよせ寫し足し可申旨宗伯へも申聞この義夜ニ入見出し候ニ付覺重方へは申つかはさす爲心得後にて申つかはすへし右校合半丁弱校して不果今日四時就寐

○十一日庚寅晴秋暑晝□より暫時雲立又晴

一今日羅文居士祥月御逮夜ニ付如例茶飯申付朝ゟ用意御畫像坐敷床之間江奉掛之神酒備餅樹木ふたう等供し奉祭之

一右ニ付四半時頃おさき來ル羅文居士江獻備ろうそく黄瓜外ニ手みやけ持參おきく此節腫物ニ付參りかね候よし言傳申來ル夜食後薄暮おさき歸去清右衛門方へ茶飯其外遣之

一八時前ゟおくわ祖太郎悌吉携來ル手みやけ兩三種持參夜食ふる舞夜ニ入五時前僕迎ニ來り歸去

一八半時頃歟予他行中お秀來ル新大さつまいも一盆羅文居士江獻備夜食ふる舞夕七半時頃歸去吉兵衛藥十貼宗伯調合遣之

一八時頃ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衛療治を受夕七時過歸宅

一八時過ゟ予深光寺へ墓參右出かけまきを召連ゆしま天神下油揚雁もとき花あけ等かひ取まきは先へかへして予は天神女坂を登り直に深光寺へ參詣まき不案内によりて右之通り取計ひぬ今日晝ゟ秋暑甚し予は夕七半時頃歸宅

一如例茶飯一汁三菜一膳羅文居士御位牌に備へ並ニ慈正院樣御位牌へも供之右殘地主杉浦氏江二膳めてたや庄兵衛養母江壹膳清右衛門へ壹膳遣之山田吉兵衛へも平膳猪口斗小重ニ入お秀歸り〔の〕節もたせ遣ス

一晝今朝ゟ慶長日記異本二冊め半冊ゟ校訂右一の巻の内十一丁め十二丁め押かされ二丁を一丁ニうつし丁附斗十一ゟ十三と飛こし付有之此義昨夕はしめて見出し候原本は先月中山名殿江返し候ニ付寫し直し手おもく甚めいわくの趣今夕おくわ江申聞おく此筆者は深川戸田殿下やしきに居候發島藤左衛門之來客歸去の後納凉今夕四時過就寢

○十二日辛卯晴（九時過ゟ薄曇）晝後ゟ晴（秋暑夕方曇入）夜ニはら〳〵雨忽止

一晝時さの□右衛門ゟかることを以注文之晩茶七斤遣之尙又追注文三斤近日差越候様申付書付右かるこにわたし遣ス

一今日羅文居士祥月ニ付今朝料供牌前江供し御畫像昨夕ゟ奉祭之昨夕ゟ今終日家内一統精進例のとし

一晝後早々宗伯並ニお百おミち太郎お次携まき召連深光寺江墓參香てん貳拾疋進上お次は傳通院寺内澤藏主稻荷へ參詣當春順痘の賽願之一同參詣宗伯のミ先へ罷越席參によつて之深光寺門前にておきくおさきに行あひ一同參詣畢ておたんす町ゟ立わかれ宗伯並ニ家内一同白山近邊山田吉兵衛方へ立寄夕七半時頃歸宅宗伯は吉兵衛胗脉の爲之

一家内留守中日々參候野菜賣罷越候ニ付予玄關江出白瓜直段付居候内隣家當貞老妻垣越ニ錢を出

し垣越ニ大根をかひ取右代殘八文此方玄關前へ投わたしゝ非禮傍若無人のいたし方ニ付予たへかたく右野菜うりを罵りいましめゝ處わびニ付尚又向後をいましめ用捨に及ひ畢

一今日慶長日記異本二三兩卷校閲の處深川筆者寫し遣しゝ落丁壹丁有之右今日はしめて見出しゝニ付ゐるしつけおく壹の巻にもケ様之事有之前ニ記すか如し今夕四時校畢四の巻のミ未校四時就寢

○十三日壬辰薄曇晝前ゟ晴

一晝後河合孫太郎來ル水滸後傳評抄錄四十八丁分出來且先月中かしゝ弓張月初二編被返之猶又所望ニ付八犬傳初編かし遣ス雜談數刻歸去

一晝前鶴屋喜右衛門ゟ使札鮮魚一折內小鯵五車えひ十之傾城水滸傳稿本さいそくの爲之返翰ニ謝禮其餘の事共申遣ス

一晝後八半時頃清右衛門來ル先日申付ゝミのかミ中やゟ五帖かひ取持參且七月中申付ゝ飯櫃之事箟田やゟ出來の處注文ニちかひ底ヲ杉にいたしゝよし申之杉にては不宜ゝ間拵直させゝ樣委曲及示談

一高松家中木村亘ゟ磁枕花筒國製之誂物代料不被取ゝニ付右返禮として煎茶器一具銘花の緣は家

相之謝禮ニ橋本氏夏中到來右之品返禮の爲互へおくり可申爲内ニ納候金米糖等かし足之水引かけ宗伯ニこしらへさせ手紙認並ニ鏡花縁二册かし遣し候ニ付一處につゝミ今明日中ニ屆候樣淸右衛門に申付わたしおく○且又おさくゟ去ル十二日おさきへとつけおくられ候砂糖つけ返禮として右うつわ物ニ銘茶を入且又明日屆くれ候樣淸右衛門へ申付渡之右用事畢て夕七時過淸右衛門歸去但木村氏へは明朝持參可致よし申之

一畫前大工寅吉來ル夏中申付置候上流し此節手透ニ付拵可申存候處宜材無之間挽せ可申哉之よし申之左樣いたし候ては格別高直ニ付候間材木有合候節可致候當冬迄にて宜き趣宗伯を以示談寅吉心得候て歸去

一今日傾城水滸傳十一編夏中畫置候畫わり取出し稿案之内客來引つゞきて多用ニ付不及夕七時過今日孫太郎寫し來候水滸後傳評抄錄二卷廿三丁許校訂且點裁今夜四時就寐

○十四日癸巳曇今朝五時頃小雨忽止夕七時頃ゟ又小雨七半時頃ゟ止夜ニ入四時前ゟ雨夜中止いつれも多く不降

一今朝四時頃ゟ太郎にはしめて灸治いたし畢チリケ外四ケ所腹氣海二ケ處いつれも十五帖つゝ之今日天醫日吉日己の時又吉時之

一八半時頃ゟ宗伯馬喰丁へ罷越㐂兵衛療治を受七時過雨中歸宅但傘携ゟ間飛々雪踏にて歩行し畢

一予昨日河合孫太郎寫し來ゟ水滸後傳評五十一丁ゟ九十八丁迄四十八丁校訂點裁し畢夜ニ入慶長日記四の卷校訂し畢慶長異本はこれにて五卷校し畢今夕四時就寐

〇十五日甲午晴美日夜中同斷快晴晝夜風なし昨今ゟ秋冷

一今日八幡祭禮ニ付如例鎌倉並ニ深川兩八幡神廟をかけ奉り神酒備餅供し奉祭之

一如例月見赤豆團子を製しきぬかつき芋枝豆等家廟へ供家內一統祝之畢

一四時過ゟ宗伯松前兩やしきへ爲當日祝義罷出九時過歸宅

一晝後淸右衛門爲當日祝義來ル木村亘へ屆物今朝持參の處返事かの方ゟ可致よしにてうけ取書持參若黨國越虎藏書面之雜談後早々淸右衛門歸去

一丁子や平兵衛ゟ使を以美少年録畫外題筆工かき入同看板筆工出來見せゟ而卽刻校閱筆を加へはりに出しゟ樣示談右兩樣の寫本使へわたし遣ス

一渥見氏ゟ使ヲ以深川久和島雲磴手紙並ニ寫し物見せに三丁來ル使さし置歸去其後披見右寫本校訂今夕返翰認おく

一いせ松坂との村佐五平賴之水滸後傳蔡評抄跋漢文之今朝ゟ取かゝり稿之四百言餘有之終日にし

て稿し畢

一今日終日快晴風なし此節大に秋冷ニ成今夕一天雲なし明月鏡のとし宗伯と南縁頬にて賞月冷氣にゆ間四時就寐

○十六日乙未晴 昼之内薄曇 冷氣

一水滸後傳評抄跋淨書之内度々文を易書直し再考に付終日之夜ニ入四時前稿し畢

一八半時頃ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衛療治を受夕七時過歸宅

一近所金澤丁加波山行者加持お百頭痛平癒の爲日々罷越今日は一廻り七ケ日に及ふ頭痛は過半順快ニゆ間(處)四五日來少し眼疾のよし今日迄七ケ日精進すといふ○丁子や平兵衛來ル美少年録三輯三四等貳はん校本持參

一薄暮土岐村元立來ル太郎へ手みやけおくらるかけ合の夜食ふるまひ六半時頃歸去昨日ゟ出宅今夕は土屋長三郎殿へ罷越止宿のよし之

一今夜跋文淨書畢て四時過就寐

一お次灸治今日八時過ゟはしむチリケ並脊(背)二个處十一帖つゝ腹氣海十五帖つゝ今日初灸之十四日にはお次生年ニ不宜ゆニ付及今日

○十七日丙午薄曇其後晴冷氣

一晝前西村與八來ル予對面千代褚良著聞集歲等直し問合せに稿本持參則直し遣ス並八犬傳にしき畫筆工かき入之事等示談歸去

一高松家中木村默老ゟ使札過日此方ゟ以使申遣候用向之返翰之國產馬の磁文鎭被送之過日の返事ニ付おミちニ申付請取書遣之

一丁子や平兵衞ゟ使ヲ以板木師伊八方へとめ置候俠客傳繪つき十五丁初校すり本差越之並ニ美少年錄ニ輯とひら金兵衞筆工かき入出來見せらる右校本はとめ置とひらは直ニ使ニわたし遣し且美少年錄ニ輯貳の卷二はん校合一冊わたし遣ス同書一の卷は昨日平兵衞へわたし畢今日二の卷ト序目口繪九丁貳はん校合二綴遣之あと此方ニ有之分三四の貳ばん校本五の卷十六丁內さし繪壹丁不足にて一綴俠客傳繪つき伊八吉十郎分貳ばん校合二綴等之今日終日右校合にて消日夜ニ入三の卷再校し畢

一大傳馬町との村店ゟ松坂表主人佐五平書狀屆來ル六月中遣し候書狀の返事代筆之三才發祕の事本居畫像ノ事等申來ル並ニ同人藏弃之日本外史此節平田大角へかし遣しかの方一覽相濟次第われら方へハし候樣大角方へ申遣し置候間云〻ト申來ル○當七月十八日入日之色青く見え候よし

も申來ル當日宗伯お百同行にて馬喰丁ゟ療治受に罷越候歸路柳原にて見候も同様にて入日の色青く黄ミ帶候よし其節薄曇ニ付雨風を帶候故歟とも存候よし今日宗伯申之

一八時過ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衞療治を受夕七時過歸宅右序に宗伯に申付にし村與八方へ立よらせ漢楚まかひ三編上下二袋とりよせ候關忠藏家内之たのミによりて之與八他行中ニ付伴頭祐藏ニ申談し候よし右本請取持參○今夕校合四時迄四時過就寝

○十八日丁酉晴美日

一今早朝お秀來ル吉兵衞藥乞の爲之昨日神田柴崎氏ゟ仕事ニ罷越昨夜止宿今日は歸宅のよし之吉兵衞少々大便瀉しいよしその外は替義無之趣申之卽刻宗伯藥十貼調劑遣之因而歸去

一晝時四谷久右衞門來ルおゆう事當月九日ニ癨亂いたし吐瀉有之打臥罷在候處此節は追々順快のよし尤此節[illegible]胎のよし之かねて宗伯等と約束いたし候當彼岸中祐天寺並ニ青山善光寺ゟ參詣之事明日時正ニ付參り候はゝ同道可致旨申之おさきもかねて同道のつもりニ付歸路飯田町へ立寄可申談旨申之宗伯は當春參詣之節遠方にて疲勞甚しく候ニ付此度はお百のミ可參旨申之久右衞門手みやけ持參かけ合の晝食たべさせ歸去

一晝後渥右衞門來ル先刻久右衞門參ニ前條之趣申談し候へ共おさき事此節ある人のすゝめにより

旗元衆隱居近所へ出張被致候療治の針を受日々かよひ候上明日は彼岸中日ニ付牡丹餅製しいつもりかれ是にて參りかたき旨申之然らはお百のミ可參旨にとり極候畢淸右衞門今日辨慶はし邊へ罷越候よしニ付闘忠藏家内たのミ漢楚賽三編上下組三へん之手かミさし添届くれ候樣申付並ニ村田宗淸にて如例黃軸點つけ筆三十本か〻取候樣申付代金壹朱わたし遣ス且淸右衞門所望ニ付書おろし眞書筆二三本遣之右用談畢て淸右衞門歸去

一夕七時前丁子屋平兵衞同道にて畫工柳川來ル外ニ同人同道一人有之蒲燒切手一枚被惠之御成道田中切手之茶並くわしを出ス右八犬傳八編近々稿に取か〻り候ニ付右さし繪此度は柳川一人に畫せ度よし過日平兵衞申といへ共先年不落着のいたし方度々有之候ニ付一應面談にてともかくも可致旨丁平へ申聞置候間今日同道のよし之依之右之趣かけ合ニ及ひ無滯畫キ可申旨うけ合候ニ付其趣に治定し畢右用談畢てみな〱歸去

一予今日美少年錄三輯三四五右三冊すり本校合にて終日之此内三四は貳はん校合五はなほ二丁不足壹はん校合之いつれも二度つ〻よみかへし校之畢

一宗伯ゟ校合手傳之美少年錄は不校之俠客傳畫つき吉十郎分十五丁貳はん校合よみかへし校し畢同書伊八分十八丁の内一二三丁再校其内薄暮未果右ニ付今日ㇾ兵衞療治休ミ候て馬喰丁へ不行

一今夕お次腹痛之樣子にて吐もし五時過ゟ就寐太郎も臥候後度々目をさまし二度吐き候よし　食の氣味時候あたりと四時前ゟ兩兒共熟睡

一今夕五時過ゟおミち積さし込難義の樣子ニ付丸藥等手當致しお百介抱いたし候へ共丸藥は小兒共ニのませ不足候ニ付予奇應丸をとり出し爲用之其後水天宮神符等いたゝかせ候而夜中ゟ順快

一宗伯義も夜食後ゟ頭痛いたし候哉之よしにて打臥居候内おミち積にて難義いたし候へ共一向不構依之お百藥のせわいたし余藥たんすの奇應丸とり出し候處宗伯存寄に不應依之如例癇症つよくさし發り候ニ付予辛してとり鎭め水天宮神符をのませ四時ゟ臥房へたすけ入れ四半時頃余並ニお百等就寐

○十九日戊戌薄曇四時過より半晴夜四時前ヨリ雨八時過ゟ雨止

一今朝おミちお次は順快太郎は未起出宗伯はなほ不快にて打臥居候へ共昨日久右衛門トやくそくいたし候事故お百は善光寺祐天寺へ參詣いたし候樣申聞今朝早飯後五時頃ゟ出宅先四谷久右衛門方へ罷越久右衛門同道にて右兩寺へ參詣のつもりもし疲勞候はゝ久右衛門方へ止宿いたし明日可歸旨申聞おく依之昨夕志之亡者の戒名二通認之回向料金壹朱お百へわたしおく雨かへいたし貳百文つゝ包ミ祐天寺善光寺へ布施いたし候つもり及示談右戒名は妙貞尼並ニ祐雲信士目眞

室宗如和相滿父子三名並ニ無名氏女卽空夢幻等之右兩寺參詣歸路ニ付目黑不動へも參詣暮六時過歸宅

一五半時頃宗伯起出昨夕癇症差發り不法之始末後悔のよし申之例の事なから自分にて心氣を取鎭め妻子に犂られ候はぬ様つゝしミ可然丁寧戒めおく○同刻太郎も起出氣分平生にかはるとなし

一今朝四時前屋代太郎殿ゟ使ヲ以崇正通書一二合卷一册かし被遣且過日借用之遺老物語六册之內東照宮御遺戒の卷入用ニ候へは一寸かへしくれ候様申來ル則右之一卷使へわたし返却悞寫朱を以校訂いたし置候よし口狀書ニ申遣ス右崇正通書當春借用寫させ候へ共一の卷外へかし置候よしにて三四合卷ゟ寫させ置候此節一二かし被申候故揃ひ候之

一晝後河合孫太郎來ル水滸後傳末迄抄錄四十一丁出來原本共持參寫し皆濟之筆料百廿四文かし有之右差引勘定いたし候へは金三朱に貳百十二文過之依之金三朱わたし貳百十二文尙又かしおく且今朝屋代氏ゟ被借候崇正通書寫しの爲渡し候料紙は先達而の分少々遺り有之よし尙又明後日可遣旨及約束右用談畢て歸去

一右巳前九時過淸右衞門來ル彼岸中日ニ付志之牡丹餅手製のよしにて一重持參且昨日申付候黃軸點付筆村田宗淸にてかひ取十五對持參且又昨日關忠藏家內への届物無相違届候由申之雜談後八

時頃歸去

一宗伯今日不快の樣子ニ付處俠客傳繪つき伊八分十八丁貳はん校合終日校訂夕方迄未果今日又兵衞療治休のよしにて不行之

一予崇正通書首卷披閲八半時頃ゟ今夕四時迄水滸後傳七の卷ゟ九の卷迄評抄廿九丁校訂點裁四時過就寐然處今夜不睡にて八時過ゟ熟睡右校訂急付故心氣靜ならさる故之

○廿日己亥曇ゟ(四時過)晴

一彼岸中ニ付志ら玉粉製團子家廟惣靈位ニ奉備之

一晝後橋本喜八郎殿おく方ゟ使札七月中貸進の合卷三通り被返之右爲謝義砧まきもち小一重被贈之請取返翰おミちへ申付遣之

一俠客傳畫つき伊八彫刻分今日宗伯再校畢

一八半時頃ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衞療治を受夕七半時頃歸宅

一予水滸後傳評抄ト冊四十五丁寫本校訂點裁今終日にて卒業夜中右三冊分とり志らへ四時就寐

○廿一日庚子薄曇夜四時ヨリ(終夜無間斷)

一宗伯今朝ゟ腹痛水瀉朝飯ニ粥を食ス過日癇症大發後今ニ不快例の如し美少年錄三の卷貳はん再

校宗伯終日校之今夜四時前迄ニ至ル未果

一晝後淸右衛門來ル一昨日申付ゆうすみの三十枚中やゟかひ取かよひ帳と共ニ持參歸路戸田殿内河合孫太郎へ屆ゆ様申付手紙認差添渡之早々歸去おさき五六日前ゟ旗本衆針治出張牛込へ日々罷越日々療治受ゆ處夜ニ熟睡いたし且むねはりゆ事は追々順快のよし今日淸右衛門物かたりにて聞之依之宗伯も右同人ニ治受可然旨今夕宗伯へ示談來ル廿六日天醫日ニゆ間廿六日ゟ罷越可然旨も申聞おく但廿八日ゟ右出張市谷邊ニ轉しゆよし市谷は西のかたへより歳破に近くゆ間牛込ニ出張の内はしめゆ様申聞おく

一予今日入湯其外雜用にて日を消し畢いまた著述ニ取かゝ(ら)す當年は尤不經濟之今夕四時就寐

一お百太郎を携本郷金介丁へ蒼丸子(蒼龍丸カ)買取ニ罷越夕七時頃歸宅同人眼疾ゟ(ニ付カ)今日ゟ宗伯療治にて洗藥用之

○廿二日辛丑 昨夜ゟ雨無間斷 夕七時頃ゟ雨止 深夜中又小雨

一いせ松坂殿村佐五平賴ミ水滸後傳蔡昊評抄寫本三冊出來近日差登せゆニ付去ル十七日着之書狀の返事今朝ゟ筆とりゆ處尤長文にて今夜五半時頃書了大板鴈皮紙半切廿四枚つき一卷に及へり

一夕七時頃鶴や喜右衛門來ル予對面傾城水滸傳十二編稿本催促之雜談數刻歸去

一宗伯今日も美少年錄三輯三の卷再校終日にして未果今夕四時迄猶校之
一予長文書狀畢て少刻休息四時就寐
○廿三日壬寅今曉ヨリ小雨晝ゟ雨止テ不晴
一今朝四時前お秀來ル吉兵衞藥乞の爲之宗伯尙又十貼調合いたし遣ス早々歸去
一晝後之泉市ゟ使札塩見まんちう一折被贈之金瓶梅稿本さいそく之少々眼氣あしきにより延引來月十三夜前後迄と斷申遣ス
一今日宗伯晝前ゟ水滸後傳評抄寫本三冊表紙かけ仕立終日にして出來
一予越後塩澤すゝ木牧之ゟ遣しゅ七月中到來之狀の返翰長文染筆短日ニ付消日了今夕四半時頃就寐
○廿四日癸卯晴願秋暑
一いせ松坂との村佐五平賴近日飛脚やへ出しゅ水滸後傳評三冊外題染筆貼之且寶曆板水滸傳初編二編三冊とゝもに紙包にいたし道中もめさる樣丈夫にからけおく明後廿六日嶋や佐右衞門方へ遣しゅによりて之
一右寫本尙誤字有之其内一の卷の口二十三枚再校慢寫改訂畢爾後寶曆板水滸傳初編二編合三卷水滸後傳評抄三冊一包ニいたし荷つくりこしらへおく明後廿六日嶋や佐右衞門方へ出しゅ手束は

之
一晝後渥見覺重ゟ昨廿三日歸府のよし土產として干瓢大二把うつの宮おこし五つ被贈之並ニ深川桑島金藏ゟ遺老物語二三の卷の寫し出來手紙差添原本共被指越之筆料二百七十六文かし差引五十二文遣之但紙數一枚勘定ちかひ四文過ニ候へ共書直し等有之ニ付不引尙又五六の卷二册料紙差添返翰とも一包にいたし覺重使へわたし遣ス○關氏家內ゟ使札合卷代錢並合卷一册被返之次ニ記ス
一八半時頃ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衞療治を受薄暮歸宅
一夜ニ入遺老物語寫本十一丁め迄校訂四時就寢
○廿五日甲辰薄曇終日不晴夕七時過小雨忽止深夜中同斷忽止
一早朝宗伯ニ申付柘榴の實西の方の分採之しむ市中の惡太郎度々ぬすミ且籬へのほり候故籬をふミこわし候によつて之大小十四五採之是迄十五六ぬすまれたり東の枝の方はなほそのまゝさしおく
一早朝土岐村元祐小兒を携來ル過日宗伯新宅見舞ニ罷越候節進物の謝禮之每朝小兒を携神田明神へ參候よしニ小兒へさくろ一つみやけニ五つ小ふろしきに包ミ遣之早々歸去

一今日四時前ゟ宗伯奇應丸の箔をかくる先達而箔かけ候分出しをはり候ニよりてゝ

一昨廿四日關源吉後家おふくゟ使札過日もたせ遣し候漢楚賽三編代料弐百廿文外ニかし置候金ひら船五へん合一冊被返之おみちへ申付請取書遣之

一晝後清右衛門來ル此節三四日疎遠かはるとなし宗伯療養之事志はらく又兵衛療治を休ミおさき同樣牛込出張の仁針治を受させ可申旨談之右針治の仁牛込出張は明日限りにて水道町藥湯出張ニ成候よし依之おさきは明日限りにて志はらく休療のよしいつれ明日晝飯後早々宗伯飯田町へ罷越おさき同道にて牛込江罷越療治受候つもり及示談畢

一松坂との村佐五平へ差遣候書籍類六冊入紙包一つ掛目三百五十目外ニ書狀一封右は明廿六日紙包は瀨戸物町島や佐右衛門方へ差出し書狀は大傳馬町との村店へ持參支配人萬藏へかけ合かの店ゟ明日幸便有之候はゝ書狀をたのミ可渡もし幸便無之と申候はゝ書狀も島やへ可遣旨申付脚賃金一朱並ニ紙包書狀共渡之清右衛門明朝京橋地主へ勘定納に罷越候間其節右兩處江可罷越旨申之携歸去

一八半時比久右衛門おゆう兩人の子供を携來ル今日深光寺へ致墓參候よし當月十一日に可參處お祐病臥ニ付延引及今日に候よしゝ手みやけ持參夕飯ふるまひ七半時頃歸去

一夕七時頃以宗伯小傳馬町丁子や平兵衛方へ俠客傳繪つき二番校合伊八吉十郎分二綴美少年錄三の巻二はん校合遣之丁子やゟ志はら「く」取に不參によりて㕝則平兵衛にかけ合わたし候よし㕝美少年錄壹二の巻三はん校合すり本只今すらせ候間明日可差越旨平兵衛申候よし同人濕瘡にて手を突候事なりかね候よし㕝

一尙又新大坂町二見や忠藏方への返翰狀一封たのミ遣し且當春二月十五日四時忠兵衛病死の事七月中越後牧之ゟ志らせ參り初て承知依之右悔等申遣ス幸ひ此節越後飛脚參居り一兩日中に歸鄕ニ付早速屆可申旨忠藏申候よし依之狀ちん三十二文遣し賴おき宗伯夕七半時過歸宅

一余近日校合其外疲勞ニ付今日は廢業終日休息今夕四時就寐

○廿六日乙巳曇 夜四時頃雨 無程止

一今朝四時前淸右衛門來ル今早朝昨日申付候書狀大傳馬町殿村店へ持參小厮に申談し候處今夕幸便有之候間早々松坂表へ可遣旨申ニ付則同人ゟうけ取書取之それゟ瀨戶物町島やに紙包持參脚ちん三百六文拂候よしにて島やかよひ帳持參且又今日ゟ宗伯を牛込療治へ可遣旨昨日及示談候處右療治人親類方に病人有之廿七日その方へ被參三廻り程止宿被致療治候ニ付出張は當分休療

のよし昨日淸右衛門歸宅後おさき申ゆよし告之依之宗伯は猶又馬喰丁へ罷越又兵衛療治受ゆつもり取極メ畢右要談畢て淸右衛門早々歸去
一豊前丁子や平兵衛ゟ使を以美少年錄三輯一二の卷三はん校合すり本並ニ序目口繪三はん直しすり附にて來ル且同書看板すり本來ル序目口繪看板は校合濟但し五の卷殘り畫つき二丁初校すり來ル外ニ十六丁め不足ニ付彫刻ゆはゝすらせ差越ゆ樣口上書を以申遣ス〇同人ゟ先日やくそくの目藥二貝被贈之
一豊後飛脚やいつミや甚兵衛狀くはりいせ松坂との村佐五平ゟ小紙包屆來ル請取書遣之右は過日案內有之ゆ拍案驚奇一帙返却被致ゆ之並ニ同人詠歌短尺五枚來ル先便所望申遣ゆによりて之
一八半時頃ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衛療治受ゆニ付お百は持病の頭痛にて打臥居ゆに付すゝめて遣之兩人共夕七半時過歸宅お百頭痛右療治にて順快のよし之
一宗伯馬喰丁へ罷越ゆ序に西村や與八ゟ手紙遣し來年分合卷潤筆前借の事申遣ス彼人如例留守にて返事決着に不及いつれ來月節句前及返事旨申ゆよし宗伯歸宅後告之〇今日晝時下女まき給金貳分宗伯ゟ申付わたし遣ス
一今夕暮六時過土岐村老尼宗之介長女お定同道にて來ルお定事元立夫婦せわいたし奉公に出ゆニ

付今日大川端安藤殿御隱居附ニ奉公口有之目見ニ同道の處首尾いたし來ル廿九日ニ引移りゆつもりのよし爲暇乞おミみへ對面いたさせ度同道のよし被申之則今夕兩人とも止宿ㄡ供人はかへし畢ぬ混雜かきりなし

一予けいせい水滸傳五月中繪わりいたし置ゆ十一へんめ畫稿今日ゟ又とり出し一の卷本文半丁餘貳の卷本文半丁弱稿之其後使札客來にて不果今夕は右同斷にて休筆四時就寐

○廿七日丙午曇

一今朝四時頃お秀藥取ニ來ル宗伯調劑尙又十貼遣之雜談後歸去

一同刻土岐村老尼お定歸去お定ㄡふろしき一つ狀さし一わおミち方ゟ遣之ゆ樣申付遣之

一お百風邪にて晝後ゟ平臥但當分之症ㄡ

一宗伯眼中いたみゆよしニ付丁子やゟ到來用之予も用ひお百にも遣し用之聊功あり

一晝　大りんこ竈の穴宗伯鼠はなひを以燻之夏中ゟ今に右之蟲不退によりてㄡ

一宗伯眼中いたミゆ樣子ニゆへ共美少年錄三輯四の卷貳はん校合稿之未果

一予けいせい水滸傳十一編貳の卷の內本文二丁半稿之今日四時就寐

○廿八日丁未晴美日夕方薄曇

一清右衛門爲當日祝義來ル雜談後早々歸去朝四時頃の事之

一堺奉行金森甚五郎殿組與力某の妻當月男子出生の處右小兒生れなから自然と身の內ニほり物有之脊●（背）にくりから不動腕に鬼面等あり且入墨二すちありといふ風聞のよし今日清右衛門告之惡黨の終身歟虛實未詳

一夕方七時頃おきく來ル久吾倅田口榮太郎今日食初並ニ宮參爲致候よしにて携來ル同道の少女二人並ニ供の中間一人之手みやけ三種被贈之煎茶落雁等差出し爾後そはをふる舞供へもたべさせ畢末廣二本ちらか苧一包榮太郎へ祝ひ遣ス七半時過歸去

一丁子や平兵衛ゟ使を以美少年錄三輯わり印相濟候よしにて右稿本差越し川同書五の卷十六丁め板木屋方にてとり落しすり本延引のよしにて右十六丁め持參いつれも請取おく

一八時過ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衛療治を受夕七時前歸宅今日は透候●節のよしにてはやし

一予けいせい水滸傳十二へん二の卷末迄本文かき入一二本文詞書書入槪脫を補綴し畢一の卷序口畫未稿之今夕四時就寐

○廿九日戊申薄曇晝之間晴 夜四時前ゟ雨深夜雨止

一宗伯畫後迄美少年錄二はん校合殘りいたし畫後ゟ奇應丸箔かけ之分よりわけとり收め終日之

一予けいせい水滸傳十二編壹の巻口繪並ニ像賛序文等三丁稿之畢今夜四時ニ至ル

一暮六半時頃麻布土岐村老尼ゟ舊僕彌介を以おミちへ使札お定事明日彌はま丁安藤家へ引移り畢
歸路老尼此方へ罷越止宿のつもりのよし尤厭ふへし

一今日來客なし尤閑寂よろこふへし四時就寐

○晦日己酉曇朝之内折々雨或は降或は止晝後小雨止忽不晴

一晝時河合孫太郎來ル崇正通書一二合巻五十五丁半皆出來持參筆耕二百十二文かしこし有之右差
引貳百五十二文遣之且過日かし置候八犬傳初輯被返之尚又二編めかし遣ス雜談數刻歸去○お百
此節日々持病の頭痛のよし但半起半臥にて夜五時ゟ就寐

一宗伯今朝口痛ニ付終日保養夜ニ入過半退候よし之

一予けいせい水滸傳十二編三の巻本文四丁半稿之今夕四時就寐

○九月朔日庚戌厚曇朝五半時より雨晝前ゟ小ふり夕方雨止夜五半時より又雨深夜雨止

一今朝おひ[illegible]藥取ニ來ル吉兵衛追々少々つゝ順快ニ付節句前迄にて休藥可致哉之よし申之近日宗
伯見舞之上ともかくも可被致旨今日申聞尚又十貼調劑遣之早々歸去

一晝前清右衛門爲當日祝義來ル先月中藥うり溜勘定いたし持參可致旨申付帳面鍵預遣ス早々歸去

〇みち予ヒフ表宗伯紬小袖うらおもて右兩樣裁之
一晝前山口や藤兵衞來ル手みやけ持參予對面殺生石五編稿本催促之節句前後迄ニ一册可渡旨示談畢て歸去
一晝後丁子や平兵衞ゟ使ヲ以俠客傳繪付伊八彫刻分二番校合直し三番校合すり本差越之請取置但三丁め五丁めすり本不參ゆ間すらせ差越ゆ樣申遣ゆ且美少年錄三輯四の卷貳はん直し一二三はん直し校合いたし置ゆ分三册遣之
一八半時頃土岐村老尼來ル手みやけ持參明日お定事松島丁うら通り七千石之安藤内藏助彥四郞といふ歟女隱居附ニ引移り參り昨夕は外へ止宿のよし今夕ゟ又此方へ止宿多端叢々たり歟ふへしお定奉公口最初ゟ大川端安藤との丶よしニ付安藤對馬守殿なるへしと思ひたる處旗本の安藤彥四郞殿のよし之
一宗伯今日も美少年錄壹貳三はん校合同五の卷初校ニ取かゝり終日之
一予けいせい水滸傳十二編三四兩册本文不殘稿之但書おろしのミ之今夕四時就寐
昨今雨天尤冷氣未今夕試に蚊帳を不用明朝ゟ綿入を着ス
〇二日辛亥厚曇八半時頃ゟ雨夕七時過ゟ止尤冷氣



（七）稿本「金毘羅船利生纜」第七編巻四の見返及初頁

一晝後淸右衛門來ル八月分藥うり溜勘定いたし内一わり引錢並ニ帳面鍵持參則請取錢は宗伯へわたしおく西野や幸右衛門一周忌ニ付今日淸右衛門本所一ツめ同人方並に小あミ丁西野やへ罷越候よし由ニ付右參りかけ油丁鶴やへ立寄候樣申付けいせい水滸傳十二編稿本意貳二冊手紙さし添淸右衛門へわたし遣ス但ふろしき淸右衛門へかし遣ス右受取淸右衛門　々歸去

一右巳前八時比土岐村老尼麻布ゟ迎參候よしにて歸去

一今日も宗伯俠客傳續つき伊八分四はん校合美少年錄五之巻初校々之終日之但雨天ニ付爲療治今日も馬喰丁へ不赴休之

一矛けいせい水滸傳十二編め三四兩巻十一丁詞書とひらかき入本文悞脫を補ひ夜五時過右二冊稿し畢

一今夕暮六時過西村や與八來ル過日申遣し候金子の内三兩持參然とも此方にて用向辨し候趣を以辭し候へ共達て請取くれ候樣申候ニ付受取おく小田原挑灯かし遣ス右要談畢て歸去其後予灸治いたし四時就寐

○三日壬子晴

一今朝土岐村元祐來ル宗伯奇應丸包居候ニ付予對面元祐自川村壽庵ゟ被賴候枝つき柘榴被所望之

則朝鮮さくろ枝をつけ七ツ遣之則歸去

一丁子や平兵衛ゟ使ヲ以美少年錄三輯壹貳三はん校合直し二冊同三之巻三はん校合すり一冊もと校合すり本三冊指添遣之請取おく畫後の事之

一八時頃ゟ宗伯馬喰丁又兵衛療治受に罷越候ニ付歸路鶴やに立寄候樣申付けいせい水滸傳十二編三四稿本二冊もたせ遣ス然處又兵衛今日不來夕七時頃迄江崎やに待候へ共不來ニ付歸候半と致出かけ候内又兵衛倅通行ニ付吉兵衛よひ入則右倅ニ療治致させ候よし依之及夕暮水滸傳寫本鶴や主人ニわたし口狀申述暮六時頃歸宅尤昨日清右衛門へもたせ遣し候稿本も無相違屆候よし之

一夕七ツ時屋代太郎殿ゟ使札右は男達ト、ロキ金六並俳諧者かしくの傳沒年等注文いたしくれ候樣申來ル尤今夕歟明朝返事乞ニ可參よしにて使歸去依之雜記を出しかしくの傳抄錄ニ河吉田の西村白烏が煙霞綺談並ニ銘花青樓志(?)等の趣を錄シ愚案を附錄三丁許ニ及ふ轟金六事は石井明道志といふ俗書に見えたり右轟は元祿六年石井源次郎事兵右衛門と共にミのちにて赤堀源五右衛に闇打にせられ候よし同書に見え候へとも明道士●(志)はそら言多く候間信用しかたし此外には所〔見〕無之旨申遣ス此穿鑿且抄錄等にて時を移し今夕五時前錄し畢その後五時過屋代の僕返事乞ニ來ル右二通わたし遣ス

一宗伯晝後迄奇應丸を包ミ晝後ゟ馬喰丁へ罷越候ニ付美少年錄校合休之
一お百持病の頭痛今日は堪かたきよしにて晝飯後ゟ平臥
一予崇正通書壹貳の巻寫本校訂五十六丁之内四十二三丁稿之今夕四時就寐
○四日癸丑曇無程晴
一晝後清右衛門來ル一昨日鶴やゟ稿本屆候よしにてふろしき持參返却請取之尙又入歯つくろひ之事申付吉田源八方へ近日持參いたし注文之通り申付候樣示談わたしおく源八先頃又かくら坂へ轉居いたし候よし之清右衛門石町へ罷越候よしにて早々歸去
一晝後赤坂の北溪持參鮎一籠カス廿被贈之予對面美少年錄さし繪二重叢入等の事示談其後歸去
一西村や與八使札合巻千代褚良著聞集上編二冊うり出しのよしにて如例二通り被贈之且先夜かし遣し候小田原挑灯被返之使さし置歸去
一お百今日も終日平臥馬喰丁又兵衛療治すゝめ候へ共瞑眩いたし歩行成かたきよしニ付金澤町の按摩よひよせ肩　もませ候へは頭痛少々うすらき候よし之
一宗伯今日も美少年錄三輯五之巻校合終日之
一予崇正通書一二寫本校訂點裁全丁卒業九丁め磨滅十四五字有之よミ得候ニひま入終日にしてよ

み得たり今夕四時就寐

○五日甲寅晴但快晴にあらず晝前ゟ快晴

一晝前清右衞門來ル辨慶はし邊遠縁之者一周忌法事に招れ罷越候よしにて到來の饅頭持參後刻使上ケ可申候間其節格子戸わたしくれ候樣申願ひ歸去

一晝後飯田町宅おさき方ゟ人を以たくあんつけ二本樽の口あけ候よしにて贈り來ル右人足ニ格子戸もたせ遣ス　右衞門此節庭口修復いたし候ニ付此方ニ有合せ候格子戸一枚遣之右庭の格子引戸損し候ニより引かへ可申爲之

一晝前丁子や平兵衞ゟ使ヲ以年魚一籠被贈之右幸便ニ美少年錄三輯一ニ兩卷四はん直し遣之右二冊の內直し四五ケ處あり

一宗伯今日も美少年錄三輯五の卷再校右ニ付口痛のよし今夜四時迄ニ大てい出來いまた書ヌキ不致候よし之

一お百今日も病臥晝後昨日の按摩よひよせもませ候よし太郎も少々風邪之但さしたることにあらす

一予晝後迄崇正訓書一二合卷おく書かき直し美少年錄三輯一二兩卷四はん校合いたし夕方迄に同書三の卷三はん校合もいたし夫ゟ金瓶梅二編本文畫わりにとりかゝり今夕四時迄に四丁稿之其

後就寐

〇六日乙卯薄晴風冷氣日增甚し

一晝茶師淺野儀右衞門茶代金乞ニ來ル則おミちを以金貳朱わたし請取書取之

一晝後宗伯美少年錄五ノ卷初校再改書ぬき等皆出來

一八時過ゟ宗伯馬喰丁へ針治を受ニ行又兵衞病氣ニ付同人倅參り療治致しㇾよし右序に美少年錄三輯五之卷初校三之卷三はん直しすり本丁子や平兵衞方ゟ遣しㇾ樣申付もたせ遣ス依之宗伯小傳馬丁三丁めへ立寄平兵衞に對面口狀申述且同書口繪一二三之卷之板出來ㇾてすらせ見せㇾ樣平兵衞へ申入夕七半時過歸宅今日も少しつゝ宗伯口痛のよし之〇米や又吉ゟつき出來不申由にて三斗持參

一夕七半時頃麴町三宅內渡邊登ゟ使札かねて賴置ㇾ水滸傳全書新渡本四帙被爲見之代金三兩のよし望も無之ㇾはゝ本直にかへしㇾ哉申來ル則返書ニ貳兩迄ニ成ㇾはゝかひ取可申趣もし二兩ニ引ケ不申ㇾはゝ今少々はのぼりㇾ共宜取斗くれㇾ樣申遣し右二帙はそのまゝとめおく

一金瓶梅二編め上帙四冊之內畫わり十丁稿之今夕四時就寐

〇七日丙辰薄曇晝前ゟ晴

一お百頭痛少しつゝ快方時候あたり外邪ニ付一兩日前ゟ服藥宗伯藥之太郎は痓了昨日より平生に

かはろとなし宗伯口痛未愈連日校合ニ氣をつめ候故之

一麴町十三丁めいせや久右衛門來ル時候見舞栗一盆持參雜談後歸去晝後之事之

一晝飯後ゟ宗伯小石川白山邊阿部上ケ地山田吉兵衛方へ罷越同人病氣診脉のため之吉兵衛病氣追追快方に歩行頗いたし候よし依之休藥のつもり及示談候ニ付今日庭のさくろ三つ宗伯にもたせ吉兵衛方へ贈之歸路本鄕金介町へ立よらせ蒼龍丸代金一朱分買取候樣申付遣ス右藥かひもて來ル此節本鄕筋道普請にて往來混雜宗伯置土に跌きつよく輾ひ候ニ付脇指の鞘少し損ス然共怪我なし夕七時過歸宅

一晝後おミちニ申付かねを以おくわ方へ使札庭の梨子さくろ各五ツ覺重方子供ゟ遣之返事口上にて申來候よし

一忠義水滸傳全書一の卷の內宣和遺事の文並ニ凡發之內三ケ條百一人籍母に出身等凡七八丁抄錄今夕四時就寐右ニ付今日は金瓶梅二編晝稿休筆之

○八日丁巳薄曇無程晴溫暖美日

一今日　公方樣上野　浚明院樣御靈屋ゟ御參詣火留如例申付　退御如例相濟

一今朝丁子や平兵衛ゟ使ヲ以美少年錄三輯口繪四丁二重墨入校合すり本並ニ俠客傳繪つき伊八分

十八丁四はん校合すり本見せニ來ル俠客傳は直し濟美少年錄ロ繪は見當少しつゝあひかねゆ間板すりへ申付よくすり合せゆ樣ロ狀書を以申遣ス

一晝後淸右衞門來ル爲重陽祝義栗一盆持參中屋紙代節句錢の內にて拂遣しゆ樣かよひ帳並判取帳わたし遣ス要談畢て早々歸去

一宗伯うち身今日は起居不自由のよし小河町松平紀伊守殿家中に宜きうちミの藥有之よしニ付かねを以二包買取せ卽刻痛處へぬらせゆかね不案內ニ付淸右衞門ニよく指圖いたしゆ樣申付遣ス

一予少々風邪之氣味ニはゆへ共月代いたし水滸四傳全書金聖歎本と一回比校節句前多用ニ付金瓶梅畫稿今日も休筆之今夕四時就寢

一米や文吉ゟ白米不足の分四斗持參申付ゆぬか一斗共代金錢不殘わたし遣ス先日分共白米七斗之

○九日戊午晴南風溫暖

一宗伯うち身未及平愈ゆへとも朝飯後ゟ爲重陽祝義松前家兩やしきへ罷出九時前歸宅

一同刻山田吉兵衞來ル手みやけ被贈之病氣追々痊可ニ付步行願ひ致ゆニ付七月中ゟ腹（服）藥の謝禮予並宗伯も對面雜談後歸去

一晝時淸右衞門爲當日祝義來ル中屋紙代昨日申付ゆ通り節句錢の內にて拂遣しかよひ帳並殘錢持

参右貳〆三百四十八文の内壹〆六百五十六文此金一分分此方へ引とり内壹〆三百六十八文紙代ニ拂殘り貳百八十四文有之その餘六百貳十八文は清右衛門ニ遣ス且ふじもくさかひ取候樣注文申付代八十文わたしおく

一三宅內渡邊登ゟ手紙認置候間明朝屆くれ候樣清右衛門へ申付右一通わたしおく水滸四傳全書直段之事申遣し候用書之右要談畢て歸去

一八時頃ゟお百おミち同道太郎お次を携妻戀稻荷並ニ神田明神へ參詣夕七時過歸宅〇金彥山別當所ゟ如例祈禱札來ル則はつほ百文遣之

一同刻渥見覺重來ル手みやけとしてもち一包持參宇都宮ゟ歸府後はしめて來ル宗伯並ニ予も對面雜談數刻夕七時過歸去

一今日節句ニ付休筆水滸四傳全書四帙めあちこち一冊半披閱今夕四時就寐

〇十日己未薄曇晝ゟ薄晴晝後又曇深夜雨

一今日水滸四傳全書入用之處二十二丁許抄錄畢

一八時過ゟ宗伯馬喰丁へ罷越又兵衛療治を受七時過歸宅但今日江崎や吉兵衛ゟ肴代として金一朱宗伯ゟ遣之右療治出張所ニ付度々罷越候茶代のよし之吉兵衛他行ニ付女房にわたし候よし之

一暮六時過丁子や平兵衛來ル俠客傳筆工すり本大坂河茂ゟ揃ひ候よし申來候へ共いまた多く不足ニ付取〆らへ申置よし申之依之稿本を以引合せ〆らへ候處いつれも卷毎に七八丁つゝ不足惣〆三十九丁不足にて一冊も揃ひ不申右早々大坂へ申遣し候よしニ付此方ゟも口狀書差そえとり〆らへ書付共平兵衛へわたし遣ス但すり本未揃候ニ付是亦平兵衛携歸ル彼是にて五時ニ及ひ候間休息今夕正四時就寢○中川金兵衛病後出勤のよしにて來ル

○十一日庚申雨風アリ北之 終日小雨晝後且く止 夜中雨止

一晝後清兵衛（清右衛門）來ル申付候艾二千挺かひ取持參且入齒つくろひの事牛込吉田源五郎（源八）方へかけ合候處六枚折候間八枚とり替代金壹分のよし申之折候へは無是非候間早々申付候樣示談且又昨朝渡邊登方へ手紙持參則回翰請取今日持參明後十三日月見入用白さとう二斤黑さとう一斤小松屋にてかひ取候樣申付通帳渡し遣ス右用向畢て歸去

一薄暮下女まき倅國元ゟ之書狀持參右は母病氣ニ付いとま願ひ早々罷越候樣申來候よし之まき本國越後と申候へ共實は越中富山近在のよし此書狀にてあらはるいつれにも人替り差出候上ならては暇遣し候事成かたき趣吃度まきへ申聞おく

一晝後ゟ宗伯美少年錄三輯三の卷三はん校合直し引合せ且慶長記異本五冊崇正通書八冊表紙かけ

仕立とりかゝり候へ共短日ニ付つき揃へ大本のかた下とぢのミ出來

一今日庚申祭獻供燈明等如例今夕四時迄奉祭之

一予金瓶梅二編一の卷本文一丁半稿之氣分不進候ニ付夜分は休息四時就寢

○十二日辛酉曇四時前雨忽止終日不霽暮六時過雨忽止今夜五時頃ゟ雨四時前止

一晝前淸右衞門來ル申付候白黑砂糖小松やにてかひ取かよひ帳と共ニ持參且入齒師源八も百疋にて八枚とり替候樣申付候趣告之先年源八預置候生齒八枚不用之分も此度源八方ゟ指越候間請取之入齒箱へ藏めおく淸右衞門少々風邪のよしにて早々歸去

一同刻渥見次右衞門ゟ使札同人先頃ゟ外邪にて引籠居候間つれ〳〵ニ付隨筆もの借覽いたし度旨申來ル則幸庵對話二册なるへし五册かし遣ス

一深川寫し物の筆者桑島雲磴ゟ遣老物語五六兩卷寫し出來原本共渥見ゟ被屆之右筆料三百三十六文外ニ先月分差引勘定ちかひ不足百文も今日一處ニ勘定いたし二口〆金壹朱ト二十四文今日渥見使へわたし次右衞門へ返書と共に遣之

一晝時下女まき請人湯島三組町肴賣長四郎來ル右はまき母在所にて大病ニ付同人叔父徒弟同道にて迎ニ罷越候間急ニ暇願候趣申之然共一體生國は越後と申候處此度は越中と申立ヶ樣之間違も

有之ゟへは實事とも不致ゟへ共達而暇申請度ゟはゝ早々人代り吟味いたし可指出此方にも一人下女ニ付穩かれゟ趣(砌)代りもなく暇遣しゟ事難澁ニ付とくと勘辨可致旨おミちを以理解申聞ゟへは左ゟはゝ人代をたつね可申但飛脚のもの宿元ニ待居ゟ間まき義暫時暇くれゟ樣申ニ付その意にまかせ八時過ゟまきを宿へ遣しゟ處夕七半時頃歸來ル則相談いたしゟ處せひ〳〵同道いたし罷歸度旨飛脚之もの申ニ付兩三日逗留いたさせ人代りたつねゟよしまき申之お成道入口へも罷越たのミゟ樣申付卽刻右入口方へ遣しゟ處程なく歸宅

一八時過まきを以屋代太郎殿ゟ借用之崇正通書一二合冊一卷並ニ遣老物語一ゟ六迄五冊返却但四の卷は先月中とりに被差越ゟニ付其節かへしゟ畢尙又遣老物語七ゟ末借用申度旨手紙差添遣之ゟ處太郎殿他行のよしにて家來中ゟ請取書付來ル但あて板ふろしき並ニもち歸ル

一晝時丁子や平兵衞ゟ使ヲ以美少年錄三輯壹貳の卷四はん直し出來すりつけにて來ル右は校合相濟同三之卷四はん直し一綴其外用向口狀書ニいたし右使ニわたし遣ス

一夕方つるや喜右衞門ゟ使札けいせい水滸傳十二編め繪寫本十丁出來被爲見之卽刻一覽之上筆工金兵衞方へ持參いたしゟ樣右使ゟ申付つるやゟ之返書と共に右使ゟわたし遣ス尤稿本も差添遣之

一宗伯今日慶長記異本崇正通書寫本仕立切かた致しゆへ共風邪ニ付はかゆかす今夕夜食後ゟ服藥汗とりゆよしにて暮六時頃ゟ病臥

一夜(予)も風邪にて惡寒有之打臥ゆ迄ニは無之ゆへ共來客使札等の應答にて終日いとまなく今日も金瓶梅二編本文かき入休筆之今夕四時就蓐

○十三日壬戌薄晴無程全晴今夜明月白晝の如し

一今朝まきを以屋代殿ゟ昨日の返事取ニ遣ス只〔今〕手ふさかり居ゆ間後刻あの方ゟ可申入之旨申來ル依之ふろしきあて板そのまゝ指置歸來ル共後太郎殿當番出かけに被立寄過日かしく考遺老校訂の謝禮申述られ且遺老物語七ゟ十二迄六冊持參被借之おミち取次傳之

一晝飯後早々遺老物語十二の卷を深川桑島氏ニ寫させゆニ付手紙認料紙共一包ニいたし又七八兩卷は河合孫太郎ニ寫させゆニ付手紙認料紙共一包にいたし覺書方へも手紙認め差添桑島分は瀧見へたのミかねを以遣之河合分もかねニ申付同時ニ孫太郎宅へ遣しおかとわたし不及返事歸宅

一宗伯崇正通書八冊異本慶長日記五冊共表紙かけ出來夕方ゟ寒熱甚しき由にて就蓐此節予並ニお百も風邪にて一同腹(服)藥

一今日金瓶梅稿とりかゝりゆへ共外邪にて氣分不進ゆニ付遺老物語九之卷校訂十一の卷半冊校訂

之

一火ともし頃丁子屋平兵衛來ル予對面昨日大坂河茂早状着俠客傳校合ミのかミすり十日限にて本月五日ニ差出ゆよし案内有之十五日過には着可仕ゆ依之亂丁のすり本不及持參旨申之且美少年錄三輯三の卷四はん直しすり付て持參卽刻一覽之處大かた直りゆニ付三之卷は校合相濟尙又三之卷さし畫の內稿本とちかひ以前五郞書寫ゆ處有之當書林年番北しま長四郞かれ是やかましく申ニ付入木直し致させ可申哉之旨申之その意ニ任せ右之處斗入木いたしゆ樣示談畫かき直しの注文圖之直シ今夕持參の三之卷右の畫の處へ朱を入レ丁平ニわたし遣ス畫工北溪にては埒明かね可申ゆ間柳川ニ畫き直させゆつもり示談將又一二三三冊校合濟ニ付すりかゝり可申哉之旨申之則勝手次第ニ可致旨及挨拶右用談畢て丁平歸去

一今日後の月見ニ付如例赤豆團子製造いも栗枝豆等一式家廟へ供し其後家內一同祝之今夕四時就寐明月なれとも冷氣ニ付賞月に及さるㄟ

○十四日癸亥曇（薄暮ヨリ雨　夜中無間斷）

一崇正通書慶長日記異本製本宗伯外題を貼ス一式皆出來宗伯風邪並ニ水瀉（瀉）甚しく且不食のよし半起半臥之今夕夜食後早々就寐

一まき請人長四郎今日も暇願候ニ付いつれ人代り早々尋出し候樣申付遣ス

一予並ニお百風邪同樣之內宗伯ゟ輕症之兩人小兒も少し風邪の氣味なり

一金瓶梅二編貳の卷本文かき入大てい稿之內半丁遺ル尤書おろしのミ之今夕四時就寐

○十五日甲子雨今朝五時過ゟ雨止テ不晴 終日曇

一早朝中川金兵衞けいせい水滸傳十二へん一の卷五丁筆工出來持參尙又夕方可參候間夫迄校訂いたしくれ候樣被申之則請取おき且明日芝泉市へ用向たのミ候處明日あたこ下迄罷越候間幸便ニ付屆可申旨申之歸去取次おミち之右ニ付今朝持參の寫本校閲悞寫並ニ書やうあしき處志るしつけおく晝前まきヲ以金兵衞方へ直し候て改刻持參可致候樣申遣ス其後金兵衞右寫本直し來ル泊番出かけ只今板元鶴やへ持參いたし候よし申ニ付直ニわたし遣ス○今日鷹司有姫君江戸御着午の時二の丸へ被爲入候よし風聞

一今夕甲子大黑祭獻供如例夜ニ入お百おミち太郎お次を携まきを召〔つ〕れ神田社地へ參詣處々見物五時過歸宅

一夕七時頃まき請人長四郎又まき暇願ニ付いまた人代りも不出來其上此節家內一同風邪にて彼是及迷惑候間いつれはやく人代りたつね出し候樣おミちを以申聞候處長四郎娘十三才に成候もの

役には立申ましくゆへ共人代り出來迄差上可申哉之よし申之左ゆはゝ先一兩日差越ゆ後おちつき居ゆはゝまき暇可遣旨申聞ゆへは歸去そのゝち沙汰なし

一晝前清右衞門爲當日祝義來ル外ニ所要なし早々歸去

一予も風邪ニゆへとも尙終日机上(邊)をはなれす金瓶梅二編壹の卷本文一丁半貳の卷五丁稿了夜ニ入口繪畫稿像贊稿等出來右二の卷ニ手紙差添封しおく明朝中川金兵衞幸便ニたのミ板元泉市へ可遣ため也今夕四時過就寐

〇十六日乙丑薄晴晝之内晴夕方又曇

一今朝中川金兵衞來ル昨日談しゆ通り芝泉市へ可參よし申ニ付金瓶梅二編貳の卷並ニ手紙差添わたし遣ス卷の壹は今日中に出來いたしゆ間明日人遣しゆ樣且金ひらふね五へんめ入用之事傳言たのミ遣ス

一今日宗伯庭のさくろ七ツ八ツ採之惡少折々垣へ登り盜んとして垣を踏崩しゆによりて柿も熟しゆ分採之去八月十五日並ニ昨十五日へちまの水取之

一金兵衞晝時歸來ル今朝の届物慥ニ泉市へわたしゆよしにて金ひら船五へん合一冊同店ゟ請取持參取次お百へわたし直ニ歸去

一讀前丁子や平兵衛ゟ使ヲ以俠客傳初校すり本五綴大坂ゟ着のよしにて差越之右請取且先夜平兵衞及相談候美少年錄三の卷の內さしゑ對決場入木之事再案有之夫にも及ましき旨右使江口狀申遣し今夕丁平被參候樣申遣す

一俠客傳校合下改宗伯不快ニは候へ共おして取かゝり一の卷ゟ校訂之

一薄暮丁子や平兵衛來ル予對面美少年錄さし畫中二重墨の處二丁校合すり被爲見之且三の卷さし畫入木之事先夜歸路書林行事北島長四郎方江罷越右畫を見せ及內談候へは漸納得いたし候ニ付あのまゝさし置可申よし告之予も後案にて跡にて先刻けいせい水滸傳にも同樣の畫有之相濟候間すいこ傳の畫爲心得平兵衛へ見せ畢且又俠客傳表紙稿序上にて略書いたし今夕平兵衛へわたし遣ス右用談畢て早々歸去

一同刻まき請人長四郎昨日願候通りまき代りとして同人小娘をつれ來ル十三才のよし申候へ共見候處十一才はかり之小ふりにて用立かね却て厄會ニ可有之候へ共先さし置候樣おミちを以申聞右小娘とめおく一兩日つかひ候つもり名はもとと申候よし之

一予金瓶梅二編壹の卷口繪並序文共ニ四丁稿之壹の卷は皆出來今夕四時に及ふ今日は外邪甚不宜候へ共勉て稿之畢今夕四時就寐

○十七日丙寅曇ル薄暮雨夜中大雨

一晝前戸田内河合勇七郎來ル予對面過日同人倅孫太郎方へ賴遣ㇵうつし物遣老物語七八兩卷此節主用書もの多くㇵ間出來かねㇵよしにて料紙差添被遣之且先日かし置ㇵ八犬傳二輯返却同三輯借覽いたし度よしニ付かし遣ス大雅畫かけ物持參見せらる一幅對の處右のかた缺ㇵものニ可有之旨鑒定いたし遣ス雜談後歸去

一同刻土岐村元祐來ルおミちへ用事有之よしにて來ルは右はおミち姪お定ゟ衣類かりに文さしこしㇵよしおミち告之いつれ共隨意ニいたしㇵ樣宗伯並ニ予及返事依之小袖かし遣し元祐ニわたしㇵよし同人携早々歸去宗伯病中ニ付不及對面おミちのミ挨拶ス

一薄暮まき請人長四郎來ル昨夜召連ㇵ同人娘小からにて用立かねㇵ間召連かへりㇵ樣申渡し且まき代り奉公〔人〕今に不有之迷惑至極ニㇵへ共請人度々參り暇願いたしたとへ用立不申ㇵ共同人娘差越ㇵニ付勘辨ヲ以まき事明十八日暇遣し給金之義は日勘定にて納ㇵ樣おミちを以長四郎ニ申渡させ給金日勘定書付並ニ同人娘もとに夜食たべさせ長四郎ニわたし遣ス明日夕方給金納可申ㇵ間其節まき御下ケ被下ㇵ樣申ㇵて歸去

一宗伯不快今日は別して不宜ㇵニ付夕方ゟ校合休ㇵ樣申聞及保養

一晝後芝神明前いつミや市兵衛ゟ使札昨日遣しゆ返事並ニ手製醴一重並生姜一わ被贈之謝禮返翰

並ニ金瓶梅二編壹の巻稿本一冊右使ニわたし遣ス

一金瓶梅二編三四兩巻の内繪稿二丁書なほし三の巻本文二丁稿之尤書おろしのミ之予風邪今夕は

よほと順快但痰咳折々出今夕四時就寐

〇十八日丁卯雨五半前ゟ止 又折々小雨朝之内斗 終日曇夜六時頃ゟ 雨無程止

一早朝中川金兵衛けいせい水滸傳十二編貳の巻筆工出來持參今日中に校合いたし置可申旨取次か

ねを以申聞右寫本稿本請取おく金兵衛直ニ歸去其後右寫本予校閲畢其後同人又來ル右寫本鶴や

江持參のよしニ付わたし遣ス

一橋本喜八郎殿ゟ宗伯江使札ヲ以八犬傳にても巡島記にても致借覽度よし被申越則巡島記初編五

冊ふくろかけゆまゝかし進ス

一晝後久右衛門來ル時候見廻之庭の柿並さくろ取合せ五ツ子供江遣ス奉公人之事たのミおく雜談

後歸去

一薄暮下女まき請人長四郎給金日勘定にて遣り金貳分壹朱ト貳百十四文納之内十六文不足之間願

之通まき永之暇遣し右長四郎へ引わたし遣ス當人所持之品ふとん一ツとふろしき無之ニ付明朝

迄借用仕度旨長四郎申ニ付おミち大ふろしき一ツかし遣ス勘定のわり等別帳ニ記し有之四月廿五日ゟ今日迄百四十日つとめし之

一宗伯今日も俠客傳校合壹の巻未果夜四時迄稿(校)之

一予金瓶梅二編三の巻内本文三丁弱稿之今夕四時就寐

一今朝四時星祭如例獻供家内一統奉祭之

○十九日戊辰曇ゟ夜四時雨夜中止

一丁子や平兵衛ゟ使ヲ以美少年錄三輯四の巻貳はん直し出來三はん校合すり本持參請取置此餘の用事口狀書ヲ以申遣ス

一神明前いつミや市兵衛來ル手ミやけ持參予對面過日寫本遣し候謝禮且時候見廻之小兒に手みやけ被贈之雜談後歸去

一晝後清右衛門來ルかねて吉田源八に申付させ候上入歯の歯八枚取かへつなぎ出來今日清右衛門持參同代金壹分清右衛門へわたし遣ス明夕家内みやけの內くり壹升無人ニ付今日清右衛門へもたせ遣ス

一晝前多用宗伯今日も俠客傳一の巻校訂晝後ゟ弁天巳まち祭ニ付そうちいたし今夕獻供等如例宗

伯祭之

一夕方渡邊登ゟ使〔ヲ〕以過日及掛合候水滸傳全書代金貳兩壹分ニ引取候よしにて遣り二帙被差越之內五十四回五十五回大磨滅あり同人明日上州邊へ出立のよし之則返書並ニ慶長日記三宅氏の記錄書拔遣之水滸代日は片便ニ付未遣之

一晝後まき請人長四郎昨日の風呂敷持參返却おミち請取之不足錢は不及沙汰

一金瓶梅二編四の末迄本文不殘稿之但詞書半分程遣ル今夕四時就寢

○廿日己巳厚曇終日不晴

一晝飯後土岐村元立來ル予宗伯對面させる用事なし

一□□事御勘定馬場忠藏事病氣之處去ル十七日死去之よしいまた內々に候へ共舊來のなしミに付しらせ候よし家內ゟ手かみ來ル此人小普請の時內職ニ板下筆工を書し人之御勘定に成りし後日勤ニ付板下を不書こよミのミ之とし五十前後なるへし女兒あり

一夕方丁子や平兵衛ゟ使ヲ以一昨日申遣し候美少年錄三輯三之卷四はん直し校合すり本差越之此分校合濟之分之依之うけ取おく

一宗伯今日も俠客傳二の卷直し書ぬきいたし大てい出來少し遣ル

一夕七時過ゟお百おミち太郎お次を携飯田町へ罷越みやけ物持參明日神田祭禮ニ付見物の爲之今夕一同淸右衞門方へ止宿のつもり申付みやけ物ハつくいやへも遣しゝ樣申付遣ス

一その後四谷久右衞門來ルお祐子供携淸右衞〔門〕方へ罷越今夕止宿明日祭見物の爲のよし久右衞門おくり參ゝニ付此方家內迎ニ參ゝよし申之過刻一同罷出ゝニ付おミち並ニ小兒着かへ衣類二包にいたし久右衞門ニたのミ淸右衞門方へもたせ遣ス久右衞門早々歸去

一夜食後宗伯も飯田町淸右衞門方へ遣ス今夕一同止宿いたし明日祭見物後罷歸ゝ樣申付遣ス今晩予一人留守之

一金瓶梅二集四の卷末迄詞書共今夕不殘稿し畢て四時過就寐

○廿一日庚午晴

一四時過飯田町宅ゟ久右衞門を以赤飯並ニにしめもちくわし等贈來ル久右衞門又今朝同道人有之飯田町へ罷越ゝよしお鉞も昨日兩人之子供同道淸右衞門方へ罷越止宿のよし之昨今淸右衞門方小兒共ニ十一人止り客有之ゝよし之久右衞門早々歸去

一同刻お秀來ル昨日ゟ芝崎氏ハ罷越止宿のよし之吉兵衞事追々順快ニ付追々出勤のつもりにゝ處去ル十八〔日〕朝やねハ菰あけゝ迚階子ゟ落ゝて怪我いたし臂のほねを折キ打臥罷在本日おひて

他行の留守中のよし十九日ニ小手りやうちへ遣し候へ共起臥不便はれいたミ打臥居候よし告之宗伯快方ニ候はゞ罷越候て見候様可致旨お秀へ申聞其外雜談數刻にして歸去

一八半時頃お百宗伯おミち太郎お次飯田町宅ゟ歸來ル祭不殘見物いたし候よし之

一同刻芝泉市ゟ使札則金瓶梅二編三四稿本貳冊並ニ返書右使にわたし遣ス泉市ゟ取忘れもの有之手紙にも載之その物不差越其段使へ申聞おく

一夕方つるやゟ使札嘉兵衛代筆之けいせい水滸傳十二編三四の巻畫寫本出來見せらる一覽之上早早筆工金兵衛方へ持參いたし候様右使に申付もたせ遣ス尤つるやに返翰遣之

一美少年錄三輯四の巻三番校合引合せ直し落志るしつけ畢其後ちよ〳〵ら著聞集下編廿丁之内初校十丁志るしつけ今夕四時就寢予風邪引かへし家内も一同昨夕不快のよしニ付はやく休しむ

○廿二日辛未晴

一晝前お祐おますおてつを携來ル昨夕も飯田町へ止宿今日本郷さゝやに罷越候よし之手みやけ持參茶くわし並ニ懸ケ合の晝食夜食たへさせ夕方歸去

一晝後おさき來ル手みやけ持參時候見廻之かけ合の夜食ふる舞夕方おゆう等同道にて歸去おゆう等は飯田町清右衛門方迄立歸り久右衛門今夕迎ニ不參候はゝ明日歸宅のよし之

一夕七時頃畫工柳川重信來ル俠客傳表紙板下墨かき致し持參見せらるいろさし等相談之上丁子やへ持參平兵衛ニのみこませ今夕大坂江登せ可然旨並ニ俠客傳一の卷出來候間今夕人差越候樣傳言たのミ遣ス右用談畢て歸去柳川手みやけ被贈之

一同刻泉市ゟ使ヲ以昨日とりわすれ候よしにて羊羹一棹被贈之來客中ニ付謝禮口狀にて申遣ス

一大傳馬町殿村店預り久右衛門ゟ小ものを以松坂主人佐五平ゟの書狀一封並ニ先月登せ候寫本料金壹分ト六匁三分被屆之受取書付遣之

一宗伯俠客傳一の卷校合書拔キ等今日晝後迄ニ皆出來之

一予千代褚良著聞集下帙廿一丁の內昨日の殘り十丁校訂書拔等いたし其後俠客傳一の卷宗伯校合いたし候をよみかへししるしつけ再校し畢尚又大坂板元河內や茂兵衛へ遣し候書狀認之其間ニ髭を剃り來客重信對談等にて消日了夜ニ入つかれ候に付休筆

一暮六時前丁子や平兵衛ゟ使ヲ以俠客傳一の卷校合乞並ニ美少年錄三輯五ノ卷初校直し出來ニ付はん直しすり本差越之則同書四の卷三はん校合並ニ俠客傳初校いたし候すり本廿丁一綴並ニ河內や茂兵衛江之書狀等右使にわたし今夕早便にて早々飛脚や江出し候樣申ふくめもたせ遣ス

一右幸便ニたのミ西村や與八江手紙遣スちよく〳〵ら著聞集校合出來の案內之

一との村佐五平状は先月廿六日ニ此方ゟ遣しゝ書状は五日ニ差越包は同十一日ニ着のよし右請取の案内並ニ用向の略返事例のごとく代筆にて申來ル

一今夕四時過就寐今日尤多用且來客等にて混雜中消日了

〇廿三日壬申晴

一今曉正六時頃東隣堺の塀垣を犬かみ破りゝ音聞えゝ間早速起出庭へ出樣子見ゝ處橋本板塀をかみやぶり此方の建仁寺垣の竹少々とれゝへとも表の方は恙なし

一四時前西村や與八ゟ使札昨夕丁子や男たのミ遣しゝ返書にて著聞集校合乞る則校合すり本並ニ返書右使にわたし遣ス

一晝後清右衞門來ル則申付關忠藏家內賴ミの金ひら船五へん一部手紙差添もたせ遣スさし置歸來ル尙又新大坂丁二見や忠兵衞方にて近日足袋かひ取ゝ樣申付右代金貳朱わたしおく右用向畢て歸去

一宗伯美少年錄三輯五の卷貳番校合引合せ終日にして未果

一お百晝後ゟ風邪持病の頭痛眩暈のよしにて夜食後早々病臥夜中手水場にて癪を打ゝよしと

一予傾城水滸傳十二編ふくろ畫稿金瓶梅二編表紙外題畫稿稿之終日之夜ニ入殺生石五へん少々稿

案折々悪寒いたし候ニ付宵ゟ火にあたり四時就寝

○廿四日癸酉薄晴夜ニ入大風北 晩方風止

一お百昨夜中打候臀へ無名□つけさしむ今朝は昨夜のまゝ病臥此節無人迷惑限りなし晝後宗伯小石川松平きの守殿内のうちミ藥かひニ罷越夕方痛處に引之尤服藥も宗伯調劑いたし使用之

一晝前丁子や平兵衞來ル美少年錄三輯ひやうし手本持參あかミ勝こんひやうし之並ニ俠客傳表紙いろさし等及相談江戸にてほらせ候つもり右要談畢て歸去手みやけ被贈之

一晝後小林怪茂(?)といふ人易學者にて花山(華山)懇友のよし初て來訪面謁を乞はる此節多用寸暇なきにより風邪に托して辭之則宗伯を以及挨拶同人手みやけとして藤房卿眞跡のよし手製墨本被贈之依之歸去

一宗伯今日美少年錄三輯五之卷二はん校合引合せ直し落書ヌキ出來

一予殺生石後日第五編一の卷の內書畫丸貳丁稿之今夕四時過就寝

○廿五日甲戌薄晴昼後快晴 昨日のごとし但今夕は風なし

一お百今日も病臥煎藥用之昨日ゟ痛もうすく順快のよし終日平臥

一早朝中川金兵衞けいせい水滸傳十二編三の卷筆工出來差置歸去其後校訂畢

一宗伯今日ゟ俠客傳二の卷初校これをはしむ

一今日妙岸樣祥月忌日料供晝飯ニ供之無人の上お百病臥おミち一人にて手まはりかねゝ故之如例終日精進之

一夕方中川金兵衞來ル今朝の水滸傳寫本はりけし一行書おとし有之右かき入ゝ樣申談し寫本わたし遣ス右幸便ニ丁子やゟ美少年錄三輯五の券一綴屆くれゝ樣たのミもたせ遣ス又山口屋藤兵衞へ殺生石〔五〕編一の卷廿八日ニ出來の案內狀並ニもりや次兵衞ゟ金魚傳稿本さいそくの書狀右金兵衞ニたのミつるやゟ罷越ゝ序ニ屆くれゝ樣たのミ遣ス

一暮六時過淸右衞門來ル下町へ罷越歸路のよし過日申付ゝ足袋五双二見やにてかひ取持參わたし置ゝ代金貳朱之上にて三十二文不足のよしニ付今夕遣之將又山田吉兵衞病氣見廻宗伯可罷越之處お百病臥且宗伯も不快未痊可延引ニ及ゝ間明日くり合せ小石川へ罷越吉兵越病氣樣子見ゝて右之趣お秀へ申聞ゝ樣申付おく

一中やにて半切注文今夕淸右衞門ニ申付かよひ帳もたせ遣ス右用談畢て淸右衞門五時前歸去

一夕七時前地主杉浦淸太郞來ル宗伯對面出役にて今日出立のよし之

一右ニ付卽刻宗伯杉浦方へ罷越祝義申述同人娘ゟ小人形壹包遣之

一殺生石五へん一の巻の內丸筆工壹丁さし繪貳丁稿之今夕淸右衛門罷越程なく五時ニ成候故夜分は休筆之拵天厨子移し候事今夕宗伯ニ示談四時過就寐

○廿六日乙亥薄晴程なく快晴 風烈南 日暮ゟ風止

一今朝淸右衛門來ル早朝山田吉兵衛方ゟ爲病氣見廻申付候口狀申述候よし吉兵衛撲傷少々快方但右之方手足偏□左手にて杖をつき家內を步行は出來のよし之且又淸右衛門へ賴置候うち身藥かひ取持參殘錢遣之則お百用之お百今〔日〕も平臥之

一晝後おミち兄元祐來ル早々歸去候ニ付おミちの外不及對面宗之介娘ゟ太郎へ手遊物贈之今日元祐持參いつれももちふるし候品のよし尤非禮といふへし

一夕方丁子や平兵衛ゟ使を以俠客傳繪つき筆工吉十分二番校合出來三はん校合すり本許差越之受取おく尙又美少年錄三輯とひらふくに有之年號來年分ニ入木直しいたし度よし申之ニ付任其意下書をつけ筆工金兵衛持參候樣右使ゟ申付遣ス

一今日も宗伯俠客傳二の卷校合終日之

一橋本喜八郎殿候宗伯へ使札過日之巡島記初輯五冊被返之尙又あと借覽いたし度よし申來ルといへとも上ふくろ引やふり且本ニ折をつけそまつにいたし被返候間不借之外へかし置只今手前ニ

無之旨口狀にて申遣ス

一殺生石五へん壹の巻の内畫中筆工二丁丸筆半丁餘稿之今夕四時過就寐

○廿七日丙子曇今朝五半時頃地震晝之間晴夕方又曇夜中雨至曉

一晝前田口久吾ゟ使ヲ以赤飯一重被贈之倅榮太郎宮參祝義のよし之

一宗伯今日も俠客傳二の巻校合大抵仕をはり晝後ゟ書ヌキ等之

一庭のさくろ鳥つき候間宗伯をして不殘採しむ是ゟ度々とり候都合七八十なり候畢朝鮮さくろも當年は大ニ志ゆくし候て又二三十なり候之柿は已前不殘採之是亦七十許なり候處十五六鳥に啣去らる

一殺生石後日第五編壹の巻自序十一〔丁〕半今夕不殘稿し畢今夕四時就寐

一お百うちミ追々快方之様子ニ候へ共ひたちかね今日も病臥煎藥日々用之

○廿八日丁丑昨夜ヨリ雨天明ヨリ小雨五時ゟ雨止不晴四時頃ゟ又雨折々止終日如此

一今朝中川金兵衞傾城水滸傳十二編四の巻筆工出來持參當番出かけのよしニ付後刻歸路立寄候様申示し請取其後校閲了

一晝時丁子や平兵衞手代俠客傳繪つき吉十郎分三番校合取ニ來ル只今いたしかけ候間夕方可參旨

聞同書二の卷大坂にて彫刻分初校出來候間今夕飛脚へ出し候はゝ夕方取ニ可參旨主人ニ申聞候樣右手代に申付且山口やに傳言たのミ遣ス

一八時過山口や藤兵衞ゟ使札殺生石後日五編一の卷乞ニ來ル山口藤兵衞風邪にて引籠居候よし之則壹の卷稿本並ニ返翰右使にわたし遣ス

一夕七時前清右衞門來ル過日申付候するか半切二百五拾枚中やゟかひ取つき立八卷にいたしかよひ帳と共に持參半紙は此節船間にて宜もの無之よし申之且正月分ゟ店勘定帳閲を乞則如例一覽來月一日赤飯之事中村やニて序有之候はゝ少しかひ取候樣申付遣ス右用向畢て歸去清右衞門小指へとげをたて不拔少々いたミ候よし之

一夕方七時過中川金兵衞又來ル今朝の寫本けいせい水滸傳十二編一ゟ四迄稿本四冊袋へ入つるやに遣し候樣示談右二樣ともわたし遣ス

一宗伯今朝ゟ俠客傳三の卷校合ニ取かゝり終日之お百今日も病臥昨日の「通りの」よし

一予今朝水滸傳十二編四の卷寫本校閲し畢夫ゟ俠客傳繪つき筆工吉十郎分三はん校合いたしまるしつけ置候又同書二の卷大坂にて彫刻出來分十六丁宗伯校訂いたし候を改め校閲大坂河内や茂兵衞への書狀認之且同書外題五本稿之彼是にて終日之夜ニ入殺生石後日五編め二の卷稿ニ取か

かり晝キ候處疲勞ニ付休息

一蓮暮丁子や平兵衛手代又來ル美少年錄三輯四の卷四はん直し五之卷三はん直しすり本持參右請取俠客傳二の卷校本一綴大坂河内や茂兵衛江之書狀壹封並ニ同書繪つき筆工吉十郎分三はん直し一綴同書外題稿一枚わたし遣ス校合書狀今夕飛脚問やに出させ候つもり口上申ふくめ遣ス平兵衛濕瘡いたミ出かね候よし右使每々寫本箱持參不致候間已來は風呂敷にても包ミ持ありくへし萬一とり落し候へは年内の間に合かね候趣示談いましめおく今夕四時就寐

〇廿九日戊寅薄曇四時過ヨリ晴風夜ニ入風止寒冷

一夕七時過お秀來ル吉兵衛撲傷同樣之内少々つゝ快方のよし同役某養子の媒介致候へとも存寄ニ不應候へとも吉凶悔吝の爲上野大師へ參詣神籤を取候處五十二番にて凶ニ候判斷いたしくれ候樣申ニ付みくし本を見せ尤不宜候間緣談及斷可然旨申聞且雜談數刻夕方歸去

一宗伯今日も俠客傳三之卷校合終日之

一お百今日も病臥樣體かはるとなし老衰病當五月中の如し

一釆天大厨子うつし方位吟味いたし候處丙の方は座敷と書齋の入口ニ當り候間尤不便にて其義ならす依之子由三合メ辰の方本年本月さわり無之ニ付辰の方巽三尋東の障子一の方ニ當り候間明

一日未刻ニうつし可然旨宗伯ニ示談に及ふ

一芝泉市小もの來ル金兵衛方にてうけ給はりい〈候〉へは金瓶梅表書畫稿出來居いよし御わたし被下い様申之過日稿遣いへ共其後便無之ニ付とゝめ置いよし申聞わたし遣ス

一殺生石後日五編貳の巻丸筆半丁繪入筆工壹丁同さしゑ壹丁稿之二丁半之內壹丁繪入筆工遣ル今夕四時就寐尤今朝美少年錄三輯四の巻四はん校引合せい處四の巻は不殘直りい故校合濟夫ゟ五之巻三はん校合いたし不直分書拔いたし置い得とも今日自丁子や人不來依之右校本とゝめおき畢

〆今日ゟ市中略曆をうりあるく聲す來年は十二月に閏あり

〇十月朔日己卯晴

一晝前淸右衛門爲當日祝義來ル過日申付い半紙十帖つゝ二口越後や次兵衛店にてかひ取持參且夏中おさきに申付い予南部しま小袖ぬひ直し出來持參足しわた三匁分かひ取いよし申之兩様代錢金貳朱則淸右衛門へわたし遣ス雜談後歸去

一渥見覺重來ル深川桑島氏ゟ寫し取い遺老物語十二の巻出來持參筆耕二百九十一文之處金壹朱遣之百十八文かしニ成ル尙又同書九の巻料紙指添うつしニ遣ス則覺重ニ渡之同人子供に朝鮮さく

ろ七ツ遣之下女奉公人之事頼おく雑談後歸去
一晝後おさき同道お百病氣見廻來ル手みやげ持參薄暮夜食後歸去
一八時過丁子や平兵衛手代美少年録校合取ニ來ル同書四の巻は校合相濟五之巻三はん校合一綴わたし遣ス右手代ニ頼ミ大傳馬町との村店文右衛門方ニ手紙差添同人主人いせ松坂との村佐五平方ニ遣し候書状一通遣之右は今夕幸便ニ任せ飛脚問やニ差出しくれ候樣頼遣ス
一今夕吉日ニ付弁才天大厨子移し候ニ付朝ゟ宗伯そうぢいたし未の時吉辰ニ弁天を東三疊の間辰の方ニ移し神酒備菓等備祭之同所の本箱は是迄弁天厨子差置候押入内ニ七ツ入置之殘りは東北三疊障子と杉戸の外へすゑおく右ニ付宗伯俠客傳三の巻校合休む夜ニ入校訂如昨日之
一予今朝ゟとの村佐五平へ遣し候先月の返翰書かゝり候處弁天厨子うつしニ付晝後迄手傳之且清右衛門覺重參り彼是ひま入未書畢內丁子や手代來候間匆々ニいたしよミかへすニ不及封之右丁子や手代ニたのミ大傳馬町殿村店文右衛門方へ遣之右は水滸後傳評寫本料請取之事其外先便の返書之依之今日は殺生石後日五編著述休筆之夜ニ入つかれ候ニ付休息四時過就寝
一薄暮お成道奉公人入口下女奉公人目見つれ來ル宿は相生町にて出處大森のものニ候よし老婆にて五十歲前後に見え候よし老女にて好しからず候へ共つとめ方給金等之事示談大もり〆參り候



（八）著者手澤「里見八犬傳」初輯及第八輯首端

まゝにて夜具無之候間ふとん一つかり請申度よし申之當分の內ならはかし遣すへき旨申聞候へは宿へかへり相談ノ上否可申上旨申候て歸去といふ程なく日くれ候ニ付沙汰なし

○二日庚辰曇（冷寒）夜ニ入（四時頃ゟ）雨（折々止）

一晝後渥見覺重ゟ使札昨日たのミ候やとひ下女之事病氣ニ付參かたく候よし斷申來ル則返書遣ス

お鍬ゟおミちへ文並ニつぎ物來ル○お百不快今日も同樣にて病臥

一夕方お成道けいあん婆來ル昨夕之奉公人給金三兩のわりにて被下候はゝ夜具持參可仕旨申之然共五十許の老女に付寒に向ひ用立かね可申旨おミち申ニ付給金之義は望の如く可遣候へ共老婆にて間に合かね可申旨少しもわかきを吟味いたし差越候樣申付遣ス尤けいあんちんはやとひ同然に此方ゟも差遣可申間精入吟味いたし候樣申付遣ス

一宗伯今日も晝夜俠客傳三の卷校訂夜ニ入書拔いたし候處未果

一今日甚しく寒冷ニ付予惡寒いたし多く爐に凭る依之殺生石後日五編二の卷の內晝中本文二丁丸筆工半丁餘稿し候のミ今夕四時過就寐

○三日辛巳曇（天明雨無程止）又雨（晝前ヨリ）半晴（夜中風烈）今夜四時過立冬

一中川金兵衞金瓶梅二編壹の卷筆工出來持參差置歸去其後早速校閲悞寫少し●あり此方にて直し

置

一晝後清右衛門來ル越後やゟ拂遣ひ紙代請取書付持參且九月分藥うり溜勘定いたし鳥目並に帳面鍵持參尚又中村やゟ到來のよしにて新米切餅一重持參是ゟ下町へ罷越ひよしニ付丁子やゟ俠客傳校合之傳言申付遣ス

一夕方丁子や平兵衛ゟ使を以俠客傳畫つき吉十郎彫刻分四はん校合直し美少年錄三輯五之卷四ばん校合直し持參薄暮ニ付うけ取おく

一夕七時過渡邊登手紙持參ひ仁大川又吉といふもの水滸全書代金取ニ來ル則宗伯を以かけ合せ同書あとゟ被差越ひ二帙の內五十六七回ニ白紙同樣之大磨滅多く有之依之直段少々引きひ義不相成哉とかけ合せひ處右之仁一向不分いつれ罷歸り本主へ可申聞旨申ニ付今日金子ヲ不渡そのまゝかへし遣ス

一薄暮芝泉市小もの金瓶梅二編一の卷寫本校合濟ひはゝわたしくれひ樣申來則右使ニわたし遣ス

一俠客傳の三の卷今日晝時宗伯校し畢夫ゟ四の卷校合ニ取かゝる

一予金瓶梅二編壹の卷寫本校合いたし夫ゟ俠客傳三之卷初校よミ立再校遺漏を補ひ終日之夜ニ入殺生石五編二の卷の內丸筆工半丁弱さし畫一丁稿之今夕四時就寐

一お百不快今日も同樣病臥おつき少々水瀉折々腹痛奇應丸用之

○四日壬午曇風烈ゟ（晝後）風止

一晝後丁や平兵衞ゟ使ヲ以俠客傳三之巻校合とりニ來ル今夕飛脚問やに出し候樣其外用向口狀書差添右使にわたし遣ス但美少年錄三輯袋とひら入木直し出來校合すり出來請取おく

一森や次兵衞ゟ使札金魚傳下編の下二はん校合すり本同稿本四冊差越し尙又來年新作合巻之書名目錄へのせ出し度候間書付くれ候樣申來ルとり込中ニ付受取おき追て校合とりニ參候樣口狀右使にふくめ遣ス

一宗伯今日も俠客傳四の巻初校にて終日之

一予殺生石丸筆工壹丁半さしゑ二丁畫中筆工二丁餘巳上二之巻八丁めニ至ル迄稿之今夕四時過就寐お百今日も病臥之

○五日癸未曇（四時前ヨリ）雨（八時過ヨリ雨止）夜（五時前ヨリ）又雨（曉方雨止）

一早朝中川金兵衞金瓶梅二編二の巻筆工出來並ニ俠客傳外題板下も書候て持參今日金瓶梅寫本板元泉市へ持參いたし度候間晝時迄ニ校合いたしくれ候樣申し差置歸去其後朝之內右寫本校閱快●寫等改正し畢晝後金兵衞來ル當番出かけ泉市へ罷越候よしニ付右寫本わたし遣ス

一鶴や喜右衞門ゟ嘉兵衞代筆にて使札傾城水滸傳十二編袋畫寫本出來見せらる則一覽の上右寫本筆工金兵衞へ致持參候樣使へ申付もたせ遣し鶴やへは返翰遣之

一薄暮土岐村元立來ル芝田町宗之介妻ゟ太郎は進物持參せらる雜談後五時前歸去

一宗伯今日も俠客傳四の卷校合終日之○お百今日も病臥但少々つゝ順快

一予殺生石五編二の卷の內さし畫一丁丸筆工一丁畫中筆工壹丁稿之十一〔丁〕め迄皆出來倚又二丁め ゟ七丁め迄句讀つけかな等稿之今夕四時過就寐

○六日甲申曇薄暮ヨリ夜中雨

一晝前中川金兵衞水滸傳十二編袋筆工書入持參覽一之上右寫本並ニ美少年錄三輯外題板下わたし遣ス是ゟ丁子やつるやは罷越候よしニ付山口やは傳言たのミ遣ス右は殺生石五編二の卷稿本出來の案內並ニ畫工等之事之片便ニ付返事なし且水滸傳ふくろ外題つけかなかくニ不及處認來ルけし可遣處失念そのまゝ遣之

一晝後淸右衞門來ル牛込針治之事當人此方へ招取お百療治受可然哉之旨申之則お百へも申聞候樣及示談且淸右衞門今日油丁へ罷越候よしニ付丁子やは俠客傳六之卷校合今夕飛脚へ可差出案內並ニ山口やは稿本とりに參候樣との案內申遣ス是又片便ニ付返事なし然ル處いかゝいたし候哉

や丁子や共今夕迄人不來之

一宗伯俠客傳六之卷校合並ニ書拔等晝後迄ニ出來依之予も又校閲し畢其後丁子や𠮷人參候を待候へとも人不參差急キ校合いたし候へ共今夕登せす遺憾甚し

一予殺生石後日五之卷夕七時前迄ニ書畫詞書共不殘稿畢其後俠客傳六之卷校閲疲勞ニ付休息今夕四時前就寢お百今日も病臥之

一昨五日地主杉浦宅床下へうみ候犬の子此方門前脇へ出し小屋かけおく是清太郎繼母の斗ひのよし彼方手前勝手よろつかゝる事多かり

○七日乙酉小雨折々止

一今朝丁子や平兵衞來ル昨日町役有之且無人にて無沙汰ニ成候よし申之則俠客傳六之卷校合すり本わたし遣ス尤今日は飛脚休日ニ付明日出し候趣其外用談畢て歸去

一同刻山口や藤兵衞來ル則殺生石五編二之卷稿本わたし遣ス昨日英泉方へ罷越かけ合候處いつれ兩三日中下畫出來次第稿本返上可致よし同人申之云云右要談畢て歸去

一晝後渥見覺重方𠮷僕ヲ以深川久和島雲磴𠮷寫し差越候遺老物語七之卷原本共出來今日の筆料先日かし越しは次へ廻し不殘貰ひ度よし雲磴𠮷以手紙申來候ニ付則任其意今日分不殘百八十文遣

之並同書十一之巻料紙さし添遣之
一宗伯今日も俠客傳五の巻校合ㇾ此五之巻尤ほりあしくカケクツ甚し依之一向はかとらす且のり入紙へすらせ參りㇾ間けばたちわかりかねㇾ處も有之且朱すミのりかねめいわくのよし申之巽日大坂茂兵衞方へ其段申遣スへし
一予殺生石五編三之巻の内丸筆工半丁さし畫三丁畫入筆工一丁半稿之尤書おろしのミㇾ今四時過就寐お百不快今日は少々順快床の内にて起出ㇾよしおミち申之
〇八日丁(丙)戌半晴晴雨未定晝後ゟ曇
一晝前淸右衞門來ル牛込針治之事此節追々療治受ニ參ㇾ者多ㇾ間他處に罷越かたきよしㇾ中やにてみのかミ五帖かひとりㇾ樣申付かよひ帳もたせ遣ス役用にて町奉行へ罷出ㇾよしにて早々歸去
一晝後伊藤半立ゟ宗伯へ使札來ル十一日亡父故半平道靜信士三十三回忌のよしにて壹分饅頭一重カス十二入被贈之予代筆にて返翰遣之
一鐵砲洲炭問屋松本三郎治手代忠八炭之用聞ニ來ル八月一日炭注文申付ㇾ處同人病氣に付被差越ㇾよしㇾ則兩に十五俵かへの上炭當月廿日迄ニ一駄差越ㇾ樣おミちを以申付遣ス

一宗伯今日も晝夜俠客傳五之卷校合之お百不快少々つゝ順快未及揚床平臥之

一予殺生石五編三の卷の內丸筆工二丁さし畫二丁同筆工畫中三丁半稿之但書おろしのミ之今夕四時就牀

〇九日丁亥薄曇四時頃ヨリ快晴

一今日亥日ニ付今朝宗伯ニ申付如例爐開しむ書齋も今朝ゟ六角火はち用之

一過日水滸全傳之事ニ付渡邊登手紙持參之仁大川又吉來ル右之書直段之事金壹朱ゟ外引不申由同人を以本主ゟ申來ル登歸府後是ゟかけ合代金渡候樣可致旨及返事因て歸去但とり次おミち之

一晝前淸右衛門來ル申付候ミの紙中やゟかひ取持參右之紙本ミのニあらす不宜候間とりかへ候樣申付おく但明日伊藤半平方へ二匁五分位のはこ入ろうそく差遣し候樣申付手紙認わたしおく右用事畢て歸去

一晝後四谷久右衛門來ル今日飯田町淸右衛門店へ罷越候處お百病氣のよし及承候よしにて爲見𢌞來ル早々歸去

一夕方飛脚問屋京や彌兵衛狀くはりいせ松坂殿村佐五平ゟの紙包屆來ル請取書遣之右は九月十二日出水滸後傳國字評返却せられし謝狀一通あり

一宗伯晝前ゟ俠客傳五之巻校合晝夜昨日のとし

一飯田町八百長九月分上家ちん今日清兵衛持參則宗伯へ渡置く

一予殺生石後日五編三の巻殘り筆工半丁稿之且同書四の巻の內書畫三丁丸筆工壹丁半餘稿之四の巻五丁の右ニ至ルいつれも書おろしのミ之今夕四時就寐〇お百追々順快之

〇十日戊子晴今曉八ツ時過ゟ曉六時前迄三度地震夜四時前ヨリ雨曉止

一お百今朝ゟ起出但いまた全く本復にはあらす先痊可之

一今日おミち兩人小兒共入湯其後予も入湯予は八月十二日ニ入湯のまゝ之

一宗伯今日も俠客傳五編校合晝後ゟ書拔夜四時迄同斷未果

一予殺生石後日五編四の巻の內丸筆工二丁半さし畫見わたし半丁己上三丁稿之

一今日來客使札等なし今夕四時就寐

〇十一日己丑曇薄暮ヨリ雨終夜無間斷但晝之間しはらく晴テ又曇

一晝時丁子屋平兵衛來ル爲お百病氣見舞交肴一籠被贈之且俠客〔傳〕ふくろとひら校本並ニ同書さしゑうすゝミ入の處持參見せらる皆請取おく同書吉十郎彫刻の分入用の由ニ付右すり本三番校合之分かし遣ス俠客傳五の巻校合校合今夕用來ニ付後刻人差越し候様示談畢テ歸去

一晝後宗伯俠客傳五の巻校合全畢卽刻予校閲遺漏を補ひ如例ことわり書二通書付及夕方薄暮丁平ゟ
人を以校本請取ニ來ル則わたし遣ス今夕飛脚問や出しゆによりてこ
一予殺生石五へん四の巻終迄稿之但さし畫一丁半丸筆工一丁半今日之分こ但書おろしのミこ今夕
四時就寐
○十二日庚寅昨夜ヨリ雨無間斷晝前ゟ雨止不晴　夕方ゟ夜中風烈寒不晴
一晝前淸右衞門來ル申付ゆミのかミ中やにてとり替持參並ニ白黑砂糖小松屋ゟかひ取持參請取之
先日のミのかミかへし遣スおさき方ゟきくミ少々差越之淸右衞門早々歸去
一今日宗伯ニ申付金魚傳下編之下廿丁再校終日にて夕方校了
一予殺生石五編下帙廿一之内十五丁慨脫を補句讀をつけ了今夕四時就寐
○十三日辛卯曇今朝風止寒天明みそれ少し降　晝前ゟ晴
一宗伯庭の落葉はきよせひさしそうち夕七時迄
一予殺生石後日四之巻慨寫補ひつけかな句とう等夕七時稿了七時過宗伯ヲ以板元山口や藤兵衞方
へもたせ遣ス則潤筆之内金五兩請取薄暮歸宅
一森や金魚傳下編の下四冊ニはん校合今日宗伯ヲ以森やに遣之同書外題表紙いろ校合すり一枚も

りやゟ差越候宗伯持參

一夜ニ入水滸傳五十一回披閲けいせい水滸傳稿案の爲之今夕四時就寐

○十四日壬辰晴

一早朝中川金兵衞殺生石畫寫本英泉方ゟ不來哉と問ニ來ル未來よし返事ニ及ふ依之歸去

一昨十三日夜ニ入芝泉市ゟ金瓶梅二編表紙畫寫本かき入出來のよしにて持參則一覽之上右使にわたし遣ス

一四時頃ゟお百宗伯おみち並ニ太郎おつきを携深光寺へ墓參いたし夫ゟ雜司谷鬼子母神へ參詣夜ニ入六半時歸宅

一晝前大傳馬町殿村店預り文右衞門ゟ以使いせ松坂主人佐五平ゟ差越候紙包壹届來ル則請取書遣之右は去年中ゟたのミ置候三才發祕此節かひ被差越候よしにて書狀壹通在中右之趣申來ル

一傾城水滸傳十二編稿本今日ゟ取かゝり五六の卷の内繪わり五丁半稿之今夕四時過就寐

○十五日壬(癸 巳薄晴

一晝前清右衞門爲當日祝義來ル深光寺ゟ十夜袋持參のよしにて雜談後早々歸去

一畫工英泉來ル殺生石後日五編壹の卷さし畫やう〳〵出來見せらる且手みやけ贈らる筆工金兵衞

へ持參候よしニ付直ニかへし遣スあとさし畫の事早々出來候樣示談畢て歸去
一晝時丁子や平兵衞手代英泉は此方へ不參候哉と問ニ來ル過刻罷歸候金兵衞方へ罷越候よしに候へとも時刻移り候間馬喰丁山口やに參候哉難斗旨及返事且美少年錄外題すみすりのミにても早々校合見せ候樣主人に可申達旨申遣ス取次おミち之
一晝飯後早々宗伯爲當日祝義松前兩やしきへ罷越歸路馬場忠藏方へ立寄內室ニ對面忠藏殿先月中死去悔申入尤今に內分にて不屆いまた養子も無之よし之右畢て宗伯薄暮歸宅昨日遠足疲勞之上外邪にて例の痰咳出候樣子但當分の症之〇つるやゟ如例新曆壹冊被贈之
一予傾城水滸傳十二編六之卷繪〔わ〕り五丁六の卷同半丁稿之並ニ五之卷筆工本文三丁稿之但書おろしのミ之今夕四時過就寐
〇十六日癸〔甲〕午晴
一傾城水滸傳五六之卷筆工七丁半稿之但七ノ卷口半丁ニ至ル尤書おろしのミ之
一今日來客使札等なし隣家橋本殿ニ女客あり晝九時ゟ夜半迄音曲舞踏尤さわかし今夕四時就寐〇宗伯風邪ニ付半起半臥之
〇十七日甲〔乙〕未曇暮六時頃ヨリ雨終夜無間斷

一晝前中川金兵衛殺生石後日五編一の巻十丁半筆工かき入等出來持參後刻當地歸路立寄り候樣申遣
之請取置其後早々校訂畢
一丁子や平兵衛ゟ使を以美少年錄三輯外題兩種校合すり被爲見之畫外題之方筆工ニかけアリ志る
しつけ遣ス其外すりの事口狀にて申遣ス
一夕七時過中川金兵衛又來ル今朝之寫本悞寫其外文を易候處有之候ニ付坐敷へ通し書直させ畢今
日板元山口やへ持參のよしニ付口狀申ふくめ並ニ鶴やへ手かミたのミ遣ス右はけいせい水滸傳
十二へん五六稿本今夕出來ニ付明朝人差越し候樣申遣ス案內之
一宗伯昨今屋代氏之遺老物語校訂然ル處一兩日前ゟ持病之口痛の氣味有之今夕ゟ大ニ發り夜中不
睡のよし之
一予傾城水滸傳十二編下帙五六二冊書畫詞書共不殘今夕稿し畢四時就寐
○十八日乙（丙）申雨昨夜ゟ無間斷八時過ゟ雨止テ不晴
一晝後渥見覺重ゟ使札深川久和島雲磴遺老物語の內由井根元記一冊寫し出來居之則筆料先月かし
越分差引右鳥目並ニ同書七八二卷料紙差添遣之覺重痳積にて少々不快のよし此方も病人多にて
不沙汰之趣返書ニ申遣ス

一宗伯今日も口痛にて養生半起半臥之
一昨日鶴屋江案内申遣候處今日人不來おそなはり彫刻間ニ合かね候故なるへし右けいせい水滸傳十二編七八の内繪わり晝時ゟ夜四時迄六丁半稿之晝迄は水滸傳五丁四回披閲右繪わりの爲之今夕四時就寢

○十九日丙(丁)酉薄晴四時前ヨリ快晴

一今朝五時星祭獻供如例家内一同拜禱畢
一晝後清右衛門來ル夏中樋田や江申付させ候飯桶つくりかえ出來持參右は享保中ゟ相傳壹斗桶損し候舊材を以作らせたる之右代銀清右衛門ニわたし濟
一清右衛門來ル八百や長兵衛此節勝手ニ付本郷邊江轉宅の催しニ付是迄繁昌の見せニ付近所ゟ望人兩三人有之右かけ合の趣今日清右衛門申之宜取斗候樣申付置く右之借屋は上家此方所持たるによりて之今日清右衛門油丁へ罷越候よしニ付つるや江傳言申付遣スおさき少々眼病のよし之
一夕七時頃鶴や喜右衛門ゟ使札けいせい水滸傳十二へん下稿本下帙出來之案内一昨日申遣候ニ付右稿本〔取〕ニ來ル則五六二本右使江わたし遣ス
一夕方中川金兵來ル芝泉市ゟ金瓶梅二編三四の繪寫出來のよしにて見せらる一覽の上早々筆工い

たし遣しゝ樣申示し右寫本金兵衞へわたし遣ス取次おミちヽ

一夕方京屋彌兵衞狀配り大坂河内屋茂兵衞ゟ之小紙包壹ツ屆來則請取書遣之右は俠客傳壹の券初校直し出來二はん校合すり差添被指越之十月十一日出八日限はや便りヽ宗伯此節口痛ニ付先請取おく水滸四傳全書並ニ三才發祕代金之事申來ル三才發祕は先頃松坂との村ゟ差越ゝゟ壹分貳朱下直之

一宗伯今朝口痛過半宜ゝ處晝後ゟ又いたミゝよしにて平臥ヽ

一予けいせい水滸傳十二編八の卷晝わり殘り二丁半稿之又七之卷筆工三丁半稿之今日四時就寐

〇廿日丁(戊)戌薄晴今曉八時過ゟ雨

一今日　公方樣上野御靈屋へ御參詣の風聞ニ付火留如例申付おく地主ゟ沙汰なし如例

一宗伯口痛夕方ゟ別而甚敷うめきゝニ付暮六時過觀音符吉方甲の方へ打之修法如例右應驗有之ゝ哉五時頃ゟいたミ退キ四時就寐

一傾城水滸傳十二編七八本文不殘稿了夫ゟ詞書不殘かき入今夕四時過就寐但しいまた書おろしのミにて不及補綴

一米屋文吉江飯米注文申付かよひ帳遣之此節無人ニ付お百太郎を携籠越申付無程歸宅

○廿一日戊（己）亥雨四後頃より晴

一今曉七時過雨中ニ下町邊失火有之宗伯起出見候處通油町馬喰町邊の見當ニ可有之よしよほとの間不滅火元いつれニ候哉未詳

一右失火神田紺屋三丁目め天王之よこ横河岸材木小屋ゟ出火少々延燒のよし元跡宅邊ニ候へ共此節宗伯病臥無人ニ付不及見舞尤恙あるとなし

一晝後森やゟ使ヲ以金魚傳下編の下三番校合すり本差越之請取おく

一中川金兵衛金瓶梅二編三の卷五丁半筆工出來明日可參よしにて差置歸去

一宗伯口痛夕方ゟ又大發うめき候ニ付夜ニ入五時過觀音符念唱鎚を加ふ四時前ゟいたミ少々やわらき就寐

一予傾城水滸傳十二編七八の卷筆工悞脫補寫八時過右二冊全稿し畢夫ゟ金瓶梅二編三の卷校閱いたし夜ニ入俠客傳二はん校合壹番校合に引合せ直し落直しちかひ訂之今夕四時過就寐

○廿二日己 庚 子晴

一今朝昨夜の俠客傳壹の卷貳はん校合燈下にてわかりかね候ニ付今朝過半又引合校合夫ゟ大坂河茂江之返翰一通認之右校合すり本共封し置尙又金魚傳下編の下三番校合引合せ置く○熊胆屋金

右衛門來ル則熊胆一つかひ取如例書付わたしおく

一昼前清右衛門來ル奇應丸包無之よしニ付おミち遣之右歸路清右衛門ニ申付大坂河太へ之紙包ちんせん拂八日限島や佐右衛門ゟ差出しくれ候樣示談島屋通帳添もたせ遣ス

一夕七時前お成道奉公人入口女房目見一人つれ來ル四十才所帶崩しのよし請人はお切手町のよし申之給金一ヶ年三兩のわりにて來三月五日迄壹兩壹朱ニ相定熟談ニ付宿書持參いたし候樣申付遣ス然處今夕沙汰なし

一七時頃ゟお百太郎を携本郷金介町へ蒼龍丸かひ取ニ罷越並に肝胵圓其外かひ物兩三種いたし夕七半時前歸宅

一今夕六半時過鶴屋ゟ使札過日案内申入候傾城水滸傳十二編七八稿本乞ニ來ル右二冊稿本ふくろニ入右使ニわたし遣ス

一暮時ゟ宗伯口痛又甚しき樣子ニ付觀音符ニ鎚を加へ念咒いたし且自今夕東三疊へ臥しむ當月卯の方天道甲天依て月德三合ニ候卯の方本年大歲ニ候へ共吉星聚合候ニ付右のとく取斗ひ丙容利方を枕にいたさせ四時ゟ寐ニ就しむ口痛頗退く

一予金魚傳校訂後今夕金瓶梅二編下帙稿本ニ取かゝり五の卷の内繪わり壹丁半稿之今夕四時過就

寐

○廿三日庚・辛丑曇夜四時前雨多くふらすして止

一早朝中川金兵衛金瓶梅二編四の巻筆工書入出來持參後刻可參よしにて差置歸去其後予校閲且泉市へ遣し候手紙等認一式取揃おく

一晝前おひで來ル手みやけ持參お百病氣見舞之吉兵衛うち身少々つゝ快方のよし雜談後歸去

一晝飯後早々お百ヲ以清右衛門方へ今夕奉公人政請狀ニ參くれ候樣申遣ス太郎同道暮六時前歸宅

一晝後中川金兵衛又來ル則金瓶梅二編三四寫本稿本四冊取揃並ニ泉市へ遣し候手紙一通わたし遣ス同書五六二卷稿本廿六七日頃迄ニ出來の筈内ロ狀にも傳言たのミ遣ス

一夕七時過清右衛門來ル則下女政請狀並ニ取替金壹分貳朱わたし遣ス右請人下谷御切手町茂介店武介方へ罷越金子わたし請人金印形取之暮六半時頃歸來ル五時前清右衛門歸去且奉公人明廿四日夕引移り候樣申付畢

一宗伯ロ痛今日は大ニ發らす昨夕ゟ快處吉方ニ移し候驗かと申ス

一予今朝金瓶梅二編四の巻寫本校訂いたし泉市への用狀認之夫ゟ奉公人請狀染筆晝前ゟ金瓶梅五六兩卷の繪わり七丁稿之今夕四時就寐

〇廿四日辛•壬）寅薄曇無程終日晴
一今朝さかひ町勘三郎座役者入替り役者附賣門前通行のよひ聲聞ゆ其外は未賣出
一山口屋藤兵衞來ル殺生石五編如例增潤筆並くわし手みやけ持參予對面畫工英泉の事に〔付〕示談
是ゟ英泉方へ催促ニ罷越候よしにて歸去
一關忠藏家內ゟ使札先頃遣し候金ひらふね五編代代•錢百拾文並さつまいも一盆被贈之使いそき候
ニ付おミち請取書遣之
一大傳馬町殿村店文右衞門ゟ松坂佐五平書狀屆來ル去ル九日是ゟ差出候返書其外用事中來ル請取
書遣之
一下女まさ今夕引移ル手みやけ持參夜分ニ及候ニ付夜具等明日宿ゟ持參のよし申之依之夜具かし
遣ス
一暮六時過丁子や平兵衞來ル美少年錄三輯明日うり出し候よしにて如例右製本貳部金百疋被贈之
來ル大坂俠客傳壹の卷貳はん校合去ル廿二日ニ登せ候事共示談右用向畢て早々歸去
一宗伯口痛は追々順快之處今日南風にて頭痛いたし且逆上甚しきよしニ付晝後按摩よひよせもま
せ保養ス

一予金瓶梅二編六之卷殘り書わり一丁半稿之夫ゟ本文五の卷の內四丁半稿之本書おろしのミ之今夕四時過就寐

一今朝森屋ゟ金魚傳下編の下三番校合乞ニ來ル右校本わたし遣スとかく不直ニ付よく直させ候様申遣ス○今夕下女まさ夜具小道具等宿ゟ持參のよし之

〇廿五日壬（癸）卯晴ゟ晝後薄曇

一金瓶梅二編六之卷の內地名せんさく晝時迄夫ゟ本文六の卷三丁め表迄稿之今夕殿村佐五平への返翰長文一通書之半切紙廿四枚つき凡壹卷弱ニ及ふ今夕四時就寐

一晝後西村や與八ゟ使札著聞集下帙壹番校合直し出來貳はん校合すり來ル請取返書遣ス但右すり本の內落丁有之かさねて可申遣之あとにて見直之

一下女まさ前わたし給金の內當人願ニ付壹朱かし遣ス殘り壹分貳朱と成ル

〇廿六日癸（甲）辰薄曇終日不晴夜中ゟ風烈

一晝後淸右衞門來ル八百や長兵衞轉宅催故障有之及延引候よし告之今日京橋へ罷越候よしニ付いせ松坂殿村佐五平へ遣し候紙包壹書狀一通大傳馬町との村店文右衞門へ差出し請取書取之候様申付もたせ遣ス淸右衞門明日ゟ來月十日迄行事のよし新みかん十五持參之

一予晝時過迄昨夕之書狀悞脫を補ひ並ニ美少年錄三輯壹部あて板いたし紙包にいたし右松坂との村方へ遣し候物一式とゝのへおき晝後ゟ又金瓶梅稿本ニ取かゝり終日之

一夕方芝泉市ゟ使札今日近所江人遣し候ニ付過日致案內候金瓶梅稿本出來候哉と申來ル尤五ゟ八迄板木師こみ合候間二年分にいたし來秋出版のつもりにいたし度よし申來ル予も同意ニ付相應之返事申遣ス稿本今日は未出來ニ付明夕にても明後日にても人遣し候樣及返翰

一宗伯昨夜ゟ又口痛にて今日は終日平臥但大おこりにはあらず風邪の氣味も有之之

一金瓶梅二編六之稿筆工本文十丁迄不殘稿之但書おろしのミ之今夕四時過就寐

一明日王子　御成之風聞有之但此邊には沙汰なし

○廿七日甲（乙）巳晴今朝五時過ヨリ風止

一晝後田口久吾ゟ宗伯へ使札右は養夫覺源信士來ル晦日十七回忌相當のよしにて大まんちう一重の內十五被贈之宗伯ゟ返翰遣之

一薄暮芝泉市小もの來ル右は今日馬喰丁邊へ罷越候序有之候ニ付參候金瓶梅稿本出來候はゝ御渡し被下候樣申之五之卷一冊出來ニ付口狀書差添渡し遣ス六之卷は今晚出來候間尙又幸便有之候はゝ取ニ參候樣申付遣ス

一暮六時過下女政請人武介來ル右は無據急用御坐候間政給金引當にて金三朱借用仕度よし政願ふといへ共引移り後未幾候ニ付不叶趣及斷といへとも達而相願此分は明日無遲返濟可仕旨申ニ付書紙印形取之金三朱かし遣ス

一宗伯今日は口痛少々順快尤いまた少しつゝいたミ候よし之予昨日惡寒候ニ付今日服藥痊可ス

一金瓶梅二編五六之卷本文悞脱補ひ詞書等一式今晩稿了四時過就寐

○廿八日丙午薄曇晝前ゟ晴

一今曉七時過北の方ニ失火有之人多く出此邊は靜之火元未詳後ニ聞谷中團子坂のよし之

一今日唯稱居士御祥月ニ付如例今朝料供を以奉祭之

一晝後清右衞門來ル一昨日大傳馬町との村店ゟ遣し候松坂行紙包書状請取書付持參今日田口久吾方へ進物如先日伊藤半平へ遣し候ろうそく小箱入ニいたし右久吾方へ遣し候樣申付宗伯手紙認め清右衞門ニ委ね遣ス

一晝後ゟお百深光寺ゟ墓參歸路阿部あけ地山田吉兵衞ゟ病氣見舞ニ罷越候樣申付肴代壹朱もたせ遣スお百薄暮歸宅

一薄暮西村や與八ゟ使札著聞集下帙廿丁貳はん校合被乞之右校本使へわたし遣ス

一今夕五時前丁字や平兵衛ゟ使ヲ以俠客傳二の巻壹はん直し只今大坂河茂ゟ書〔面〕のよしにて差越し來月一日夕方登せ可申候間其節罷越候樣使に申付右すり本二冊請取おく

一夕七半時前久右衛門來ルかけ合の夕飯振舞之薄暮前ニ成早々歸去

一晝後中川金兵衛來ル昨日英泉方ゟ差越候よしにて殺生石後日五編二之巻さし畫六丁之内四丁出來見せらる殘り貳丁はあとゟ出來のよし此分早々かき入いたし候樣示談右寫本四丁直之金兵衛へわたし遣ス

一予晝前迄著聞集下廿丁二はん校合引合せいたし夫ゟ金瓶梅二編七八之卷の内書くミ七丁半稿之今夕四時就寐

○廿九日丁未薄曇四時前ゟ晴

一晝前木村亘ゟ使札八月中貸進の鏡花縁二帙被返之尙又水滸後傳借覽致度申來候ニ付右水滸後傳

一帙外ニ明板同書序評抄一冊かし遣ス並ニ回翰遣之

一芝泉市ゟ使札今日近所へ使遣し候間金瓶梅二編稿本出來居候はゝ遣しくれ候樣申來ル則六之卷稿本一冊並ニ返書使にわたし遣ス

一暮六半時頃つるや喜右衛門來ル使札傾城水滸傳十二編上帙廿一丁彫刻出來ニ付右すり本校合被

差越之彫刻神速尤妙之うけ取おき早々校合可致旨及返事
一今夕五時松前役所附廣瀬三右衛門湯島喜太郎ゟ宗伯へ使札今日志摩守樣被召候ニ付爲御名代池田隼人樣御登城之處格式被　任出候依之知爲のよし之則宗伯請ふミ認之
一今日度々使札多用ニ付金瓶梅二編八之卷殘り繪わり二丁半稿之其後七之卷本文書かゝり候處夕方ゟ寒サ堪かたく候間爐に倚休息今夕四時就寐
一今日宗伯俠客傳再校引合せ終日等にて未果

○晦日戊申晴

一早朝中川金兵衛殺生石後日五編二之卷筆工十六丁メ迄六丁出來持參昨日迄英泉書まち居候へ共不指越候間此分持參のよし申之校合書置へく候間後刻當番歸りニ立寄候樣申聞右寫本請取おく
一早朝ゟ宗伯俠客傳二の卷再校昨日の遺り校之今日松前樣へ罷出候によりて之右校合畢
一四時過又金兵衛來ル過刻の寫本少し悞寫有之候ニ付此方にて直させ畢ル直ニ山口やに持參のよしニ付つるやに手紙賴遣ス右は水滸傳十二編上帙初校今朝ゟ取かゝり候間今晩にても明朝にても人指越し候樣申遣ス用事之
一同刻渥見覺重ゟ僕ヲ以深川久和島氏ゟ差越候遺老物語七八寫し出來則右筆料二百三十二文並ニ

同書十の巻料紙差添遣之お久和方ゟおミちへ文來ル返事口状にて申遣ス

一晝飯後宗伯松前兩やしきへ罷出夕七時半過歸宅右は昨夕しらせ志摩守樣御格昇進の祝義之くはしく聞合せ候處大名格被仰出候よし之是迄は交代寄合並御取扱ニ候處右之如し依之來月は志摩守御禮として參府のよし之

一予傾城水滸傳十二編上帙廿丁初校晝前ゟ取かゝり夕七半時頃校し畢彫刻速出來の上ほりも例ゟ宜く出來直しすくなし夜ニ入惡寒ニ付休息今夕四時就蓐今日は右校合等にて金瓶梅著述休筆之

○十一月朔日己酉薄曇無程晴今夜五時過ゟ風出

一早朝中川金兵衛來ル殺生石後日五編二の巻殘りさしゑ二丁昨夕英泉方ゟ差越候ニ付今晩直ニかき入いたし候由にて書畫四丁持參當番出かけのよしにて歸去四時過又可參よしニ付朝之內右寫本校訂並ニ稿本二冊袋ニ入取調おく改ニ出させ候故之

一四時過金兵衛又來ル則少時またせ置右寫本校閱畢て寫本稿本共わたし遣ス今夕板元山口やへ持參のよしニ付口狀書差添且つるや喜右衛門へ水滸傳十二編上帙初校一冊廿丁屆くれ候樣たのミ渡し遣ス並に丁子やへも大坂校本登せの傳言たのミ遣ス

一晝飯後ゟ宗伯飯田町へ藥勘定ニ罷越ス半藏御門外三宅內渡邊登方へも罷越九月中彼仁せ話にて

かひ取候水滸傳全書あとゟ差越候本の内大磨滅之事等申談し代金遣し候樣中付右金子貳兩貳朱もたせ遣スお百並に太郎も飯田町迄同道いつれも暮六半時過歸宅渡邊登は先月廿七日相模ゟ歸府同廿八日に又上州邊へ出立いたし本月十五日頃ならては不罷歸よし依之內義に右口上申述金子わたし置可申致候處登歸宅迄先差扣くれ候樣被申候ニ付金子もちかへり候よし之且同人に賴ミ置候三才發祕等かひ入候案內口上書にいたし遣しおく今日中やにて障子入用ミのかミ西の内等かひ取藥代錢共今夕持參右藥代一わり引おさきへ遣し候分四拾文勘定ちかひ不足いたし候間追て可遣旨宗伯へ申聞おく

一八半時頃丁子やゟ使ヲ以俠客傳二の卷貳はん校合乞ニ來ル今夕飛脚やに遣し候樣示談右校本わたし遣ス

一明日　公方樣　大納言御同道九段坂上ろへ木や御通掛御成有之過日雜〔司〕谷御成之のび之依之御藥園內へかるわさの小屋かけられ雜司谷寺院つくり物等御とりよせ上覽のよし淸右衞門行事中ニ付今日ゟ終日在宿せさるよし之

一金瓶梅二編七の卷の內二丁本文稿之書おろしのミ之今夕四時就寐

○二日庚戌晴風寒深夜風止大ニ曇

一夕方島や佐右衛門狀くはりいせ松坂との村佐五平ゟ之小箱入紙包屆來ルおミち請取書遣ス右は先便案内有之本居宣長像並ニ自筆筆賛歌きぬ地之是は水滸後傳國字評並ニ後傳諸抄錄校訂等之潤筆之　十月十五日出にて今夕着

一薄暮泉市ゟ使札金瓶梅二編殘り稿本乞ヒ來ル未出來ニ付來ル五日頃出來候趣返書ニ申遣ス市兵衛此節眼病のよしにて代筆ヲ以申來りし之

一鐵炮(砲)洲松本三郎治手代忠八ニ先月中申付候炭八俵今日やう／＼送り來ル十日あまり延引之則駄ちん二百廿四文如例遣之

一宗伯障子はりかえ候ニ付今日ゟ紙たちまはしつきはしむ

一金瓶梅二編七之巻末迄二丁半本文稿之但書おろしのミ今夕四時就寐

○三日辛亥曇程無晴

一今朝四時過中川金兵衛來ル昨日鶴やゟ請取候よしにて水滸傳十二編下帙之内畫寫本十丁持參一覧之上早々書寫候樣申聞右寫本わたし遣ス

一晝後もりや次兵衛手代金魚傳下編の下三番校合直しすり付にて持參明日又可參旨申ニ付請取おく内五丁めケツ有之候處□□遣し直させ明日持參いたし候樣申付遣ス並ニ先日認遣し候來年合

卷の外題とり忘れ候よしニ付又遣之

一八半時頃おきく來ル時候見廻之手みやけ持參蕎麥茶くわし等ふる舞夕方歸去

一今朝近所堀殿やしきゟ參候よしにて中間體之者ヲ以俳諧被成候はヽ點申受度よし申來ルおミち立出左樣之義は不致旨申聞かへし遣スかゝる馬鹿ものをりく\〵あり

一宗伯今日ゟ障子張かえニ取かゝり巽三疊四枚之内三枚臺所障子二枚計畢終日之

一金瓶梅二編八の卷五十の内四丁半本文稿之書おろしのミ之今夕四時過就寐

○四日壬子晴

一晝後淸右衞門來ル外ゟ到來のよしにて蒲鉾一本持參雜談後歸去

一宗伯坐敷書齋障子八本張之畢

一金瓶梅二編七八の卷今夕四時稿畢皆出來之

一今夜四時過本鄕春木町邊失火有之鶴や喜右衞門ゟ爲見廻二人來ル其後淸右衞門來ル淸右衞門は出行事にて火事場へ罷出歸路のよしいつれも宗伯應答ス無程火鎭畢四時就寐

○五日癸丑晴

一朝飯後早々宗伯同道にて予水天宮江參詣及亭午九時半頃神明前和泉屋市兵衞方江罷越候處酒出

され及長坐夕七時頃立出候處腰痛にて疲勞ニ不堪依之神明町より駕籠ニのり予は先に七半時過歸府(宅)宗伯は歩行にて暮六時過歸宅金瓶梅二編七八稿本今日携行泉市へ渡し潤筆當正月前金請取候ニ付差引皆濟之

一右他行中中川金兵衞傾城水滸傳十二編下帙五の卷筆工出來持參

一丁子屋平兵衞俠客傳表紙すり本校合持參

一森や治兵衞より一昨日之ケツ直しすり本一丁持參いつれも他行中ニ付お路請取おく

一歸宅後疲勞ニ付今夕休息四時就寢

○六日甲寅晴

一今朝中川金兵衞水滸傳十二編下帙五の卷寫本校合取ニ來ル未及出來候旨申聞候へは尙又後刻可參よしにて歸去

一右寫本五丁半校閲畢て殺生石後日五編ふくろ畫稿二本表紙畫稿本おくもくろく壹丁稿し居候内夕七半時前金兵衞又來ル右水滸傳寫本並ニ板元つるやへ先夜近火見舞謝禮(の狀)相添則金兵衞へわたし遣ス是より直ニつるやに罷越候よしニ付殺生石五編袋表紙畫稿おくもくろく稿山口や藤兵衞方へ持參いたし届くれ候様頼遣ス尤もくろく稿はいまたつけかな等つけ不申候間見せ候而

もちかへりくれ候樣示談且もりや次兵衞ゟも手紙たのミ遣ス金魚傳下編の下校合直し相濟候間
すり込候樣にとの案內狀之
一晝後丁子や平兵衞ゟ使ヲ以昨日之俠客傳表紙宜候哉と問ニ來ル未宜依之注文くはしく書付遣ス
但しわかりかね候はゝ夜分にても平兵衞被參候樣申遣ス
一宗伯今日も終日障子張かへ大抵出來水障子三枚殘ル
一晝後土岐村元立老尼被來手みやけ持參如例止宿之
一予昨日之疲勞有之ニ付夜ニ入早々爐ニ倚今夕四時過就寢
一晝後松前役所ゟ宗伯ゟ使札右は今日志摩守樣被　召候ニ付爲御名代柳澤彈正少弼樣御登　城之
處初て拜領之よしのしらせ之請取書遣之
〇七日乙卯晴晝ゟ薄曇
一夕七時過鶴や喜右衞門ゟ使札傾城水滸傳十二編七八晝寫本出來見せらる並同同書上帙稿本相濟
被差越之過日申遣候故之稿本は受取置寫本は筆工金兵衞方へ遣ス
一夕方中川金兵衞來ル水滸傳十二編六之卷筆工出來明日又可參よしにて差置歸去
一暮六時過丁子や平兵衞來ル予對面昨日申遣し候俠客傳表紙いろさし等之事之くはしく示談少々

ほり直させ候つもり右用向畢て早々歸去

一宗伯今日障子不殘張畢夫ゟ三國志演義金瓶梅小刻水滸傳の帙のうら損し候分張之終日之土岐村老尼今夕も止宿之○地主杉浦家内ゟ小兒誕辰の赤豆飯二膳被贈之

一西村や與八たのミ八犬士錦繪の賛今日ゟ稿案琴魚代作にいたし予か名號をあらはさす殿村常久八犬士の歌加入六人分賛出來今夕四時就寐

○八日丙辰今曉七時ゟ雨朝五時ゟ雨止テ不晴晝前ゟ晴

一鍛冶橋内堀内藏頭殿御使鈴木儀兵衞と云侍來ル晝後の事之予風邪に托して不逢則宗伯を以來意を聞しむ右は内藏頭殿俳諧を被成候ニ付發句合の點を乞被申度よし之はいかいは三十年來打捨候間何方ゟ被頼候ても斷候趣段々及挨拶候處龜田三藏月並之講釋に被參候間同人ゟも問合せ以來渇仰之義ニ付何分斷ニ及ひ候ては使之難義ニ及ひ候よし彼是被口說依懷紙は預り置得と勘辨之上有無之御答可申上旨示談今日被贈候小くわし折返却爲致候へは儀兵衞みやけと稱し小兒へ進物杯申ニ付是又宗伯受取おく則儀兵衞歸去ル○杉浦清太郎老母ゟ鷄卵十被贈之

一晝前中川金兵衞來ル則けいせい水滸傳十二編六之卷寫本校合濟わたし遣ス右幸便ニ西村や與八ゟ手紙頼ミ遣ス八犬士略傳かねて被頼候處明日出來の案内狀之

一同刻山口や藤兵衞來ル予對面過日之おくもく稿持參尙又書改筆工へわたし可申旨殺生石五編當年は並合卷ニいたし度旨申ニ付ふくろの書稿二枚則表紙に用い國芳ニ畫せ候樣示談英泉にては間ニ不合故之五編下帙二冊は畫未出來とても當暮うり出しの間ニ不合候間去（來）年ニ延し候樣是又示談尤來年は二年子有之ニ付山口やにては新著休之趣申聞おく右示談畢て歸去

一夕七時頃ゟ宗伯遲見次右衞門方へ罷越手みやけ遣之秋巳來病氣にて疎遠なるによつて之覺重は當番のよしにて次右衞門夫婦對面雜談後夕方歸宅〇土岐村老尼今夕も止宿之

一西村や與八たのミ八犬士にしき畫略傳八枚之内七枚め迄稿之一枚遺ル今夕四時就寐

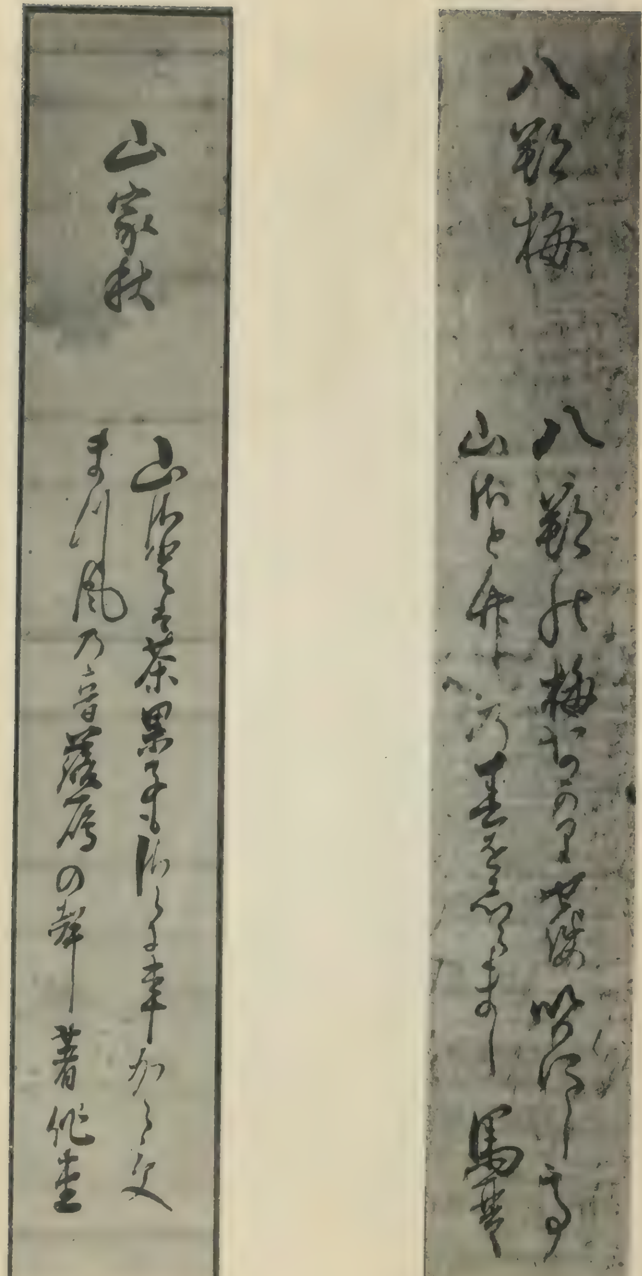
〇九日丁巳晴

一今朝四時頃土岐村老尼歸去ル尙又藥研堀川村壽庵方へ罷越候よし之

一晝前お秀來ル手みやけ持參吉兵衞病氣少々つゝ快方のよし先月二十八日久吾方にて口や隱居ニ障りの有無考させ候處稻荷の祟有之よし申ニ付よけ等いたし候よし並ニ吉兵衞當春中於傳通院山内狐の玉を拾候事有之其後病氣ニ罷成候間六月中右玉を澤藏主稻荷へ納候事抔頗及長談晝飯たへさせ尙又雜談後歸去

一八犬士略傳遣り一枚早朝ゟ取かゝり晝時稿畢惣出來にて其後殺生石後日おくもろく樸寫を補ひ

つけかな等一切稿之畢ル一枚之但所存有之琴魚代作にしたる之
一晝後清右衞門來ル十月分八百長上家ちん持參請取置宗伯ニ渡ス清右衞門十一日ゟ行事のよしにて早々歸去
一薄暮西村や與八ゟ使札昨日案内申遣候ニ付八犬士錦畫略傳稿乞ニ來ル右八枚わたし遣ス但入物持參せさる故平狀箱へ入レ右狀箱かし遣ス潤筆之義問合せ書面ニ申來候へとも代筆に致し候間いか程にても宜候旨返翰申遣ス
一晝後ゟ宗伯庭の小草箱よけ等これを作りはしむ未果
一予晝後ゟ鏡花緣十二回中安葬論等抄錄今夕寒候間五時過ゟ休息四時過就寐
○十日戊午晴今曉ゟ尤寒 終日風烈深夜風止
一晝前丁子屋平兵衞ゟ使ヲ以俠客傳三之卷貳番校合すり本昨夜大坂ゟ着のよしにて差越し並ニ先月中かし遣候同書繪つき校合すり本被返之貳番校合十二日に可登旨申遣ス
一晝時鶴や喜右衞門ゟ使札水滸傳十二編上帙壹番直し出來貳番校本すり本被指越之明十一日晝後尙又人差越候樣返翰ニ申遣ス右使ニ賴ミ丁子やへ手紙遣し俠客傳二はん校合過日十二日ニ可登旨申遣し候へ共明十一日ニ可登候間明夕人差越し候樣申遣ス尤片便り之



（九）馬琴筆狂歌短冊二葉

一下そうち伊左衞門定のとく干大根三百本晝前持參納之支度代四十八文如例遣之
一宗伯今朝ゟ四斗樽おしふた二ツ損し候ニ付棧ふちとりかえ結ひ畢夫ゟ俠客傳三の卷二番校合ニ
取かゝり夜並四時迄校之然共未果
一予鏡花緣十二回入用之處晝後迄ニ抄錄し畢夫ゟ傾城水滸傳十二編上帙貳番校合し畢夕方ゟ屋代
殿たのミの遺老物語の內七八兩卷校訂し畢五時ゟ休息爐に倚四時就寐
○十一日己未晴四時前より風晝後ゟ風止
一四時過中川金兵衞傾城水滸傳十二編下帙七之卷筆工出來持參今日は當番ニ付明日鶴やに可持參
旨申置歸去其後右寫本校訂し畢
一澤庵漬三樽內壹番座食六十本ぬか三升塩一升入合貳番百本ぬか五升塩四升三番ぬか三升塩六升
五合右三樽おみちお百兩人にて漬畢殘り四十本はぬかみそへ入
一晝前土岐村元立來ル過日被賴候白扇三本潤筆南鐐一片添持參受取おくかけ合の晝食ふる舞其後
歸去
一晝後西村や與八來ル予對面八犬士略傳潤筆金壹兩持參受取畢雜談後歸去但八犬士錦畫年內四番
出し候つもりのよしニ付人物注文並八犬女(士)の名書付遣ス

一宗伯今日も終日俠客傳三之卷貳番校合ニ取かゝり暮六時過校し畢

一予今朝大防河內や茂兵衛へ遣しㇵ要書並ニ丁子や平兵衛への添狀等書俠客傳二番校合切にてすり込ㇵ樣申遣ス狀也其後水滸傳七之卷寫本校訂畢夕方ゟ美少年錄校合すり本三通り見わけㇵ處五之卷壹の卷各一丁落丁有之依之五の卷初丁謄寫今夕四時迄ニ寫し畢その間傾城水滸傳十二編上帙二番校合畢

一夕方鶴や喜右衛門ゟ使札昨日之十二編上帙貳番校合乞ニ來ル使本鄉迄罷越ㇵよしニ付その間返翰認之右二番校合一綴並ニ同書七之卷寫本遣之上帙すり本內十丁は直し無之手廻しの爲すりかかりㇵ義は可爲勝手次第旨も申遣ス

一暮六時頃に丁子や平兵衛ゟ使ヲ以俠客傳三の卷貳番校合乞ニ來ル使ㇵはらくまたせ置宗伯校し畢て右校本並河內や茂兵衛への狀丁平使に渡し口狀申ふくめ並ニ江戶ほり韮つきの付見おとしケツ二ヶ處有之此ケツとらせすり込ㇵ樣申遣し右すり本も使へわたし遣ス尤河茂へ遣しㇵ要狀平兵衛一覽の上封しㇵて今夕校本と一處ニ登せㇵ樣申遣ス暮六半時前の事也今夕如例四時就寐

〇十二日庚申晴 夜中雲立

一山口や藤兵衛ゟ使札殺生石後日五編壹貳兩卷表紙外題國芳畫出來のよしにて見せらる當年は並

合巻にいたしゅよしニ付書入袋ト少しちかひゅ處書直し右使ヲ以筆工金兵衛方へ遣ス

一未知人六樹園舊連と見え何かし初風といふ者來ル廿日兩國大のし樓にて狂歌興行ニ付出席願ひゅよしにて箱入小猪口壹ちらし一枚差添持參取次おミちへ渡し歸去右ちらしに西來居士追福と有之いつれも不知人之

一晝後淸右衞門來ルカナアリヤ親鳥雌雄籠二ツ添遣之是迄淸右衞門方へ遣し置ゅカナアリヤは山田吉兵衞かねて所望のよしニ付病中慰の爲遣しゅ樣及示談

一おさき方へ美少年錄三輯五册三番校本並ニ金魚傳下編の下千代褚[良]著鬪集一〆四迄いつれも貳番校本遣之美少年錄は二番校本ミのすりの方四五の卷雌黃多く入ゅ得ともミのすりにて一體宜ゅ間可遣思ひし處淸右衞門無疵方半紙すりにても宜ゅよし申ニ付三番校本を遣し畢

一宗伯今朝〆カナアリヤ並ニえひ鳥籠庭籠等そうちいたし籠桶張之カナアリヤ三羽當春子三羽小籠をうつしおく終日之〇今夕庚申祭獻燈如例

一予美少年錄三輯壹番校本一の卷初丁落丁分謄寫晝時に至て寫し畢然ル處物目錄中・悞寫有之恩赦ヲ恩謝にあまり寫しゅをはしめて見出しゅへ共賣出し後ニ付せん方なし遺憾々々右謄寫畢て八犬傳八編著述の爲同書六七二編處々披閱今夜四時就寐

〇十三日辛酉晴朝之間半晴有雲無程快晴美日

一四時頃おさき來ル手みやけ持參四半時頃ゟお百並ニ太郎同道にて出宅廣澤寺江參詣立花家奥方おさき古主たるによりて右御墓江詣夫ゟ淺草觀音へ參詣歸路反畝酉の町鷲大明神へ參夕七半時頃歸宅おさきは直に飯田町宅江歸去夕飯途中にてたべ候よし之

一晝前政を以中川金兵衞方へ手紙遣ス右は殺生石外題書入追注文等之用事之金兵衞當番のよし手紙老母江渡し歸宅

一晝後戸田内河合孫太郎來ル予對面九月中かし置候八犬傳返却せらる過日申遣し候故之梅干一器被贈之雜談後歸去

一同刻政ヲ以おくわ方へ澤庵つけ一重遣之序に河合孫太郎方へも梅干のうつりとして一重遣之おくわ方ゟうつりとして茶漬到來

一夕方芝泉市ゟ使札金瓶傳「梅」二編畫外題墨板彫刻校合すり一枚被爲見之使音羽町へ罷越候よしニ付其間校合致し返翰認おく暮六時頃右使歸來ル則校合返書とも渡し遣ス

一今日宗伯庭の小草霜よけいたし葉蘭等巻かゝけ終日之

一予八犬傳六輯六冊披閲此外五編七編入用之處少しつゝ披閲年紀等抄錄して今夕四時就寐

○十四日壬戌晴

一晝前山口や藤兵衞手代殺生石後編外題書入おくもくろく一丁右寫本校合持參外題ははしめふくろのつもりにて稿ゆ間猶直し處有之下帙トある處を書改め其外校閲畢て右手代にわたし遣ス

一宗伯今日庭そうちロの方掃畢後ゟお百手傳ひ終日之

一薄暮西村や與八ゟ使札著聞集下四册分廿丁貳はん直し出來校合差越ゆ外題は未出來薄暮ニ付請取置返翰遣之

一炭團や松本三郎治手代忠八炭代乞ニ來ル則おミちを以代金わたし遣ス

一予今日ゟ八犬傳八輯稿之はしむ朝之內ゑらへ物いたし書拔キ夫ゟ稿本ニ取かゝりわつかに初丁壹丁稿之今夕四時就寐

○十五日癸亥半曇無程晴

一早朝中川金兵衞水滸傳十二編八之卷筆工出來後刻又可參よしにて指置歸去ル其後右寫本校閲畢て著聞集下廿丁三番校閲原校と引合せ改畢

一四時頃中川金兵衞又來ル先刻の寫本ニ衍字有之右之處書直させ稿本四册袋ゟ入右寫本共ニ鶴やゟ持參によりて之序ニ西村やゟ著聞集下廿丁之內十丁三番校合屆ゆ様賴之右校本をも渡し且口

狀申ふくめ又丁子やに八犬傳わくすらせ候様可申入旨たのミ遣ス
一晝時金兵衛又來ル右丁子やに八犬傳わくの事申入候處右のわく板無之よし申候ニ付新に引候て可遣哉之旨申之早々引候て遣しほらせ候様示談則寸法見合の爲八犬傳六輯五之上一冊かし遣ス
一晝後泉市ゟ使を以金瓶梅二編外題表紙附筆工再校すり一枚被差越之即刻引合せ改候處大てい直り候間色板ほり出來次第すり込せ候様口狀を以申遣ス
一暮六時頃つるやゟ使札傾城水滸傳十二編上帙之内十丁再校直し出來三番校合被差越之及夜分候へ共急之事故即刻引合せ改候處志るしのとくより直り候間上帙校合相濟候間早々すり込せ候様返翰ニ申遣ス
一晝後清右衛門爲當日祝義來ル過日申付候白砂糖黑さたう各一斤小松やゟかひ取持參是ゟ築土明神へ參詣のよしニ付かけかえ入歯上之方糸繫キ直し之事神樂坂吉田源八へ申付候様注文申ふくめ右入歯はこに入爲持遣ス
一今日宗伯庭そうち終日之お百手傳之今少し遣ル
一予早朝ゟ水滸傳十二編八の巻寫本校合いたし且千代褚良著聞集下の方十丁三番校合もいたし前書のとく金兵衛にわたし遣し晝後金瓶梅二編表紙附すり本校合いたし晝後月代そらせその間々

に八犬傳八輯壹の間（卷）の內二丁弱稿之夜分も四時迄綴之四時ゟ如例就寐

一隣家伊東常貞妻久しく病臥の處今曉八時死今日未刻の事葬送いたし㕝よしおミち右風聞を聞㕝よし＝㕝へ共常貞方ゟ此方へしらせ＝不及㕝間弔葬にも不及平日一向に交りなきによりて之

一薄暮米や文吉方ゟ下男を以先刻わたし遣し㕝米代金之內壹分判一つ色合不宜㕝間とりかえくれ㕝様申＝付見㕝處不宜金子＝あらす依之政を以近所いせやへ兩替＝遣し㕝へは無滯南鐐と引替來ル則右南鐐二片文吉下男＝渡し遣ス尤匆忽一笑に堪たり

〇十六日甲子晴 晝ゟ薄く雲立快晴にあらす

一四時頃中川金兵衛來ル八犬傳けわく板下を引持參昨日かし遣し㕝同書六輯五之卷被返右けわく板下丁子やへ可差遣哉と申＝付予對面注文傳達早々丁子やへ遣し㕝様示談示談卽金兵衛承知歸去

一夕方御成道めてたや庄兵衛養母時候見廻手みやけとして鮒こふ卷持參家內對面早々歸去

一宗伯晝前庭そうちし畢晝後予同道にて入湯其後おミち太郎お次入湯お百同道太郎去年來久しく錢湯に入らさるにより風呂の內くらきを嫌ひおかゆのミにて風呂＝不入寒風の節尤不便といふ

一予八犬傳八輯壹の卷の內二張稿之則五丁め之晝後入湯にてひま入今日も多く不稿

一甲子祭今夕獻供如例夜＝入お百宗伯同道にて明神地內大黑へ參詣五時前歸宅今夕も如例四時ゟ

就寐

○十七日乙丑曇今朝五時前地震夜ニ入晴深夜又曇

一朝飯後早々お百宗伯同道にて溜池上八天狗神へ參詣九半時頃歸宅

一夕方西村や與八ゟ使札ヲ以著聞集下廿丁之內四はん校合四丁並ニ外題表紙筆工初校右四刻校閲右四丁の內直し落之處此外ケツさらひ遺し多有之右校訂し外題ひやうしも校訂いたし返翰相添遣之

一八犬傳八輯壹の巻の內二丁半稿之二丁めゟいまたつけかなニ不及こゝに至て本文七丁半之今夕四時就寐

○十八日丙寅曇今朝五時前ヨリ小雨但し多くふらす少シ風アリ海鳴四時頃ゟ雨晝夜無間斷明曉雨止

一晝後山口や藤兵衞來ル手みやけ持參予對面殺生石五編上貳〔十〕丁之內十丁彫刻出來被乞校合則請取おく且上合巻ニいたし薄袋かけ度よしニ付先頃表紙ニ認候もやうを以袋ニいたし畫せ候様注文示談畢て歸去

一八犬傳八輯の內三丁稿之こゝに至て十一丁半之內一丁さし畫かりつけかな並ニさし畫は未稿今日雨天ニ付山口やの外來客使札〔無し〕當月雨稀之今日好雨閑寂亥時如例就寐

○十九日丁卯冬至曇（天明将霽未晴今朝霜甚し）晝前ゟ晴

一晝飯後早々お百携太郎飯田町宅へ罷越薄暮歸宅今日芝町宗之介家内同道にて麟祥院佛參ニ付此方へも立寄可申よし先日土岐村ゟ風聞有之處今日不來今朝迄雨天故延引歟

一晝後渥見次右衛門ゟ使札九月十二日かし遣候幸庵對話記なるへし右二書被返之尚又何そかり申度よし申來候ニ付四手子草五冊かし遣ス又深〔川〕久和島雲磴ゟ遺老〔物〕語十之卷出來原本共出來右筆料三百十二文遣之原本かり遣し近日可遣旨返翰ニ申遣ス○久和ゟも母へ文到來祖太郎事來月袴着內祝いたし候よし申來ル

一晝後淸右衛門來ル一昨十七日蟲齒起り難義いたし候よし申之過日吉田源八に申付させ候入齒つなき直しの事齒二枚打損候ニ付取かへ可申依之代四匁のよし申之金壹朱にて申付候〔樣〕示談宗伯は包置候神女湯遣之雜談後歸去

一暮六時前丁子や平兵衛來ル手みやけ持參予對面八犬傳けわく橫はゝ一分つめ申度よし其外俠客傳等の用向長談畢て六半時前歸去右わく彫刻出來次第八犬傳八輯壹の卷の內稿本分並さし畫稿可遣旨及約束畢

一今夕冬至ニ付汁粉餅申付製之家廟へ獻供畢て家內一統祝之地主杉浦家內へも遣之過日兩三度彼

是の品被贈候答禮之

一今日宗伯へ申付殺生石後日五編一の巻十丁すり本校合いたさせ候處終日にして未果

一予八犬傳八輯壹の巻の内十二丁めの表迄本文つけかな殘り九丁半稿之畢て今夕四時就寐

○廿日戊辰晴風アリ盛寒

一今朝まさヲ以屋代太郎殿江遺老物語七ゟ十二迄六冊返却十三ゟ末借用致度旨以手紙申遣ス但返事は後刻可申旨申付風呂敷のまゝさし置まさ早々歸來ル

一晝後政を以屋代殿へ今朝之返事取ニ遣ス則遺老物語十三ゟ十六迄四冊借さる且奥州はなし又借用いたし度よし申來ル

一八半時過元立來ル今日宗之介家内同道にて麟祥院迄罷在(越)候處大勢ニ付此方へは立寄不申おミちへ立なから被申元祐方迄太郎を同道可致旨被申候へ共亂髪之上且つれかへり候ニ厄介ニ付予さし留候而不遣依之早々歸去

一八犬傳八輯壹の巻さし畫稿三丁今朝ゟ取かゝり今夕四時稿畢今夕盛寒之巳まち弁天祭宗伯獻供如例今夕四時星祭是又如例四時過就寐

○廿一日己巳晴六半時頃地震晝後ゟ薄曇

一今朝政ヲ以屋代太郎殿ゟ奧州はなし一冊並ニ學睫一冊問答抄一冊かし遣ス約束によつて之御家來古山十三ゟ請取書來ル

一晝後まさヲ以お百ゟおくわゟ過日の返書遣させ祖太郎袴着祝義上下代金百疋遣之返事來ル且又遣老物語十三十六兩巻料紙差添覺重方迄遣之深川久和島へ寫しに遣し候故之

一松前内大野孝次郎ゟ宗伯へ奉公書來ル老侯ゟ鹽引一尺被下之宗伯うけふミ認進之

一殺生石五編一の巻十丁初校今朝宗伯校し畢

一予八犬傳八輯壹の巻の内二丁半弱稿之但書おろしのミ之夜ニ入不堪寒風休息四時就寐

○廿二日庚午曇無風晴美日

一朝飯後宗伯松前兩やしきへ罷出九半時頃歸宅御當主先日初而拜領物被申作物の御鞍鐙折紙代金各三十五枚つゝのよし已來隔年の參勤妻子は江戸やしきへ住居可致旨被仰渡候よし之○歸路關忠藏方へ立よらせ同人家内ゟ美少年錄三輯先月出板之案内爲申入候尤取次ゟ申置候よし之

一晝後山口や藤兵衛ゟ使札殺生石五編上ふくろ繪寫本出來見せらる筆工金兵衛方へ持參いたし候樣使ゟ申付並ニ同書一の巻初校一冊遣之

一下女政指の藥を宿へ殘し置候間一寸參度よし申ニ付八半時頃ゟ遣ス薄暮歸來ル

一八犬傳八輯壹の卷の内本文二丁稿之尤書おろしのミ之夜ニ入同書一の卷追畫一丁稿之今夕如例四時就寐

〇廿三日辛亥薄晴今曉八時過より風烈北今朝無程快晴

一今曉七時上野山内出火宗伯起居御成道迄罷越ゆ處御本坊のよし申之曉方火鎭ル右ニ付早速淸右衛門見舞として來ル天明テ歸去芝神明前いつミや市兵衛方𛂞も見舞として代のもの來ル北風烈なれ共此方は風脇ニ付無異之

一先年飯田町宅𛂞遣にゆカナアリヤ雌雄内雄は足わろし依之先月尙又雌雄遣しゆニ付是迄之雌雄は山田吉兵衛病中慰の爲遣しゆ樣淸右衛門〔に〕申付籠壹ツゑの水入差添遣しゆ處昨日淸右衛門吉兵衛方へ持參差遣ゆへは甚大悅いたしかねて所望のよしにてゆといふ今日宗伯告之

一宗伯今日𛂞黑丸子丸之先賣藥分𛂞はしむといふ終日之夜も四時迄歟

一八犬傳八輯壹の卷の内本文四丁稿之尤書おろしのミ之こゝに至て本文廿二丁迄不殘稿之畢今夕如例四時就寐

〇廿四日壬申薄曇晝前ヨリ晴但快晴にはあらす

一晝前𛂞お百太郎を携飯田町宅𛂞罷越おさき同道にて牛込龍門寺に墓參今日お百養父無眼信士祥

月忌によりて〻此方にても晝時料供備之おさき方へ水滸傳十二編上帙著聞集下帙稿本遣之淸右衞門へは筋子一ツ遣之此外花足袋黑さとう等買物申付遣スお百太郎薄暮歸宅淸右衞門方ゟ茶飯平猪口添到來

一晝後傳馬町殿村店ゟ松坂佐五平狀屆來ル請取書遣之十一月十四日出之狀〻右は先便申遣ㇾ三才發祕之返書〻少々損書しㇾへは本被返ㇾ間早々傳馬町店迄差出しㇾ樣申來ル損書しㇾて返ㇾにも不及事ニ付當廿六日ニ右之再答申遣スへし

一音羽町板木師伊兵衞金瓶梅二編廿丁之內亂丁にて十丁ほり直校合持參明日直しに此方へ參り直し申度よしニ付請取おき四時過可參旨申付遣ス

一今日も宗伯黑丸子丸之終日〻

一予八犬傳八輯壹の卷本文廿二丁今夕四時稿畢つけかな皆出來四時就寐

○廿五日癸酉晴雲アリ終日半曇

一晝後音羽町板木師伊兵衞昨日の金瓶梅二編の內十丁校合乞ニ付校合いたし置ㇾ間則わたし遣ス明日此方へ罷越二はん直し致し度よし申歸去

一同刻淸右衞門來ル過日申付ㇾ入齒直し牛込吉田源八ゟ出來のよしにて持參則代金壹朱並ニお次

花たひ上は錢十二文わたし遣ス是ゟ三河町へ罷越候よしニ付としまやニ醤油みりん酒注文申置候樣申付もたせ遣ス且明廿六日大傳馬町との村店へ狀出し候事申付おく右用談畢て歸去

一大坂丁花丁二見や忠兵衞養子越後塩澤鈴木牧之ゟ之狀並ニ寒酒粉一袋届來ル則請取書遣之九月十八日出之狀之

一飛脚問屋京や彌兵衞狀配り大坂河内や茂兵衞ゟ之小紙包壹届來ル則請取書遣之本月十四日出八日限延着之右は俠客傳五之卷二はん校合すり書狀指添來ル狀ニは年内すり本成かね候間來年へ延し可申よし申來ル此方ゟ本月十一日ニ出し候狀と行違之故之此義色々入組候わけありいつれにも江戸は春うりニ爲致候つもりにて校合いたし可遣之

一宗伯今日も黑丸子丸之終日之賣藥分今日限にて丸し畢ると云

一予今朝ゟ金瓶梅二編の內亂丁にて十丁初校いたし晝前ゟ伊勢松坂殿村佐五平への返翰認之終日之右は三才發祕一義之畢て八犬傳八輯壹の卷本文廿二丁稿本しば／＼よみかへし悞行等補寫今夕四時就寐

一杉浦織母ゟ筋子少々遣之昨日赤飯被贈候返禮之夕方としまやゟ醤油みりん持參代金遣之

〇廿六日甲戌曇晝ゟ晴

一晝飲後ゟお百深光寺へ墓參夕七時過歸宅

一九時過音羽町板木師伊兵衛金瓶梅二編之内十丁貳はん校合直しすり本持參則引合せ候處二三ケ處直し處有之右此方にて伊衛兵直し相濟板元泉市ゟ今明日中とり二可參よしにて板此方へ預ケ歸去内十七丁は芝にて彫刻出來の内よしにて不直之

一晝後淸右衞門來ル昨日申付置候如く松坂殿村佐五平へ遣し候返書大傳馬丁同人店へ差出し候樣申付もたせ遣ス序ニ小傳馬町丁子や平兵衞へ手紙遣し俠客傳五編二はん校合すり本昨夕大坂ゟ着之案内並ニ貳はん校合今夕登せ候間平兵衞ニ被參候樣口狀淸右衞門にも申付右手紙もたせ遣ス

一宗伯今日も黑丸子丸之年玉分之

一予今朝ゟ俠客傳二はん校合ニ取かゝり夕七時前ニ〔畢〕夫ゟ大坂河内や茂兵衞へ之返翰長文認之大坂ゟ製本年内出來かね候間來年迄延し可申旨申來候間校合は二はん直し限りニいたし年内すり本江戸下しいたし候樣申遣ス要害也此義去ル十一日にも申遣し候へ共右の狀行違ひ未届内ニ右之とく大坂ゟ申來候之因又及返事

一薄暮頃丁子や平兵衞來ル予對面大坂河茂不取斗の趣意申述示談之上俠客傳五の卷二はん校合並

ニ河茂之書狀共六日限にて飛脚へ出し候樣申示し渡之並ニ八犬傳壹の卷稿本同さし畫稿四丁渡
し遣ス平兵衛俠客傳の畫二重墨の處本式ニすらせ持參ひやうしは色紙ほり直し候ニ付未出來よ
し之尤同書畫つきの板不殘大坂登せの分今日飛脚やへ出し候よし告之右用向畢て暮六時過歸去
一夕方ゟ八犬傳八輯二の卷稿之半丁弱稿し候處連日の疲勞ニ付夜なへは休ミ爐に倚休息今夕四時
前ゟはやめに就寐○昨夕（今）兩日八犬傳著述外用ニ付休筆之

○廿七日乙亥曇終日不晴寒産シ日暮テ晴
一晝後西村や與八ゟ使札褚千代良著聞集下三四二冊すり出しのよしにて製本二部被贈之請取返書
遣之
一夕方關忠藏家內ゟ使札右は美少年錄三輯出板の事過日以宗伯案內申入候ニ付借覽いたし度よし
申來ル則一部五冊袋とも渡し且返翰遣之小兒へ小手遊物被贈之
一宗伯黑丸子今日終日にて丸し畢とし玉分之
一今日尤盛寒ニ付不勝龜手依之終日著述（休）終日倚爐遺老物語十四十五兩卷披閱今夕四時就寐

○廿八日丙子晴美日
一晝飯後早々宗伯を本所猿江山名賴母殿へ遣し夏中借用の談海後記五冊返上並ニ去寅九月十八日

貸進のさつま本關原合戰記三冊催促いたし持參いたし候樣申付遣ス尤近習三人ゟ手紙差添遣之右三人宗伯ゟ對面賴母殿可被成御逢之處今日取込之義有之ニ付不及其義よし之則關原記三冊被返宗伯請取歸路馬喰丁森やゟ立寄金魚傳うり出し候哉と聞せ候處未賣出候よし之宗伯夕七半時頃歸宅

一晝後芝泉市ゟ使札過日板木師伊兵衞預置候金瓶梅二編の板とりニ來ル則返翰認右板九枚使へわたし遣ス

一鶴屋喜右衞門ゟ使札傾城水滸傳十二編上帙うり出し候よしに而如例壹部被贈之則請取返翰遣之

一夕方丁子や平兵衞ゟ使ヲ以八犬傳けわく出來右わく板下入用うすみのへすり被指越壹の巻稿本は昨廿七日筆工金兵衞方へ遣し候よし之右わく紙請取おく

一予八犬傳八輯貳の巻の内一丁半稿之尤書おろしのミ之其間月代いたし夜五時過ゟ越後牧之ゟの返翰認候處未果及二更候間則就寐

○廿九日丁丑半曇四時頃ゟ晴夕方ヨリ又曇深夜ヨリ小雨明曉ヨリ大降

一四時過ゟ予お百太郎同道にて大傳馬町大丸ニ罷越買物いたし晝食大丸にて之八時過新大坂丁二見や忠兵衞方へ立寄越後塩澤鈴木義惣治ゟ之返翰一封差遣し脚ちん拂之住吉町松本にてひん付

油元結かひ取尙又吹屋町芝居へ立寄見物致させ歸路人形町源氏茶漬にて夜食たべ夜ニ入五時過歸宅

一右他行中泉市ゟ金瓶梅二編上廿丁の內殘り十一丁校合ニ差越スゆしま板木師持參のよしおミち請取おく○今朝清右衞門來ル殿村店狀請取書持參久吾倅疱瘡のよし告之

一鶴や喜右衞門ゟ傾城水滸傳十二編上帙五部使札ヲ以被指越之うり物之おミち請取おく

一畫工柳川重信來ル八犬傳八輯さし畫の事ニ付過日呼ニ遣しゆ趣予他行中ニ付近日又可參よし申置歸去といふ

一夕方下女政の請人罷越政母病氣ニ付立かへりの暇暫時被下ゆ哉願出ゆへ共予他行中ニ付其段申聞かへし遣しゆよし歸宅後おミち告之

一今夕暮六時過ゟ本所石原邊失火頗及延燒四時前火鎭ル

一男奉公人醫師方へ奉公望のよしにて來ル引合人無之ニ付おミち不用のよし申聞かへし遣しゆよし後ニお百ゟ聞之○今夜歸宅後如例四時就寐

○晦日戊寅昨深夜ゟ雨終日無間斷風アリ夕七時過より雨止テ不晴夜ニ入晴夜中風烈深夜風止明曉又曇

一今日雨天書齋甚暗くゆニ付終日休筆倚爐消日了

一晝前大丸やゟ昨日買置候反物差越候則請取晝後ゟおミち裁之昨今裁衣に吉日之紅もめん切レ有切もの二切大丸や友八書落し不參候ニ付明日持參候樣申付遣之

一宗伯終日黑丸子外題すり奇應丸中包外題はり等之

一今夜五時前丁子や平兵衞ゟ使ヲ以大坂河内や茂兵衞ゟ俠客傳四の卷貳はん校合すり本寫候よしにて差越之則請取明日中校合いたし明日登せ候間明夕人差越候樣口状にて申遣ス茂兵衞ゟ状あり先月十一日書状之返事之則早春ゟり出しの手都合ニいたし手代武介といふ者を京都江遣し一二三の卷貳はん直し惣かゝりニいたさせ右板もちかへりて直にすり込候よしの案内其外江戸ほりの板の事等申來ル宗伯直ニ右校合ニ取かゝり四時迄校之今夕四半時就寐

○十二月朔日己卯曇暮六時頃より雨終夜無間斷風アリ

一晝時前清右衞門來ルかねて申付候とく昨晦日久吾方へ張子人形二つかひ取相居候よし申之久吾倅榮太郎此節疱瘡のよしニ付見舞の爲之○淸右衞門今日覺重方へ罷越候處覺重頭瘡にて引籠居候よし之

一下女政一昨日同人母病氣のよし申立日かへりの暇願候に付見屆の爲淸右衞門ニ付添右請人方へ罷越候樣申付晝飯後政立かへりの暇遣し夕方迄ニ罷歸候樣申聞ヶ淸右衞門差添遣之右請人武助

義下谷山崎町壹丁め長兵衞方へ轉宅いたし罷在候よし則請人武介ゟ是迄之不始終申聞ケ見屆候
處母病氣と申は僞りにて內用有之ニ付呼よせ候よしいつれニも夕方迄ニ罷歸り候樣申付ケ淸右
衞門は直ニ歸り來り其段申述早々飯田町宅ゟ罷歸候
一今朝天神下板木師長藏ト申もの方ゟ一昨日持參の金瓶梅二編の內十一丁校合乞ニ付昨日雨天ニ
てくらく候故校合出來かね今早朝ゟ取かゝり居候處右使之少女またせおき壹番校合いたし右使
ゟわたし遣ス
一晝飯後宗伯俠客傳四の卷貳はん校合いたし終り八時頃ゟ飯田町宅ゟ罷越十一月分藥うり溜勘定
いたし中やにて紙類品々かひ取右賣溜錢紙共携暮六時歸宅
一予金瓶梅二編の內十一丁天神下板木師彫刻の分壹番校合いたし晝飯後ゟ大坂河內や茂兵衞への
返翰丁子や平兵衞への口狀書等認之俠客傳四の卷二はん校合すり本並ニ書狀一封ニいたしおき
候處無程夕七時頃丁子や平兵衞來ル予對面右校合すり本一封今夕六日限早便にて登せ候樣示談
並ニ大坂登せ俠客傳とひらふくろひやうし外題寫本すらせ右すり本十日限にて登せ候樣示談右
用向畢て歸去今日平兵衞俠客傳表紙校合すり本持參之請取おく
一夕七時過芝泉市ゟ金瓶梅二編の內十一丁天神下板木師彫刻の分校合相濟候はゝ右板わたしくれ

候様手紙にて申來右校合直し未出來ニ〔付〕泉市使ヲ右板木師長藏方へ遣し候處いまた直し出來不申よし申之依之其段泉市へ口狀書を以申遣ス

一今晩下女政かへり來らす雨天故歟彼もの並ニ請人不埒言語同斷之

一今日校合其外多用ニ付著述休筆之夕方ゟ如例膝冷候ニ付爐により休息四時就寐

〇二日庚辰昨夜ヨリ雨風アリ終日小雨夜ニ入雪

一晝前下女政請人山崎町壹丁め長兵衞店武介來ル右は政義奉公勤かね候ニ付御慈悲を以永之暇給はり候樣願候よし申之尤不埒ニ付宗伯罷出是迄無據義を以願候ニ付給金さし越し候處自分勝手を申段尤不埒之まつ當人を差出し置候共人代り差出置候共いたし其上にて給金早々返納いたし候樣申付候處給金は明日晝後迄ニ無相違持參可仕候間其餘之義寬免願候趣かたく申ニ付則聞屆おく

一晝前畫工柳川重信來ル予對面八犬傳八輯一の卷さし畫二丁出來持參則請取おく同書さし畫の三注文申聞右示談畢て歸去

一夕七時過芝泉市ゟ使ヲ以金瓶梅二編の内十一丁天神下長藏彫刻分校合濟候哉否の旨問之右壹番校合昨朝遣し候まゝ未直し來らさるよし申聞候へは右使長藏方へ罷越校合すり本持參卽刻引合

せ候處大ていは直り候へ共にこり落等二三ケ處直し遣有之乍去板元遠方の上段々すり込おそなはり候故そのまゝニいたし候間長藏方へ罷越右板十一丁請取持かへり候樣右使吉五郎へ申付泉市へも右之趣口狀書を以申遣ス

一泉市使吉五郎鳥目五十銅かしくれ候樣申ニ付則四十八文右吉五郎へかし遣ス時かし之

一宗伯終日奇應丸つき置し袋等摺之今夜四時過迄之

一予八犬傳八輯二の巻の内本文才に壹丁餘稿之但書おろしのミ之今夕四時就寐

○三日辛巳曇 昨夜の雨（雪）一寸許積ル 晝之間日出テ又薄曇

一今日も宗伯奇應丸能書等摺之終日之

一予八犬傳八輯二の巻の内二丁半稿之暮六時頃ゟ取込之儀出來ニ付休筆今夜四時過就寐

一暮六時頃おつきやくわんのにえ候引かへし右の足膝下ゟ足の甲迄大やけといたし疼痛甚しく啼哭して不已へちまの水をかけ水天宮御札等張らせ候へとも效なし依之内田彌兵衞ゟ出し候やけとの藥宗伯罷越かひ取用之依之九時過ゟいたミ退キ四時前就寐右やけと藥は金澤丁田村万兵衞方にても取次候よしニ付二度めには万兵衞方にてかひ取用之最初は明神石坂上内田にて買之やけと處皮むけくつれたる處あり

○四日壬午薄曇終日半曇今夜小寒節戌二刻ニ入

一お次氣分は平生に替らすやけとくつれ候ニ付歩行不自由之此節無人ニ付不便限りなし

一今朝今戸慶養寺ゟ如例年曲物入納豆被贈之

一晝前清右衛門來ル中川金兵衛方へ八犬傳八輯壹の卷さし畫二丁並ニ手簡さし添遣之且お成道本公人入口にやとひ下女之事申付候樣示談右要事畢て清右衛門歸去是ゟいせ丁へ罷越候よし之

一薄暮中川金兵衛來ル此間ゟ眼病にて八犬傳筆工いまた取かゝらす追々快方ニ付近々とりかゝり可申旨申之過刻のさし畫二丁かき入いたし持參右さし畫は追て筆工出來の節はり入さし越候樣おミちを以わたし遣ス金兵衛受取早々歸去右畫稿二丁は此方へとりおく

一宗伯今日黑丸子熊胆衣かけ畫後ゟ帳のかミ折之畢終日之

一お次やけと折々いたミ候樣子にてせわり一統こまると多かりされ共氣分ニかはるとなし

一予八犬傳八輯二の卷の內二丁弱稿之書おろしのミ之今夕四時就寐

○四・五・日癸未半晴四時前ゟ快晴美日

一今朝清右衛門來ル下女政請人武介方へ罷越給金返納可致と申ニ付任其意若不埒明候はゝ家主へ屆候樣申付遣ス晝時清右衛門歸來ル右武介に懸合候處今日明日中金子返納可仕間用捨願候よし

申といへ共是迄段々不埒ニ付家主江願可申存罷在（越）候處他行のよしニ付尚又五人組方へ罷越候へ共是又他行のよしニ付先罷歸候旨申之則清右衛門ニ晝飯たべさせ歸路灌見覺重方へ立より先日申來候小女之事問合せ候樣申付遣ス尚又先月晦日久吾方へ遣し候小兒疱瘡見舞進物代八十文今日清右衛門へ渡之

一晝後下女政請人武介本金返納之內金壹分貳朱持參此餘は明日迄日延願之宗伯立出右金子請取明日於不相濟は名主家主江届表沙汰ニ可致旨きびしく申わたし候得は承知則歸去

一今日宗伯帳面二冊綴之日記並ニ金錢出入帳之例の如し

一お次やけと追々膿水出折々痛候ニ付今日は歩行ならず然共氣分は替るとなし夜分熱氣出候よしおミち申之

一予八犬傳八輯二の卷の內三丁餘稿之書おろしのミ之今夕四時就寐

一お成道奉公人入口ゟやとひ下女目見ニ來ルとし五十三のよし年寄ニ付不取極かへし遣ス

○六日甲申晴

一晝前下女政請人武介來ル政本金返納給金一分は今日上納可仕候へ共その餘は出來かね候間用捨を願候よし申之然とも段々不埒ニ付不相成候得共書付入候はゝ暫く用捨いたし可遣旨宗伯ヲ以

申渡ス依之今日壹分相納殘金は當月十四日迄日延願ニ付聞濟遣ス夜ニ入右武介金壹分持參印形は先日紛失いたし改印のよし申之依之いまた一札不取之彌印形紛失ゆはゝ其段家主より之書面持參いたしゆ樣申渡し右金子請取政夜具その外の物不殘右武介へわたし遣し明日尙又可參旨宗伯申渡し畢

一晝後芝泉市より使を以金瓶梅二編今日うり出しのよしにて如例二部被贈之

一山口や藤兵衞より使ヲ以殺生石後日五編一の卷十丁壹番直し出來二はん校合すり被差越之明後日頃迄ニ可致置旨右使に申聞ケすり本請取おく

一宗伯今日引窓障子二枚張之〇夕方松前家年男より宗伯へ奉札來ル明七日如例年箸掛御祝義ニ付のしめ着用四時より可罷出旨申來ル請取書遣之

一夕方土岐村元立來ル宗伯對面させる用事なし程なく歸去

一予八犬傳八輯貳の卷の內十六丁め迄四丁弱稿之今夕四時就寐

〇七日乙酉曇今朝五時頃小雪無程止晝過に日出

一四時過より宗伯のしめ十德にて松前上屋敷へ罷越箸掛御祝義御酒餠等頂戴畢て夕七時前歸宅〇今日淸右衞門方すゝ取のよし

一昼後畫工柳川重信來ル予對面八犬傳八輯壹貳の巻の内さし畫貳丁出來見せらる丁子やに持参のよしニ付稿本差置見本はわたし遣ス寒中見舞として手拭二被贈

一八犬傳八輯貳の巻廿丁め迄三丁半餘稿之今夕四時就寝

一おつきやけどおみちきぬのふくろをかけ候に付とぢつきいたミ且癒かね候ニ付宗伯半分ほとはさミ切候へ共その餘はとれす不斗ひ限りなし

○八日丙戌曇四時頃ゟ晴

一殺生石後日五編一の巻十丁再校今朝宗伯ニ申付引合さしむ及午後校畢

一昼後清右衛門來ル過日申付候かつをふし壹〆め小ふな丁さのやにてかひ取持参右金壹分遣之並ニ昨日すゝ取祝義節平膾到來の菓子等持参おさき方へ金瓶梅二編の上校本遣之

一夕方山口や藤兵衛ゟ使札殺生石後日五編二の巻十丁初校すり本到來則請取置一の巻十丁貳はん校合遣之○いせ内宮八幡太夫ゟ如例大祓到來

一夜ニ入おくわ祖太郎悌吉を携來ル牡蠣並ニ豆くわし持参右は先日清右衛門を以頼遣し候小女奉公人の事ニ自分にていまた髪結ひ得す候趣にて却て厄會ニ可有之候へ共何分にも節晩無人ニ付まつ日見ニ一兩日遣し候様示談ニ及ぶ五時前僕迎ニ來り母子共歸去

一深川久和島雲磴ゟ遣老物語十二十三冩し出來今夕おくわ持參右筆料二百九十二文並ニ十四の巻料紙差添伺又おくわニわたし遣ス

一今夕美少年錄三輯千代褚良著聞集傾城水滸傳十二編上帙金魚傳下編の下金瓶梅二編の上右校本並ニ木綿ゑほり古ゑゆはん壹おくわニ遣之

一おさきは金瓶梅二編の上校本一部今日淸右衞門にわたし遣之

一おゆう兩三日已前產いたしㇾ處男子にㇾへ共死胎のよしお祐は恙なし昨日久右衞門飯田町宅に罷越右之趣申ㇾよし今日淸右衞門告之依之すゝ取手傳ニは久右衞門參りかたきよしニ付

一田口久吾倅榮太郞順痘さゝゆ祝義むし物淸右衞門方へ到來のよし淸右衞門噂之此方へは沙汰なし○今朝宗伯引窓せうし二枚あふら引之畢

一八犬傳八輯二の巻の內三丁稿之殘り丸筆工壹丁にて終之今夕四時就寐

○九日丁亥晴風烈

一森や次兵衞ゟ使ヲ以金魚傳下編下今日うり出しのよしにて二部到來明年の新作たのミ來ル返書遣ス

一屋代二郞殿爲寒中見廻入來予對面雜談後歸去

一

一田口久吾ゟ小兒榮太郎疱瘡酒湯祝義として赤飯一重到來謝義口狀にて申遣ス
一今日宗伯持病差發り終日平臥日暮ゟ起出四時過迄殺生石五編二の卷壹番校合ス
一夕方松前家御用部屋ゟ宗伯へ奉札來ル右は志摩守樣御格式御昇進ニ付一席限り干鯛一箱獻じ候樣被仰出候ニ付來ル十三日獻備之事右ニ付來ル十六日御酒被下候間のしめ十徳着用可罷出達書之請ふミ進ス〇大丸友八ゟ寒中見舞引札狀如例到來
一予八犬傳八輯二の卷の内廿六丁迄終り迄丸一丁稿之夜ニ入同卷さし畫の貳一丁稿之四時過就寢

〇十日戊子晴

一今晩八半時頃ゟ谷中邊並ニ根津邊二ケ處出火有之宗伯起出近處迄罷越是ゟ不睡長崎やつるや山口や等使ヲ以見舞申來ル谷中の方先へ火鎭ル根津は天明ニ火鎭ル英泉類燒
一四時頃ゟ宗伯松前兩やしきへ寒中見舞ニ罷出歸路關忠藏へも同斷八半時頃歸宅
一晝前おくわゟ母へ使札先夜及相談候小女奉公人之事申遣し候處病氣にて斷のよし依之十八才の方始終はともかくも當分賴候て可然よし覺重申候いかゞ可仕哉と申來ル代筆にて予返事認候内使不沙汰にて歸去畢
一晝後田口や藤兵衞爲寒中見廻來ル肴代百疋並ひくわし一箱被贈之殺生石後日の五編のやらし付

しの爲序文並におくもくろく彫刻出來校合すり持參請取おく畫工英泉今晩類燒ニ付罷越ゆ處殺生石後日下五編下帙稿本は恙なくゆ間とり戻しゆよし告之同書二の巻初校明日迄に校し可申ゆ間明日人遣しゆ様示談畢て歸去

一本所猿江山名主殿との家臣吉田三郎治池田欽兵衛ゟ使札ヲ以主殿との願ゆ通先月廿九日隱居之蒙仰家督無相違相濟ゆ趣祝物等都而附届はかたく斷のよし申來ル則うけふミ遣之

一夕七時頃お成道奉公人口入女房雇下女目見つれ來ル當人九十才宿は神田三河丁のよし一切よくつとめ可申間壹ヶ月金壹分四百文つゝニ定くれゆ様申之よくつとめゆはゝまし遣し可申ゆへ共まつ罷越勤見ゆ様申聞ゆへは承知いたし明日宿書持參可致旨申之歸去

一お次やけとの驚きにてむしけにて夜分別てせわり母の手をはなれす蒼龍丸一日三粒つゝ用之

一予八犬傳八輯貳の巻さし畫の三壹丁稿之夫ゟ同巻本文七丁つけかな稿之今夕四時就寐

○十一日己丑曇甚寒薄暮ゟ雨明曉雨止

一明日すゝ取ゆつもりニ付早朝ゟ宗伯たつミ三疊並ニ書齋等下そうちす此節無人ニ付手傳なし壹人之○丁子やゟ大坂河茂ゟの狀届來ル使幸便之俠客傳の三の巻迄四百部丁平へつミ下しの案内狀之

一今朝いせ外宮御師岡村又太夫ゟ如例太祓新暦のし箸書状等被贈之
一晝後清右衛門爲寒中見舞來ル昨日四谷久右衛門方へ罷越候處おゆう産後追々ひたち候ニ付明朝久右衛門すゝ取手傳ニ可參よし申之清右衛門歸路おくわ方へ昨日之返書屆候樣申付口狀も申ふくめ遣ス右はやとひ奉公人一議たのミ遣ス用事之清右衛門へ申付候細引かひ取持參請取之
一深光寺ゟ使僧ヲ以納豆曲物被贈之例のとし○今日清右衛門十一月分八百長上家ちん持參請取
一八犬傳八輯貳の卷晝後ゟ十四丁め迄つけかな稿之今朝は殺生石五編一の卷十丁の内五丁初校五丁は宗伯校し置候ニ付かきぬきのミいたし右十丁稿了且同書表紙つき序文惣もくろく共ニ三丁稿之今夜四時就寐○お次今日は晝夜共少々順快之

○十二日庚寅半晴ゟ四時頃快晴美日
一今日すゝ取候ニ付おみち並ニ宗伯明七時ゟ起出羅文樣御靈前へ料供獻之天明ゟそうぢに取かゝる六半時過おさき手傳として來ル手みやけ三種持參四谷久右衛門は不來
一四時頃久右衛門來ル用事有之遲刻のよし之則すゝ取手傳惣かゝりにて薄暮取畢久右衛門手みやけはふたへ餅持參
一麻布間部儒臣大鄉金藏爲寒中見舞來ル取込中ニ付申置歸去厚豆腐被贈之

一高松家老木村亘ゟ使札十月中貸進の水滸後傳一帙並同書明板抄錄一冊被返之則請取返書遣ス

一大傳馬町との村店ゟ松坂表ゟの佐五平書狀並ニ本代金貳朱ト七百十七文到來則請取書遣之○琴魚事十一月廿一日ニ病死のよし申來ル並ニ三才發祕等の用談返翰之

一松前近習新井田貞治ゟ宗伯へ使札右は明日獻備の干鯛もくろく書入候よしにて宗伯實名問ニ來ル則予代筆にて右實名書付遣之

一御成道奉公人口入女房やとひ下女目見つれ來ル四十七才のよし宿は下谷廣德寺門〔前〕鴬屋のよし壹月金壹分四百文ニ定くれ候樣申之よくつとめ候はゝ右之通ニ致し可遣候間早々宿書差出し今夕ゟも罷越勤候樣申付候處今夕用事有之ニ付明日ゟ可參よし歸去

一渥見覺重世話いたし候下女十八才の方昨日清右衞門覺重方へ罷越候右女のおや渥見へ來合せ早速及相談候處とかく手はなし候ては不安心のよしにて斷の趣今日おさき告之

一夕方そは切かひ取おさき久右衞門並ニ家內のものニたべさせ候すゝ取の勞ひ之

一暮六半時頃おさき久右衞門歸去則小田原ちやうちん一ツかし遣ス

一お百はお次もりいたし予は八犬傳八輯二の卷廿六丁の終迄つけかな不殘稿し畢右二の卷廿六丁今夕滿稿之四時ゟ就寐○お次今夜中せはりねふりかね候今日取込ニ付蒼龍丸只一度のませ候故

之毎日三度つゝ用ひ様おみちへ申付おく

〇十三日辛卯晴北風アリ夕方ゟ曇夜四時頃終夜雨

一伊藤半平爲寒中見舞入來被申置如例

一晝後淸右衞門來ル先日申付ひニ付今日丁子やに立寄口狀申入ひ處平兵衞他行のよし之淸右衞門

へ申付本郷金介町へ遣し蒼龍丸代金貳朱分六包ト四粒かひとらせ尙又御成道川越やに遣しやと

ひ下女之事示談いたさせ且近日幸便次第大傳馬町白龍否かひ取ひ樣申付おく且昨日すゝ取祝義

平膾等如例遣之夕方淸右衞門携歸去

一殿村佐吾平狀今日熟讀且八犬傳八輯二の卷稿本よミ立悞脫を補ふ終日之

一地主杉浦にてすゝ取ほこり立可申旨早朝屆來ル昨朝此方ゟも同斷申遣スニよりて之

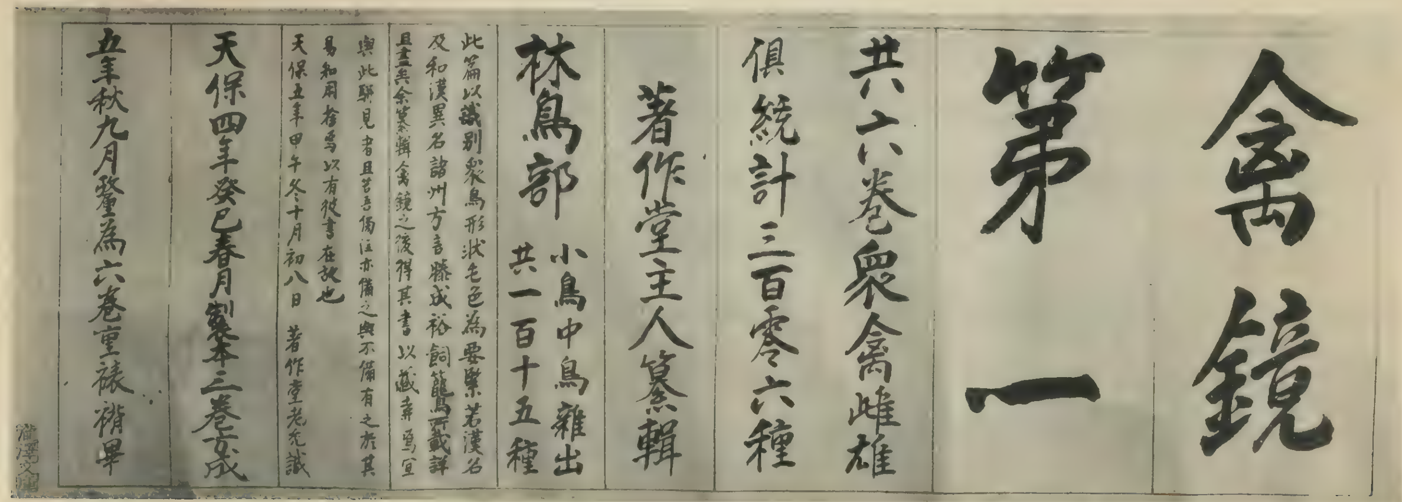
一夜ニ入三才發祕略目抄抄錄今夕四時就寐お次夜中鳴哭一同不寐之

〇十四日壬辰曇晝後欲霽不晴

一松前殿御格式昇進の御祝義十六日ト申來ひへ共今日ニ相成ひニ付四時過ゟ宗伯のしめ十德にて

罷出御酒頂戴夕四時前歸宅

一いせ松坂との村佐吾平への返事用狀二通認之琴魚香奩南兩一並返しひ三才發祕一帙一包ニいた


禽鏡
第一
共六卷衆禽雌雄
俱統計三百零六種
著作堂主人纂輯
林鳥部　小鳥中鳥雜出
共一百十五種
此篇以識別衆鳥形狀毛色爲要緊若漢名
及和漢異名諸州方言雜成於飼籠鳥所載詳
且盡與余纂輯禽鏡之後得其書以識弃焉宜
與此鏡見者且旨吾偏注亦備之與不備有之於其
易和用者焉以有彼書在故也
天保五年甲午冬十月初八日　著作堂老禿識
天保四年癸巳春月製本三卷工成
五年秋九月釐爲六卷重裱褙畢

(十) 馬琴纂輯「禽經」一卷自筆題署

し其後大坂河内や茂兵衞へ遣しゝ用狀認之右は三才發祕かひ入之事申遣スか爲ニ彼是多用八犬傳八輯三之卷未稿

一おつき每夜蟲積さしこみゝ樣子ニ付右服藥手當之事おみち並ニ宗伯へも申付おく今日ゟ蒼龍丸四粒用之依之今日は快方今夜中熟睡

一夕七時過ゟ宗伯を以大傳馬町との村店へ遣し松坂との村佐吾平へ差遣ゝ要書二通一封並ニ紙包一ツ是は三才發祕ト琴魚ゟ之香奠一包ニいたし遣之則同店又右衞門へ渡し請取書取之尙又せと物丁島やゟ大坂河内や茂兵衞へ遣しゝ八日限狀一通賃錢拂かよひ帳ニ志るさせ暮六時頃歸宅但島やゟかよひ新帳へ箕民ト志るしゝ樣申遣ス

一暮六時過丁子や平兵衞來ル予對面寒中見廻肴代持參八犬傳八輯二の卷稿本並同時さし畫稿二丁渡し且大坂登せ美少年錄三輯すり込せゝよしニ付惣もくろくの赦の字並ニ四の卷十一丁メ三行遣ゝ字入木直しゝ樣示談一二の校本二冊預ケ遣ス五時前歸去ふろしき一ツかし遣ス

一終日書狀認疲勞今夜客來等にて夜分休筆四時就寐

○十五日癸巳曇朝早霧四時過ゟ晴南風溫深夜ゟ風烈北

一晝前淸右衞門來ル中村やゟ到來のよしニて切もちこしあん添持參今日下町へ罷越ゝよしニ付伊

藤半平へ寒中見廻返禮丁子や平兵衛ゟ手紙等たのミ遣ス
一おくわゟ母へ使札祖太郎袴着内祝のよしにて赤飯一重鰺二尾到來返事口状にて申し遣ス
一晝後丁子や平兵衛ゟ使ヲ以昨夕のふろしき被返之右幸便ニ大坂登せすり本十日限「に」は及まし
く並便りにて可然事並俠客傳三番校合すり大坂ゟ不差越候間申遣し とりよせ候様口状書を以申
遣ス過刻清右衛門へ委ね遣し候手紙も同斷之事ニ候へ共片便ニ付尙又申遣ス
一山口や藤兵衛ゟ使ヲ以殺生石五編一の巻十一丁之内二丁三はん校合すり到來即刻引合せ候處直
り候間此十丁は校合濟候趣口状書差添使にも申ふくめ遣ス
一宗伯今日小障子等並神燈臺所の入方等張替畢終日之同人夕方ゟ風邪にて寒熱有之服藥いたし候
様示談煎藥自療にて用之
一お次今夜中又むしさし起り候様子にて鳴哭いたし候ニ付獨熊(熊胆)丸用之晩方ゟ熟睡
一予八犬傳三の巻今日ゟ取かゝり三丁稿之但書おろしのミ之今夕四時就寐
○十六日甲午晴風烈北深夜風止
一橋本喜八郎殿入來寒中見舞之○宗伯風邪同様半起半臥之
一八犬傳八輯三の巻の内四丁半稿之但書おろしのミ之今夕四時就寐

一山口や藤兵衞ゟ使ヲ以殺生石後日五編二の卷十丁壹はん直し出來二はん校合すり到來明日校訂いたし候間とりに可參旨申遣ス

○十七日乙未薄曇程無晴風嚴寒

一殺生石後日五編二之卷十丁貳はん校合早朝ゟ引合せ再校則直し落書拔校し畢晝後山口やゟ使札同書惣もくろく表紙附序壹はん直し出來二はん校合すり差越之即刻引合せ候處序文は直し濟惣もくろくは直し處有之ゑるしつけ並ニ二の卷二はん校合遣之序ニ八犬傳にしき畫の事使のものへ口狀にて申遣ス

一晝後淸右衞門來ル如吉例淺草市へ罷越候によりて之宗伯風邪雖未痊可然推て同道出かけ宗伯ニ申付中川金兵衞方へ八犬傳八輯一二の畫稿二丁書入候爲遣之金兵衞眼病にていまた筆工に取か〔ら〕さるよし之淸右衞門ニ申付米や又吉方へ糯米之事申遣ス宗伯如例淺草市ニてかひ物いたし暮六時過淸右衞門同道にて歸宅其後淸右衞門は飯田町へ歸去宗伯歸宅後惡寒有之服藥後早々就寐○渥見ゟ使ヲ以深川寫し物來ル筆料遣之

一八犬傳八輯三の卷の内一丁半稿之今日風烈嚴寒にて多く稿せす今夕四時就寐

一今日貞嚴大姉祥月忌辰晝時料供如例奉祭之

○十八日丙申晴無程曇今朝四時過より雪終日之薄曇雨ましるゟ曉風烈晴

一今朝米や又吉もち米見せ米持參上の方兩ニ五斗四升中の方五斗六升のよし之上の方五斗五升ニ致させ金三分並ニ飯米も申付明日晝時迄ニ差越候樣申付遣ス

一昨十七日渥見覺重ゟ使ヲ以深川久和島雲礎うつし候遺老物語十四の卷寫し出來原本共被屆之右筆料二百廿文並ニ十五の卷筆料（料紙）差添遣之

一今朝四半時頃土岐村元立並ニ外孫三六同道にて來ル かけ合の晝飯ふる舞食後早々歸去

一晝後山口や藤兵衛ゟ使ヲ以殺生石五編二の卷二はん直し出來すり本見せらる但し此内十八丁め直し不來且惣もくろく直しも不來板木師方にてとり遣し候處板元そのまゝさし越候樣子ニ付右十八丁め並惣もくろく二はん直し明日持參いたし候樣口状差添遣之尤此外は校合すミ候趣も申遣ス

一八犬傳八輯三の卷の内四丁稿之但書おろしのミ之今夕四時就寢

○十九日丁酉晴今朝五時小地震今夕五時過又小地震

一昨夜中曉前後電光甚し北の方ゟ南へ光り候よし今朝宗伯申之然は遠方にて雷鳴も有之候よし雪中の電光尤氣候不順の兆歟いふかし 近來寒中ニ雪なし本年寒中の深（雪）雨座に及ふ明年畔作

の爲宜しかるへし
一晝時渥見祖太郎禮服にて來ル供二人之今日袴着社參神田明神へ參詣のよしニ〔て〕手みやけ持參
卽刻歸去
一晝後淸右衛門來ル本鄕笹やゟ寒中見廻答禮に罷越候よしにて明日如例年もちつき候間夕方もち
米とりに遣し候樣笹屋ゟ口狀いたし淸右衛門ニもたせ遣し且もち粟の事同人ゟ申付代金遣之
一右同刻米や又吉下男同道兩人にて糯米並飯米注文之とく持參則はからせ請取おく
一夕方本鄕笹屋ゟ下男二人もち米取ニ來ル則四斗一升壹合五夕とりおく注文書付さし添わたし遣
ス
一夕方山口や藤兵衛ゟ使ヲ以殺生石後日五編十八丁め並ニおくもくろく二はん直し昨日不足分差
越之卽刻引合せ候處直り候間二の卷十丁不殘校合濟之趣書狀にて申遣ス且一昨日申遣し候かゝ
や板八犬傳のにしき畫三枚被指越之代料あとゟ可遣旨使ニ申聞ケ請取おく
一宗伯昨今とし玉黑丸子下包其外包之終日之
一予八犬傳八輯三の卷の內四丁半稿之但書おろしのミ之今夕四時就寢
○廿日戊戌晴嚴寒

一今朝大工寅吉來ル明神地内市ニ商ひニ參り候間戸板借用仕度旨申之則アキ戸貳枚宗伯出しかし遣ス

一四時過本郷さゝやゟ注文之もちつき立持參則請取之如例小もちは自在餅ニつくり家廟へ供し地主並ニめてたや飯田町清右衞門方等へ遣ス右巳前家内一同祝畢

一晝時丁子や平兵衞來ル予八犬傳八輯潤筆の内金拾兩持參則請取畢並ニ大坂河茂ゟ之狀被屆之十二月一日出狀之返事十二月十二日出之早狀之

一晝後清右衞門來ル内田にて四斗樽一ツかひとらせ且清右衞門方へ遣し候自在餅同人ニゆたね遣之無人故之其外らを等用事申付雜談後歸去

一米や又吉昨日之米代金乞ニ來ル則不殘金子渡し遣しかよひ帳ニ請取印形取之

一夕方關忠藏家内ゟ使札先月中かし遣し候美少年錄三輯被返之右爲謝禮□□□はんへんせり等一重被贈之請取返翰遣之

一清右衞門季弟衞介事淺一郎主人商用にて銚子へかけ取ニ罷越候處引負廿金程出來いたし身分立かたきよしにて書おきいたし旅宿ゟ逐電のよし銚子宿ゟ帳面かき置等屆來ルと云淺一郎は日本橋通四丁め喜せる問や名張やの手代之年來篤實のよしニ候處右のとし今年此方へは年始にも不

來之右昨十九日淸右衞門告之記しおくのミ
一宗伯夕方明神市へ罷越如例まゆたゆつり葉等かひ取薄暮前歸宅
一今日十二月中氣ニ付夜四時星祭獻供等如例今夕四時過就寐
一八犬傳八輯三の卷の內壹丁半夕稿之今日もちつき其外多用ニ付多く不稿
○廿一日己亥晴
一晝後川越や女房やとひ下女目見つれ來ル四十餘才のよし然共水等汲たる事無之よし申之左候は
は間に合かねい間不及取極則かへし遣ス
一切餅かきもち宗伯お百おミち手透〳〵に夕方迄ニ悉たち畢
一八犬傳八輯三の卷の內三丁半廿五丁終迄今夕稿畢內さし畫三丁未稿尤本文は書おろしのミにて
いまたかなつけす今夕四時過ゟ太郎せわりい故九時過ゟ熟睡
一長尾所左衞門ゟ奇應丸大包代金差添乞ニ使來る宗伯則わたし遣ス
○廿二日庚子晴
一山口や藤兵衞ゟ使札殺生石後日五編上帙二冊今日うり出しのよしにて三部被贈之請取返翰遣之
一晝前おきく爲寒中見舞來手みやけ二種持參かけ合の晝飯〔振〕舞九半時頃歸宅是ゟおひて方へ罷

越候よし之久吾此節多務寸隙無之よし之
一晝時淸右衞門來ル今日もち搗候よしにて自在餅一重如例持參且過日申付候傳馬丁かしまや白龍香二貝かひ取持參請取畢尙又大門通り邊懇友ゟ被賴候よしにて書畫帖持參染筆之事乞之右潤筆鷄卵一折先方ゟ到來のよしにて持參請取おく淸右衞門歸路としまやに酒類注文申付候樣示談かきつけ遣之
一松前內大野幸次郞ゟ宗伯へ奉札老侯ゟ如例年金百疋つゝ父子に被下之宗伯うけふミ認め遣之
一夕七時前鍛冶橋內堀內藏頭殿御使鈴木五兵衞來ル先月ゟ御賴之發句合批點の返事問合せの爲之信州須坂の挽わり蕎麥二重被下之予長髮並ニ宗伯も不快ニ付おミちヲ以右發句合格別之御賴ニ付年內大晦日頃ニ點可仕候旨其人被遣候樣及返事則歸去
一宗伯此節例の癎症おこり日々不快お百も風邪中寒の氣味にて頭痛つよく候よし兩人共半臥半起之おミちも右之食指はれ膿水少々出候よしニ付白龍香をつけ指をいとひ候樣申付おく此節無人之處病人多く困ること甚し
一八犬傳八輯三の卷廿五丁の內九丁半迄つけかな稿之今夕宗伯お百は五時ゟ各就寐予四時過就寐
○廿三日辛丑晴

一おミちあね芝田町宗之介內義ゟおミちへ使札はつゆめつけ梅ひしほ小兒手遊物等被贈之お路ゟ返事謝禮口狀にて申遣ス

一宗伯痼症夫婦不和之樣子ニ付教訓申聞推鎭め並ニおミちへも意見申聞無事ニ治畢おミち右指膿を持いたミゆよしニ付手當之事示談此節無人之處お百も中寒の氣味にて頭痛いたし宗伯も不快めいわく限りなし

一八犬傳八輯三の卷の內十一〔丁〕半つけかな稿之今夕四時過就寐

○廿四日壬寅晴ゟ深夜風烈

一晝時前おさき爲歲暮祝義來ル手みやけ二種並おみち指の藥持參薄暮歸去則殺生石後日五編上帙校本二冊遣之並清右衞門方へ歲暮炭代壹朱又過日之白龍香代百文おさきニもたし遣之

一右已前おひて爲寒中見舞來ル手みやけ持參芝崎氏に罷越ゆよしにて早々歸去

一晝後いせや久右衞門來ル爲歲暮祝義鏡餅一飾塩引鮭一尺持參是ゟも塩物代金一朱遣之多用のよしにて早々歸去

一宗伯今日書齋袋戶棚書箱等そうちいたし夕七時前掃治畢

一予晝の間月代いたし八犬傳八輯三の卷廿五丁つけかな共夕方迄に稿畢今夕休筆

一夜ニ入松前外様三人ゟ宗伯へ以手紙明廿五日御扶持代金渡りㇳ間印形持參四時相詰ㇳ様申來ル
おミち請取書遣之依之宗伯今夕髮月代いたし四時前之ロ中又少々いたミㇳよし之今夕四時就寐

〇廿五日癸卯晴風烈晝後ゟ風止ゟ夕方曇ゟ夜五時風烈

一今朝四時頃ゟ宗伯松前役所ゟ罷出扶持代金請取歸路屋代殿橋本殿地主杉浦清太郎ゟ寒中見舞申入九時頃歸宅

一清右衛門方ゟ使ヲ以如例歲暮祝義鏡餅塩引鮭等來ル去十七日夜あつけ置ㇳ門かさり類不殘遣之並ニ深光寺へ遣ㇳ歲暮供三種一包右使ニわたし淸右衛門方へ遣之淸右衛門深光寺へ持參ㇳ故之

〇屋代太郎殿寒中見舞入來口上被申置

一予晝飯後ゟ日本橋邊へかひ物ニ罷越ぬり物せと物類せつた二ツこたつや「く」ら進物の鮭等かひ取七時過歸宅依之今日休筆之

一松前様へ過日進上物のわり合金壹朱今日宗伯持參世話人ゟ渡し畢

一金兵衛八犬傳壹の巻さし畫稿取ニ來ルはり入順ゟれかねㇳよし之則わたし遣ス

一めてたや庄兵衛ゟ切もち到來如例今夕四時就寐

○廿六日甲辰風晴風烈今朝五時過小地震ゟ夕方風止

一今朝中川金兵衞八犬傳八輯十二の卷の內 本文十丁筆工出來持參差置歸去其後校訂悞寫ゑるしつけおく

一夕方宗伯筋違外ゟ飾松竹杭等かひニ罷越かるこにかつかせ歸宅小アミ丁川筋船つかへのよしにて松竹杭等甚高直之

一夕方杉浦清太郎爲寒中見廻來ル明日如例在役にて上州邊ゟ出のよしにて暇乞の爲之折節宗伯かひ物ニ罷出候間予對面早々歸去

一八犬傳八輯三の卷さし畫三丁の內二丁稿殘り壹丁稿しかけ候處夕方ゟ尤嚴寒ニ付爐に倚り休息

今夕四時就寐

○廿七日乙巳晴晝後ゟ大南風夕方風止

一今朝丁子や平兵衞使ヲ以美少年錄中の悞字入木直しいたさせ候よしにて右校本被返之並ニ俠客傳書林行事三都わり印取候間稿本遣しくれ候樣申來ル依之右稿本使ゟわたし遣ス尤わり印相濟し候はゝ稿本差越候樣申遣ス

一過日新にかひ取候柳こりへ昨夕宗伯合卷さうし類入かえ畢今朝同人是ゟ(迄)合卷入置候柳こり

へ古書類又入かえおく四角の柳こりは火事之節佛器入置候爲アケ置候樣同人ㇸ申付おく然ル處古書入かね候よしニ付是は今迄の通りにいたし是迄合卷入置候柳こりを明ケ置候樣又申付おく

一いせ内宮御師八幡太夫中野茂平御初穗乞ニ來ル如例貳百文わたし請取書とりおく

一晝飯後ゟお百深光寺並ニ龍門寺へ參詣歸路飯田町宅ㇸ立寄暮六時頃歸宅淸右衛門風邪の上むし齒いたみ打臥居候よし之お百ニ申付候蒼龍丸かひ來ル

一宗伯内外かざり下拵其外とも歳暮之用事にて終日之

一夕七時前御成道川越や女房やとひ下女目見へつれ來ル生國越中富山にて請人は山本町代地紫稲やのよし當人卯廿五歳ニ成と云やとひ給金一ケ月金壹分ト四百文ニいたしくれ候樣申之時節から故任其意取極め畢明朝やと書印形持參可致よし申歸去

一夜ニ入地主杉浦氏ゟ下女を以弟幾之介義願之通今日御普請役見習被　仰付依之明廿八日㐮酒進上いたし度よし申來ル

一予八犬傳八輯三卷め殘りさし畫一丁稿之晝飯後入湯いたし夫ゟ元立被依賴扇面三本染筆淸右衛門賴藏六集書畫帖染筆夜ニ入堀殿御賴發句合句□語句稿案今夕四時就寐

○廿八日丙午晴〈晝後ゟ曇〉夕七時頃雪〈無程止〉深夜中大風〈暁方風止〉
一今朝清右衛門來ルそうち金持參請取之川染筆の書畫帖わたし遣ス
一田畑人足安五郎代り佐兵衛來ル門松立畢祝義貳百文遣之
一渥見覺重爲寒中見廻來ル下野つくねいも一包被贈之早々歸去
一杉浦幾之介御普請見習被仰付候祝義として酒二升ぬり樽へ入遣之
一晝飯後ゟ予下町へかひ物ニ罷越候ニ付丁子やに立寄八犬傳八輯三の卷さし畫三丁畫稿渡之並ニ鶴やにも立寄夫ゟ新大坂町住よし丁てりふり丁日本橋邊にていろいろかひ物いたし夕七時過歸宅
一右他行中森や次兵衛來ルくわし一折白砂糖一曲〈物〉被贈寒中見廻のよし之
一又いせ山田外宮檜垣舍人トいふ人はしめて來訪未知人之他行中ニ付名簿さし置歸去又奥州旅人たつね來ル宗伯とわりかへし遣ス
一八時頃ゟ宗伯松前兩やしきへ爲歳暮祝義罷出如例唐蘇進上之夕七半時過歸宅○川越や女房やとひ下女目見えつれ來ル予他行中之其後不來
一下そうち伊左衛門代之者納大根不宜よし申候故ニ此方斗來年ゟ外之者ニとらせくれ候樣申之節

晩只今ニ至り不埒之義申ニ付宗伯罷出理解申聞候へは承伏いたし不相替來年もそうち仕度よし申ニ付任其意不及子細

一予今朝ゟ堀内藏頭御賴發句合評點いたし晝後ゟ他行夜ニ入休息今夕四時就寐

一地主杉浦ゟ宗伯を被招候へ共時分柄ニ付斷候ニ付今夕おくり膳並ニ酒一銚子とり肴等被贈之

○廿九日丁未晴四時過ゟ風晝ゟ風止

一堀内藏頭殿御賴發句合拙評餘論稿案夕方書畢終日之

一昨日のやとひ下女山崎町ちんこ切の女房のよし年廿七八のよしいかゝ敷風俗ニ付不取極今日可參よし申といへとも不來之○此節ヒハキの賊處々に有よし風聞あり

一夕方中川金兵衛八犬傳八輯一の卷殘り筆工十二丁但畫つき二丁あり出來持參且泉市合卷一兩日前板木師持參金瓶梅二編の下帙之急に認くれ候樣賴候いかゝ可仕哉と被申八犬傳先約ニ付まつ八犬傳二の卷を早々書候樣示談右金瓶梅寫本は直にわたし遣し八犬傳寫本は請取おく

一宗伯鏡もちわかさり等内かさり一式今日かさり畢今夕四時就寐

○晦日戊申薄曇今夜九時ゟ風烈

一早朝中川金兵衛八犬傳八輯一の卷の内十丁寫本校合昨日わたし遣し候分直ニ出來持參請取おく

あとの分十二丁は今日晝時迄ニ校訂可致間後刻又參候様示談畢て歸去其後校訂畢

一八時過金兵衛又來ル過刻の八犬傳八輯壹の卷 寫本廿二丁一ツにとち合せわたし遣ス今夕板元丁子やに持參候様示談並ニ同書三之卷稿本料紙二三兩卷分さ しそえわたし遣ス尤三の卷寫本は丁子やに見せ候様示談畢て歸去〇天明ヨリ千住邊ニ火事あり二町許延燒のよし風 聞但此時風なし

一晝前淸右衛門爲當日祝 義來ル油丁問やに今日罷越候よしニ付村田宗淸にててんつけ眞書筆かひ取並ニかしまや白龍香もかひ取候様申付金貳朱わたし遣ス 右序に鶴やにて小冊こよミ一ツかひ取候様申おくこよミの代は不遣來春勘定の節一處可遣旨申遣ス

一夕七半時過堀内藏殿家臣鈴木儀兵衛ゟ宗伯へ使札かねて御賴之發句 合點出來候はゝわたしくれ候様申來ル則宗伯返翰認點出來の卷右使にわたし遣ス

一松前御年男島田興ゟ宗伯へ奉札來春元日御禮四時揃のよし如例案内申來ル則請取書遣之

一晝後予近所へ罷出兩三種かひものいたし七半時過歸宅宗伯並家内のもの入湯お次は やけと未癒ニ付ゆに入れす

一今夕五時前ゟ予宗伯同道にて飯田町淸右衛門方へ罷越十二月分藥うり 溜勘定いたし並ニ中や小

松や等へ紙類藥種の拂いたし越後やにても半紙かひ取清右衛門方　て酒そはを以饗應ス過刻清右衛門へ申付ル筆並ニ白龍香こよミもかひ取ルよしニ付今夕予皆携之父子又同道にて九時歸宅八時前就寐

一買かゝり諸拂等かけ乞ニ參ル分皆拂遣し畢渡邊登ゟ水滸傳代金取ニ不來無人ニ付そのまゝ打捨置來春宗伯年始ニ罷越ル節遣スへし

一家内一統恙なく安全ニ新年を迎ふ歡ふへく賀すへし

辛卯年中日記畢

曲亭馬琴年譜略

凡例

◎馬琴身上の件及身上に關係ある件。

○馬琴の親縁、故舊、交友等に係る件並に同時代知名人物の生歿等。

●著明の世事。

⧖馬琴著述の讀本。

△同上の黄表紙類（合巻を含む）。

□同上の隨筆、紀行、評論等。

×同上の雜書。

明和四丁亥年（後櫻町天皇の五年、家治將軍の六年）

◎六月九日馬琴江戸深川に生る。瀧澤氏、幼名倉藏、通稱清右衛門、諱は解、字は瑣吉、晩年篁民と云ふ。馬琴は其號、別に著作堂、蓑笠漁隱、飄齋、玄同陳人、魁蕾子等の號あり。

○此年父大右衛門（諱興義、麾下の士松平信成の家宰）四十三歲、母吉尾氏三十歲、長兄左馬太郎（諱興旨、東岡舍羅文と號す）九歲、次兄清次郎三歲。

○後年の師山東京傳七歲。

明和五戊子年

◎馬琴二歲。

○蒲生君平生る。

○上田秋成「雨月物語」を著す。

明和六己丑年

◎馬琴三歲。

○山東京山（京傳の弟）生る。

○賀茂眞淵歿す。青木敦書歿す。

三一六

明和七庚寅年

◎馬琴四歳。

明和八辛卯年（後桃園天皇御即位）

◎馬琴五歳。

明和九壬辰年（十一月改元安永）

◎馬琴六歳。

◉二月目黒行人坂より出火、江戸大火。

安永二癸巳年

◎馬琴七歳。

○建部綾足「本朝水滸傳」を著す。此年綾足此書の新刊を携へて馬琴の父の許に至り之を示したるに、馬琴父の傍に在りて美しきことに思ひたりと云ふ。

○馬琴始めて俳句を作る。曰く「鶯の初音にねむる座頭かな。」

安永三甲午年

◎馬琴八歳。此頃手習師匠小柴長雄に入門す。

○建部綾足歿す。

安永四乙未年

◎馬琴九歳。

○三月二十六日父大右衛門興義（晩年運兵衛と改名）歿す。享年五十一。

○兄左馬太郎、時に年十七、戸田大學頭に仕ふ。瀧澤家の母子濱町の宅に移る。左馬太郎名を直次郎興旨と稱す。

安永五丙申年

◎馬琴十歳。此年所作の俳句に曰く、「門々のあやめも枯れて蟬の聲」。

○式亭三馬生る。清水濱臣生る。

○池野無名（大雅堂）歿す。

安永六丁酉年

◎馬琴十一歳。

○加藤美樹歿す。

○山東京傳（時に年十七）其處女作の青本「おはな半七開帳利益札遊合」を著し明年正月出版す。者日堂

少通邊人と署名し、挿圖も自畫にて北尾政演と署せり。此著は今年四月青山善光寺に彌陀三尊の開帳ありて都人の群參せしより思付きしものならん。

安永七戊戌年

◎馬琴十二歲。此頃武家某氏に仕へて卑職に就けりと云ふ。

安永八己亥年（後桃園天皇崩御）

◎馬琴十三歲。

○平賀鳩溪（源内）歿す。

安永九庚子年（光格天皇御即位）

◎馬琴十四歲。此年主家を出奔するに當りて句あり、曰く、「木枯に思立ちけり神の旅」。

△はやりうた金金金平 大きにおせわ　一竹齋達竹戲畫戲作と署せる黃表紙二冊物。此年正月の出版なれば著作は去年なるべく、馬琴の最初作とすべし。

○柳亭種彥生る。賴山陽生る。

○山岡俊明歿す。

天明元辛丑年

◎馬琴十五歲。戸田家に仕ふ。又渡徒士となると云ふ。
俳文「弔鶯の辭」を作る。

天明二壬寅年

◎馬琴十六歲。

天明三癸卯年

◎馬琴十七歲。
○横井也有歿す。
●六月末至七月初淺間山大に噴火す。

天明四甲辰年

◎馬琴十八歲。
○八月兄左馬太郎其主戸田氏に隨ひて甲府に行く。
○伊勢貞丈歿す。

天明五乙巳年

◎馬琴十九歲。

〇次兄清次郎、高田氏を出でて家に復る。

〇六月母吉尾氏歿す。享年四十八。

天明六丙午年年（家治將軍薨去）

◎馬琴二十歳。

〇八月四日次兄清次郎歿す、享年二十二。

●七月江戸洪水。

天明七丁未年（家齊將軍就職）

◎馬琴二十一歳。

□俳諧古文庫　二册

●松平定信（越中守樂翁）老中となる。

天明八戊申年

◎馬琴二十二歳。醫道に志して醫師山本宗洪に入門し名を宗仙と云ふ。

●皇居炎上。

寛政元己酉年

◎馬琴二十三歳。
○戀川春町歿す。
×図兩談（兄羅文序）一卷

寛政二庚戌年

◎馬琴二十四歳。
秋山東京傳を訪ひて其門に遊ぶ。
△廿日餘四十兩盡用而二分狂言二卷初代歌川豐國畫　明年正月芝神明前泉市より出版、京傳門人大榮山人と署せり。此年壬生狂言江戶にて流行、馬琴之より思附きしものか。本書卷頭に「こゝにてうくわぼう馬きんといふものあり」とあれば、當時既に自ら馬琴の號をも用ゐしなるべし。

寛政三辛亥年

◎馬琴二十五歳。時に神奈川に在り、又江戶に歸りて京傳の家に客たり、又書肆蔦屋重三郎の家に寄寓す。
△實語教幼稚講釋三卷勝川春朗畫　山東京傳の名にて明年春蔦重より出版。
○京傳猥雜の書を作りし罪を以て手鎖五十日の刑に處せらる。

寛政四壬子年

◎馬琴二十六歲。蔦重に寄食す。

△花春虱道行 勝川春朗畫 二卷　京傳門人馬琴作と署す。

△浦島太郎龍宮羶鉢之木 北尾重政畫 三卷　山東京傳作と署したれど實は馬琴の作なりと云ふ。

○京傳柳橋萬八樓に書畫會を催す。

寛政五癸丑年

◎馬琴二十七歲。飯田町中坂の履物商伊勢屋會田氏の寡婦(名は百)に入夫す。今年初めて其著作に曲亭馬琴の名を署す。

△鼠婚禮塵劫記 歌川豐國畫 三卷　猶京傳作と署す。

△銘正夢楊柳一腰 北尾政美畫 三卷

△登坂寶山道 北尾政美畫 二卷　前者の後編。右二書に无名子作と署す。

△花より團子食氣物語 北尾重政畫 三卷　曲亭馬琴述と署したれど猶京傳校と附記せり。

△御茶漬十二因緣 勝川春英畫 三卷

△荒山水天狗鼻祖 北尾政美畫 三卷　右二書に至りて馬琴作と署す。

△笑府衿裂米 北尾政美畫 一卷　(笑話なり。)

○渡邊崋山生る。

○林子平歿す。高山彦九郎歿す。

○山東京傳煙管莨入の店を銀坐に開く。

●松平定信老中を辭す。

寛政六甲寅年

◎馬琴二十八歳。長女さき生る。

△福壽海無量品玉 勝川春朗畫 三卷

寛政七乙卯年

◎馬琴二十九歳。會田家の老母歿す。

⧖高尾船字文 長喜畫 五卷 讀本を作るの初とす。但中本形なり。

△在于爰身成金言 北尾重政畫 三卷

△心學晦日莊子 北尾重政畫 三卷

○十返舍一九、年三十、初めて著作あり。

寛政八丙辰年

◎馬琴三十歳。二女ゆふ生る。

△報讐獺狂尾　北尾重政畫　三卷

△堪忍五兩金言語　北尾重政畫　三卷

△曲亭增補萬八傳　北尾重政畫　二卷

△四遍摺心學草紙　北尾重政畫　三卷

△しよぼ〳〵雨見越の松かさ　北尾重政畫　二卷

△墨田川柳の禿筆　北尾重政畫　二卷

寛政九丁巳年

◎馬琴三十一歲。長男鎭五郎（後に宗伯）生る。

○五月蔦屋重三郎（狂歌名蔦唐丸）歿す。

△阿部淸兵衞一代八卦　北尾重政畫　三卷

△押繪鳥癡漢高名　北尾重政畫　二卷

△加古川本藏綱目　北尾重政畫　三卷

△楠正成軍慮智輪　北尾重政畫　二卷

△大黑樒黃金柱礎　北尾重政畫　二卷

△龍宮苦界玉手箱　北尾重政畫　三卷

△庭荘子珍物茶話二巻北尾重政畫
△彦山權現誓助劒三巻北尾重政畫（傀儡子と署す。）
△北國順禮唄方便三巻北尾重政畫
△武者合天狗俳諧二巻北尾重政畫
△無筆節用似字盡三巻北尾重政畫
×老烏菴評批言の辨
×夢見艸（兄羅文編、馬琴補正）一巻
□風月菴主に答ふる文

寛政十戊午年

◎馬琴三十二歳。
○八月十二日長兄臺右衛門興旨（初名左馬太郎、後直次郎）歿す、享年四十。
△時代世話足利染三巻北尾重政畫
△足利染拾遺雛形二巻北尾重政畫　以上二書は前後編を成し曲亭門人傀儡子と署す。
△御慰忠臣藏之攷二巻北尾重政畫
△大雜書拔萃縁組三巻北尾重政畫

△增補獼猴蟹合戰 二卷 北尾重政畫
△麁想案文當字揃 三卷 北尾重政畫
△鼻下長生藥 三卷 北尾重政畫
△繪本大江山物語 五卷 北尾重政畫

寛政十一己未年

◎馬琴三十三歲。

○山東京傳讀本「忠臣水滸傳」前編を刊行す。

△六代目團十郎追善 東族名皐月落際 二卷 北尾重政畫
△風見草婦女節用 三卷 北尾重政畫
△鯨魚尺品革羽織 三卷 北尾重政畫
△彼岸櫻勝花談義 三卷 北尾重政畫
△無茶盡押兵 三卷 北尾重政畫
△世諺口紺屋雛形 三卷 子興畫　合卷一冊に作る。蓋し合卷草紙の濫觴ならん。
△料理茶話即席話 三卷 北尾重政畫

△戯聞塩梅餘史 一巻 子興畫 （笑話集なり。）

×國盡女用文章一巻

×笠の露一巻

寛政十二庚申年

◎馬琴三十四歳。八月三女くは生る。伊豆相模漫遊、九月十日出發、十月央歸宅す。

△錢鑑貨寫繪 三巻 北尾重政畫

△譬喩義理與褌 三巻 北尾重政畫

△胴人形肢體機關 三巻 北尾重政畫

△人間萬事塞翁馬 三巻 北尾重政畫

△花見話虱盛衰記 三巻 歌川豐國畫

△備前擂盆一代記 三巻 北尾重政畫

△視藥霞報條 三巻 北尾重政畫

△繪本尊氏勳功記 十巻 北尾政美畫

△繪本武王軍談 五巻 北尾重政畫

×化競丑滿鐘三巻 （戯曲なり。）

×戯子名所圖會三卷歌川豊國畫

×俳諧歳事記二卷

×夢の秋一卷

享和元辛酉年

◎馬琴三十五歳。

△足手書草紙畫賦三卷北尾重政畫

△買飴紙鳶野弄話二卷北尾重政畫

△父讐宇津宮物語三卷歌川豊國畫

△五段淨瑠理酒肆二卷歌川豊國畫

△敵討蚤取眼三卷北尾重政畫

△曲亭一風京專張三卷北尾重政畫

△敎訓跡之祭戯草三卷北尾重政畫

△浪速秤華兒芬輪二卷子興畫

△春之駒象棊行路三卷北尾重政畫



（十一）馬琴纂輯「禽經」巻一首端自筆解說

△繪本天神記五卷

△繪本復讐錄歌川豐國畫三卷　（玉亭と署せり。）

◎尾張の人椒芽田樂の著「挑灯庫闇七夜扮」を添削し馬亭門人と肩書して出版せしむ。

○本居宣長歿す。

享和二壬戌年

◎馬琴三十六歳。此年關西に旅行す。五月九日江戸を發し、七月三日京都に着、同二十四日京都を發して大阪に赴き、八月五日まで滯在、同六日京都に歸り、同八日京都を發し、同二十四日江戸に歸着す。此行を記せるもの卽ち「羇旅漫錄」なり。其中の一部を擇びて「蓑笠雨談」と題し、明年出版す。

△衣食住世帶評判記歌川豐國畫三卷

△養得筎名鳥圖會北尾重政畫三卷

△初老了簡年代記長喜畫三卷

△太平記忠臣講釋歌川豐國畫六卷　（曲亭門人魁蕾子譯と署す。）

△種蒔三世相北尾重政畫三卷

△野夫鶯歌曲訛言 子興畫 三卷

△鐙草筆の一本 勝川春亭畫 五卷

△六冊懸徳用草紙 北尾重政畫 三卷

△畫本歴世傑 勝川春亭畫 五卷

□羇旅漫錄 三卷

享和三癸亥年

◎馬琴三十七歳。始めて半紙形の讀本を作る。即ち「月氷奇緣」是なり。

○山東京傳菓子舗を淺草に開く。

△陰兼陽珍紋圖彙 北尾重政畫 三卷

△臍沸西遊記 秀齋畫 三卷

△俟待開帳咄 北尾重政畫 三卷

〼月氷奇緣 葛飾北齋畫 五卷

〼小說比翼文 葛飾北齋畫 二卷

□蓑笠雨談 一名著作堂一夕話、又曲亭漫筆 三卷

文化元甲子年

◎馬琴三十八歳。

⧖曲亭傳奇花釵兒 歌川豐國畫 二卷

⧖復讐奇談稚枝鳩 歌川豐國畫 五卷

⧖石言遺響 蹄齋北馬畫 五卷

⧖繪本漢楚軍談 北尾重政畫 上編五卷

△敵討二人長兵衛 北尾重政畫 三卷

△御伽怪談五人拍鄙言 北尾重政畫 三卷

△小夜中山霄啼碑 歌川豐廣畫 三卷

△新研十六武藏坊 北尾重政畫 三卷

△松株木三階奇談 北尾重政畫 三卷

□著作堂雜記（此年起筆、嘉永元年に至り、凡て四十卷）

×羅文居士七回忌追薦之俳諧連歌一卷

○荒木田久老歿す。中井竹山歿す。

文化二乙丑年

◎馬琴三十七歲。冬大阪の人形座にて昨年出版の讀本「稚枝鳩」を上場す。

⧖四天王剿盗異録 歌川豐國畫 十巻

⧖新編水滸畫傳 葛飾北齋畫 初編前帙五巻

⧖勸善常世物語 蹄齋北馬畫 巻

⧖三國一夜物語 歌川國直畫 八巻

△椿說弓張月 葛飾北齋畫 前編六巻 （蓋し此年の作なれど發行は本年にあらず。）

△奉打札所之誓 月麿畫 三巻

△復讐阿古射之松 歌川豐廣畫 五巻 （魁蕾子清友と署名す。）

△敵討鼎壯夫 北尾重政畫 五巻

△北圃三勇士傳 北尾重政畫 五巻

△妙黃粉穀道明寺 長喜畫 三巻

△大師河原撫子話 北尾重政畫 六巻

△猫奴牝忠義合奏 歌川豐國畫 三巻

△武者修行木齋傳 歌川豐廣畫 六巻

×女筆花鳥文章 一巻

文化三丙寅歳

◎馬琴四十歳。春大阪の角座にて「四天王剿盗異録」の一節を上場す。又同地某座にて「三國一夜物語」を上場す。

此年より合巻流行す。

☒盆石皿山記 歌川豊廣畫 前編二卷
☒敵討誰也行燈 歌川豊國畫 卷
☒石堂丸苅萱物語 葛飾北齋畫 五卷
☒墨田川梅柳新書 葛飾北齋畫 六卷
☒敵討裏見葛葉 葛飾北齋畫 五卷
☒新累解脱物語 葛飾北齋畫 六卷
☒標註園の雪 葛飾北齋畫 五卷
☒巷談坡隄庵 歌川豊廣畫 三卷
☒繪本漢楚軍談 北尾重政畫 編九卷
△敵討雜居寢物語 北尾重政畫 [illegible]卷

×戯子三十六家雋櫓色紙二巻

○此年秋川版書肆角丸屋甚助貸金につきて彫工米助を訴ふ。馬琴も引合として町奉行所に召喚せらる。馬琴大に角丸屋を惡む。

文化四丁卯年

◎馬琴四十一歳。

⧗新編水滸畫傳 初編後帙五巻 葛飾北齋畫

⧗盆石皿山記 後編二巻 歌川豐廣畫

⧗三七全傳南柯夢 六巻 葛飾北齋畫

⧗松浦佐用媛石魂録 五巻 歌川豐廣畫

⧗椀久松山柳巷話説 五巻

⧗敵討枕石夜話 二巻 歌川豐廣畫

△敵討岬幽壑 六巻 勝川春亭畫

△敵討鼓瀑布 六巻 歌川豐廣畫

△島村蟹湊仇撃 六巻 歌川豐廣畫

△不老門化粧若水 歌川國貞畫 二卷

○皆川淇園歿す。柴野栗山歿す。

●深川永代橋落つ。

文化五戊辰年

◎馬琴四十二歳。此年大阪の某劇場にて「南柯夢」、「弓張月」、「頼豪阿闍梨恠鼠傳」等を上場す。

○橘千蔭歿す。森島中良（森羅萬象）歿す。

⊠椿說夕張月 葛飾北齋畫 後編、續編十二卷

⊠雲妙間雨夜月 歌川豐廣畫 五卷

⊠括頭巾縮緬紙衣 歌川豐廣畫 三卷

⊠俊寛僧都島物語 歌川豐廣畫 十二卷

⊠頼豪阿闍梨恠鼠傳 葛飾北齋畫 十卷

⊠旬殿實々記 歌川豐廣畫 十二卷

⊠松染情史秋七草 歌川豐廣畫 六卷

△敵討兒手柏 歌川豐國畫 五卷

△敵討白鳥關 歌川豐廣畫 六卷

△歌舞伎傳介忠義話說 勝川春亭畫 七卷

△小鍋丸手石入船 歌川豐國畫 六卷

△敵討身代名號 葛飾北齋畫 六卷

文化六己巳年

◎馬琴四十三歲。

○上田秋成歿す。

⧖椿說弓張月拾遺 葛飾北齋畫 六卷

⧖夢想兵衛胡蝶物語 歌川豐廣畫 前編五卷

△旬全伽羅柴舟 歌川國貞畫 二卷

△釣鐘彌左衛門奉加助太刀 歌川豐廣畫 六卷

△敵討賽八丈 歌川國貞畫 六卷

△小女郎蜘蛛怨苧環 勝川春亭畫 十二卷

△山中鹿之介稚物語美丸畫
十卷

△相馬內裡後雛棚勝川春扇畫
六卷

文化七庚午年

◎馬琴四十四歲。春京傳、馬琴を訪ひ、某書中に己を譏れるを怒り責む。

○播磨の人五島赤水、「赤水餘稿」を著して馬琴を誹謗す。

⌛昔語質屋庫勝川春亭畫
六卷

⌛夢想兵衞胡蝶物語歌川豐廣畫
後編四

△常夏草紙勝川春亭畫
五卷

△擊也敵野寺鼓草勝川春扇畫
三卷

△姥櫻女淸玄勝川春亭畫
六卷

△松之月新刀明鑑勝川春亭畫
六卷

□燕石雜志六卷

○小野蘭山歿す。

文化八辛未年

◎馬琴四十五歳。

○村田春海歿す。

⧖椿說弓張月殘編 葛飾北齋畫 六卷

⧖占夢南柯後記 葛飾北齋畫 九卷

⧖青砥藤綱模稜案 前集五卷 葛飾北齋畫

⧖武者合十五番竹馬の靮 蹄齋北馬畫 三卷

△梅澁吉兵衛發心記 勝川春扇畫 六卷

△千葉館世繼雜談 歌川國貞畫 六卷

△鳥籠山鸚鵡助劍 美丸畫 六卷

□烹雜の記 四卷

文化九壬申年

◎馬琴四十六歳。

○山本北山歿す。市場通笑歿す。

⧖絲櫻春蝶奇緣 歌川豐淸畫 八卷

⧗青砥藤綱模稜案 葛飾北齋畫 後集五

△敵討あだな物數奇 勝川春亭畫 三卷

△傾城道中雙六 勝川春扇畫 六卷

△浪の葩桂夕潮 勝川春扇畫 六卷

△行平鍋須磨酒宴 勝川春扇畫 六卷

△敵討勝乘掛 勝川春扇畫 六卷

文化十癸酉年（後櫻町上皇崩御）

◎馬琴四十七歳。

○蒲生君平歿す。朋誠堂喜三二歿す。

⧗美濃舊衣八丈綺談 蘭齋北嵩畫 六卷

⧗皿皿郷談 葛飾北齋畫 六卷

△驛路鈴與作春駒 歌川國貞畫 六卷

□おかめ八目 一卷

文化十一甲戌年

◎馬琴四十八歳。

☒南總里見八犬傳第一輯 柳川重信畫 五卷

☒朝夷巡島記初輯 歌川豐廣畫 五卷

△皿屋鋪 鳥山清峰畫 三卷

△已鳴金男道成寺 歌川豐國畫 六卷

△蘆名辻蹇兒仇討 歌川國丸畫 六卷

△赫奕姬竹節話說 柳川重信畫 六卷

△女護島恩愛俊寛 歌川國直畫 六卷

△比翼紋目黑色揚 歌川豐國畫 六卷

文化十二乙亥年

◎馬琴四十九歲。

△龜王丸齡島臺 歌川國直畫 六卷

△月都大內鏡 歌川國丸畫 六香

△達模樣判官染 歌川豐國畫 六卷

×豐後國國崎郡丙子寺緣起一卷 (二種、一を大緣起、他を略緣起とす。

□論蜀解錮一卷

文化十三丙子年

◎馬琴五十歳。春大阪中座にて「園之雪」を上場す。

○九月山東京傳歿す。

⧖南總里見八犬傳第二輯 五卷 柳川重信畫

⧖朝夷巡島記第二編 五卷 歌川豐廣畫

⧖再榮花川譚 四卷 歌川豐國畫

△手毬唄三人長兵衛 六卷 歌川國貞畫

△雲雀山後日囀 六卷 歌川國貞畫

□五色題發句合の評餘 一卷

文化十四丁丑年（仁孝天皇御即位）

◎馬琴五十一歳。

△伊豫簣垂女純友 六卷 勝川春扇畫

△盤州將棊合戰 六卷 勝川春扇畫

△百物語長者萬燈 四卷 勝川春亭畫

□玄同放言前編 三卷

○古賀精里歿す。

文政元戊寅年

◎馬琴五十二歳。八月二十日男宗伯（通稱鎭五郎）神田同朋町に卜居して醫業を開く。

⊠南總里見八犬傳第三輯 五卷 柳川重信畫

⊠朝夷巡島記第三編 五卷 歌川豐廣畫

□春の海月の玉取 六卷 歌川豐國畫

□「犬夷評判記」の序文を作る。

○京傳の寡婦百合歿す。

文政二己卯年

◎馬琴五十三歳。

二月仙臺の眞葛媼書を寄す。

松前侯の爲に「駿馬錦帆之記」を作る。松前侯より大福米を賜はる。

○北尾重政歿す。

△雪貢調身代鉢木 五卷 勝川春扇畫（？）

△義經千本櫻 六巻 歌川豐國畫

□獨考編二巻（眞葛媼の需に應じて作る。）

□玄同放言後編三巻

□いはでもの記一巻（京傳の事蹟を述ぶ。）

文政三庚辰年

◎馬琴五十四歳。男宗伯松前侯（志摩守章廣）の抱醫師となる。

○櫟亭琴魚「青砥藤綱模稜案」の後續として「刀筆青砥石文」を著し、馬琴の添削を經て明年正月發行す。琴魚は馬琴の親友伊勢の人殿村篠齋の弟なり。

⧖南總里見八犬傳第四輯 五巻 柳川重信畫

⧖朝夷巡島記第四編 五巻 歌川豐廣畫

△籠に成竹取物語 六巻 勝川春扇畫

△弘法大師誓筆法 六巻 歌川國貞畫

△信田妹手白猿牽 六巻 歌川豐國畫

△安達原秋二色樹 六巻 歌川豐國畫

文政四辛巳年

馬琴五十五歳。

〼朝夷巡島記第五編 五卷 歌川豐廣畫

△宮戸川三社網船 六卷 歌川豐國畫

△めでたしかしく六三之文庫 六卷 歌川豐國畫

文政五壬午年

◎馬琴五十六歳。男宗伯の主君松前侯の奧州梁川より舊領地松前福山に歸るを賀して長歌を作る。

○墻保己一歿す。式亭三馬歿す。烏亭焉馬歿す。

△女阿濟夜網大刀魚 六卷 溪齋英泉畫

△照子池浮名寫繪 六卷 溪齋英泉畫

△月宵吉阿玉之池 六卷 歌川豐國畫

□吾佛記 （此年第一卷成る。天保十四年完了、凡て五卷。）

文政六癸未年

◎馬琴五十七歳。長女さき夫を迎ふ。妻會田氏及男宗伯大に病む。此頃馬琴の齒牙脱落して一枚をも存せず、總義齒を用ゐたりと云ふ。

○大田南畝歿す。

⊠南總里見八犬傳第五輯六卷 柳川重信、溪齋英泉畫

△膏油橋河原祭文六卷 歌川豐國畫

△女夫織玉川晒布六卷 歌川豐國畫

△諸時雨紅葉合傘六卷 歌川豐國畫

文政七甲申年

◎馬琴五十八歳。家務を長女の聟に讓り併せて淸右衞門の稱を與へ、自ら剃髮して笠翁と云ふ。同時に飯田町の宅を去りて神田同朋町なる宗伯の家に移り居る。七月同志西原梭江、屋代弘賢等と耽奇會を起す。

○仙臺の眞葛媼(只野綾子)歿す。淸水濱臣歿す。

△襲褄辻花染五卷 歌川豐國畫

△金毘羅船利生纜初編六 溪齋英泉畫

△梅櫻對の姉妹 歌川豐國畫 六卷

△童蒙話赤本事始 歌川國貞畫 六卷

△殺生石後日怪談 歌川豐國、同國貞畫 初編三卷

□耽奇漫錄 三卷

文政八乙酉年

◎馬琴五十九歲。正月同志桑山修理等と共に兎園會を起す。

△金毘羅船利生纜 溪齋英泉畫 二編六卷

△緣結文定紋 歌川國貞畫 六卷

△傾城水滸傳 歌川豐國畫 初編八卷

□兎園小說 四卷

○太田錦城歿す。

文政九丙戌年

◎馬琴六十歲。

○鶴田鵬齋歿す。

〼南總里見八犬傳第六輯 六卷 柳川重信、溪齋英泉畫
〼朝夷巡島記第六編 五卷 歌川豐廣畫
△金毘羅船利生纜 三編六卷 溪齋英泉畫
△傾城水滸傳 二編八卷 歌川國安畫
△大和莊子蝶胥笄 六卷 歌川國貞畫
△姬萬兩長者鉢木 六卷 歌川國貞畫

文政十丁亥年

◎馬琴六十一歲。三月男宗伯土岐村氏の女路を娶る。夏馬琴大に病む。秋病癒ゆ。剃髮して名を篁民と改む。

〼南總里見八犬傳第七輯 七卷 柳川重信、溪齋英泉畫
〼松浦佐用媛石魂錄後集 十卷 溪齋英泉畫
△唐蓬大和言葉 (?)
△金毘羅船利生纜 四編六卷 溪齋英泉畫
△傾城水滸傳 三、四編十六卷 歌川國安畫

△牽牛織女願絲竹 歌川國貞畫 六卷

文政十一戊子年

◎馬琴六十二歳。二月宗伯の長男太郎生る。

✕近世說美少年錄第一輯 歌川國貞畫 五卷

△傾城水滸傳 歌川國安畫 五編八卷

△今戶土產女西行 歌川國貞畫 六卷

□雅俗要文 一卷

文政十二己丑年

◎馬琴六十三歳。三月江戶大火、馬琴の親戚大半災に罹る。

○松平定信(樂翁)卒す。北川眞顏歿す。

△近世說美少年錄第二輯 岩窪北溪畫 五卷

△傾城水滸傳 歌川國安畫 六、七、八編二十四卷

△金毘羅船利生纜 溪齋英泉畫 五、六編十二卷

△風俗金魚傳 歌川國安畫 初、二編八卷

△殺生石後日怪談 溪齋英泉畫 二編三卷

△漢楚賽擬選軍談 歌川國安畫 初編八卷

□近世流行商人盡狂歌合繪詞 一卷 （屋代弘賢の紹介により松平樂翁の需に應じて作る。）

天保元庚寅年

◎馬琴六十四歲。閏三月宗伯の長女つぎ生る。

○石川雅望（六樹園）歿す。

△傾城水滸傳 歌川國安畫 九、十編十六卷

△代夜待白女辻占 歌川國貞畫 六卷

△金毘羅船利生纜 溪齋英泉畫 七編六卷

△殺生石後日怪談 溪齋英泉畫 三編四卷

△漢楚賽擬選軍談 歌川國安畫 二編

天保二辛卯年

◎馬琴六十五歲。

○十返舍一九歿す。櫟亭琴魚歿す。

⧖近世說美少年錄第三輯 岩窪北溪畫 五卷

⧖開卷驚奇俠客傳第一集 溪齋英泉畫 五卷

△傾城水滸傳 歌川國安畫 十一編八卷

△金毘羅船利生纜 溪齋英泉畫 八編四卷

△殺生石後日怪談 溪齋英泉畫 四編四卷

△新編金瓶梅 歌川國安畫 一集四卷

△漢楚賽擬選軍談 歌川國安畫 三編

□水滸後傳批評半閑窓談一卷

天保三壬辰年

◎馬琴六十六歲。

○柳川重信歿す。賴山陽歿す。

⧖南總里見八犬傳第八輯 柳川重信畫 上套五卷

⧖開卷驚奇俠客傳第二集 柳川重信畫 五卷

△新編金瓶梅 歌川國安畫 二集八卷

△千代褚良著聞集 歌川國安畫 一二輯八卷

□本朝水滸傳前編總評一卷

天保四癸巳年

◎馬琴六十七歲。八、九月の交より右眼見えず。八月十七日宗伯の二女さち生る。

○本居大平歿す。書肆仙鶴堂（鶴屋喜右衛門）歿す。

〆南總里見八犬傳第八輯 二世柳川重信畫 下套五卷

〆開卷驚奇俠客傳第三集 歌川國貞畫 五卷

△殺生石後日怪談 歌川國安畫 五編四卷

□本朝水滸傳を讀む並批評一卷

□三遂平妖傳國字評一卷

□續西遊記國字評一卷

□禽鏡六軸

天保五甲午年

◎馬琴六十八歲。此年大に病む。

○松前老侯（志摩守章廣）卒して嗣君猶幼，馬琴一家の待遇初の如くならず。
○中村佛庵歿す。
×南總里見八犬傳第九輯 二世柳川重信畫 上帙六卷
×近世說美少年錄第四輯 岩窪北溪畫 五卷
×開卷驚奇俠客傳第四輯 二世柳川重信畫 五卷
△新編金瓶梅 歌川國貞畫 三集八卷
△傾城水滸傳 歌川國安畫 十二編八卷
△千代褚良著聞集 二世北尾重政畫 二輯四卷
△判官太郎白狐傳 五卷 （？）
□物之本江戸作者部類 二卷
●水野忠邦（越前守）老中となる。

天保六乙未年

◎馬琴六十九歲。五月八日男宗伯歿す、享年三十八。
○關克明歿す、享年六十八、耽奇會同人なり。

⧖南總里見八犬傳第九輯 二世柳川重信畫 中帙七卷

△傾城水滸傳 玉蘭齋貞秀畫 十三編四卷

□後の爲の記 一卷

天保七丙申年（九月家齊將軍辭職）

◎馬琴七十歲。夏木挽町森田座にて「八犬傳」上場、外題を「八犬傳評判樓閣」と云ふ。八月十四日柳橋萬八樓に於て七十歲の賀筵を開く。十月四谷信濃坂に轉居す。此年瀧澤次郎を養ひて故宗伯の嗣とす。

⧖南總里見八犬傳第九輯 二世柳川重信畫 下帙上五卷

△新編金瓶梅 歌川國貞畫 四集八卷

天保八丁酉年（家慶將軍）

◎馬琴七十一歲。七月女婿淸右衞門歿す。

○大窪詩佛歿す。

⧖南總里見八犬傳第九輯 二世柳川重信畫 下帙中五卷

△新編金瓶梅 歌川國貞畫 五集八卷

天保九戊戌年

◎馬琴七十二歲。春左眼も亦漸く見えず。

〼南總里見八犬傳第九輯下帙下五卷 二世柳川重信、溪齋英泉畫

△風俗金魚傳三、四編八卷 歌川國安畫

天保十己亥年

◎馬琴七十三歲。

〼南總里見八犬傳第九輯卷廿九至三十二、四卷 二世柳川重信、玉蘭齋貞秀畫

△風俗金魚傳五編四卷 歌川國安畫

△新編金瓶梅六集八卷 歌川國貞畫

天保十一庚子年（光格上皇崩御）

◎馬琴七十四歲。全く明を失ふ。秋妹某歿す。

○谷文晁歿す。

〼南總里見八犬傳第九輯卷三十三至四十五、十五卷 玉蘭齋貞秀、二世柳川重信、溪齋英泉畫

△新編金瓶梅七集八卷 歌川國安畫

△過世結彌生雛草歌川國貞畫 八卷（？）

天保十二辛丑年（前將軍家齊薨）

◎馬琴七十五歲。春、室會田氏歿す、享年七十八。

○渡邊華山歿す。犀代弘賢歿す。

又南總里見八犬傳第九輯二世柳川重信、溪齋英泉、歌川國貞畫 卷四十五至五十三、九卷（完結）

△新編金瓶梅歌川國貞畫 八集八卷

天保十三壬寅年

◎馬琴七十六歲。

○柳亭種彥歿す。爲永春水歿す。

△新編金瓶梅歌川國貞畫 九集八卷

天保十四癸卯年

◎馬琴七十七歲。此年曩に編輯し置ける「兎園小說」八卷を伊勢の人小津桂窓に讓る。

○平田篤胤歿す。

□吾佛記二至五、四卷

□稗說虎之卷一卷

□增補稗史外題鑑批評一卷

●水野忠邦老中を免ぜらる。

弘化元甲辰年

◎馬琴七十八歲。

○大鄉信齋(麻布學究と稱す)歿す。

△新編金瓶梅十集八卷(完結)歌川國貞(一陽齋豐國)畫

△白鼠忠義物語四卷歌川貞重畫(文化十四年刊行「百物語長者萬燈」の改題)

弘化二乙巳年

◎馬琴七十九歲。

⊠新局玉石童子訓卷一至二十、二十卷一陽齋豐國畫(「美少年錄」の後續、曲亭主人口授編次、代稿作者澤正次と署す。)

弘化三丙午年(仁孝天皇崩御)

◎馬琴八十歲。

○山東京山「蜘蛛の糸巻」を刊行す。

○伴信友歿す。

⊠新局玉石童子訓 一陽齋豐國畫 卷二十一至二十五、五卷

△女郎花五色石臺 一陽齋豐國畫 初編八卷

弘化四丁未年（孝明天皇御即位）

◎馬琴八十一歳。

⊠新局玉石童子訓 一陽齋豐國畫 卷二十六至三十、五卷

△女郎花五色石臺 一陽齋豐國畫 二編八卷

嘉永元戊申年（孝明天皇の元年、家慶將軍の十二年）

◎馬琴八十二歳。十一月六日歿す。小石川茗荷谷深光寺先塋の傍に葬る。法號著作堂隱譽蓑笠居士、生前自ら作る所なり。

○溪齋英泉歿す。清水赤城歿す。

△女郎花五色石臺 一陽齋豐國畫 三、四編八卷

跋

日記は公表を豫期しない生活の記錄である。稀には人に讀まれることを豫想し、或は初めから讀ませるつもりで粉飾し糊塗するものもあるが、本來の性質上少しも蔽ふ處の無い正直な告白であるし又少しも僞らざる眞實のインナー・ヴォイスである。夫故に日記は史傳の基礎資料として重きをなし、何の氣もなく心覺えに書留めた些事が他日の有力なる憑據となる場合は珍しくない。著名なるペピスやエヴエリンの日記の如き皆死後に匣底から發見されたもので、殊にペピスのは全部が隱語で認められて人に示すつもりで無かつたのが明かに知られた。日本のペピスたる藤岡屋日記（原本は帝大で燒失）の如きも親近のものは知つてゐたらうが世間のものは誰も知らず、遺族ですらが反古扱ひにして潰しに出したもので、後世貴重なる資料として珍重されようとは恐らく夢にも思はなかつたらう。ペピスやエヴリエンも亦恐らく性來の筆豆で書溜めたものが、後世文學史に燦爛たる光輝を放たうとは決して想像しなか

つたらう。

が、ペピスやエヴエリンは相當教養もあり社會上の位地も高かつたが、本來文筆の士では無い。藤岡屋は勿論市井の俗人である。人に讀ませるつもりで日記を書殘したのでは無いのは明かである。が、アミールの如きは大學の講壇に立つて學殖深宏を以て諸生に尊敬され、屢々短詩を作つて詩才をも亦認められてゐたが、其名を不朽にした日記は矢張死後に匣底から發見されたのである。バシカーツエフは可憐な若い藝術家で、彩管を以ては夙くから名を成したが、あれほどの情熱ある日記が殘されてゐやうとは誰も知らなかつたのだ。所詮日記はペピスやエヴエリンや或は藤岡屋のやうに身邊又は當時の雜事を書留めたものでも、アミールのやうに記事よりは思索や感想を主としたものでも、又バシカーツエフのやうに記事と感想と相半ばしたものでも、人に示すつもりで無く不用意に有の儘を記述した處に記錄者の生活を彷彿し心的消息をさへ偲ばしめる興味がある。

馬琴は雄偉瑰麗、好んで出典ある文字を使用し、博引旁搜故事典據を羅列し、所

謂琅玕珊瑚を連串するの大文章を作つたが、日記は俗談平語でたゞのおやぢの茶ばなしを聽くやうである。夫だけ小說や隨筆に現はれてるやうな衒氣もをどかしも無く、翁本來の面目を赤裸々にぶちまけてをる。看方に由ては翁自身を主人公とした一種の自叙傳小說とも謂へる。例へば度々問題になる翁の老妻と若い寡婦の娵とを中心とした家庭の內輪揉のエピソードの如き、無數の英雄大姦美人毒婦を按排した翁得意の雄篇大作よりも却て人間味に富んで人情の機微に觸れてをる。

馬琴の日記は何册遺存してゐるか精しくは知らぬが、稍や纏まつたのは早大と帝大とに收められた。此の日記は啻に一個大文豪のパーソナル・レミニセンスであるのみならず當時の世態や文人の生活をも窺ふべき貴重の文獻である。それ故に兩大學の收藏本を主體として、若し他に散在するものがあるなら集めて整理して公刊すべき筈のものであつた。歐羅巴なら疾くに印刷されてゐる筈で、此の偉大なる文豪の日記が今頃までも藁本のまゝ閑却されてるといふは實に日本の文學の耻辱である。唯僅に饗庭篁村翁の抄錄が印行されてるのが切めてもの心床しであるが、片鱗を以

て全甲を窺ふ事が出來ないし、他人の剪裁した抄録は故人の全面目を知るには物足らぬ感がある。

然るに帝大儲藏の馬琴日記は去年の大震火に罹災し、十五册の中の一册天保五年の分が偶然館長室に取出されてゐた爲めに幸に免かれた外は全部烏有に歸して了つた。

帝大以外に遺存してゐるものが猶ほ有ると云ふ條、此の大文豪の十四年間の日記がまだ印刷もされず、又恐らく碌々人にも讀まれない中に劫火に亡びて了つたといふは惜みても悔んでも盡きない恨事である。が、鬼神呵護と云はう乎天意矜惜と云はう乎、十五册の中の一册が僅に秦火を免かれた外に、館長和田曼翁が偶然天保二年の分を謄寫して置いた複本が曼翁自宅の書齋に殘されてあつた。火の鳥は蘇生らない、墮ちた翮毛が一根たりとも無事に助かつたといふは切めてもの天恵でもあり又不思議に奇しき因縁でもあつた。

此の曼翁手寫の馬琴日記の一册が今度愈々公刊されるのは曼翁としては舊所管の

文庫の滅亡を追惜する爲のよすがであらう。が、此の曼翁手寫の馬琴日記の出版は啻に帝大典籍の慘禍を偲ぶ記念であるのみならず、又我が文學史の研究にも貢献する所が有らう。丁度戰禍の恐ろしさに出家遁世した昔の勇士が屍を戰場に晒した遺靈に手向ける爲めの念佛が活ける人々の迷執罪障をも消除するに等しいものが有らう。

馬琴の日記を寓目したものが皆驚歎するは家事雜事を細大洩らさず詳記して一日たりとも懈怠しない大氣根である。あれだけの大著述をする傍ら是だけ綿密な日記をつけて一日も弛まなかつた氣根の非凡なるは測り知られない。翁に比べれば我々の氣根が大象の前の鼷鼠よりも小なるを恥づる。が、有躰に云ふとあれだけ博學宏才の翁ではあるが筆札には長じなかつた。殊に毎日の百忙中の書流しであるから春蚓秋蛇の錯畫して或は糢糊として辨へ難いものがある。翁の日記の餘りに讀まれないのは量の多い爲めであるが、一つは筆の跡が亂れて讀み辛いからで、あれだけの日記をつけたのは大氣根であつたが、あれだけの日記を讀むのも大氣根を要する。

曼翁が膽寫するに方つて之を判讀した勞苦を察するに餘りがある。曲亭の大氣根は言ふまでも無いが、曼翁も亦大氣根なる哉。

大震の翌る年の初夏　魯　庵　生

大正十三年八月十一日印刷
大正十三年八月十四日發行
大正十三年十月一日再版

馬琴日記奥付

定價金參圓

校訂者　和田萬吉

發行者　高島米峰
東京市小石川區原町六番地

印刷者　柴山則常
東京市本郷區駒込林町百七十二番地

印刷所　合資會社杏林舍
東京市本郷區駒込林町百七十二番地

發行所　丙午出版社
東京市小石川區原町六番地
電話小石川一二一八番
振替口座東京一五六八六番



筆福
硯壽
著作堂手稾